

高齢者の生活状況・健康状態調査
(糸島市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査)
調査結果報告書

令和2年3月

糸 島 市

目次

I 調査概要及び回答者特性	1
1 調査実施の概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の対象と調査地域	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査期間	1
(5) 調査項目	1
(6) 回収状況	2
(7) 調査結果利用上の留意事項	2
2 日常生活圏域について	3
3 回答者の基本属性	7
(1) 性別	7
(2) 年齢構成	7
(3) 住まいの状況	8
(4) 要介護度	9
(5) 生活機能低下者の該当状況	10
(6) 日常生活圏域(圏域・小学校区)の状況	12
4 家族や生活状況について	15
(1) 家族構成	15
(2) 介護・介助の必要度合い	16
(3) 介護・介助が必要になった主な原因	18
(4) 主に介護・介助を受けている人	21
(5) 現在の暮らしの経済的状況	24
II 調査結果	25
1 生活機能	25
(1) 運動器	25
(2) 閉じこもり	28
(3) 転倒	42
(4) 栄養	44
(5) 口腔機能	49
(6) 認知症	54
(7) 虚弱	56
(8) 生活機能の低下状況	59
2 日常生活	61
(1) 手段的自立度(IADL)低下者	61
(2) 社会参加	63

(3) 友人・知人と会う頻度.....	70
(4) この1か月に会った友人・知人の数.....	72
(5) よく会う友人・知人との関係.....	74
3 健康・疾病.....	77
(1) 主観的健康感(あなたの健康状態).....	77
(2) 有病率(現在、治療中または後遺症のある病気).....	79
4 生活習慣.....	82
(1) 肥満.....	82
(2) 飲酒の頻度.....	86
(3) 喫煙の頻度.....	88
5 介護・介護予防.....	90
(1) 普段の生活における介護・介助の必要性.....	90
(2) 介護が必要になった際の意向.....	92
(3) 介護予防の必要性.....	94
(4) 介護予防はなぜ必要か.....	96
(5) 介護予防のために実践していること.....	99
(6) 介護予防を目的とした活動への参加経験.....	102
(7) 参加したい介護予防の取り組み.....	105
(8) 最期をどこで迎えたいか.....	108
6 相談・支援.....	110
(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手.....	110
(2) 地域包括支援センターの認知度.....	113
(3) 高齢化に対応するために望まれる活動・体制.....	115
7 地域社会への参加等に関する意識.....	117
(1) 趣味の有無.....	117
(2) 生きがいの有無.....	119
(3) 現在、感じている生きがい(喜びや楽しみ)の程度.....	121
(4) 生きがいを感じるとき.....	123
(5) 自主的に行われている活動への参加意向.....	126
(6) 自主的に行われている活動に参加するためのきっかけ.....	129
(7) 参加したい団体や組織.....	132
(8) 地域の奉仕活動に参加するための条件.....	135
(9) 健康づくり活動や趣味のグループに参加者として参加したいか.....	138
(10) 健康づくり活動や趣味のグループに企画・運営(お世話役)として参加したいか.....	140
(11) あなたができる地域支援や協力.....	142
Ⅲ 日常生活圏域の特性.....	145
1 前原東圏域の特性.....	145

(1) 圏域全体の特性.....	145
(2) 小学校区ごとの特性.....	146
2 前原西圏域の特性.....	149
(1) 圏域全体の特性.....	149
(2) 小学校区ごとの特性.....	150
3 前原圏域の特性.....	153
(1) 圏域全体の特性.....	153
(2) 小学校区ごとの特性.....	154
4 二丈圏域の特性.....	157
(1) 圏域全体の特性.....	157
(2) 小学校区ごとの特性.....	158
5 志摩圏域の特性.....	161
(1) 圏域全体の特性.....	161
(2) 小学校区ごとの特性.....	162
IV 集計結果.....	165

I 調査概要及び回答者特性

1 調査実施の概要

(1) 調査の目的

本調査は、高齢者の生活状況や健康状態、社会参加に関する意識などを把握し、健康寿命の延伸に向けた健康づくり・生きがいづくりの取り組みへの個別的な支援に活用します。

また、日常生活圏域ごとの特性から地域課題を把握して、今後の保健福祉行政に活かすとともに「糸島市高齢者保健福祉計画・第8期(令和3年度～5年度)介護保険事業計画」を策定する際の基礎資料とします。

(2) 調査の対象と調査地域

調査対象: 令和元年8月31日現在市内に居住する65歳以上の高齢者 4,996人
(要介護認定者を除く)

調査地域: 市内全域(日常生活圏域5圏域)

(3) 調査方法

配布: 郵送

回収: 郵送または各公民館、健康福祉センター、介護予防センターへの持ち込み

(4) 調査期間

令和元年10月15日(火)～令和元年11月15日(金)

(5) 調査項目

- ・家族や生活状況について
- ・からだを動かすことについて
- ・食えることについて
- ・毎日の生活について
- ・地域での活動について
- ・たすけあいについて
- ・健康について
- ・介護予防について
- ・地域での支援・高齢者福祉サービスについて
- ・地域社会への参加等に関する意識について

(6) 回収状況

圏域名	配布数	有効回収数	有効回収率
前原東	1,325	717	54.1%
前原西	1,226	742	60.5%
前原	779	433	55.6%
二丈	738	409	55.4%
志摩	928	538	58.0%
合計	4,996	2,839	56.8%
属性不明	－	6	－
総数	4,996	2,845	56.9%

要介護度別	配布数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者	4,663	2,647	56.8%
事業対象者	61	38	62.3%
要支援	272	154	56.6%
要支援 1	119	71	59.7%
要支援 2	153	83	54.2%
合計	4,996	2,839	56.8%
属性不明	－	6	－
総数	4,996	2,845	56.9%

(7) 調査結果利用上の留意事項

- ・文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下 2 位を四捨五入しているので、合計は必ずしも 100%にならないことがあります。
- ・2 つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として 100%を超えます。
- ・数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答者数)を示しており、回答の割合はnを分母とした回答割合です。
- ・グラフ中の市全体「n」は、属性不明の回答者数を含んでいるため、属性別の回答者数の合計と一致しません。
- ・前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出しています。
- ・文中では選択肢(変数)を「 」で示しています。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがあります。また、2 つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示しています。
- ・無回答を除いてクロス集計した結果の回答割合(相対度数)は、無回答を含む単純集結果の割合(相対度数)と一致していない場合があります。

2 日常生活圏域について

本市では、5つの日常生活圏域を設定しており、各圏域の地域包括支援センターを中核として、地域住民の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に行之、生活支援・介護予防の一体的な支援と地域包括ケアシステムの構築を推進しています。

調査結果は、日常生活圏域をさらに細かな小学校区に分け、高齢者の個別のニーズを集約し、地域課題を抽出します。



項目	内容	
総人口	101,741 人	
高齢者人口	29,402 人(前期高齢者 15,764 人/後期高齢者 13,638 人)	
高齢化率	28.8%(前期高齢者 15.4%/後期高齢者 13.4%)	
総世帯数	42,658 世帯	
認定者数	4,440 人(うち 1 号 4,359 人)	
	要支援 1・2 認定者数	1,495 人(うち 1 号 1,461 人)
	要介護 1～5 認定者数	2,945 人(うち 1 号 2,898 人)
認定率	14.8%(1 号被保険者)	
地域包括支援センター		5 か所

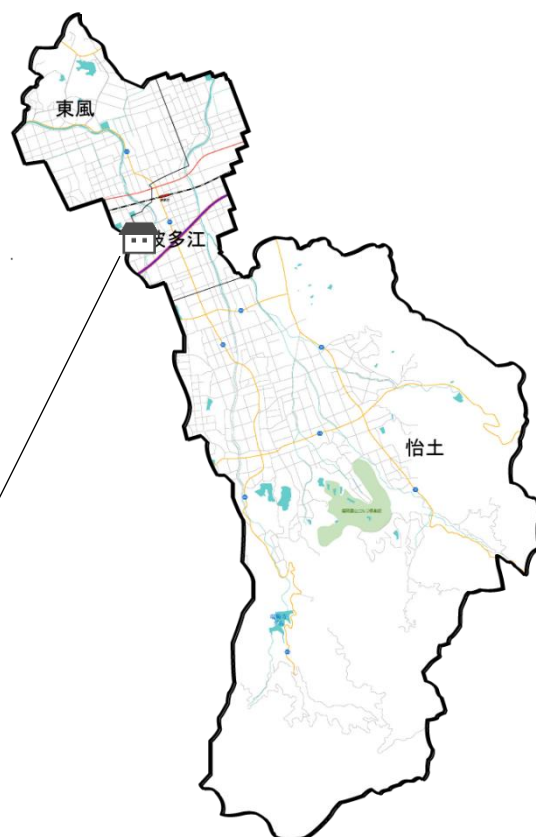
(令和元年9月末現在)

【前原東圏域】

小学 校区	総人口 (人)	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢化 率(%)
波多江	12,437	1,761	1,442	3,203	25.8
東風	8,969	1,045	835	1,880	21.0
怡土	7,102	1,509	1,166	2,675	37.7
合計	28,508	4,315	3,443	7,758	27.2

(令和元年9月末現在)

糸島市前原東地域包括支援センター
 【波多江・東風・怡土校区担当】
 住所：潤 1-22-1
 市健康福祉センターあごら内



【前原西圏域】

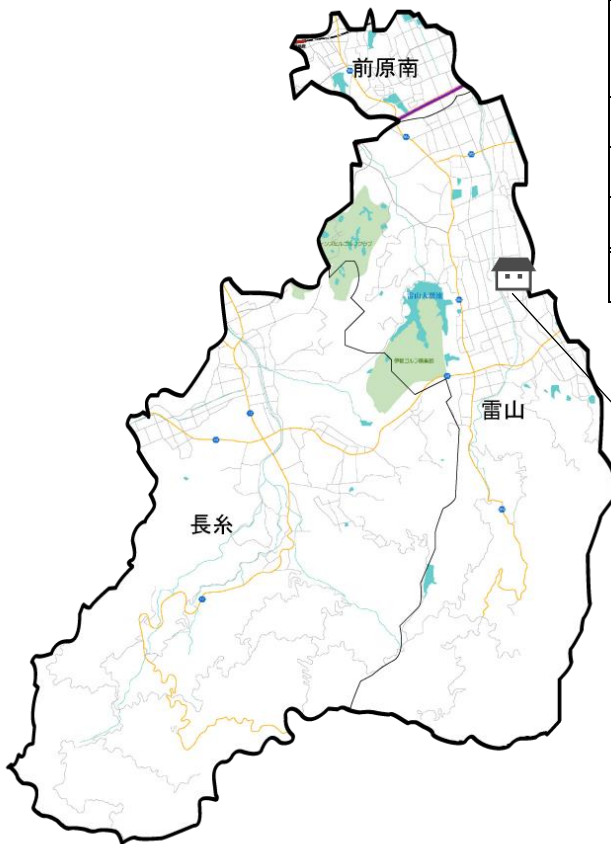


小学 校区	総人口 (人)	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢化 率(%)
前原	11,879	1,547	1,309	2,856	24.0
南風	8,869	924	773	1,697	19.1
加布里	7,268	1,385	1,162	2,547	35.0
合計	28,016	3,856	3,244	7,100	25.3

(令和元年9月末現在)

糸島市前原西地域包括支援センター
 【前原・南風・加布里校区担当】
 住所：富 508-4
 特別養護老人ホーム富の里内

【前原圏域】



小学校区	総人口 (人)	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢化 率(%)
前原南	10,316	1,396	1,164	2,560	24.8
長糸	1,969	337	354	691	35.1
雷山	3,787	651	525	1,176	31.1
合計	16,072	2,384	2,043	4,427	27.5

(令和元年9月末現在)

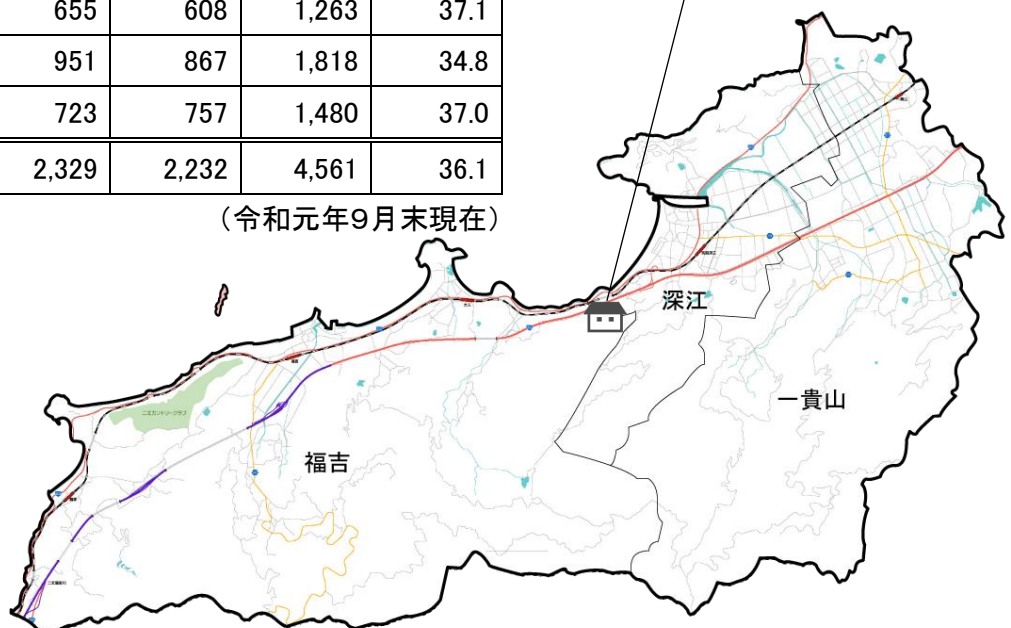
糸島市前原地域包括支援センター
【前原南・長糸・雷山校区担当】
住所：高上 171
特別養護老人ホームマイネスハウス内

【二丈圏域】

小学校区	総人口 (人)	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢化 率(%)
一貴山	3,407	655	608	1,263	37.1
深江	5,218	951	867	1,818	34.8
福吉	4,005	723	757	1,480	37.0
合計	12,630	2,329	2,232	4,561	36.1

(令和元年9月末現在)

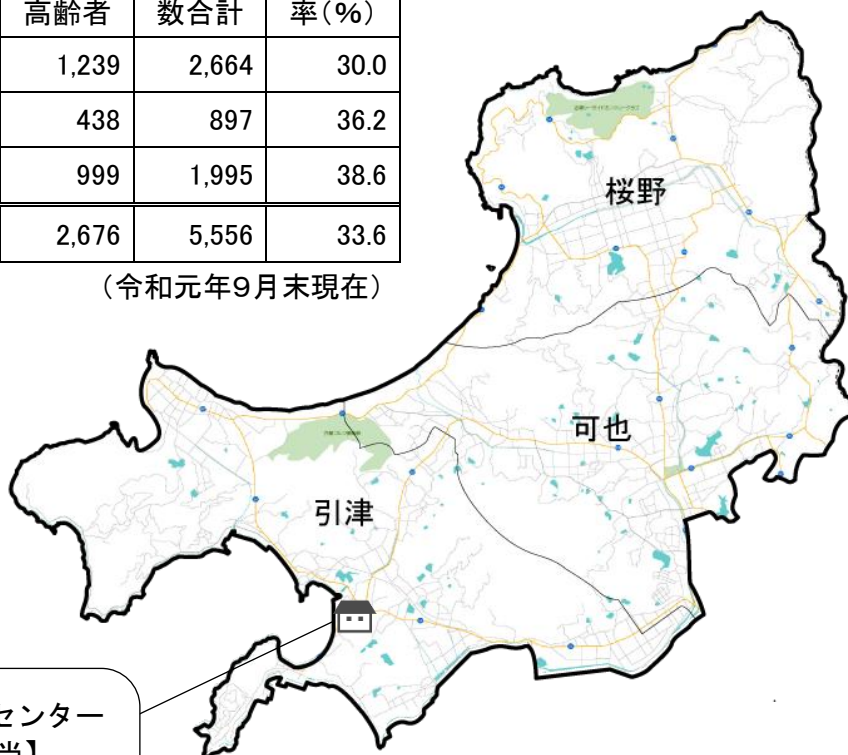
糸島市二丈地域包括支援センター
【一貴山・深江・福吉校区担当】
住所：二丈深江 1293-1
市高齢者福祉施設二丈苑内



【志摩圏域】

小学 校区	総人口 (人)	前期 高齢者	後期 高齢者	高齢者 数合計	高齢化 率(%)
可也	8,870	1,425	1,239	2,664	30.0
桜野	2,475	459	438	897	36.2
引津	5,170	996	999	1,995	38.6
合計	16,515	2,880	2,676	5,556	33.6

(令和元年9月末現在)

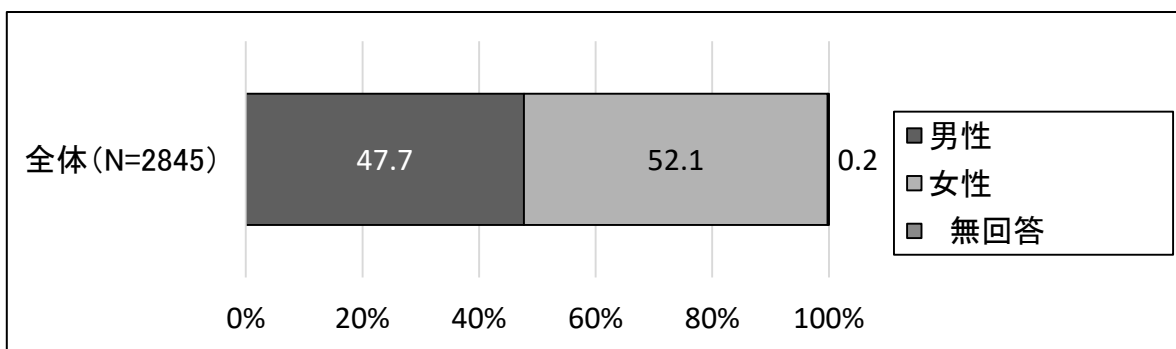


糸島市志摩地域包括支援センター
 【可也・桜野・引津校区担当】
 住所：志摩久家 2527-2
 特別養護老人ホーム 志摩園内

3 回答者の基本属性

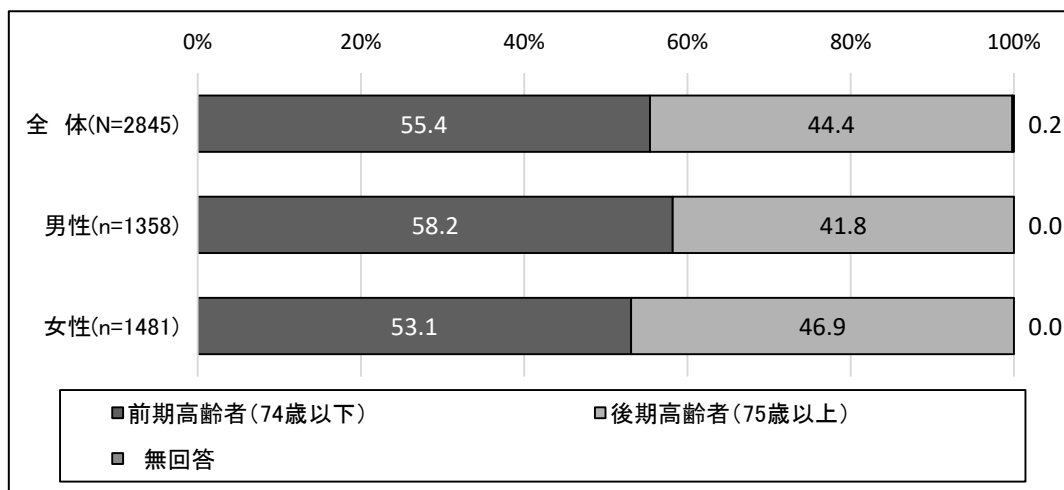
(1) 性別

回答者の性別構成をみると男性 47.7%、女性 52.1%となっている。



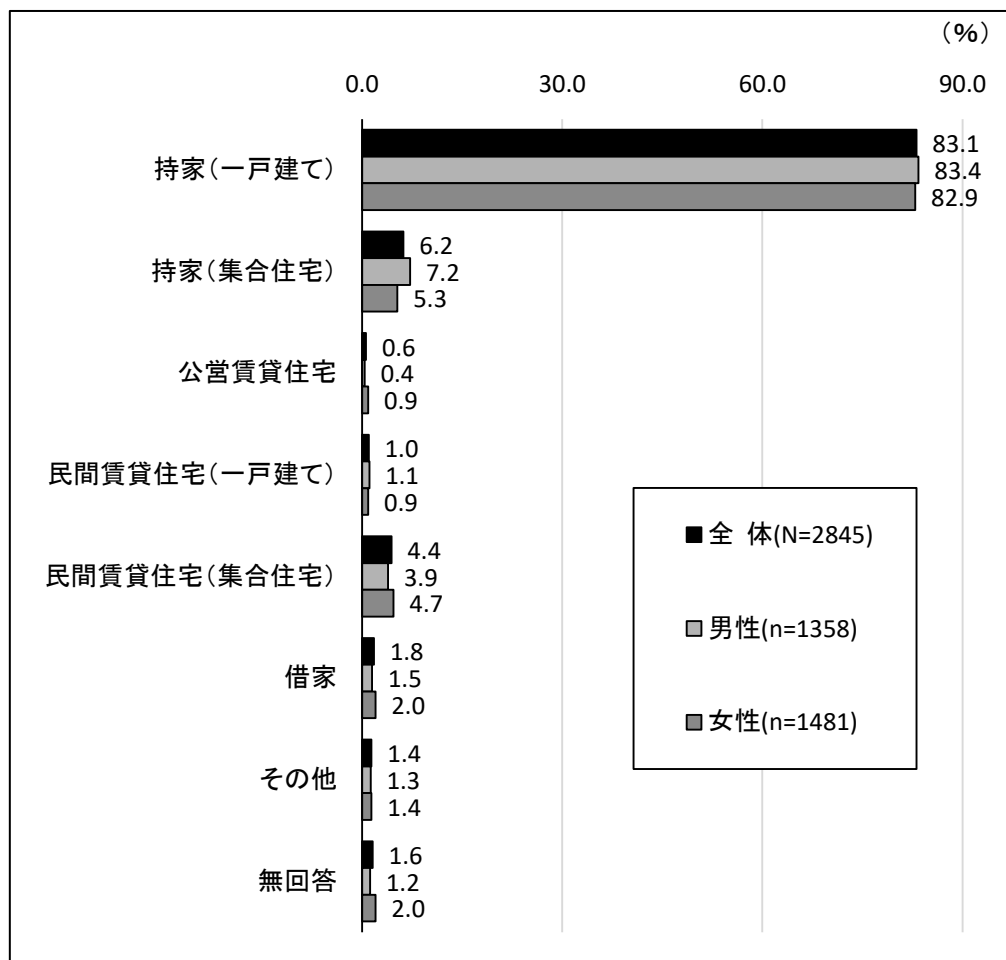
(2) 年齢構成

回答者の年齢構成をみると、市全体では 74 歳以下が 55.4%、75 歳以上が 44.4%となっている。
性別で年齢構成をみると女性の 75 歳以上は男性よりやや高く、46.9%となっている。



(3) 住まいの状況

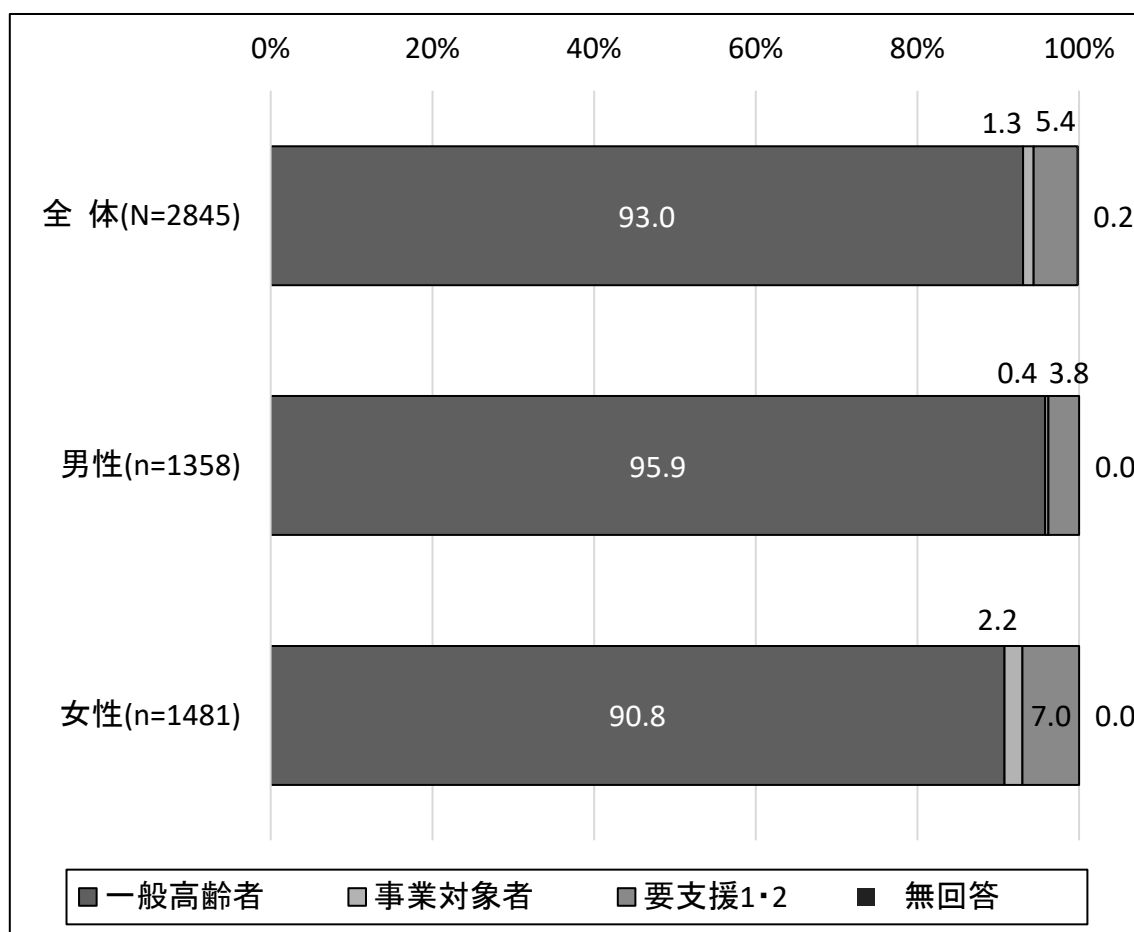
回答者の住まいの状況をみると、市全体では「持家(一戸建て)」が最も高く 83.1%となっており、次いで「持家(集合住宅)」が 6.2%である。



(4) 要介護度

回答者の要介護度をみると、いずれの属性においても一般高齢者が大半を占めている。

性別では男性の要支援 1・2 は 3.8%であるのに、女性では 7.0%であり、女性の方が多くなっている。



(5) 生活機能低下者の該当状況

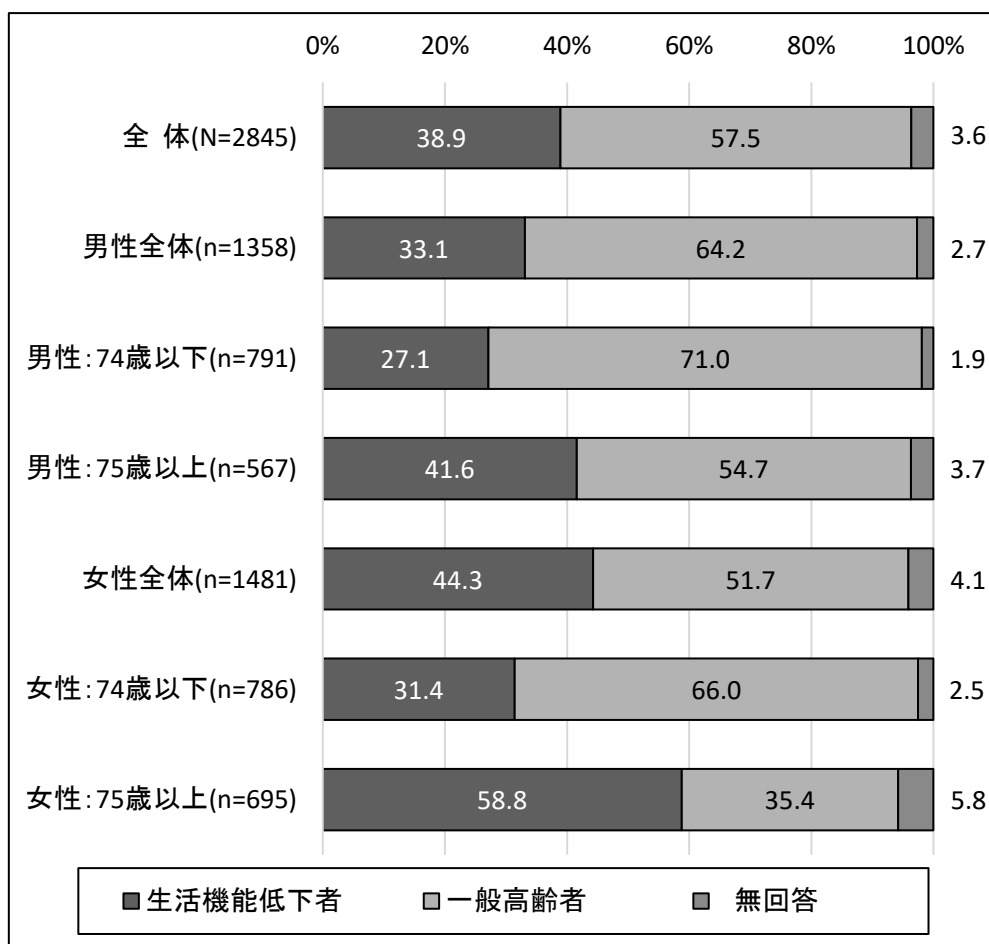
生活機能低下者(※1)の該当状況をみると、市全体での生活機能低下者は 38.9%、一般高齢者(※2)は 57.5%となっている。

性別でみると男性 33.1%、女性 44.3%となっている。

年代別では、74 歳以下の年代では男性 27.1%、女性 31.4%となっており大きな差はないものの、75 歳以上の年代においては男性 41.6%、女性 58.8%となっており、女性の生活機能低下者の数が増加している。

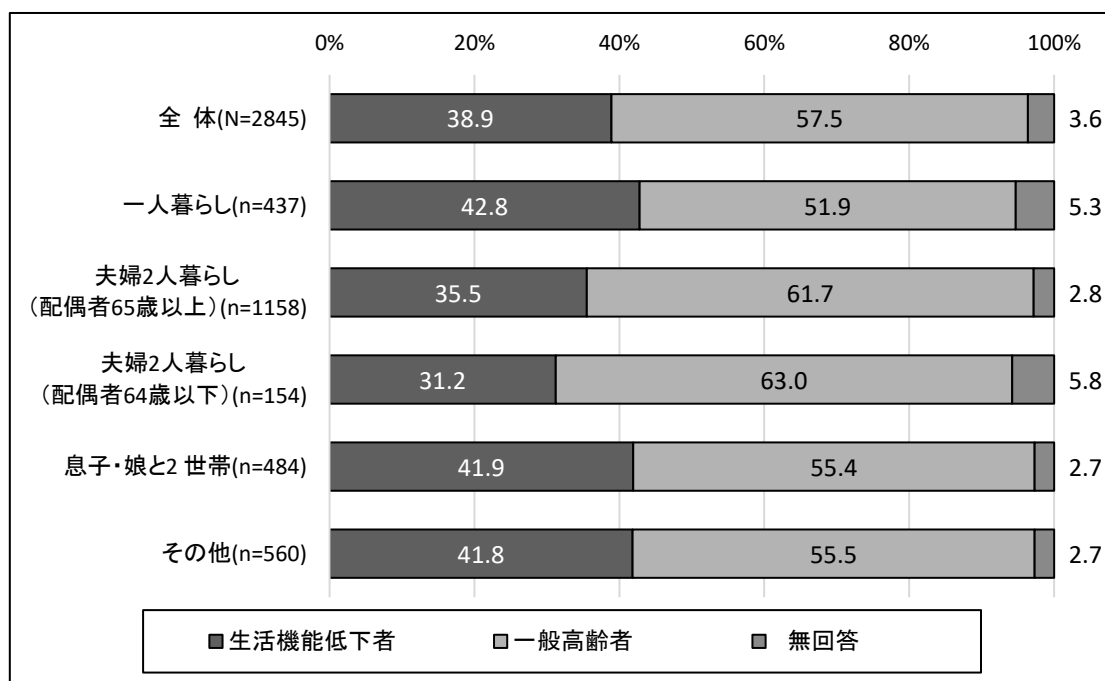
(※1)生活機能低下者…将来、介護が必要となるおそれの高い状態にある高齢者

(※2)一般高齢者…現段階では、生活機能(運動器、栄養、口腔機能、虚弱)のいずれにも問題がないと判定された高齢者



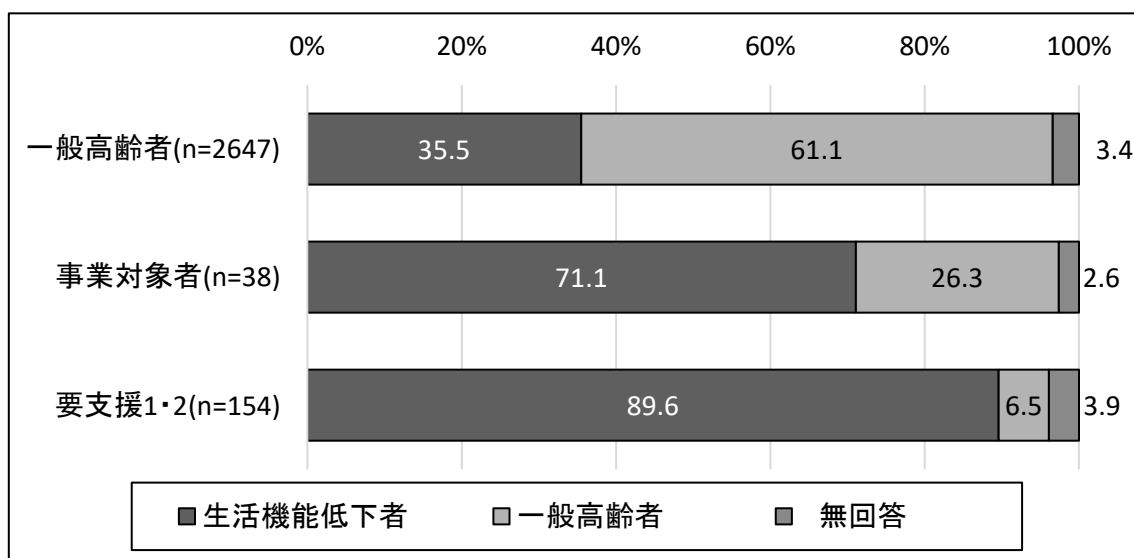
〈家族構成別〉

家族構成別にみると、生活機能低下者の割合は「一人暮らし」家庭で 42.8%、次いで「息子・娘と2世帯」家庭で 41.9%となっている。



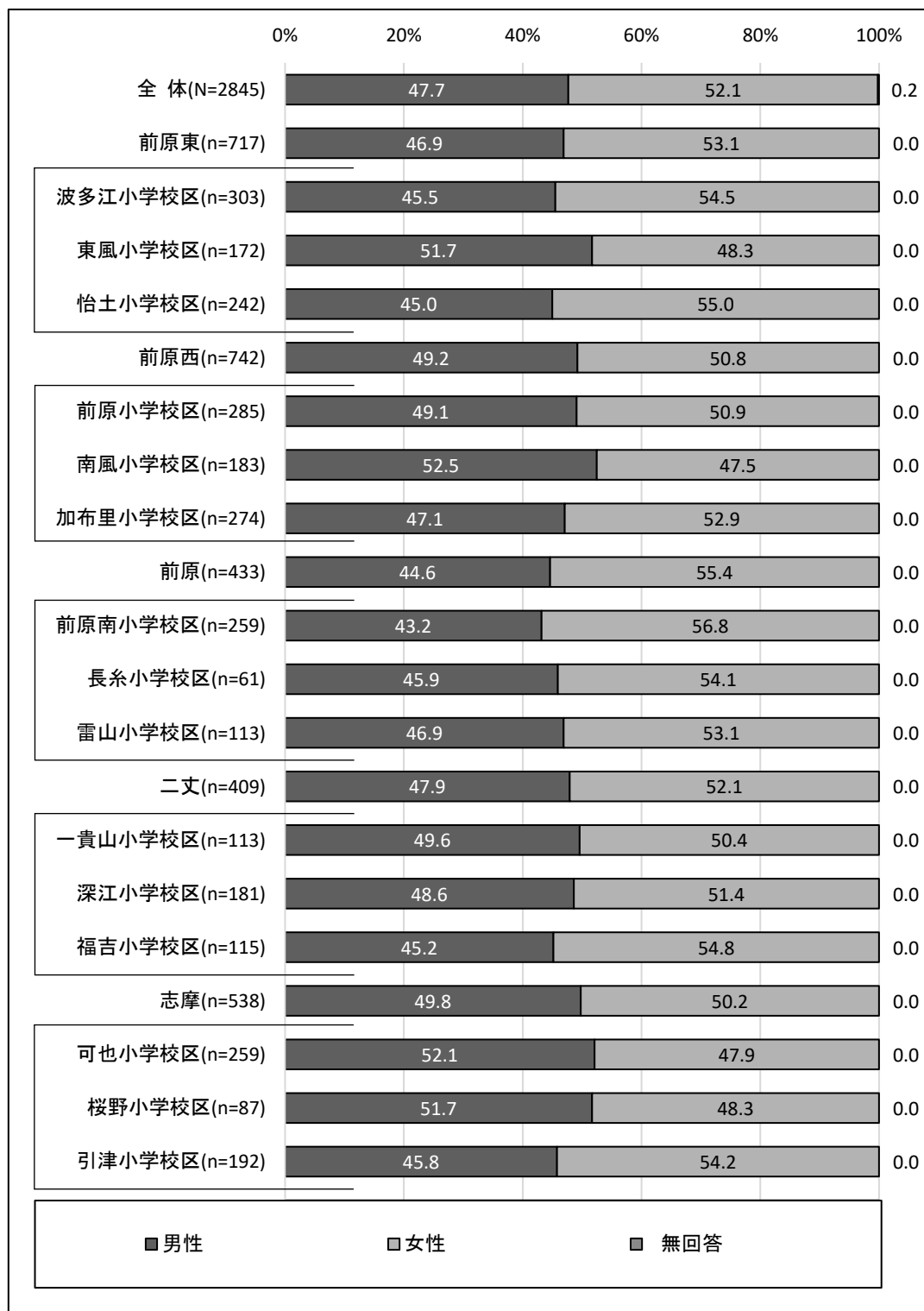
〈要介護度別〉

要介護度別でみると、生活機能低下者の割合には大きな差がある。一般高齢者では生活機能低下者が 35.5%であるのに対し、事業対象者では 71.1%、要支援 1・2 では 89.6%にも上る。



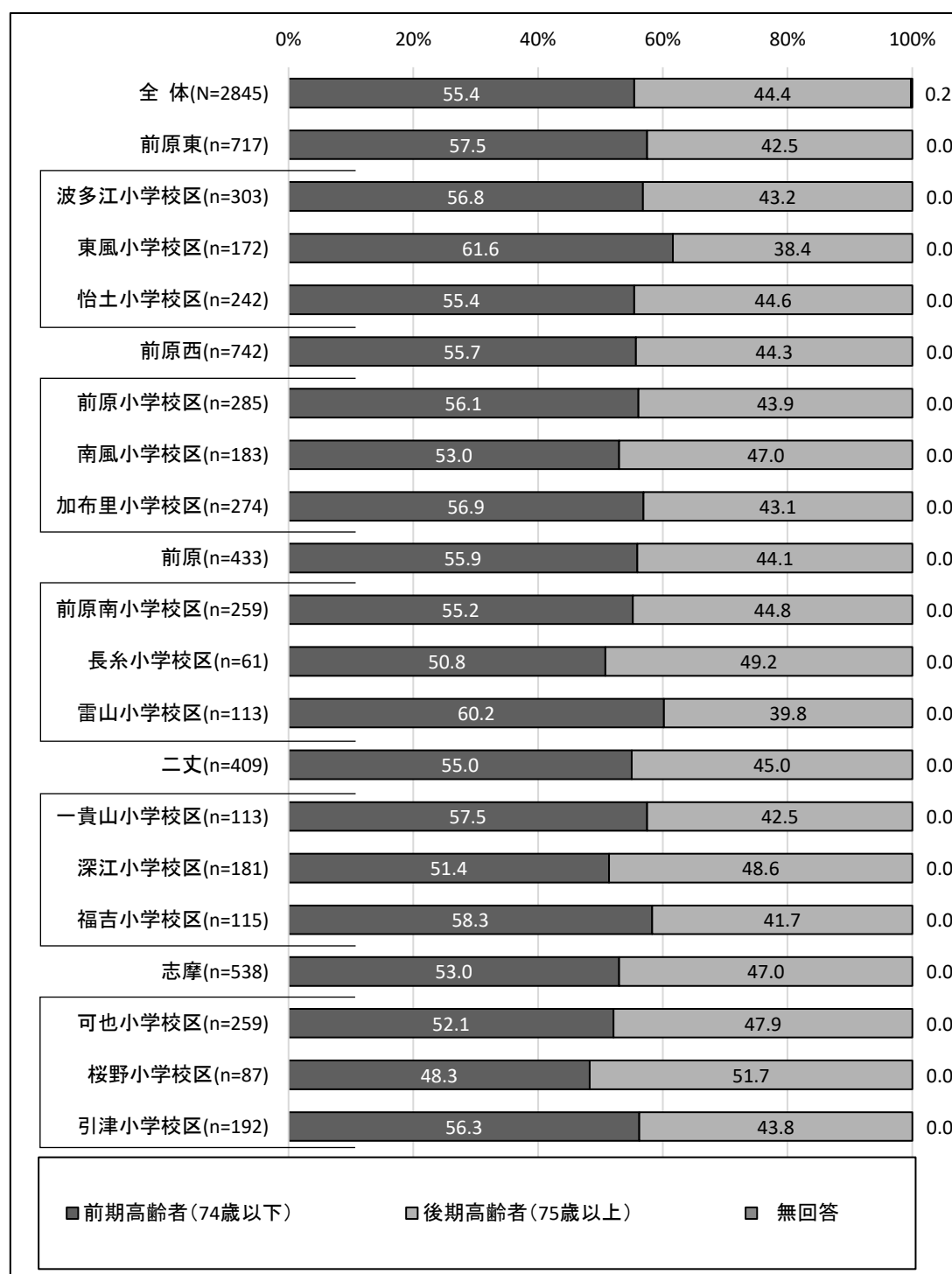
(6) 日常生活圏域(圏域・小学校区)の状況

大半の生活圏域・小学校区において男性が 40% 台、女性が 50% 台となっている。



〈年代別〉

年代構成をみるとほぼすべての生活圏域・小学校区において 74 歳以下が 50% 台、75 歳以上が 40% 台となっている。東風小学校区と雷山小学校区は 74 歳以下が 6 割を超えている。



〈家族構成別〉

家族構成を圏域別でみると前原圏域は「一人暮らし」家庭が 18.2%と他圏域よりもやや高くなっている。また「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」は前原西圏域でやや高くなっており 43.1%、小学校区別では一貴山小学校区で 46.9%となっている。

(上段：実数、下段：%)

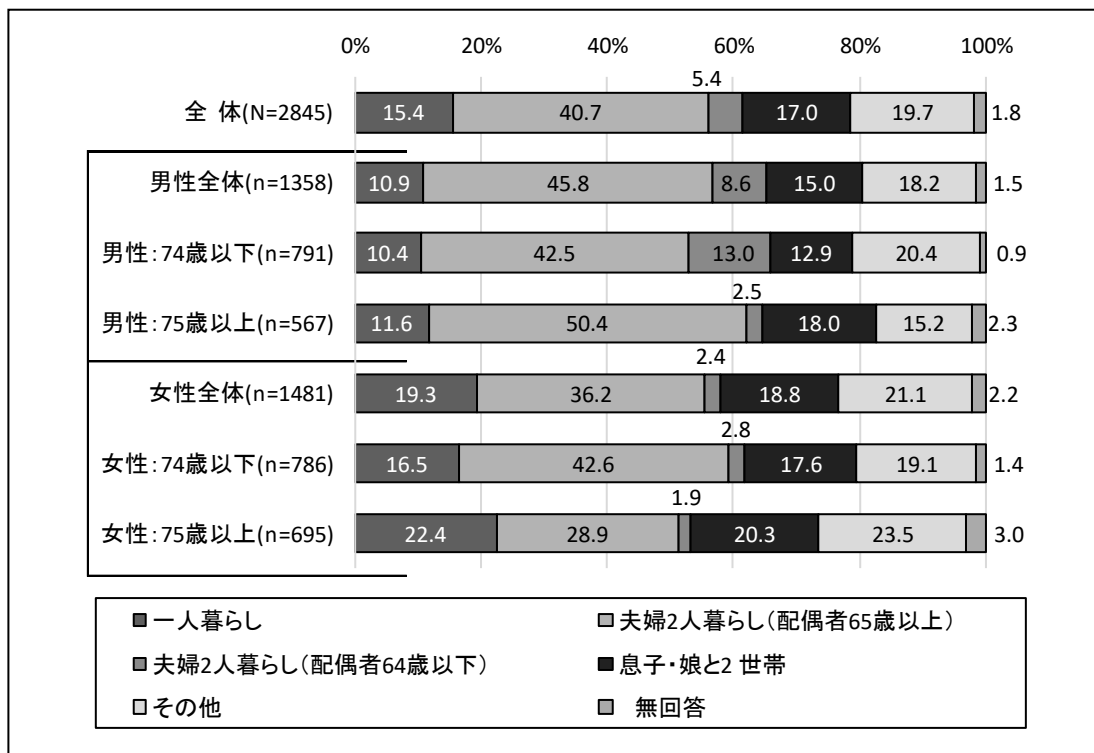
		全 体	一 人 暮 ら し	夫 婦 2 人 暮 ら し (配 偶 者 6 5 歳 以 上)	夫 婦 2 人 暮 ら し (配 偶 者 6 4 歳 以 下)	息 子 ・ 娘 と 2 世 帯	そ の 他	無 回 答
全 体		2845 100.0	437 15.4	1158 40.7	154 5.4	484 17.0	560 19.7	52 1.8
圏 域 別 ・ 小 学 校 区 別	前原東	717 100.0	106 14.8	295 41.1	44 6.1	134 18.7	124 17.3	14 2.0
	波多江小学校区	303 100.0	46 15.2	130 42.9	19 6.3	60 19.8	41 13.5	7 2.3
	東風小学校区	172 100.0	27 15.7	72 41.9	12 7.0	28 16.3	30 17.4	3 1.7
	怡土小学校区	242 100.0	33 13.6	93 38.4	13 5.4	46 19.0	53 21.9	4 1.7
	前原西	742 100.0	119 16.0	320 43.1	32 4.3	120 16.2	140 18.9	11 1.5
	前原小学校区	285 100.0	57 20.0	116 40.7	12 4.2	45 15.8	49 17.2	6 2.1
	南風小学校区	183 100.0	23 12.6	83 45.4	11 6.0	35 19.1	29 15.8	2 1.1
	加布里小学校区	274 100.0	39 14.2	121 44.2	9 3.3	40 14.6	62 22.6	3 1.1
	前原	433 100.0	79 18.2	176 40.6	24 5.5	58 13.4	88 20.3	8 1.8
	前原南小学校区	259 100.0	49 18.9	106 40.9	12 4.6	34 13.1	52 20.1	6 2.3
	長糸小学校区	61 100.0	11 18.0	23 37.7	4 6.6	7 11.5	16 26.2	- -
	雷山小学校区	113 100.0	19 16.8	47 41.6	8 7.1	17 15.0	20 17.7	2 1.8
	二丈	409 100.0	62 15.2	166 40.6	17 4.2	56 13.7	100 24.4	8 2.0
	一貴山小学校区	113 100.0	16 14.2	53 46.9	8 7.1	11 9.7	24 21.2	1 0.9
	深江小学校区	181 100.0	30 16.6	72 39.8	4 2.2	23 12.7	47 26.0	5 2.8
	福吉小学校区	115 100.0	16 13.9	41 35.7	5 4.3	22 19.1	29 25.2	2 1.7
	志摩	538 100.0	68 12.6	201 37.4	35 6.5	115 21.4	108 20.1	11 2.0
	可也小学校区	259 100.0	29 11.2	111 42.9	14 5.4	51 19.7	49 18.9	5 1.9
	桜野小学校区	87 100.0	11 12.6	28 32.2	3 3.4	22 25.3	22 25.3	1 1.1
	引津小学校区	192 100.0	28 14.6	62 32.3	18 9.4	42 21.9	37 19.3	5 2.6
	無回答	6 100.0	3 50.0	- -	2 33.3	1 16.7	- -	- -

4 家族や生活状況について

(1) 家族構成

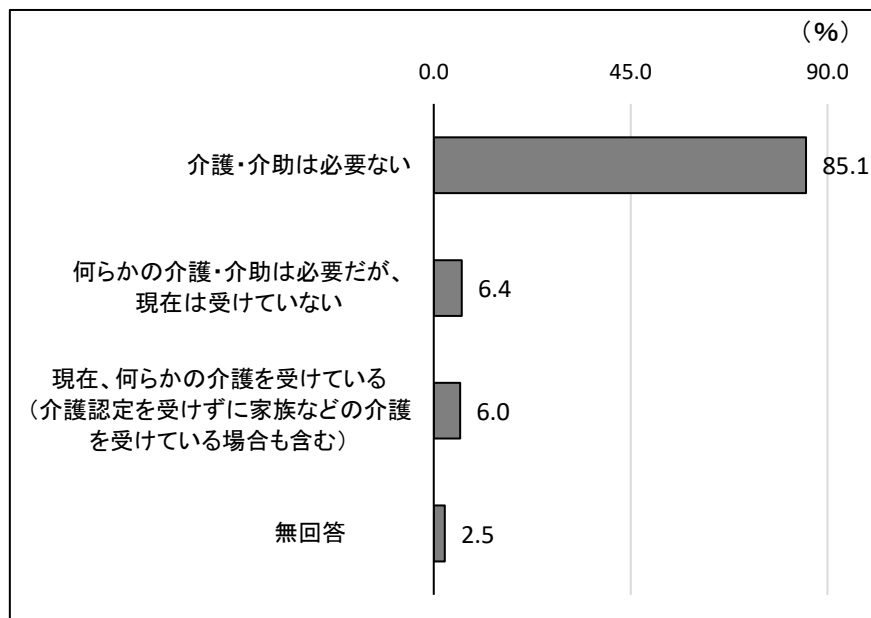
回答者の家族構成をみると、いずれの項目においても「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が最も高くなっている(市全体では 40.7%)。「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が最も高いのは男性 75 歳以上の回答者で 50.4%となっている。一方、女性 75 歳以上の回答者は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 28.9%で他の項目と比較して低くなっている。

性別では「一人暮らし」の割合は男性 10.9%、女性 19.3%であり、男性に比較し女性の「一人暮らし」が二倍近く高くなっている。



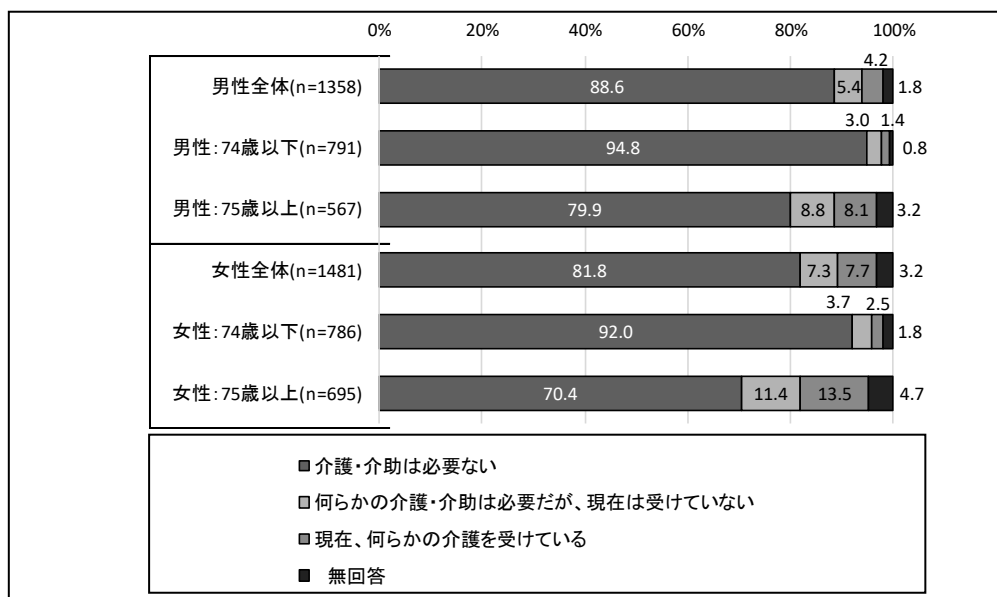
(2) 介護・介助の必要度合い

市全体でみると、「介護・介助は必要ない」が最も高く 85.1%となっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 6.4%、「現在、何らかの介護を受けている」が 6.0%でほぼ同率である。



〈性年代別〉

性別でみると、男性は「介護・介助は必要ない」が 88.6%で、女性は 81.8%である。性年代別では男女ともに 75 歳以上で「介護・介助は必要ない」の割合が大きく減少しており、特に女性は男性よりも減少の幅が大きくなっている。



〈圏域別・小学校区別〉

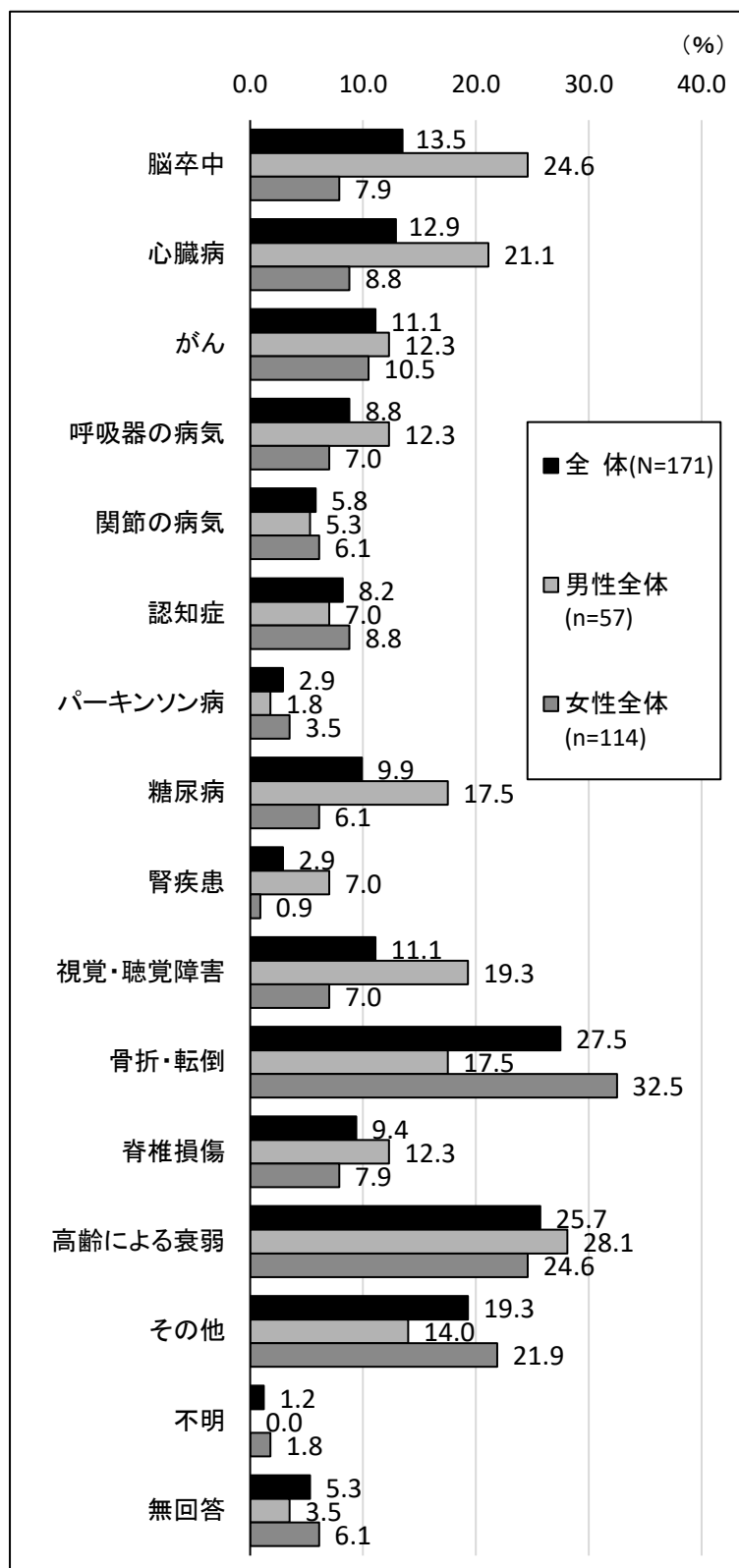
圏域別では、前原圏域のみ「介護・介助は必要ない」が 80.1%とやや低くなっている。一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 10.9%と唯一 10%を超えて高くなっている。他圏域については大きな差はない。

小学校区別でみると前原圏域に属する小学校区は「介護・介助は必要ない」の割合が他小学校区と比較してやや低い。特に長糸小学校区は「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 14.8%と高くなっており、市全体の 6.4%を大きく上回っている。

		(上段：実数、下段：%)				
		全 体	必要・介 護な・介 い助は	いは要護何 受だ・ら けが・か て、助の い現は介 な在必	ての現在、 いる護を、 る何を何 受け受けか	無 回 答
全 体		2845 100.0	2421 85.1	182 6.4	171 6.0	71 2.5
圏 域 別 ・ 学 区 別	前原東	717 100.0	625 87.2	36 5.0	42 5.9	14 2.0
	波多江小学校区	303 100.0	263 86.8	16 5.3	18 5.9	6 2.0
	東風小学校区	172 100.0	153 89.0	10 5.8	6 3.5	3 1.7
	怡土小学校区	242 100.0	209 86.4	10 4.1	18 7.4	5 2.1
	前原西	742 100.0	631 85.0	50 6.7	41 5.5	20 2.7
	前原小学校区	285 100.0	240 84.2	18 6.3	19 6.7	8 2.8
	南風小学校区	183 100.0	157 85.8	16 8.7	6 3.3	4 2.2
	加布里小学校区	274 100.0	234 85.4	16 5.8	16 5.8	8 2.9
	前原	433 100.0	347 80.1	47 10.9	30 6.9	9 2.1
	前原南小学校区	259 100.0	207 79.9	28 10.8	17 6.6	7 2.7
	長糸小学校区	61 100.0	47 77.0	9 14.8	4 6.6	1 1.6
	雷山小学校区	113 100.0	93 82.3	10 8.8	9 8.0	1 0.9
	二丈	409 100.0	354 86.6	14 3.4	26 6.4	15 3.7
	一貴山小学校区	113 100.0	101 89.4	1 0.9	8 7.1	3 2.7
	深江小学校区	181 100.0	157 86.7	6 3.3	11 6.1	7 3.9
	福吉小学校区	115 100.0	96 83.5	7 6.1	7 6.1	5 4.3
	志摩	538 100.0	458 85.1	35 6.5	32 5.9	13 2.4
	可也小学校区	259 100.0	214 82.6	22 8.5	19 7.3	4 1.5
	桜野小学校区	87 100.0	77 88.5	3 3.4	5 5.7	2 2.3
	引津小学校区	192 100.0	167 87.0	10 5.2	8 4.2	7 3.6
	無回答		6 100.0	6 100.0	- -	- -

(3) 介護・介助が必要になった主な原因

市全体でみると、介護・介助が必要となった原因として最も高いのは「骨折・転倒」であり 27.5%となっている。次いで「高齢による衰弱」が 25.7%、「その他」が 19.3%となっている。



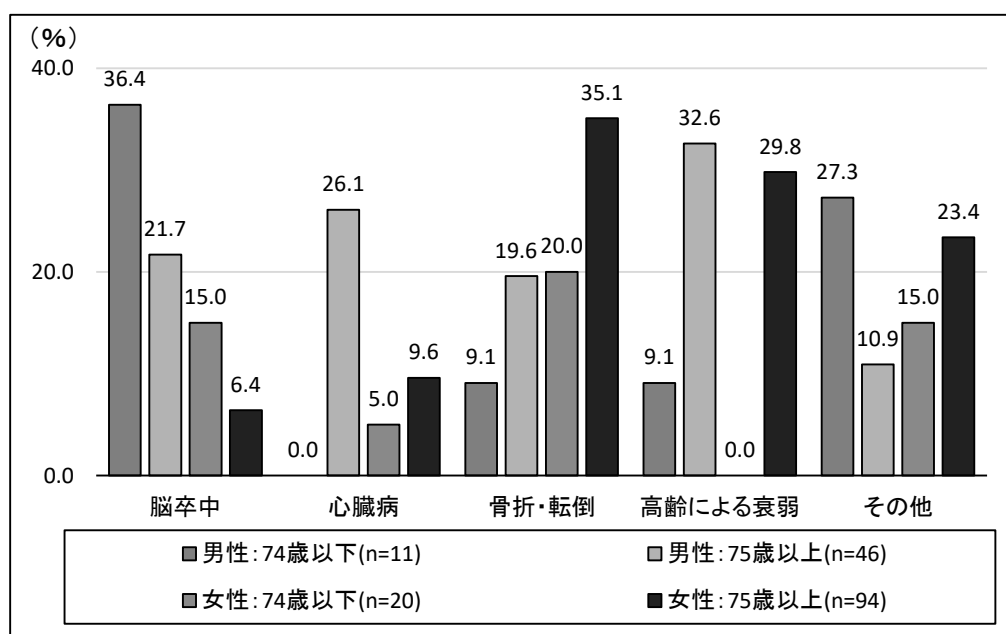
〈性別〉

性別でみると男性は「脳卒中」24.6%、「心臓病」21.1%、「糖尿病」17.5%、「視覚・聴覚障害」19.3%などで市全体よりも5ポイント以上高くなっている。一方、女性は「骨折・転倒」32.5%、「その他」21.9%などで市全体よりも高くなっている。

〈性年代別〉:上位五項目

性年代別にみた特徴は以下の通りである。

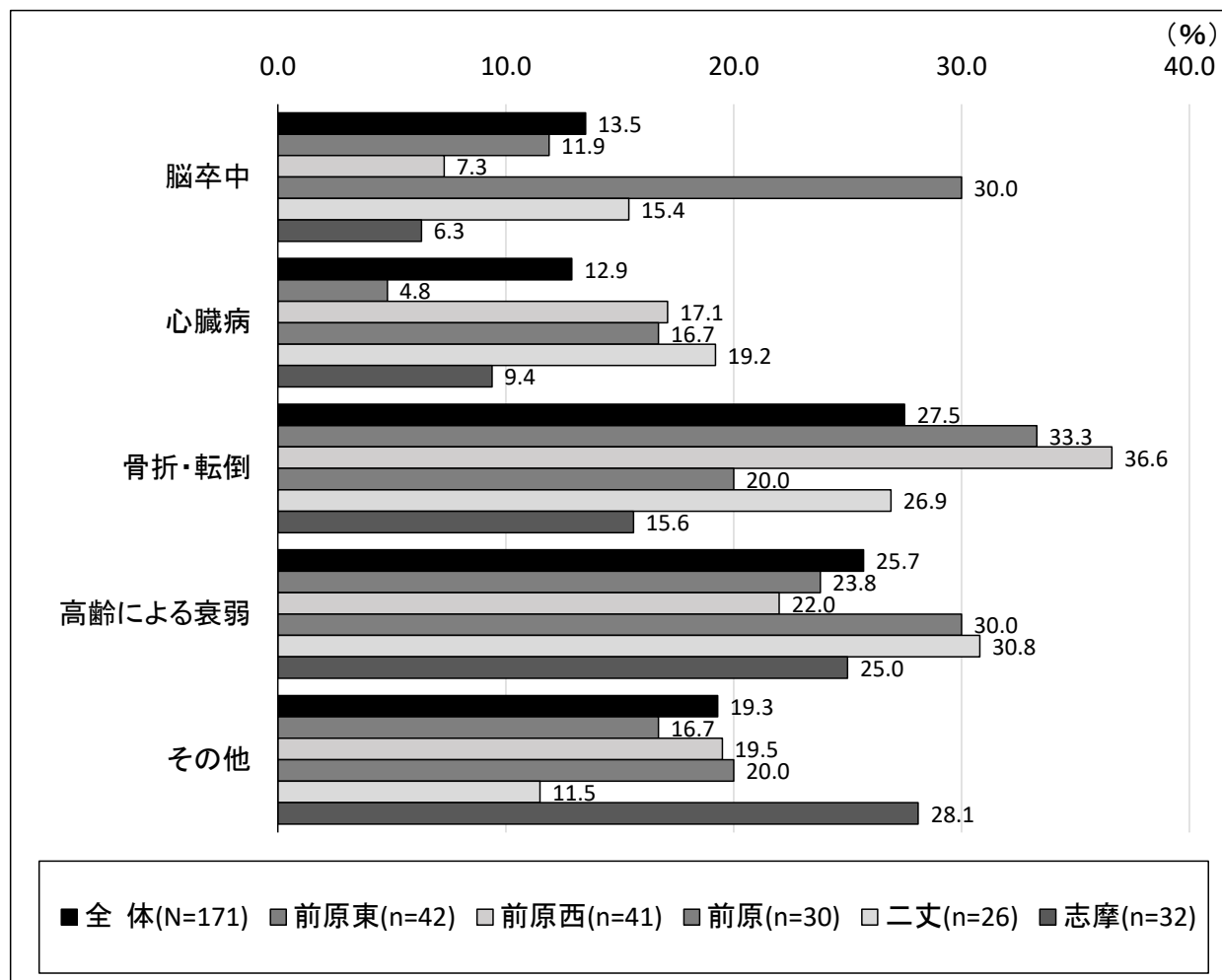
「高齢による衰弱」は 75 歳以上の年代において急激に高くなっている。また、「骨折・転倒」は女性 75 歳以上で顕著に高くなっている。



〈圏域別〉：上位五項目

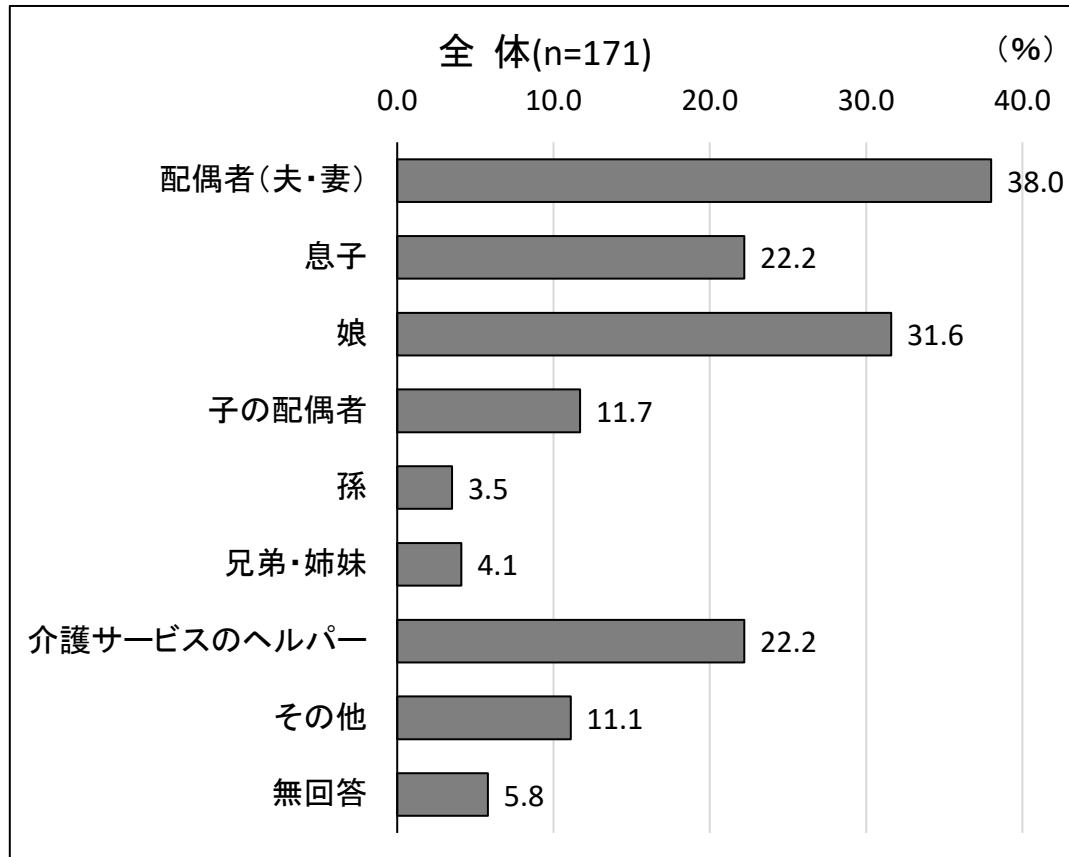
圏域別でみた特徴は以下の通りである。

前原東圏域では、「心臓病」4.8%の割合が他圏域と比較して低く、前原西圏域では「骨折・転倒」が36.6%と他圏域よりも高い。前原圏域では「脳卒中」の割合が他圏域と比較して明確に高く30.0%となっている。志摩圏域では「その他」が28.1%と他圏域と比較して高くなっており、様々な要因によって介護・介助が必要になっている。



(4) 主に介護・介助を受けている人

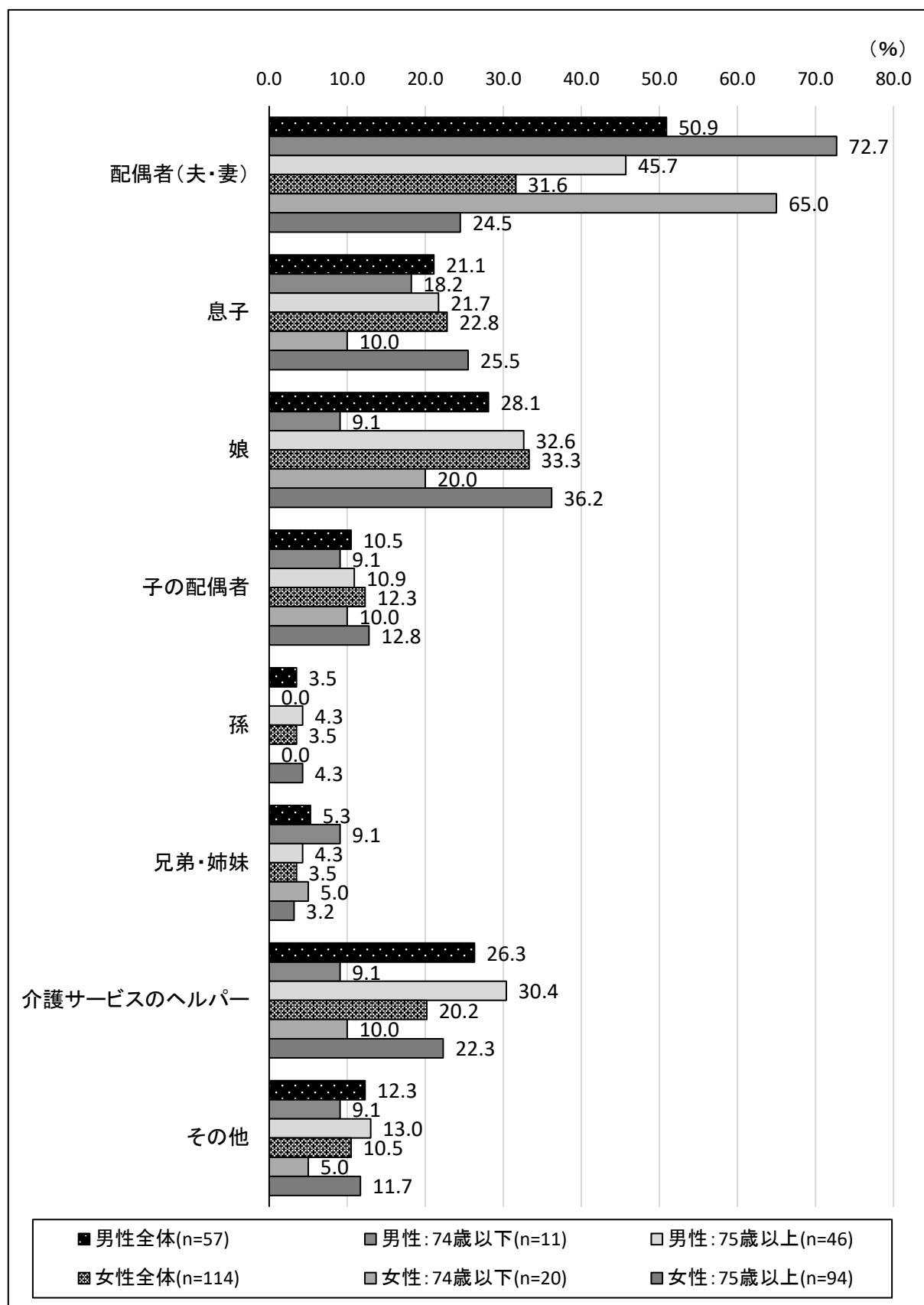
市全体でみると、「配偶者(夫・妻)」が38.0%で最も高く、次いで「娘」の31.6%、「息子」、「介護サービスのヘルパー」の22.2%が続いている。



〈性年代別〉

性別でみると、男女ともに「配偶者(夫・妻)」が高く、男性は50.9%、女性は31.6%である。次いで「娘」が男性28.1%、女性33.3%で高くなっている。「配偶者(夫・妻)」、「娘」は男女ともに高い割合となっている。その後は男女で差があり、男性は「介護サービスのヘルパー」が26.3%、女性は「息子」が22.8%となっている。

年代別では「配偶者(夫・妻)」は男女ともに高くなっている項目の一つであるが、74歳以下の年代で高くなっており、男性74歳以下で72.7%、女性74歳以下で65.0%である。一方、75歳以上の年代では大きく減少しており、男性75歳以上では45.7%、女性75歳以上では24.5%である。同様の傾向は「兄弟・姉妹」についてもみられる。一方、「娘」、「介護サービスのヘルパー」は75歳以上の年代で大きく増加しており、「娘」は男性74歳以下で9.1%、女性74歳以下で20.0%であるのに対し、男性75歳以上で32.6%、女性75歳以上で36.2%となっている。同様の傾向は「息子」、「子の配偶者」、「孫」、「その他」等の項目においてもみられる。



〈圏域別〉：上位五項目

市全体で割合が高かった上位五項目に着目し、圏域別の分析を行った。ただし、以下の分析は回答者数が少ないため、参考程度にとどめる必要がある。

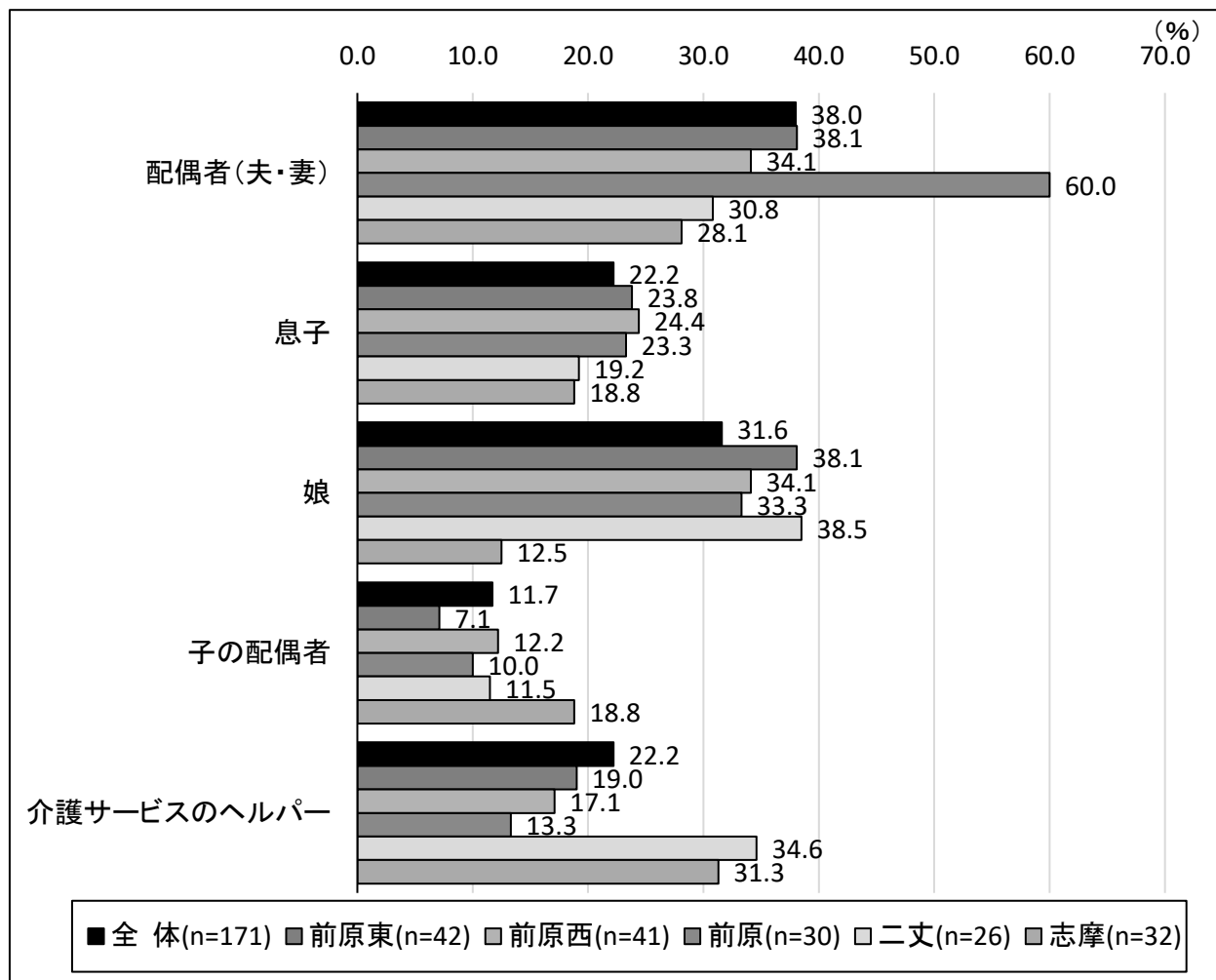
前原東圏域については「娘」の項目がやや市全体よりも高く、「子の配偶者」と「介護サービスのヘルパー」が低くなっている。

前原西圏域はわずかながら「息子」、「娘」、「子の配偶者」の割合が市全体よりも高く、「配偶者（夫・妻）」、「介護サービスのヘルパー」の割合が市全体より低く、身内による介護が行われている。

前原圏域は、他圏域と比較し「配偶者（夫・妻）」の割合が非常に高く 60.0%にも上る。一方、「介護サービスのヘルパー」は全圏域の中で最も低く 13.3%となっている。他の項目については市全体と大きな差はなく、介護サービスを利用せず、配偶者同士での介護が行われているようである。

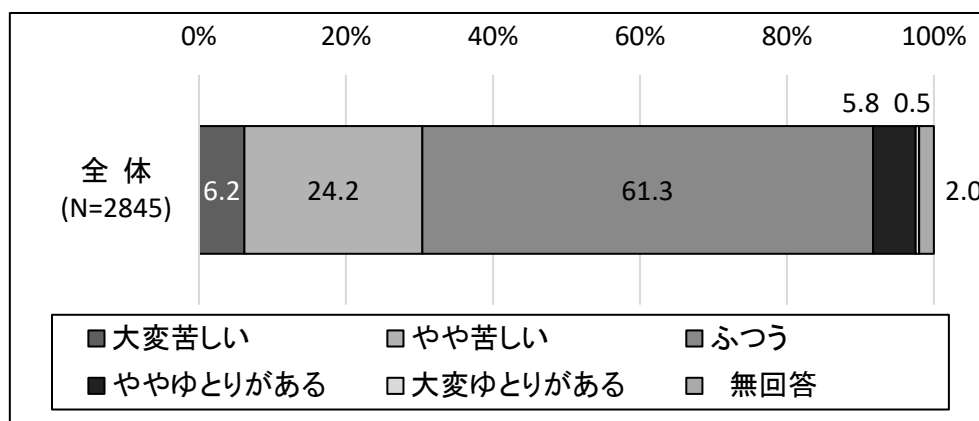
二丈圏域については「介護サービスのヘルパー」34.6%が市全体と比較し明確に高くなっており、全圏域の中で最も高くなっている。同様に「娘」38.5%についても全圏域の中で最も高くなっている。一方、「配偶者（夫・妻）」については市全体よりも低くなっている。

志摩圏域は「娘」が他圏域と比較し明確に低く 12.5%、同様に「配偶者（夫・妻）」、「息子」などの項目でも低くなっている。一方、「介護サービスのヘルパー」31.3%や「子の配偶者」18.8%は他圏域よりも高くなっている。



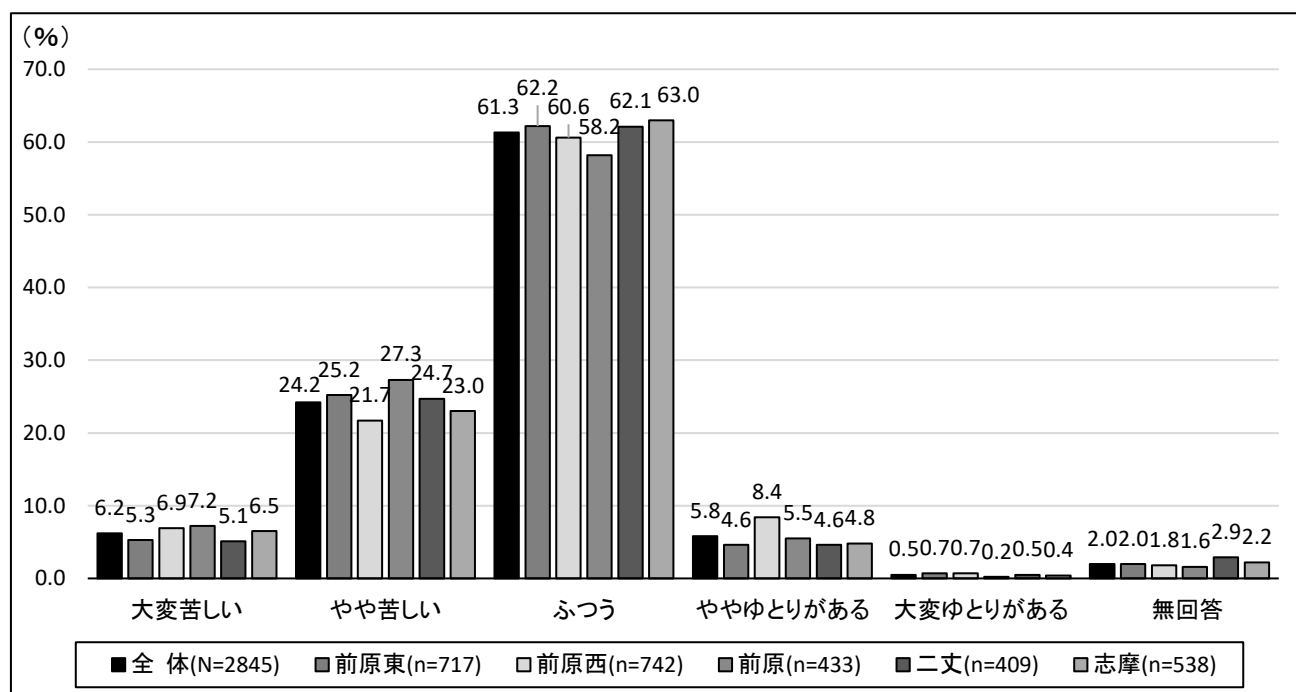
(5) 現在の暮らしの経済的状況

市全体では「ふつう」が最も高く 61.3%である。次いで「やや苦しい」が 24.2%、「大変苦しい」が 6.2%である。「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は 30.4%、「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』は 6.3%である。



〈圏域別〉

圏域別では圏域ごとの大きな差はない。いずれの圏域においても「ふつう」が約 60%前後で最も高く、次いで「やや苦しい」が約 20～30%である。



II 調査結果

1 生活機能

(1) 運動器

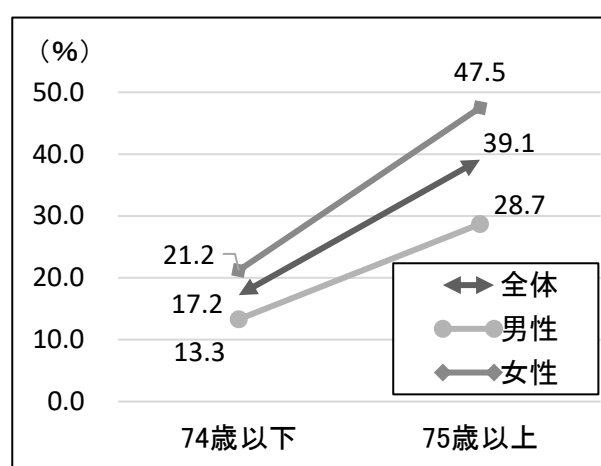
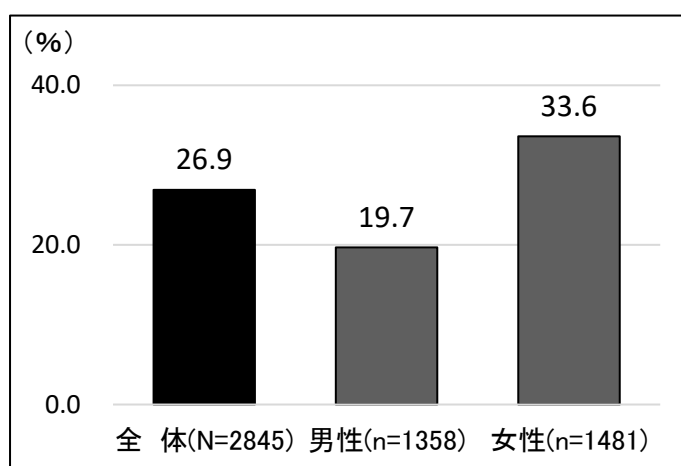
【運動器の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答		
問2Q1.	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない
問2Q2.	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない
問2Q3.	15分位続けて歩いていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない
問2Q4.	過去一年間に転んだ経験がありますか	何度もある	1度ある	ない
問2Q5.	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である	あまり不安でない 不安でない	

※運動器の判定に関しては、上記設問5点満点中、3点以上がリスクありと判定されます

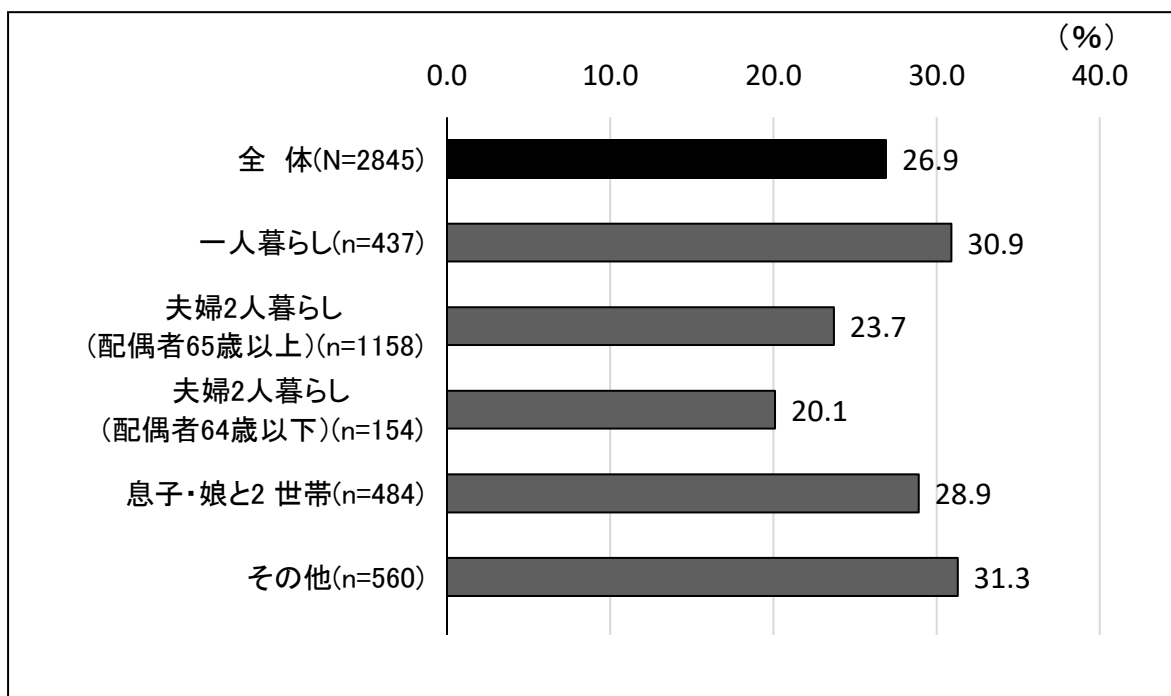
①運動機能低下リスク保有者の割合

運動機能低下リスク保有者の割合は、市全体で 26.9%となっており、性別で見ると男性 19.7%、女性 33.6%である。運動機能低下リスク保有者は、女性の方が高くなっている。性年代別では年代が上がるほど、リスク保有者の割合は増加し、特に女性は男性と比較しリスク割合の増加が急激である。



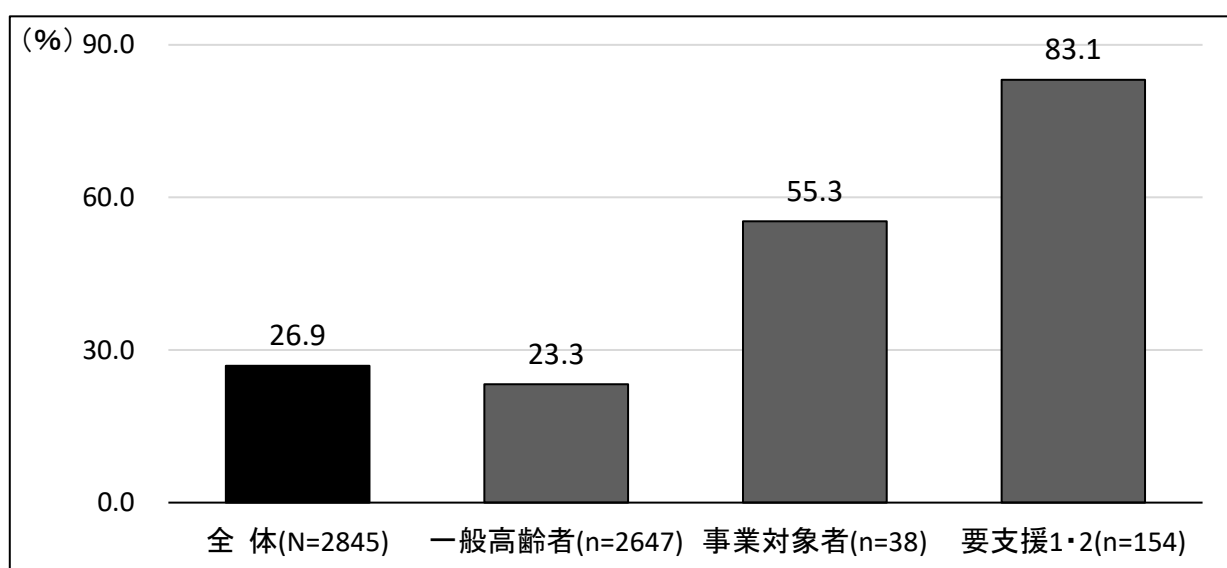
〈家族構成別〉

家族構成別でみると、「その他」31.3%、「一人暮らし」30.9%、「息子・娘と2世帯」28.9%となっており、市全体よりも高くなっている。一方、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」は20.1%と最も運動機能低下リスク保有者の割合が低くなっている。



〈要介護度別〉

要介護度別にみると、運動機能低下リスクの保有状況は、要支援 1・2 で 83.1%、事業対象者で 55.3%と明確に高くなっており、要支援 1・2 の多くが運動機能低下に該当する。



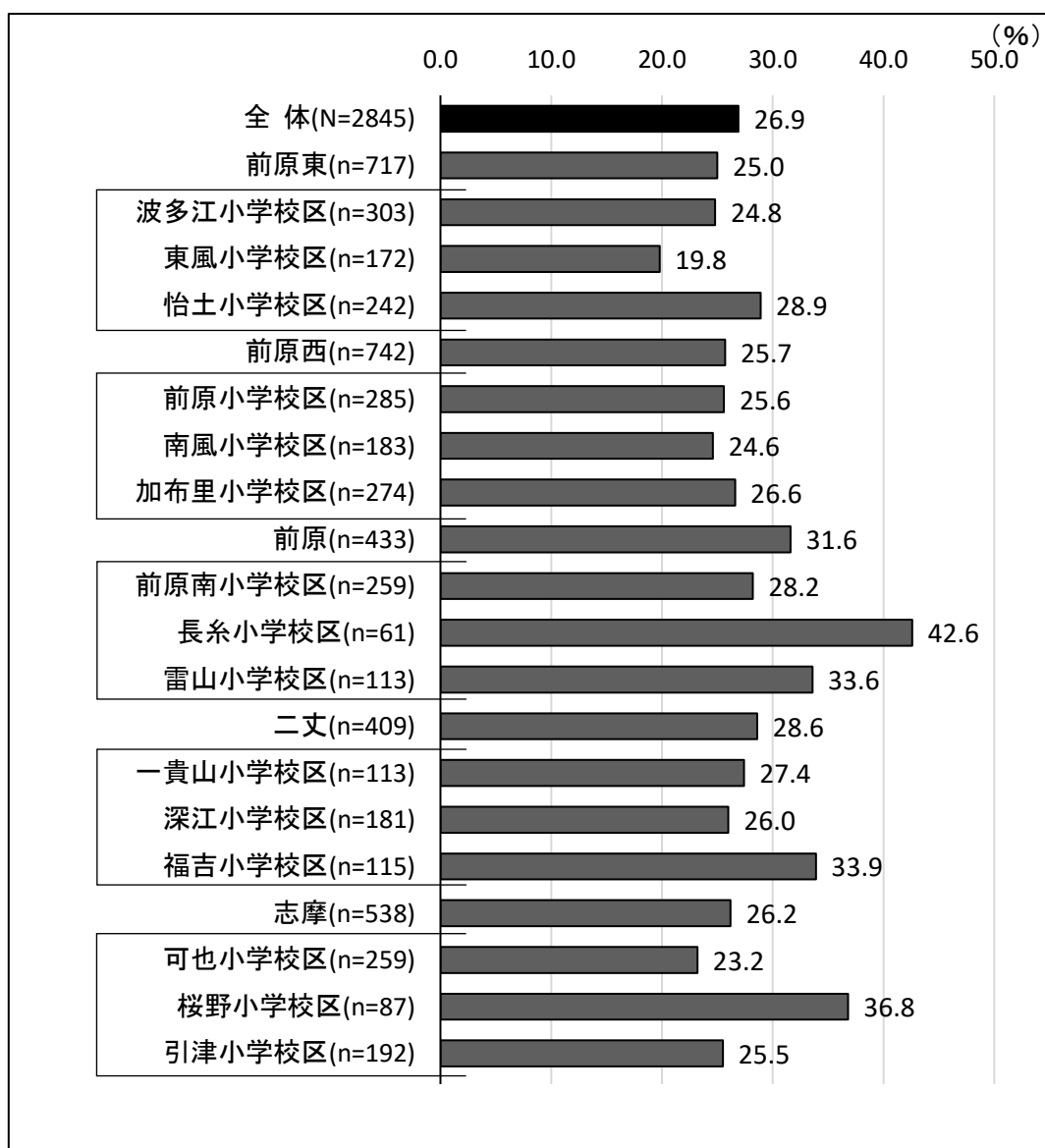
〈圏域別・小学校区別〉

圏域別では、前原圏域と二丈圏域において、市全体 26.9%よりも高くなっており、前原圏域が 31.6%、二丈圏域が 28.6%である。

小学校区別では、かなりばらつきがあるものの、長糸小学校区で 42.6%、桜野小学校区で 36.8%など市全体 26.9%を大きく上回り、運動機能低下リスクの割合が高くなっている。

一方、市全体 26.9%よりも低い地域としては東風小学校区の 19.8%が最も低くなっている。

なお、小学校区別の分析では回答者数が分散し、正確な分析ができないものが多いため、参考程度にとどめる必要がある。



(2) 閉じこもり

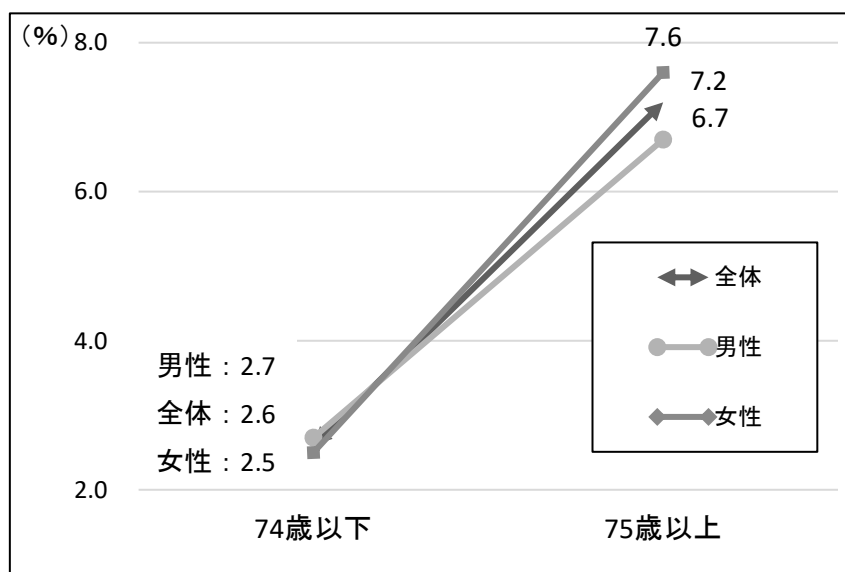
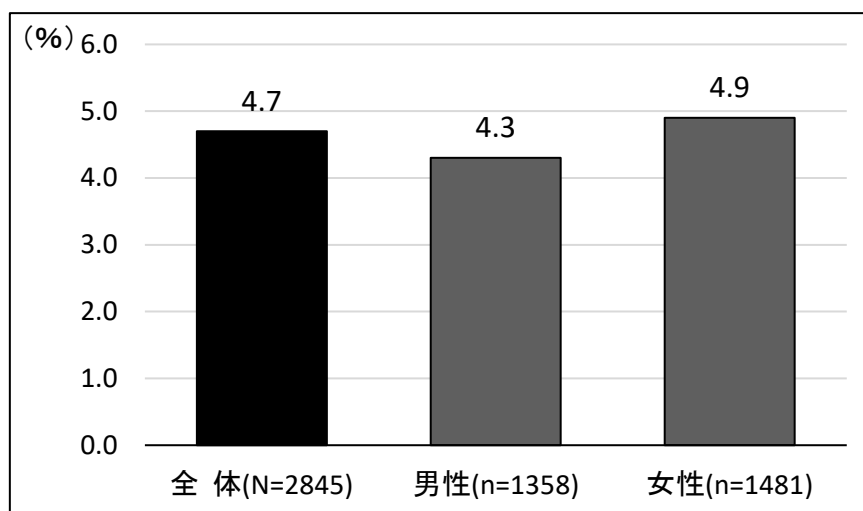
【閉じこもりの傾向の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答	
問2Q6.	週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない	週1回 週2～4回 週5回以上

※上記の選択肢に該当すると閉じこもり傾向のある高齢者と判定されます。

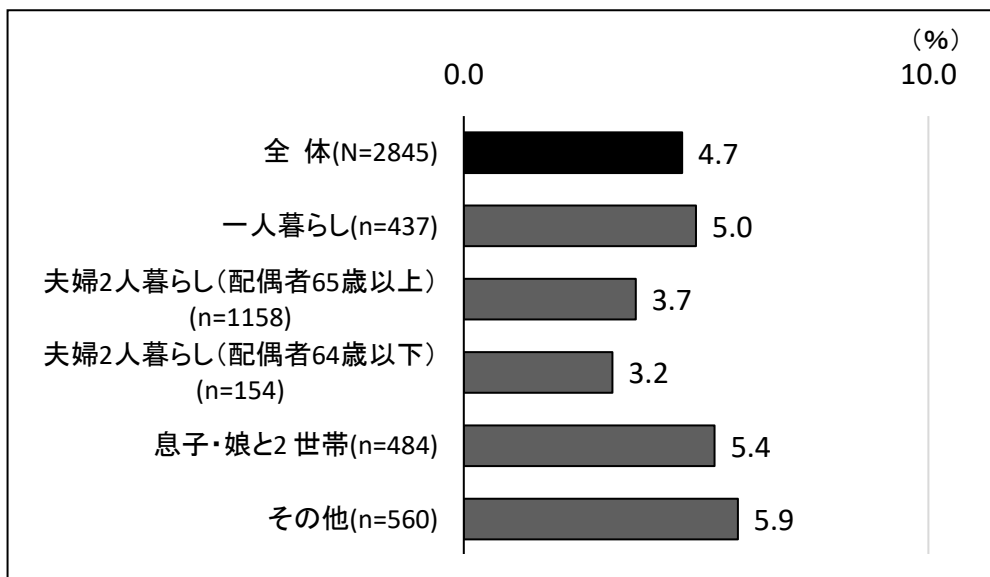
①閉じこもり傾向のある高齢者の割合

閉じこもり傾向のある高齢者の割合は、市全体で 4.7%となっており、性別では男性 4.3%、女性 4.9%と、若干女性の方が高くなっている。年代別でみると市全体では 74 歳以下で 2.6%、75 歳以上で 7.2%となっている。性年代別では女性 75 歳以上が最も高く 7.6%である。



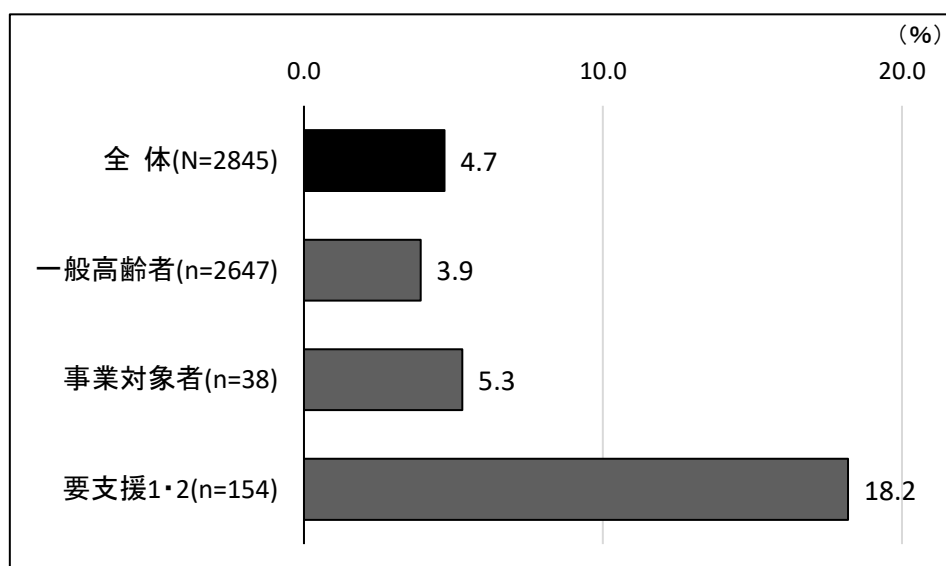
〈家族構成別〉

家族構成別でみると、「その他」5.9%、「息子・娘と 2 世帯」5.4%、「一人暮らし」5.0%で市全体を超えてやや高くなっており、閉じこもりの傾向にある高齢者が多くなっている。一方、市全体よりも低く、閉じこもり傾向にある高齢者が比較的少ないのは「夫婦 2 人暮らし」世帯で、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」で 3.2%、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」で 3.7%となっている。



〈要介護度別〉

要介護度別でみると、閉じこもり傾向の認められる回答者は要支援 1・2 で高くなっており 18.2%となっている。一般高齢者(事業対象者でも要支援 1・2 認定も受けていない高齢者)3.9%とは 15 ポイントほどの差がある。

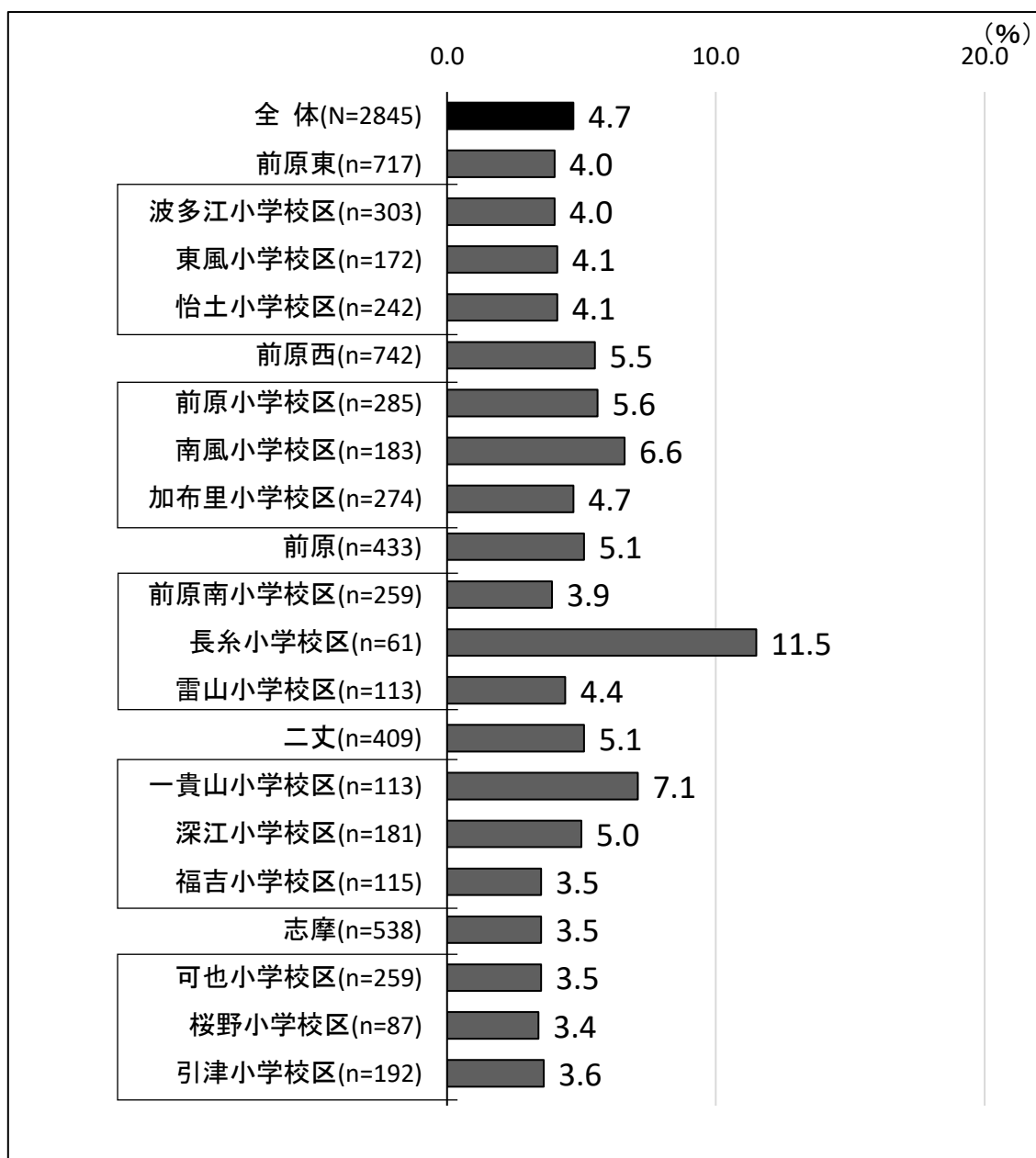


〈圏域別〉

圏域別にみると、市全体の 4.7%よりも高い圏域は前原西圏域 5.5%、前原圏域 5.1%、二丈圏域 5.1%である。一方、市全体よりも低いのは前原東圏域 4.0%、志摩圏域 3.5%であり、これらの圏域では週 1 回以上外出する高齢者の割合が高い。

小学校区別では、閉じこもり傾向にある高齢者が多いのは長糸小学校区の 11.5%、次いで一貴山小学校区 7.1%である。一方、少ないのは志摩圏域に属する可也小学校区 3.5%、桜野小学校区 3.4%、引津小学校区 3.6%である。

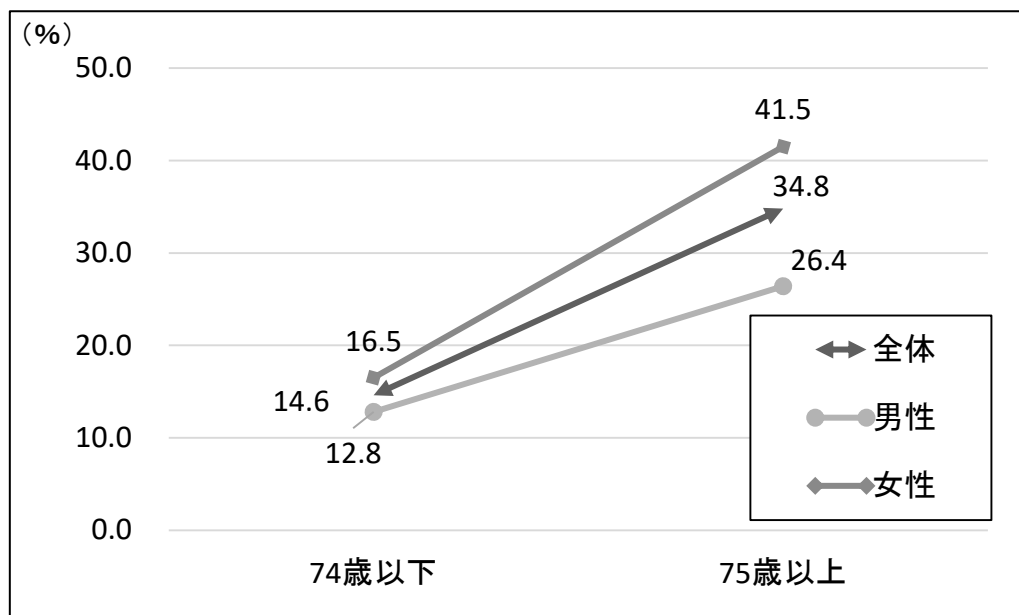
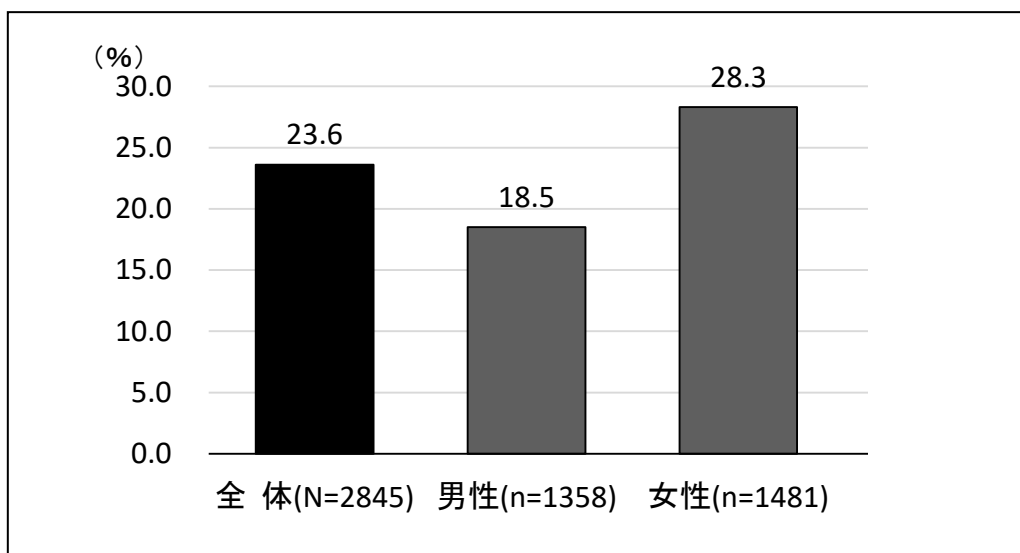
ただし、小学校区の中には十分な回答者数を確保できていない学区もあるため、参考程度にとどめる必要がある。



②昨年と比べた外出回数の増減

去年と比べた外出回数の増減をみると『減っている(「とても減っている」+「減っている」)』の割合は、市全体で 23.6%となっている。性別でみると女性 28.3%、男性 18.5%となっており、女性は男性よりも外出回数が減少した人が多い。

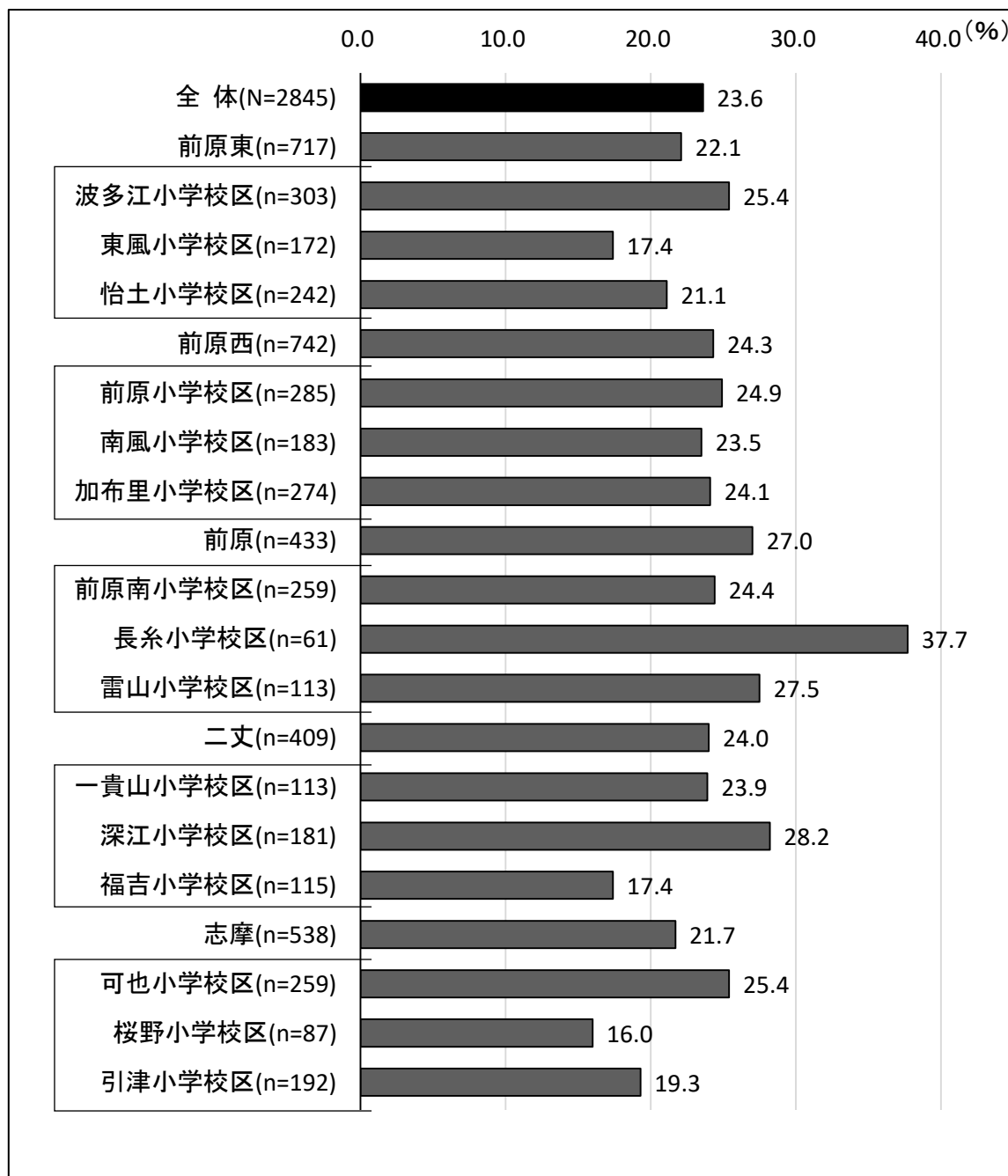
性年代別では、年代が上がるほど、外出回数が減少した高齢者数が増加していく。特に女性の割合が高くなる傾向にある。



〈圏域別・小学校区別〉

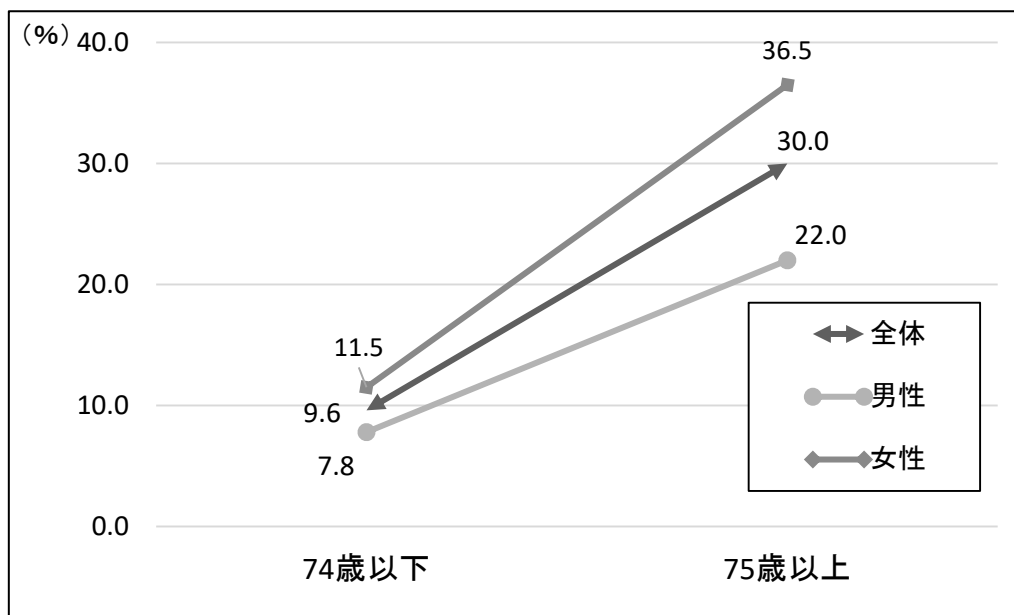
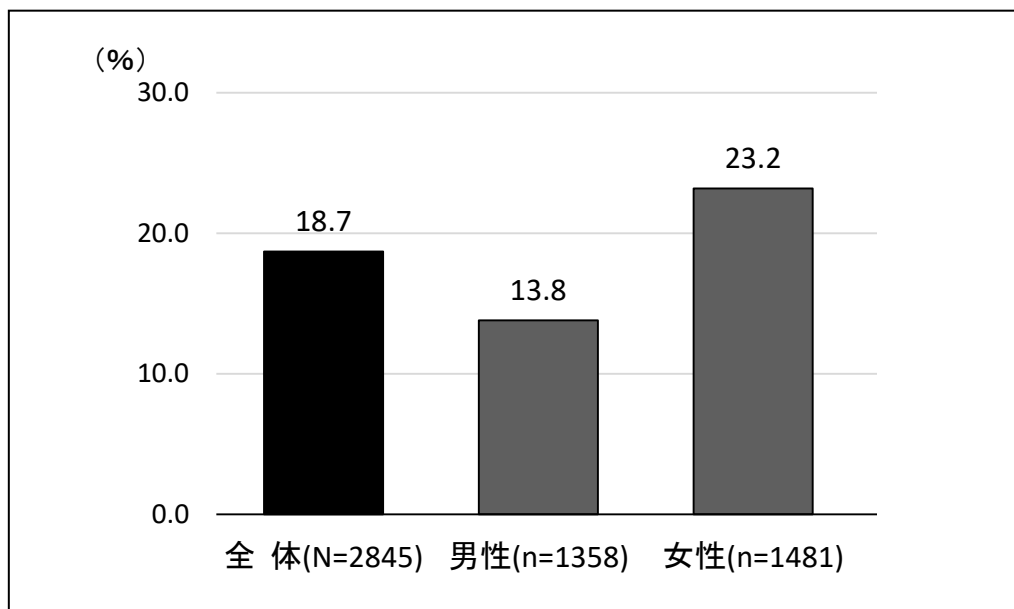
圏域別でみると、『減っている』の割合は前原圏域で最も高く 27.0%となっている。一方、『減っている』の割合が低いのは志摩圏域で 21.7%となっている。

小学校区別では、長糸小学校区の 37.7%が最も高く、次いで深江小学校区 28.2%となっている。これらの学区では市全体よりも多くの高齢者が外出回数を減らしている。一方、『減っている』の割合が低い学区は東風小学校区 17.4%、福吉小学校区 17.4%、桜野小学校区 16.0%などが挙げられる。



③外出控え

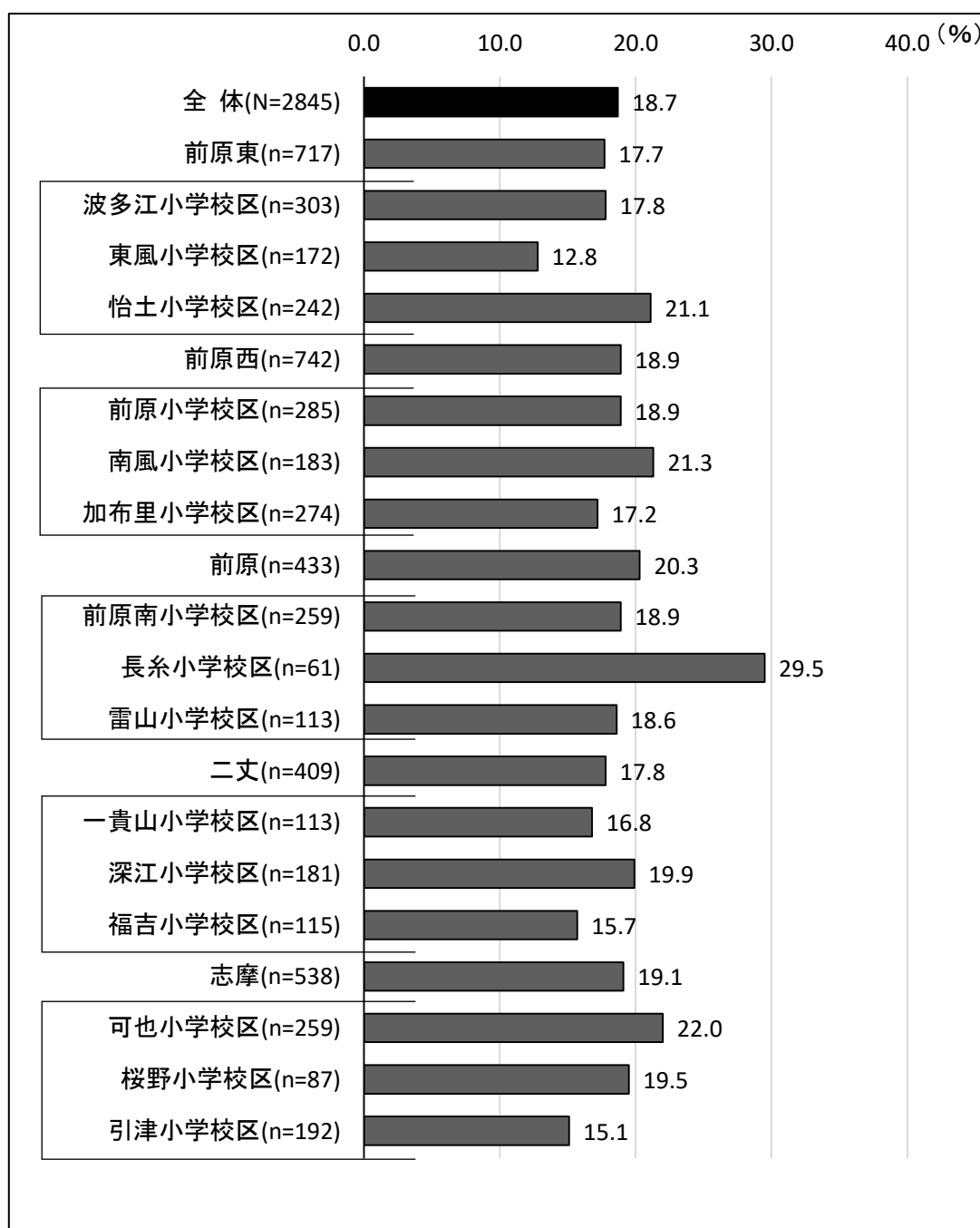
外出を抑えているかどうかを尋ねたところ、市全体では 18.7%が「はい(外出を抑えている)」と回答している。性別では女性の割合が高く、男性 13.8%よりも女性 23.2%の方が外出を抑えている傾向にある。性年代別では、年代が上がるほど、外出を抑える傾向が高くなる(女性 74 歳以下 11.5%、女性 75 歳以上 36.5%)。



〈圏域別〉

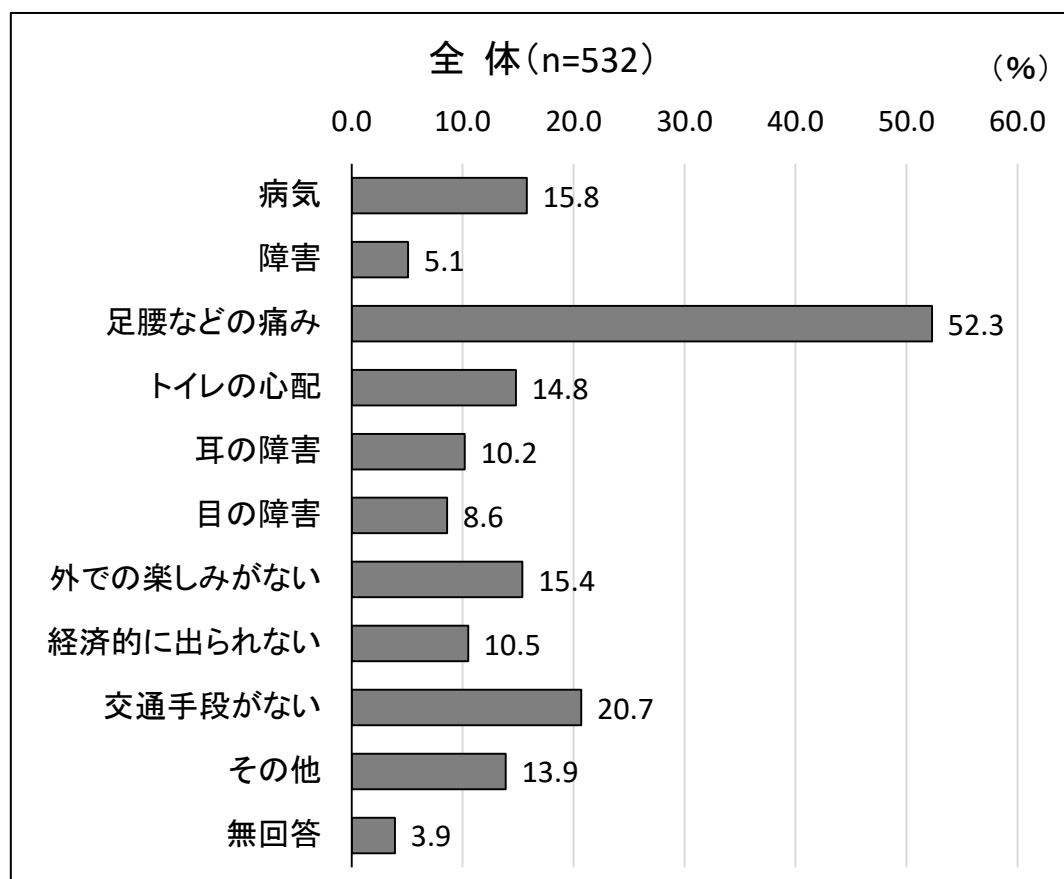
圏域別にみると「はい(外出を控えている)」と回答した割合が最も高いのは前原圏域 20.3%である。一方、「はい(外出を控えている)」と回答した割合が低いのは前原東圏域の 17.7%、二丈圏域の 17.8%である。

小学校区別で、「はい(外出を控えている)」の割合が最も高いのは長糸小学校区の 29.5%である。



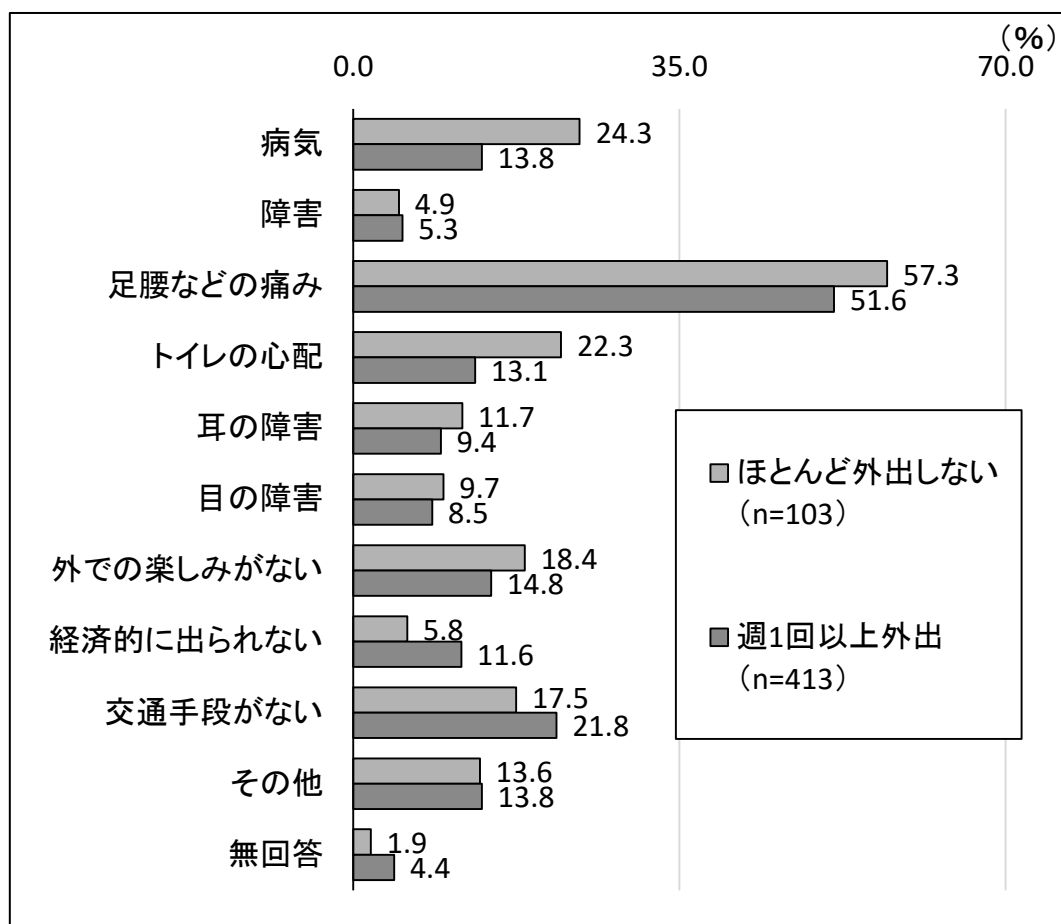
④外出を控えている理由

市全体でみると、外出を控えている理由は、「足腰などの痛み」が最も高く52.3%、次いで「交通手段がない」20.7%、「病気」15.8%である。



〈外出しない人と外出する人の比較〉

ほとんど外出しない人は週 1 回以上外出の人よりも、「病気」24.3%、「足腰などの痛み」57.3%、「トイレの心配」22.3%、「外での楽しみがない」18.4%などが高くなっている。



〈性年代別〉

性別では、男性では「外での楽しみがない」21.9%や「経済的に出られない」13.9%などが市全体よりも高くなっている。女性は「足腰などの痛み」57.0%、「交通手段がない」22.1%が高くなっている。

性年代別では、多くの項目において年代が上がるほど、増加する傾向にある。例外として「外での楽しみがない」、「経済的に出られない」などの項目は男女ともに年代が上がると割合が減少している。

〈圏域別〉

圏域別では、市全体と比較して前原西圏域は「外での楽しみがない」が21.4%で6ポイントほど高くなっている。前原圏域は「トイレの心配」23.9%、「耳の障害」17.0%が市全体よりも各々7ポイントほど高くなっている。

糸島市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書

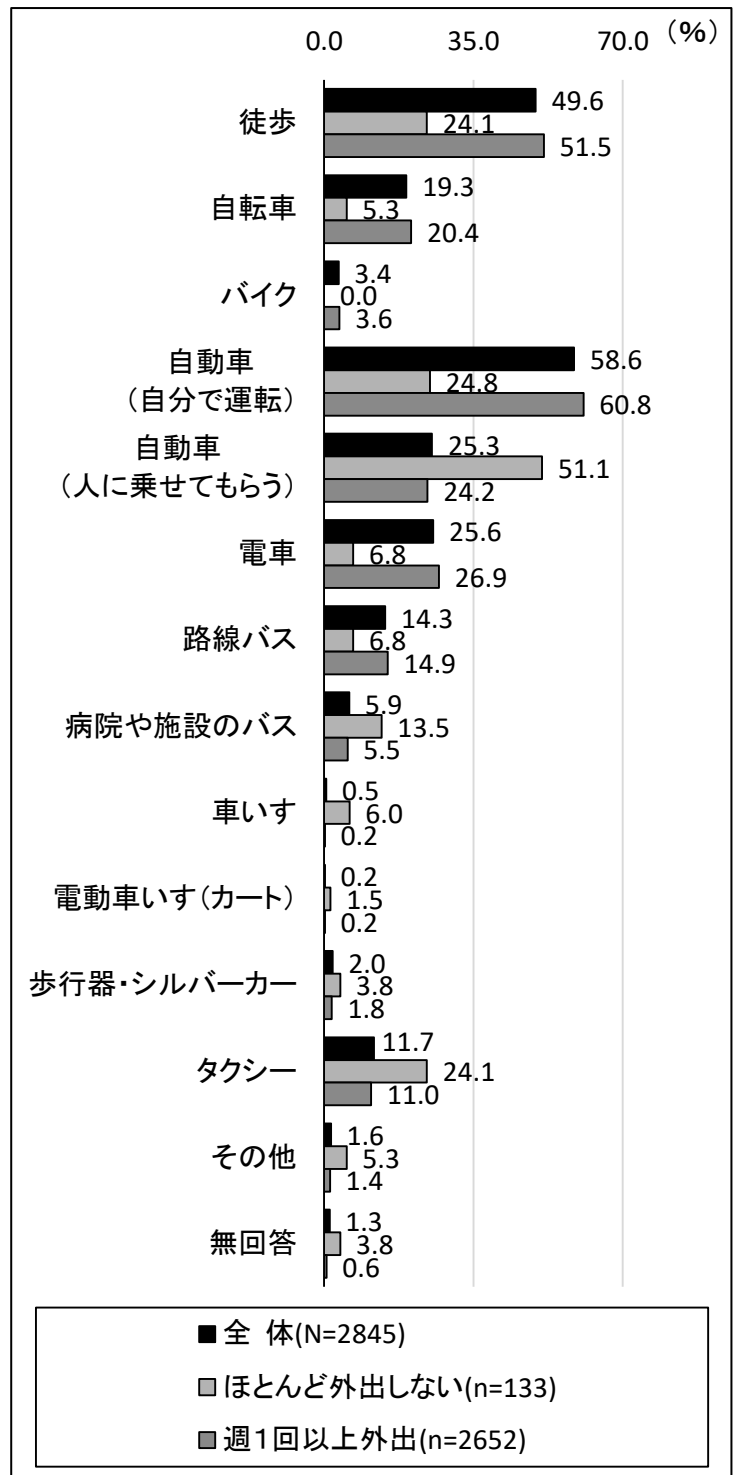
		(上段：実数、下段：%)											
		全 体	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 等)	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他	無 回 答
全 体		532 100.0	84 15.8	27 5.1	278 52.3	79 14.8	54 10.2	46 8.6	82 15.4	56 10.5	110 20.7	74 13.9	21 3.9
性 年 代 別	男性全体	187 100.0	34 18.2	14 7.5	82 43.9	30 16.0	19 10.2	16 8.6	41 21.9	26 13.9	34 18.2	19 10.2	9 4.8
	男性：74歳以下	62 100.0	10 16.1	5 8.1	19 30.6	6 9.7	2 3.2	2 3.2	14 22.6	14 22.6	8 12.9	8 12.9	1 1.6
	男性：75歳以上	125 100.0	24 19.2	9 7.2	63 50.4	24 19.2	17 13.6	14 11.2	27 21.6	12 9.6	26 20.8	11 8.8	8 6.4
	女性全体	344 100.0	50 14.5	13 3.8	196 57.0	49 14.2	35 10.2	30 8.7	40 11.6	30 8.7	76 22.1	54 15.7	12 3.5
	女性：74歳以下	90 100.0	18 20.0	1 1.1	34 37.8	10 11.1	4 4.4	3 3.3	17 18.9	14 15.6	13 14.4	24 26.7	3 3.3
	女性：75歳以上	254 100.0	32 12.6	12 4.7	162 63.8	39 15.4	31 12.2	27 10.6	23 9.1	16 6.3	63 24.8	30 11.8	9 3.5
	無回答	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -
圏 域 別・小 学 校 区 別	前原東	127 100.0	16 12.6	9 7.1	63 49.6	20 15.7	11 8.7	7 5.5	22 17.3	12 9.4	24 18.9	16 12.6	7 5.5
	波多江小学校区	54 100.0	8 14.8	4 7.4	28 51.9	8 14.8	5 9.3	4 7.4	11 20.4	5 9.3	9 16.7	9 16.7	2 3.7
	東風小学校区	22 100.0	3 13.6	3 13.6	10 45.5	3 13.6	2 9.1	1 4.5	4 18.2	2 9.1	3 13.6	3 13.6	- -
	怡土小学校区	51 100.0	5 9.8	2 3.9	25 49.0	9 17.6	4 7.8	2 3.9	7 13.7	5 9.8	12 23.5	4 7.8	5 9.8
	前原西	140 100.0	25 17.9	4 2.9	76 54.3	19 13.6	13 9.3	10 7.1	30 21.4	14 10.0	22 15.7	20 14.3	4 2.9
	前原小学校区	54 100.0	11 20.4	- -	31 57.4	7 13.0	5 9.3	5 9.3	11 20.4	6 11.1	9 16.7	10 18.5	- -
	南風小学校区	39 100.0	6 15.4	3 7.7	19 48.7	3 7.7	3 7.7	4 10.3	8 20.5	3 7.7	5 12.8	6 15.4	1 2.6
	加布里小学校区	47 100.0	8 17.0	1 2.1	26 55.3	9 19.1	5 10.6	1 2.1	11 23.4	5 10.6	8 17.0	4 8.5	3 6.4
	前原	88 100.0	15 17.0	4 4.5	44 50.0	21 23.9	15 17.0	11 12.5	8 9.1	13 14.8	25 28.4	10 11.4	1 1.1
	前原南小学校区	49 100.0	7 14.3	2 4.1	26 53.1	11 22.4	11 22.4	8 16.3	6 12.2	6 12.2	10 20.4	5 10.2	1 2.0
	長糸小学校区	18 100.0	2 11.1	- -	9 50.0	6 33.3	2 11.1	2 11.1	- -	2 11.1	7 38.9	3 16.7	- -
	雷山小学校区	21 100.0	6 28.6	2 9.5	9 42.9	4 19.0	2 9.5	1 4.8	2 9.5	5 23.8	8 38.1	2 9.5	- -
	二丈	73 100.0	11 15.1	5 6.8	37 50.7	8 11.0	10 13.7	5 6.8	7 9.6	8 11.0	18 24.7	11 15.1	2 2.7
	一貴山小学校区	19 100.0	4 21.1	2 10.5	8 42.1	2 10.5	- -	1 5.3	1 5.3	2 10.5	8 42.1	3 15.8	- -
	深江小学校区	36 100.0	4 11.1	2 5.6	20 55.6	4 11.1	6 16.7	3 8.3	2 5.6	5 13.9	6 16.7	5 13.9	2 5.6
	福吉小学校区	18 100.0	3 16.7	1 5.6	9 50.0	2 11.1	4 22.2	1 5.6	4 22.2	1 5.6	4 22.2	3 16.7	- -
	志摩	103 100.0	17 16.5	5 4.9	58 56.3	11 10.7	5 4.9	13 12.6	14 13.6	9 8.7	21 20.4	16 15.5	7 6.8
	可也小学校区	57 100.0	10 17.5	5 8.8	34 59.6	6 10.5	2 3.5	6 10.5	9 15.8	5 8.8	13 22.8	9 15.8	2 3.5
	桜野小学校区	17 100.0	3 17.6	- -	10 58.8	2 11.8	- -	2 11.8	2 11.8	2 11.8	3 17.6	3 17.6	1 5.9
	引津小学校区	29 100.0	4 13.8	- -	14 48.3	3 10.3	3 10.3	5 17.2	3 10.3	2 6.9	5 17.2	4 13.8	4 13.8
	無回答	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -

⑤外出する際の移動手段

市全体でみると、外出する際の移動手段は「自動車(自分で運転)」が最も高く 58.6%となっている。次いで「徒歩」49.6%、「電車」25.6%と続く。

〈外出しない人と外出する人の比較〉

ほとんど外出しないは「自動車(人に乗せてもらう)」51.1%、「病院や施設のバス」13.5%、「車いす」6.0%、「電動車いす」1.5%、「歩行器・シルバーカー」3.8%、「タクシー」24.1%などの項目で割合が、週1回以上外出よりも高くなっている。特に「自動車(自分で運転)」や「タクシー」は市全体と比較しても高くなっている。



〈性年代別〉

性別でみると、「自動車(自分で運転)」は男性 77.4%、女性 41.2%となっており、男性の方が高くなっている。反対に「自動車(人に乗せてもらう)」は女性 37.4%、男性 12.2%で女性の方が高くなっている。女性は「病院や施設のバス」8.8%、「歩行器・シルバーカー」3.4%、「タクシー」15.1%などでも男性より高くなっている。

性年代別でみると多くの項目において年代が上がるほど、割合が増加することが確認できる。特に「自動車(人に乗せてもらう)」や「病院や施設のバス」、「タクシー」などはその傾向が顕著である。一方、年代が上がると割合が大きく減少するのは「自動車(自分で運転)」である。男性は 75 歳以上でも市全体の平均以上の人が自分で運転する傾向にあるものの、女性は 75 歳以上の年代で大きく減少し 20.4%となっている。

〈圏域別〉

圏域別では、前原西圏域は「徒歩」の割合が他圏域と比較し高く 58.5%となっており、市全体の 49.6%より 10 ポイントほど高くなっている。また、二丈圏域は他圏域に比較し「電車」の割合が高く 35.7%となっており市全体 25.6%より 10 ポイントほど高くなっている。一方、志摩圏域は「徒歩」36.1%、「電車」11.5%が他圏域と比較し低くなっている。他の項目については、圏域により多少のばらつきはあるものの、差は大きくない。

調査結果 II. 調査結果 1. 生活機能

		(上段：実数、下段：%)															
		全 体	徒 歩	自 転 車	バ イ ク	自 動 車 (自 分 で 運 転)	自 動 車 (人 に 乗 せ て も ら う)	電 車	路 線 バ ス	病院 や 施 設 の バ ス	車 い す	電 動 車 い す (カ ー ト)	歩 行 器 ・ シ ル バ ー カ ー	タ ク シ ー	そ の 他	無 回 答	
全 体		2845 100.0	1411 49.6	550 19.3	97 3.4	1666 58.6	721 25.3	727 25.6	408 14.3	167 5.9	13 0.5	6 0.2	56 2.0	332 11.7	45 1.6	38 1.3	
性 年 代 別	男性全体	1358 100.0	689 50.7	296 21.8	52 3.8	1051 77.4	166 12.2	319 23.5	164 12.1	36 2.7	3 0.2	3 0.2	6 0.4	108 8.0	13 1.0	19 1.4	
	男性：74歳以下	791 100.0	396 50.1	171 21.6	37 4.7	669 84.6	70 8.8	231 25.4	93 11.8	6 0.8	-	-	-	45 5.7	6 0.8	10 1.3	
	男性：75歳以上	567 100.0	293 51.7	125 22.0	15 2.6	382 67.4	96 16.9	118 20.8	71 12.5	30 5.3	3 0.5	3 0.5	6 1.1	63 11.1	7 1.2	9 1.6	
	女性全体	1481 100.0	718 48.5	250 16.9	44 3.0	610 41.2	554 37.4	406 27.4	243 16.4	131 8.8	10 0.7	3 0.2	50 3.4	223 15.1	32 2.2	19 1.3	
	女性：74歳以下	786 100.0	416 52.9	159 20.2	26 3.3	468 59.5	241 30.7	250 31.8	122 15.5	15 1.9	-	2 0.3	1 0.1	57 7.3	12 1.5	7 0.9	
	女性：75歳以上	695 100.0	302 43.5	91 13.1	18 2.6	142 20.4	313 45.0	156 22.4	121 17.4	116 16.7	10 1.4	1 0.1	49 7.1	166 23.9	20 2.9	12 1.7	
	無回答	6 100.0	4 66.7	4 66.7	1 16.7	5 83.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-	-	-	1 16.7	-	-	
	圏 域 別・小 学 校 区 別	前原東	717 100.0	371 51.7	164 22.9	29 4.0	402 56.1	187 26.1	192 26.8	84 11.7	36 5.0	2 0.3	-	16 2.2	88 12.3	7 1.0	10 1.4
		波多江小学校区	303 100.0	189 62.4	76 25.1	10 3.3	149 49.2	86 28.4	104 34.3	26 8.6	17 5.6	1 0.3	-	4 1.3	38 12.5	1 0.3	4 1.3
		東風小学校区	172 100.0	109 63.4	63 36.6	8 4.7	101 58.7	37 21.5	58 33.7	22 12.8	5 2.9	1 0.6	-	6 3.5	21 12.2	2 1.2	-
怡土小学校区		242 100.0	73 30.2	25 10.3	11 4.5	152 62.8	64 26.4	30 12.4	36 14.9	14 5.8	-	-	6 2.5	29 12.0	4 1.7	6 2.5	
前原西		742 100.0	434 58.5	145 19.5	18 2.4	425 57.3	188 25.3	230 31.0	136 18.3	32 4.3	6 0.8	-	7 0.9	95 12.8	12 1.6	8 1.1	
前原小学校区		285 100.0	173 60.7	55 19.3	8 2.8	150 52.6	64 22.5	85 29.8	43 15.1	13 4.6	3 1.1	-	3 1.1	46 16.1	4 1.4	5 1.8	
南風小学校区		183 100.0	119 65.0	25 13.7	4 2.2	109 59.6	48 26.2	60 32.8	45 24.6	8 4.4	1 0.5	-	-	24 13.1	2 1.1	2 1.1	
加布里小学校区		274 100.0	142 51.8	65 23.7	6 2.2	166 60.6	76 27.7	85 31.0	48 17.5	11 4.0	2 0.7	-	4 1.5	25 9.1	6 2.2	1 0.4	
前原		433 100.0	224 51.7	93 21.5	16 3.7	234 54.0	115 26.6	95 21.9	58 13.4	31 7.2	1 0.2	1 0.2	4 0.9	61 14.1	8 1.8	5 1.2	
前原南小学校区		259 100.0	164 63.3	76 29.3	7 2.7	126 48.6	72 27.8	74 28.6	35 13.5	16 6.2	1 0.4	-	3 1.2	37 14.3	5 1.9	3 1.2	
長糸小学校区		61 100.0	16 26.2	7 11.5	1 1.6	35 57.4	15 24.6	5 8.2	7 11.5	8 13.1	-	1 1.6	1 1.6	6 9.8	3 4.9	1 1.6	
雷山小学校区		113 100.0	44 38.9	10 8.8	8 7.1	73 64.6	28 24.8	16 14.2	16 14.2	7 6.2	-	-	-	18 15.9	-	-	0.9
二丈		409 100.0	184 45.0	74 18.1	8 2.0	254 62.1	102 24.9	146 35.7	29 7.1	26 6.4	-	2 0.5	2 2.9	12 6.4	6 1.5	6 2.0	8 2.0
一貴山小学校区		113 100.0	47 41.6	16 14.2	1 0.9	70 61.9	28 24.8	37 32.7	13 11.5	12 10.6	-	2 1.8	5 4.4	9 8.0	2 1.8	3 2.7	3 2.7
深江小学校区		181 100.0	94 51.9	46 25.4	4 2.2	104 57.5	50 27.6	73 40.3	14 7.7	9 5.0	-	-	5 2.8	15 8.3	4 2.2	4 1.1	7 1.1
福吉小学校区		115 100.0	43 37.4	12 10.4	3 2.6	80 69.6	24 20.9	36 31.3	2 1.7	5 4.3	-	-	2 1.7	2 1.7	-	-	2.6
志摩		538 100.0	194 36.1	70 13.0	25 4.6	346 64.3	128 23.8	62 11.5	100 18.6	42 7.8	4 0.7	3 0.6	17 3.2	61 11.3	12 2.2	7 1.3	7 1.3
可也小学校区		259 100.0	108 41.7	43 16.6	14 5.4	158 61.0	59 22.8	33 12.7	59 22.8	15 5.8	3 1.2	2 0.8	7 2.7	35 13.5	5 1.9	4 1.5	4 1.5
桜野小学校区		87 100.0	29 33.3	9 10.3	3 3.4	53 60.9	21 24.1	5 5.7	15 17.2	11 12.6	-	-	3 3.4	10 11.5	4 4.6	1 1.1	1 1.1
引津小学校区		192 100.0	57 29.7	18 9.4	8 4.2	135 70.3	48 25.0	24 12.5	26 13.5	16 8.3	1 0.5	1 0.5	7 3.6	16 8.3	3 1.6	3 1.0	2 1.0
無回答		6 100.0	4 66.7	4 66.7	1 16.7	5 83.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-	-	-	1 16.7	-	-	-

(3) 転倒

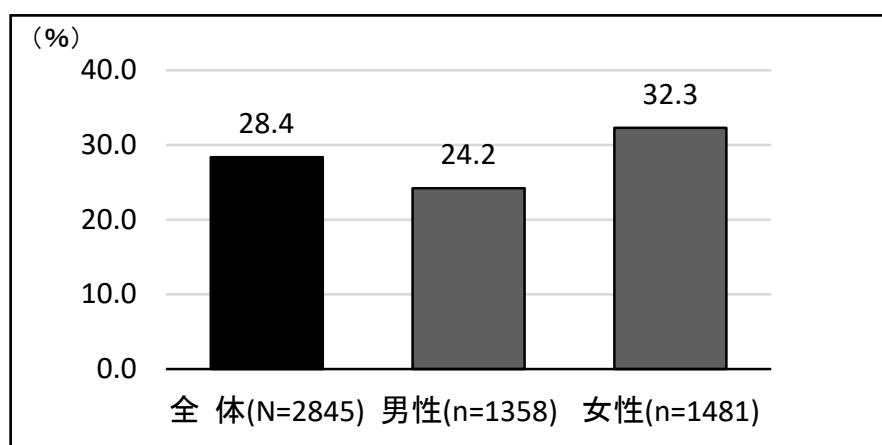
【転倒リスクの評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答	
問2Q4	過去一年間に転んだ経験がありますか	何度もある 1度ある	ない

※上記に該当する場合、転倒リスクのある高齢者と判定されます。

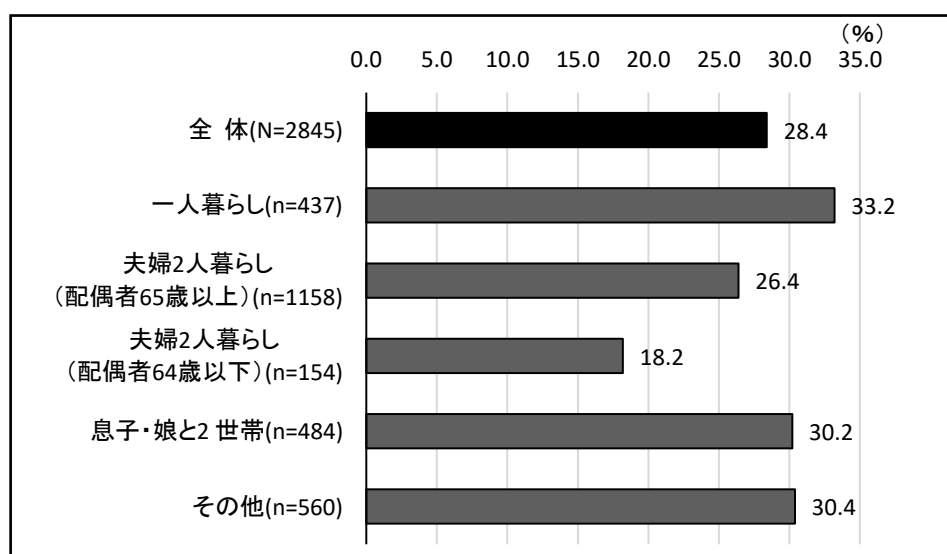
①転倒リスク保有者の割合

市全体では転倒リスクがある高齢者は 28.4%であり、性別で見ると男性で 24.2%、女性で 32.3%となっており、女性の転倒リスクが高くなっている。



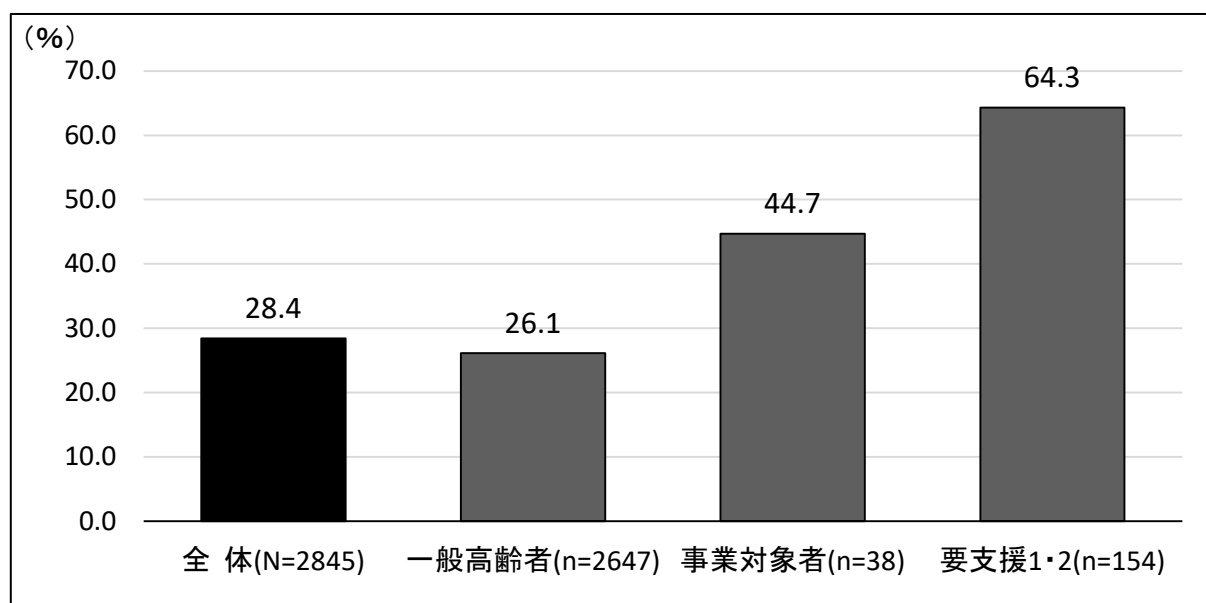
〈家族構成別〉

家族構成別では「一人暮らし」家庭において転倒リスクが最も高く 33.2%、続いて「息子・娘と2世帯」家庭で 30.2%である。一方、転倒リスクが市全体よりも低いのは「夫婦2人暮らし」世帯であり、「配偶者 64 歳以下」で 18.2%、「配偶者 65 歳以上」で 26.4%である。



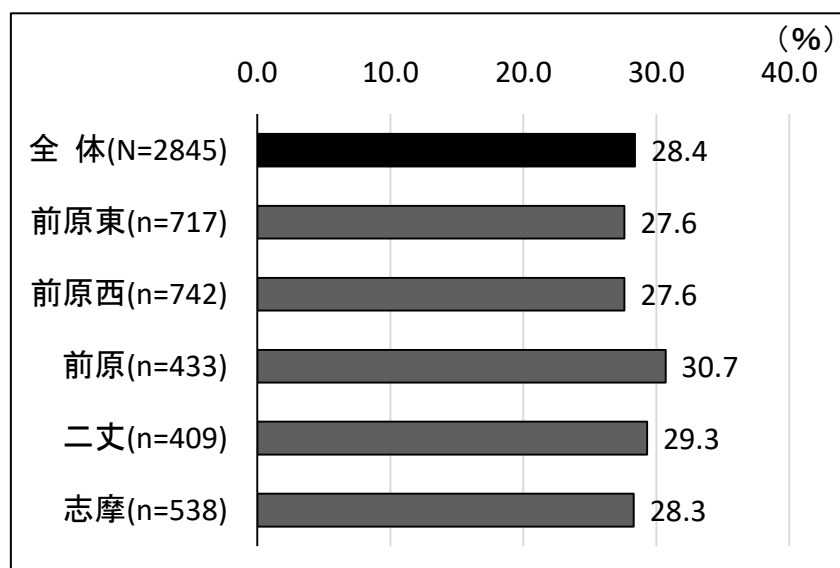
〈要介護度別〉

要介護度別にみると、転倒リスクの保有者は要支援 1・2 で 64.3%と最も高く、次いで事業対象者で 44.7%となっている。最も高い要支援 1・2 と、最も低い一般高齢者とでは 40 ポイントほどの差がある。



〈圏域別〉

圏域別で転倒リスクが最も高いのは前原圏域であり 30.7%となっている。次いで二丈圏域の 29.3%である。一方、転倒リスクが市全体よりも低いのは、前原東圏域と前原西圏域の 27.6%であるが、市全体との差は 1 ポイント程度であり、大きな差とは言えない。



(4) 栄養

①低栄養が疑われる高齢者の割合

【低栄養が疑われる高齢者の評価・分析方法】

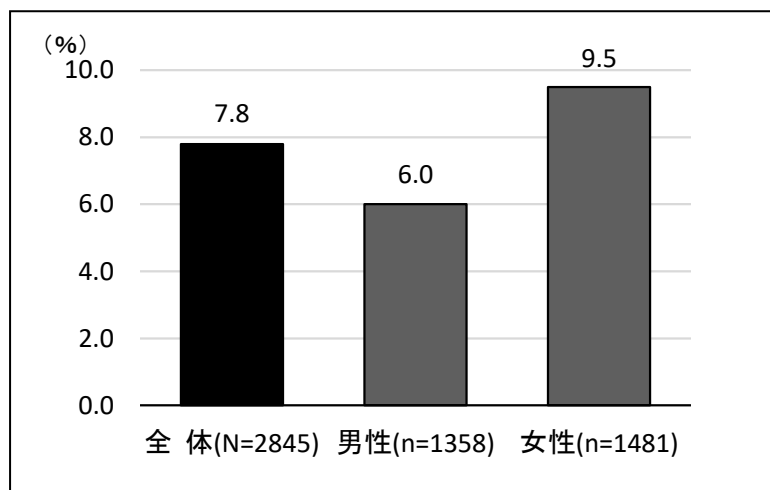
設問番号	設問内容	配点と回答	
問3Q1.	BMI (体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)})	18.5以下	18.6以上

※上記に該当する場合、低栄養が疑われる高齢者として判定されます。

〈市全体・性別〉

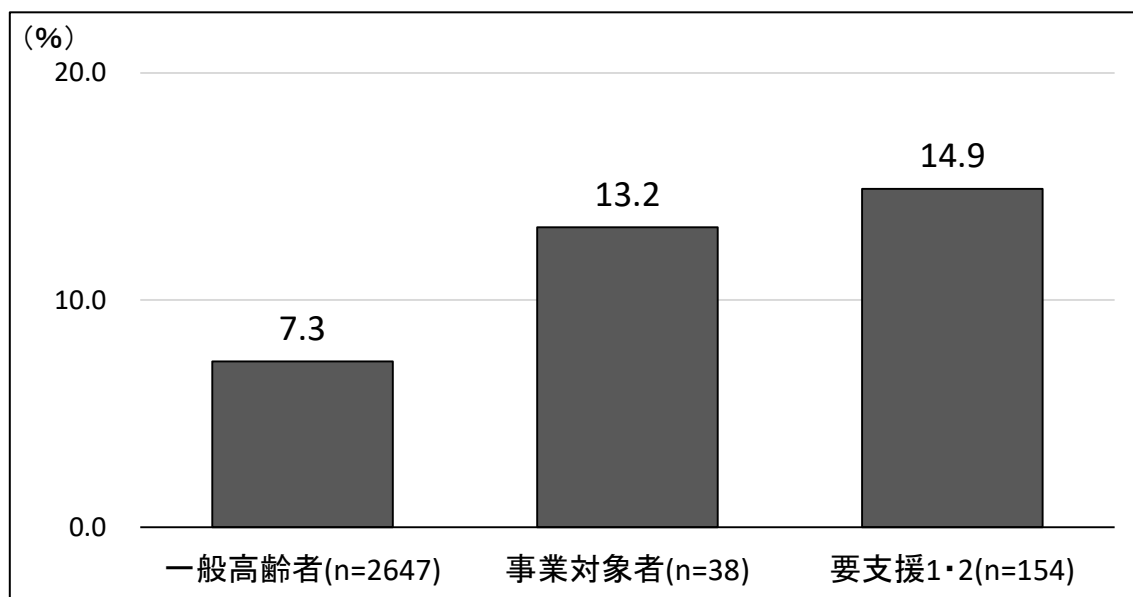
市全体では、低栄養が疑われる割合は7.8%である。

性別でみると男性6.0%、女性9.5%であり、女性の高齢者で低栄養状態が多くなっている。



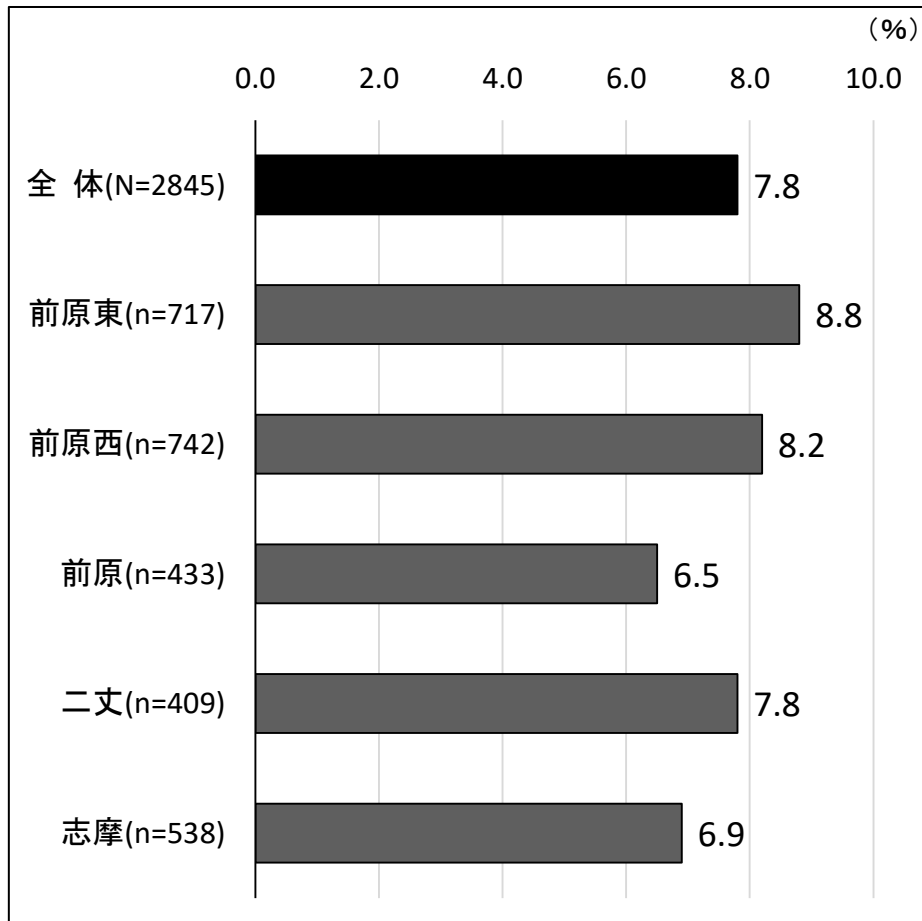
〈要介護度別〉

要介護度別に低栄養が疑われる高齢者の割合をみると、一般高齢者が7.3%であるのに対し、事業対象者では13.2%、要支援1・2では14.9%となっており、要介護度が上がるほど、低栄養状態が疑われる高齢者の割合は高くなっている。



〈圏域別〉

圏域別では、前原東圏域と前原西圏域において低栄養状態が疑われる高齢者の割合が高くなっており、前原東圏域で 8.8%、前原西圏域で 8.2%である。一方、低栄養状態が疑われる高齢者の割合が低いのは前原圏域と志摩圏域であり、前原圏域は 6.5%、志摩圏域は 6.9%である。



②低栄養状態にある高齢者の割合

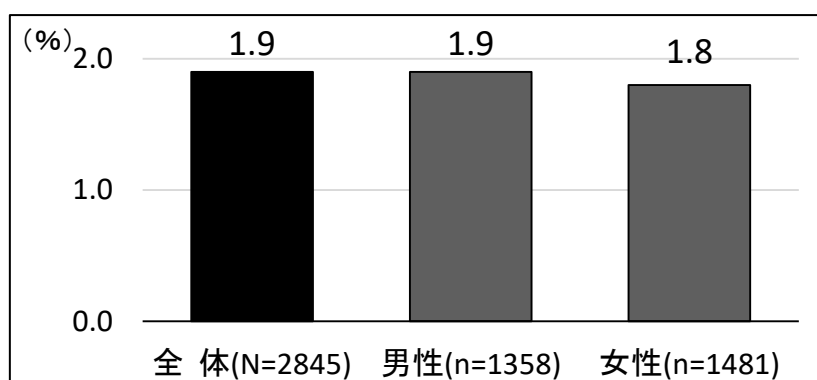
【低栄養状態にある高齢者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答	
問3Q1.	BMI (体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)})	18.5以下	18.6以上
問3Q8.	6か月間で2～3kgの体重減少がありましたか	はい	いいえ

※上記の質問のいずれにも該当する場合、低栄養状態にある高齢者として判定されます。

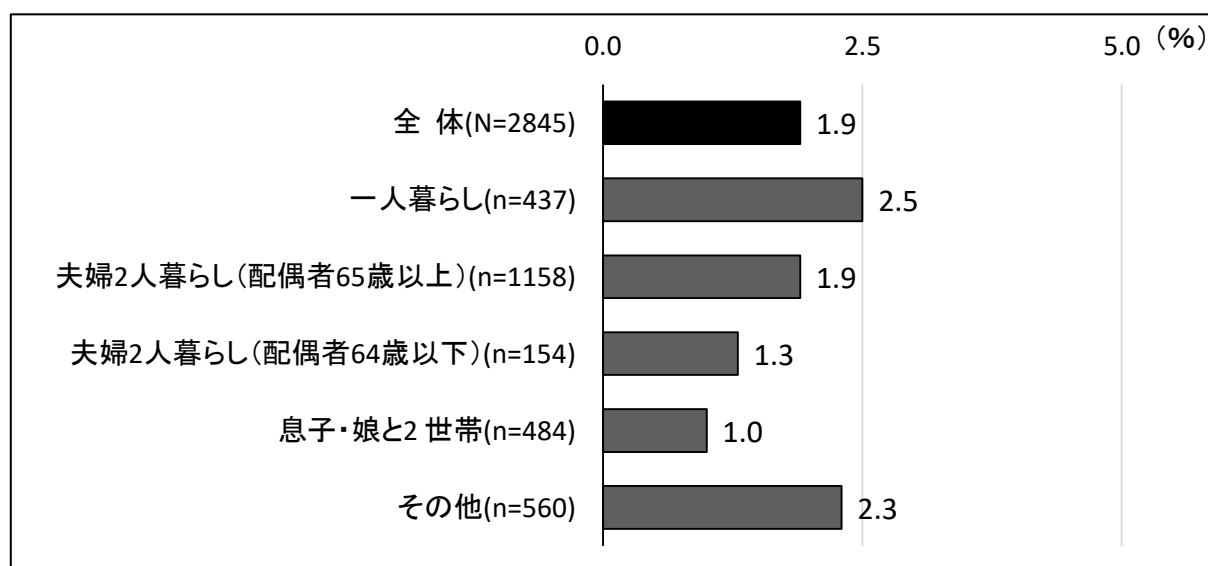
〈市全体・性別〉

低栄養状態にある高齢者の割合は1.9%であり、男女による差はほぼない。



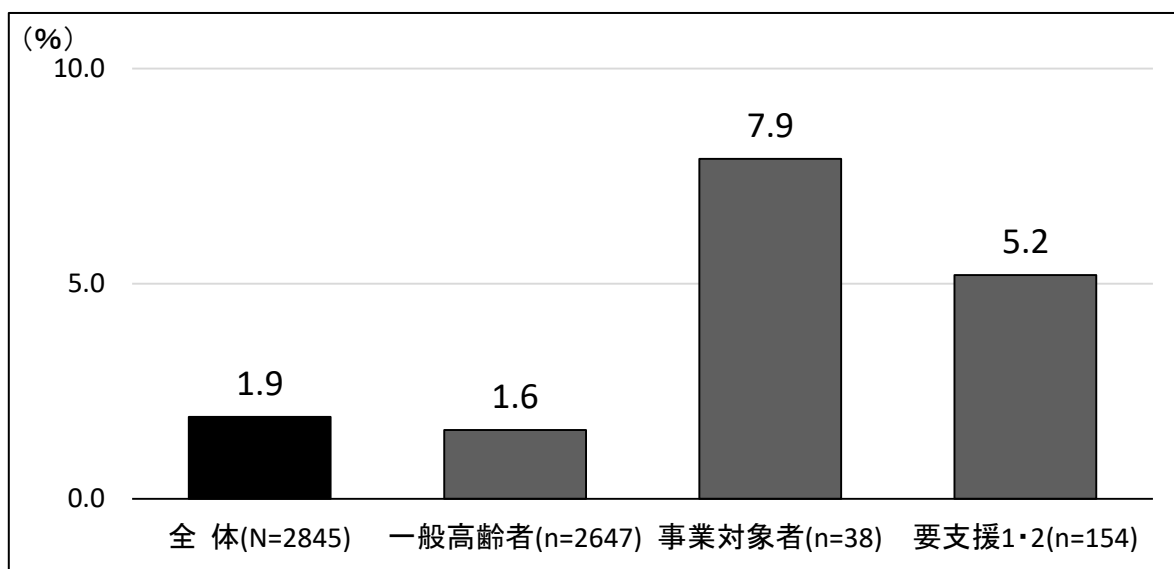
〈家族構成別〉

家族構成別では、低栄養状態にある高齢者の割合が高いのは「一人暮らし」世帯 2.5%、「その他」世帯 2.3%であり、割合が低いのは「夫婦 2 人暮らし世帯(配偶者 64 歳以下)」1.3%、「息子・娘と 2 世帯」1.0%である。



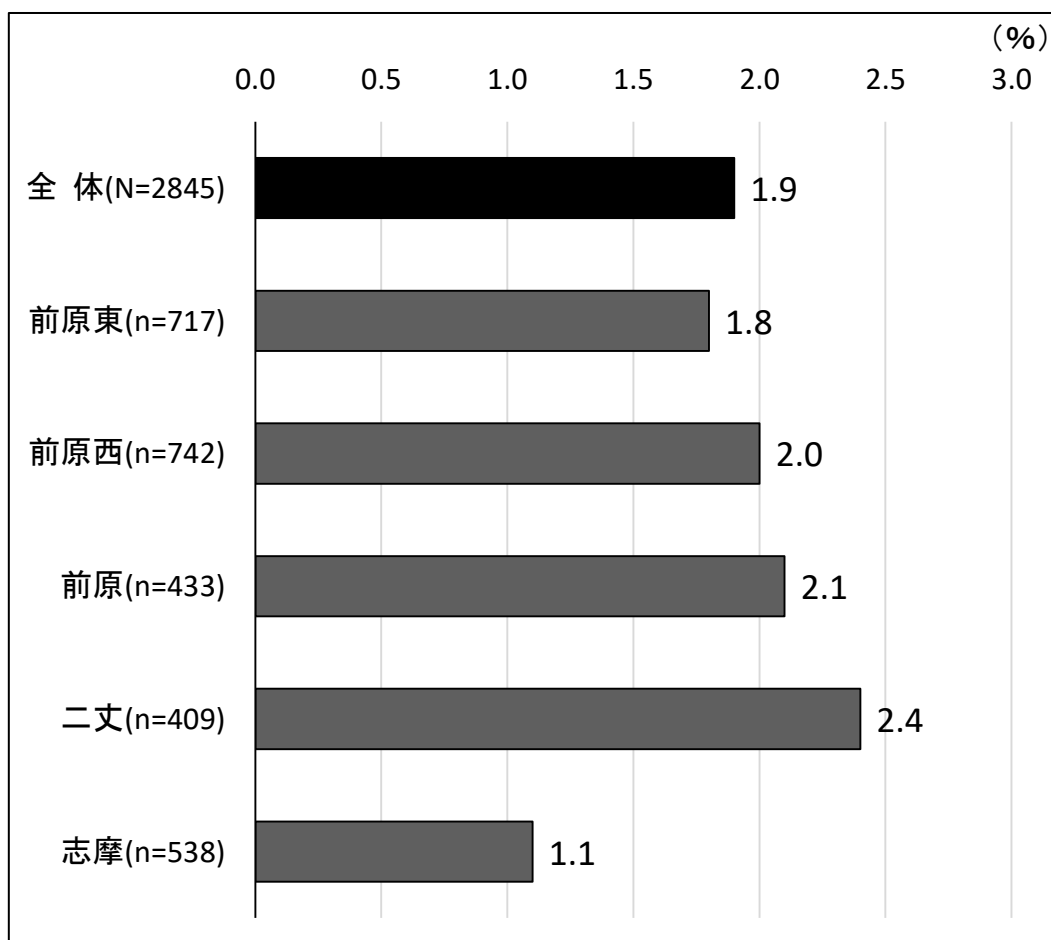
〈要介護度別〉

要介護度別に低栄養が疑われる高齢者の割合をみると、わずかな差ではあるが事業対象者が7.9%と高くなっている。次いで要支援1・2の5.2%、一般高齢者では1.6%である。



〈圏域別〉

圏域別では、低栄養状態にある高齢者の割合が最も高いのは二丈圏域 2.4%である。一方、最も低いのは志摩圏域 1.1%である。ただし、両圏域ともに市全体と比較し 1 ポイント未満の差しかない。



(5) 口腔機能

①口腔機能が低下している高齢者の割合

【口腔機能の低下している高齢者の評価・分析方法】

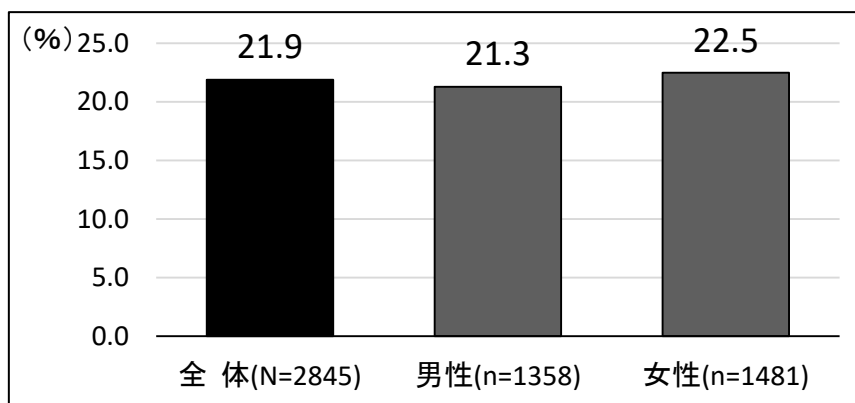
設問番号	設問内容	配点と回答	
問3Q2.	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい	いいえ
問3Q3.	お茶や汁物等でむせることがありますか	はい	いいえ
問3Q4.	口の渇きが気になりますか	はい	いいえ

※上記の3問のうち2問に該当する場合、口腔機能の低下している高齢者として判定されます。

〈市全体・性別〉

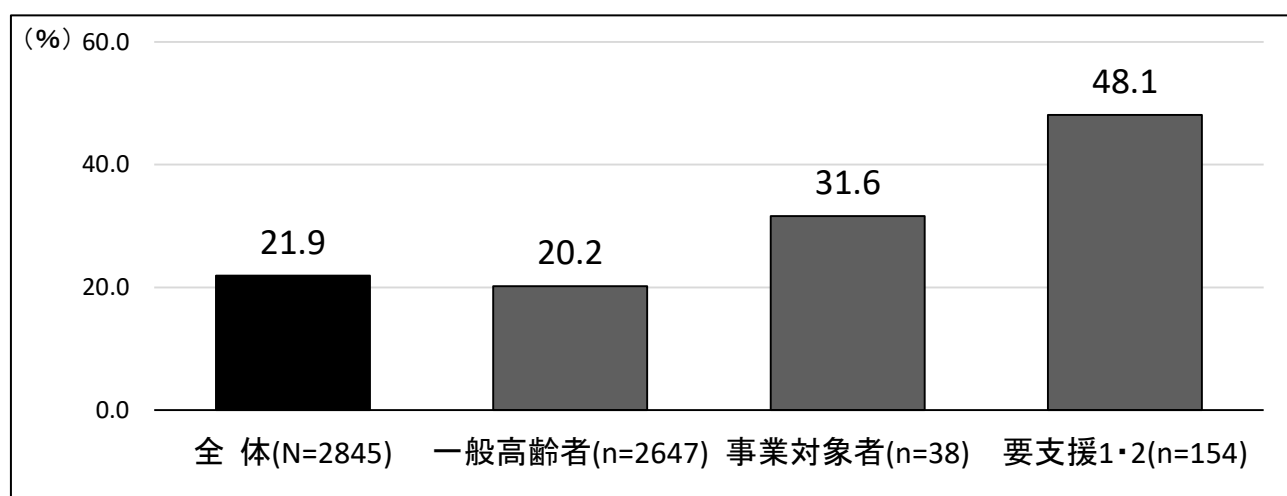
市全体では、口腔機能が低下している高齢者の割合は 21.9%である。

性別では、男性 21.3%、女性 22.5%である。



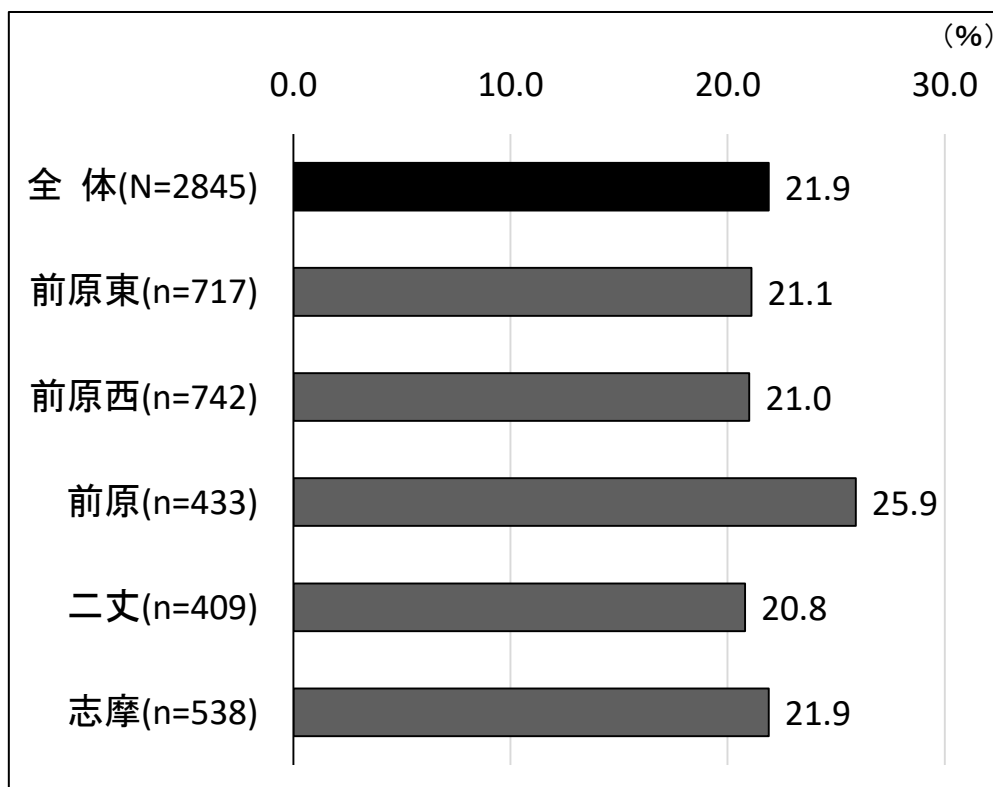
〈要介護度別〉

要介護度別に口腔機能低下状況を見ると、要支援 1・2 で最も高く 48.1%となっている。次いで事業対象者が 31.6%となっている。



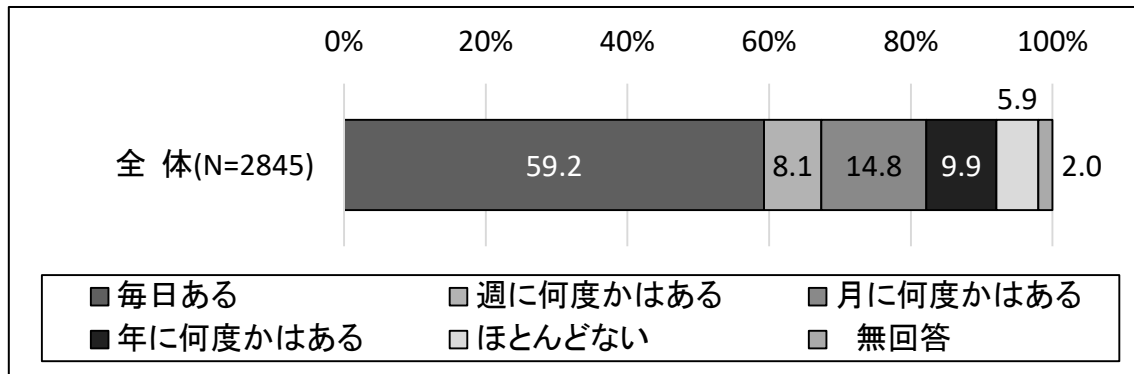
〈圏域別〉

圏域別では、口腔機能が低下している高齢者の割合が高いのは前原圏域であり 25.9%である。一方、口腔機能が低下している高齢者の割合が低いのは二丈圏域の 20.8%であるが、市全体との差は 1.1 ポイントにすぎない。



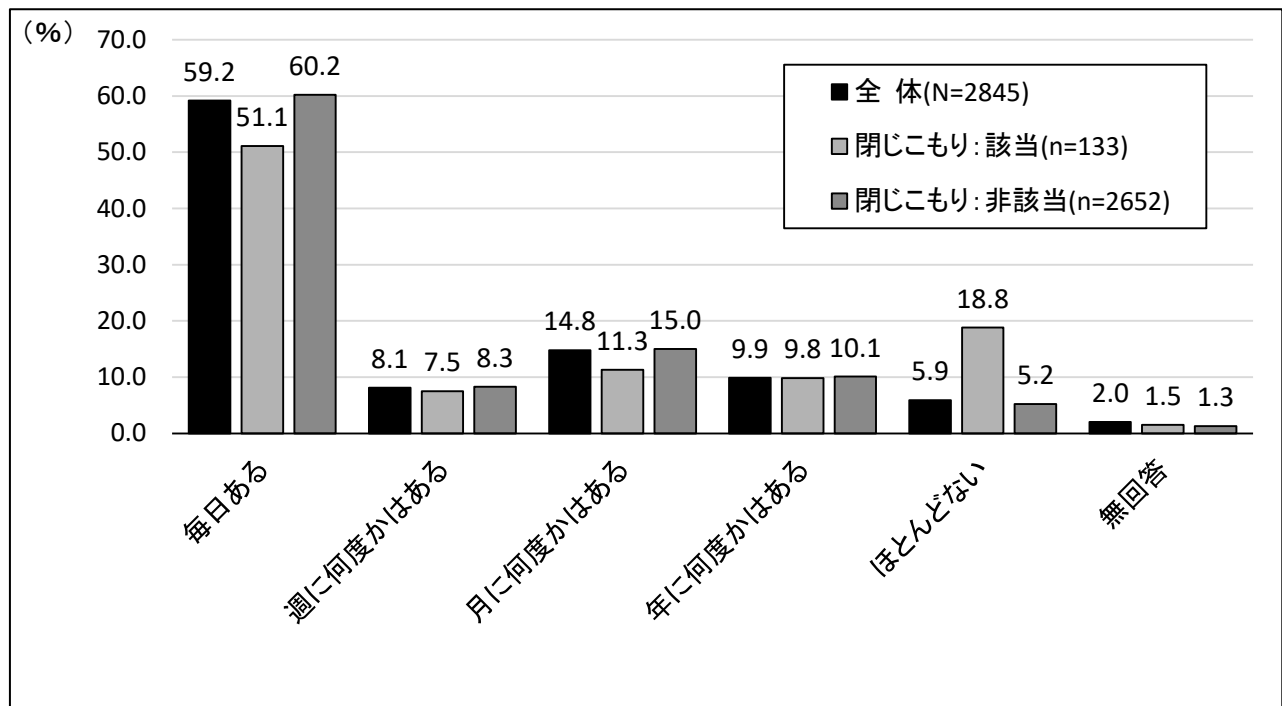
③共食の状況

問3(9)「どなたかと食事をともにする機会がありますか」について、市全体でみると「毎日ある」が最も高く 59.2%、次いで「月に何度かはある」が 14.8%と続いている。最も低いのは「ほとんどない」の 5.9%である。



〈閉じこもりリスクのある人となない人の比較〉

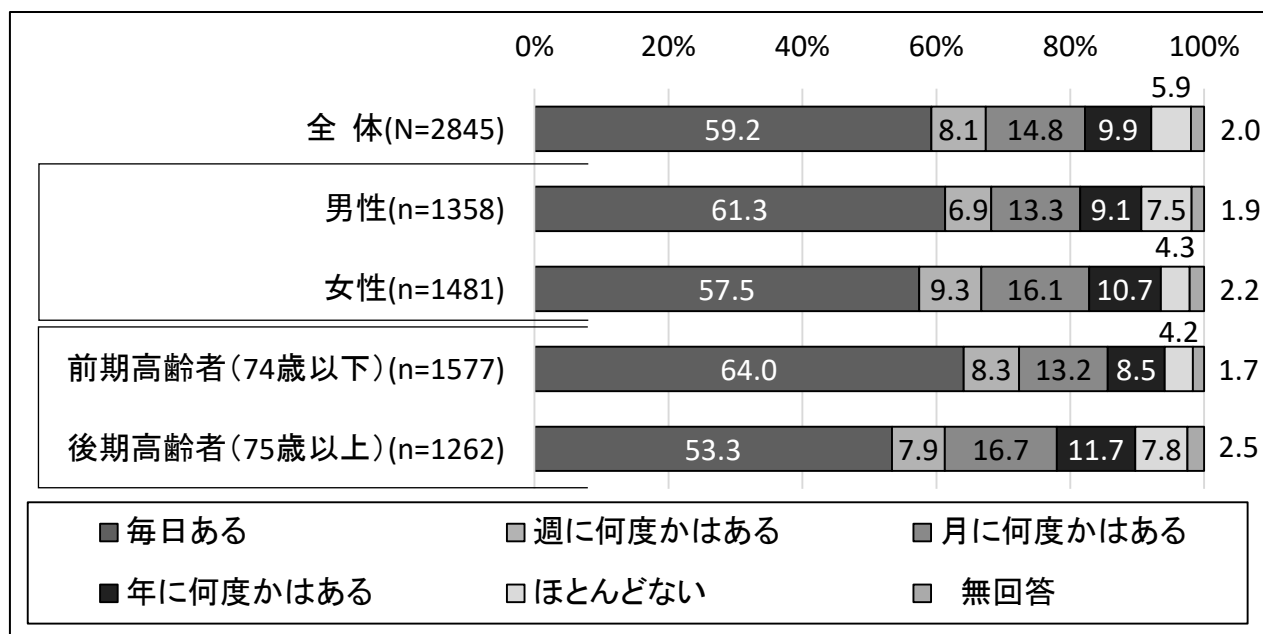
閉じこもりリスクの有無別では、閉じこもりリスク保有者は「毎日ある」の割合が 51.1%となっており、リスクのない人 60.2%と比較し 9.1 ポイント低くなっている。また、リスク保有者は「ほとんどない」の割合が高く 18.8%となっている。



〈性別・年代別〉

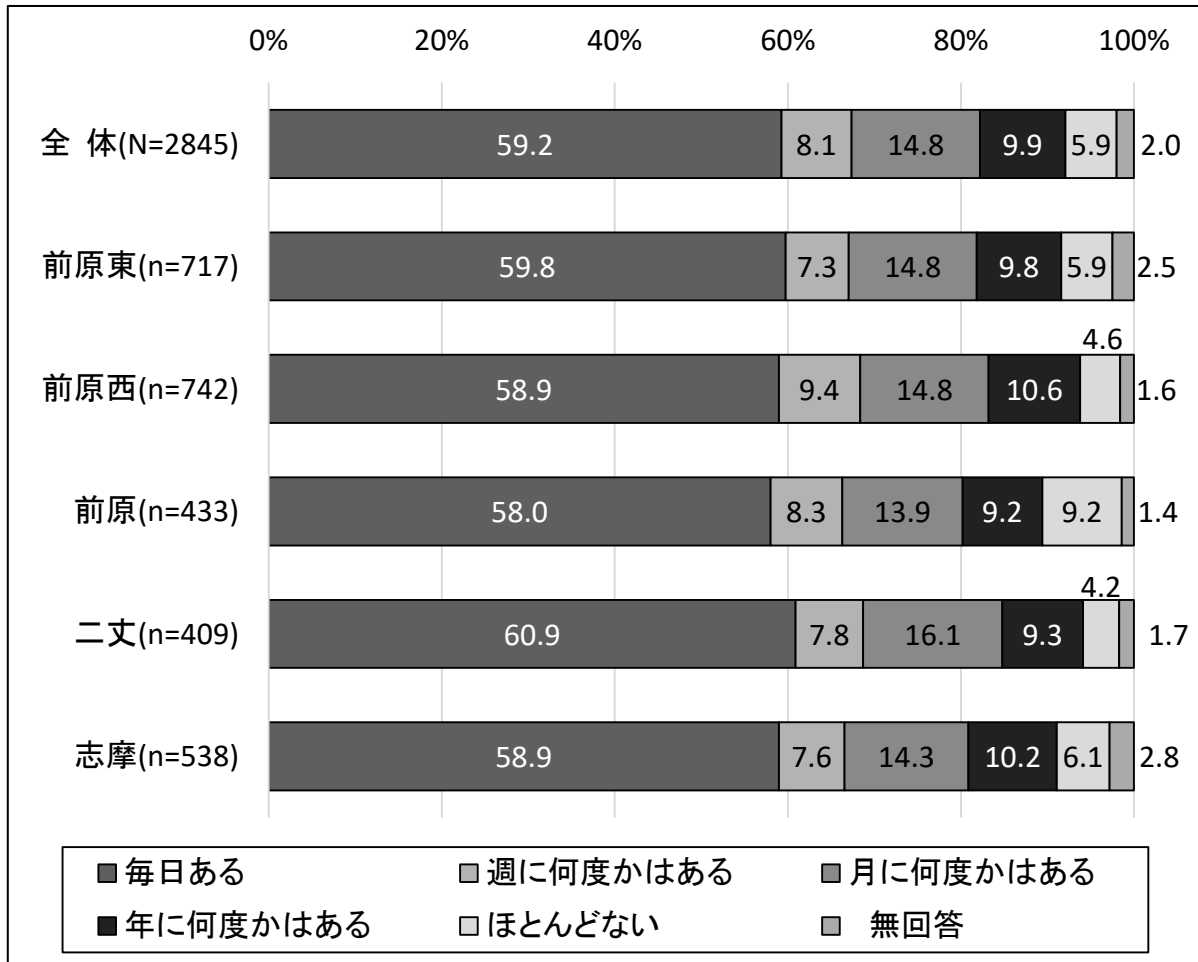
性別では、女性より男性の方が「毎日ある」の割合が高くなっており、男性 61.3%、女性 57.5%である。

年代別では、年代が上がるほど、「毎日ある」の割合が減少し、「年に何度かはある」、「ほとんどない」の割合が増加している。



〈圏域別〉

圏域別では大きな差はないものの、前原圏域は「ほとんどない」の回答が他圏域と比較し高く 9.2% となっている。



(6) 認知症

①認知症リスク保有者の割合

【認知症リスク保有者の評価・分析方法】

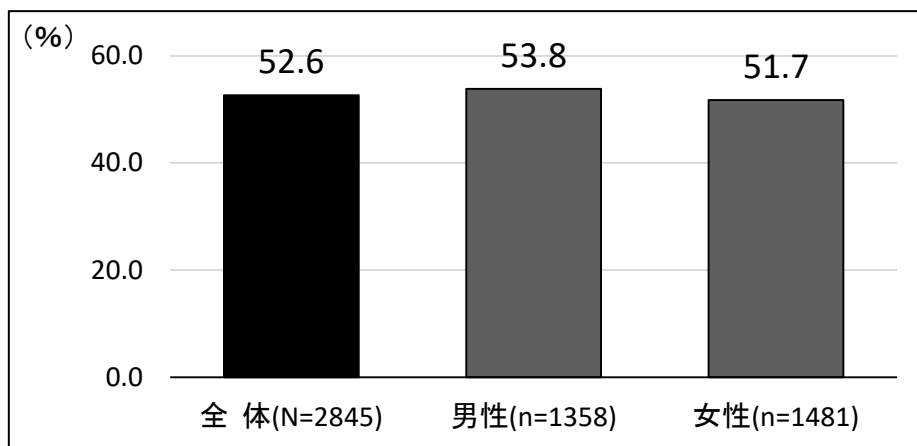
設問番号	設問内容	配点と回答	
問4Q1.	物忘れが多いと感じますか	はい	いいえ
問4Q2.	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	はい	いいえ
問4Q3.	今日が何月何日かわからない時がありますか	はい	いいえ

※上記の設問に一つでも「はい」がある場合、認知症リスク保有者として判定されます。

〈市全体・性別〉

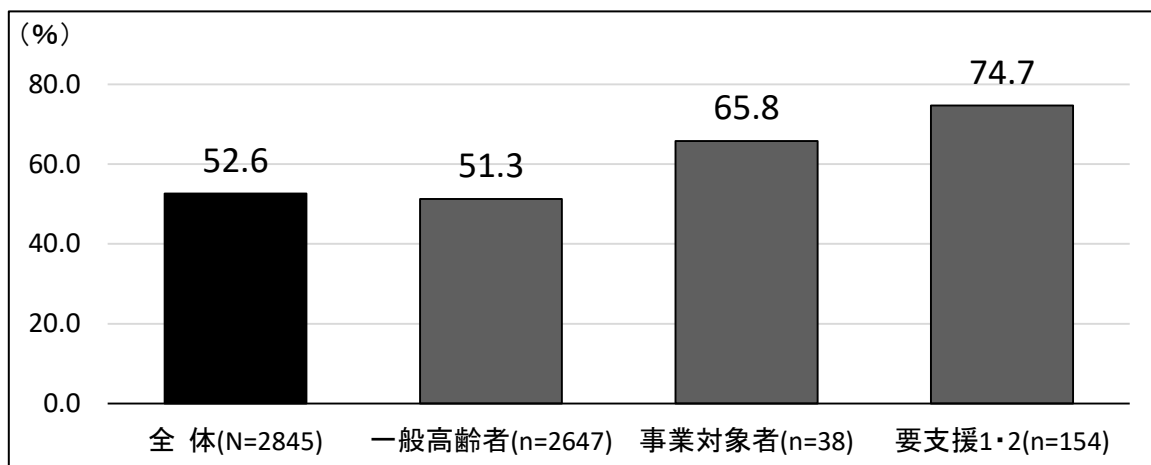
認知症リスク保有者の割合は市全体で 52.6%である。

性別では男性の方が 53.8%と若干高いものの、有意な差とは言えない。



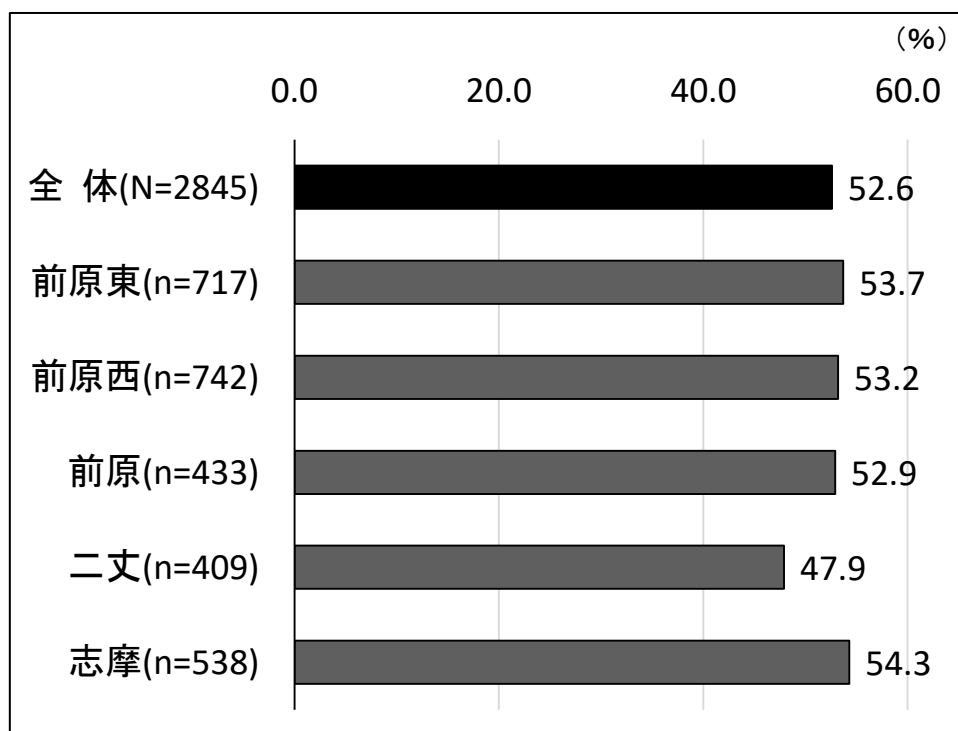
〈要介護度別〉

要介護度別に認知症リスク保有者の状況をみると、要支援 1・2 が最も高く、74.7%である。次いで事業対象者が 65.8%となっている。



〈圏域別〉

圏域別では、多くの圏域において市全体の平均並みの割合であるものの、二丈圏域は 47.9%と認知症リスク保有者の割合が他圏域より 5 ポイントほど低くなっている。



(7) 虚弱

【虚弱の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答		
問4Q4.	バスや電車を使って一人で外出していますか	できるし している	できるけど していない	できない
問4Q5.	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	できるし している	できるけど していない	できない
問4Q8.	自分で預貯金のおし入れをしていますか	できるし している	できるけど していない	できない
問4Q13.	友人の家を訪ねていますか	はい		いいえ
問4Q14.	家族や友人の相談にのっていますか	はい		いいえ
問2Q1.	階段を手すりや壁を伝わずに昇っていますか	できるし している	できるけど していない	できない
問2Q2.	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できるし している	できるけど していない	できない
問2Q3.	15分位続けて歩いていますか	できるし している	できるけど していない	できない
問2Q4.	過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある	1度ある	ない
問2Q5.	転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である		あまり不安でない 不安でない
問3Q8.	6か月間で2～3kgの体重減少がありましたか	1. はい		0. いいえ
問3Q1.	BMI (体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}) 18.5未満か	1. はい		0. いいえ
問3Q2.	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい		0. いいえ
問3Q3.	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい		0. いいえ
問3Q4.	口の渇きが気になりますか	1. はい		0. いいえ
問2Q6.	週に一回は外出していますか	ほとんど外出しない		週1回 週2～4回 週5回以上
問2Q7.	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	とても減っている 減っている		あまり減っていない 減っていない
問4Q1.	物忘れが多いと感じますか	1. はい		0. いいえ
問4Q2.	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい		1. いいえ
問4Q3.	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい		0. いいえ

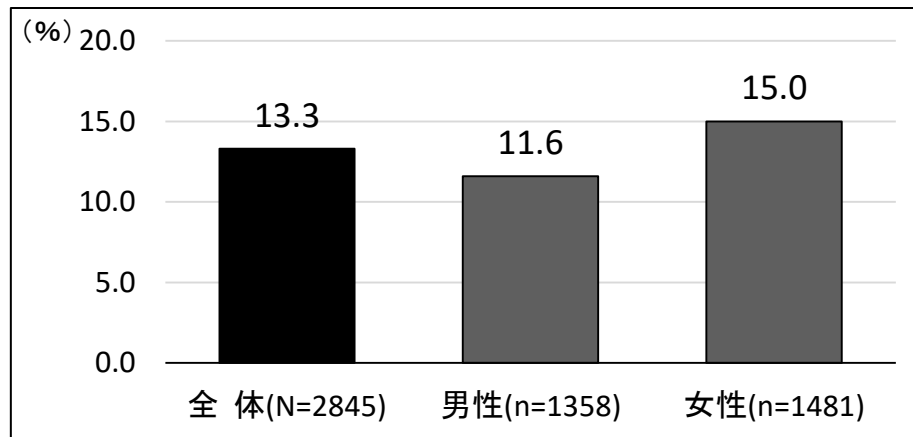
※虚弱の判定に関しては、上記設問20点満点中、10点以上がリスクありと判定されます。

①虚弱高齢者の割合

〈市全体・性別〉

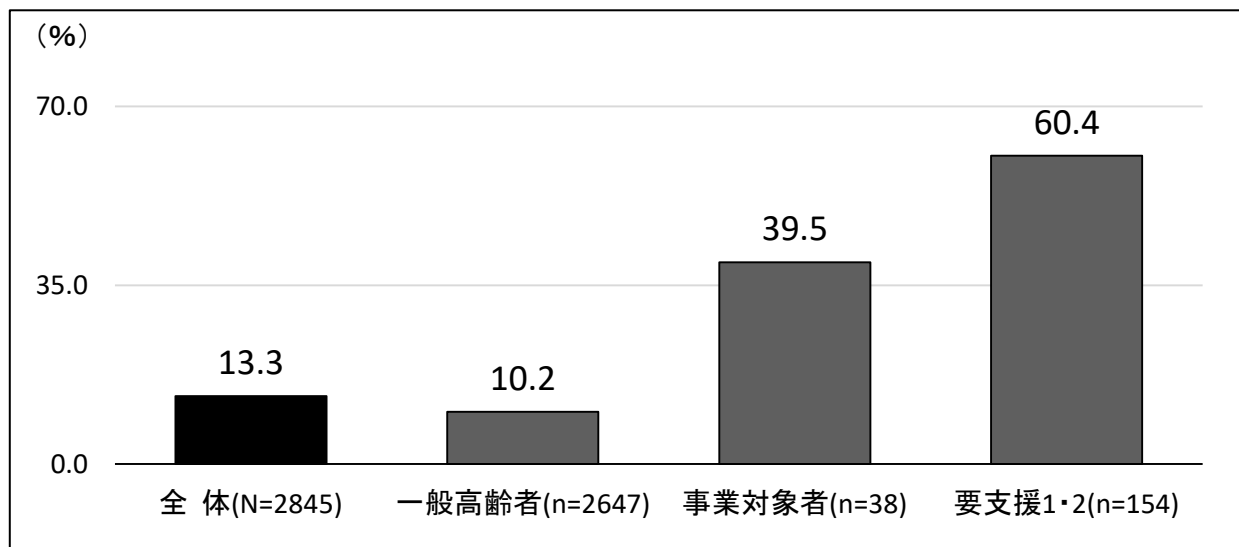
市全体では虚弱該当者が 13.3%となっている。

性別では男性 11.6%、女性 15.0%となっており、女性の方が虚弱該当者の割合が高くなっている。



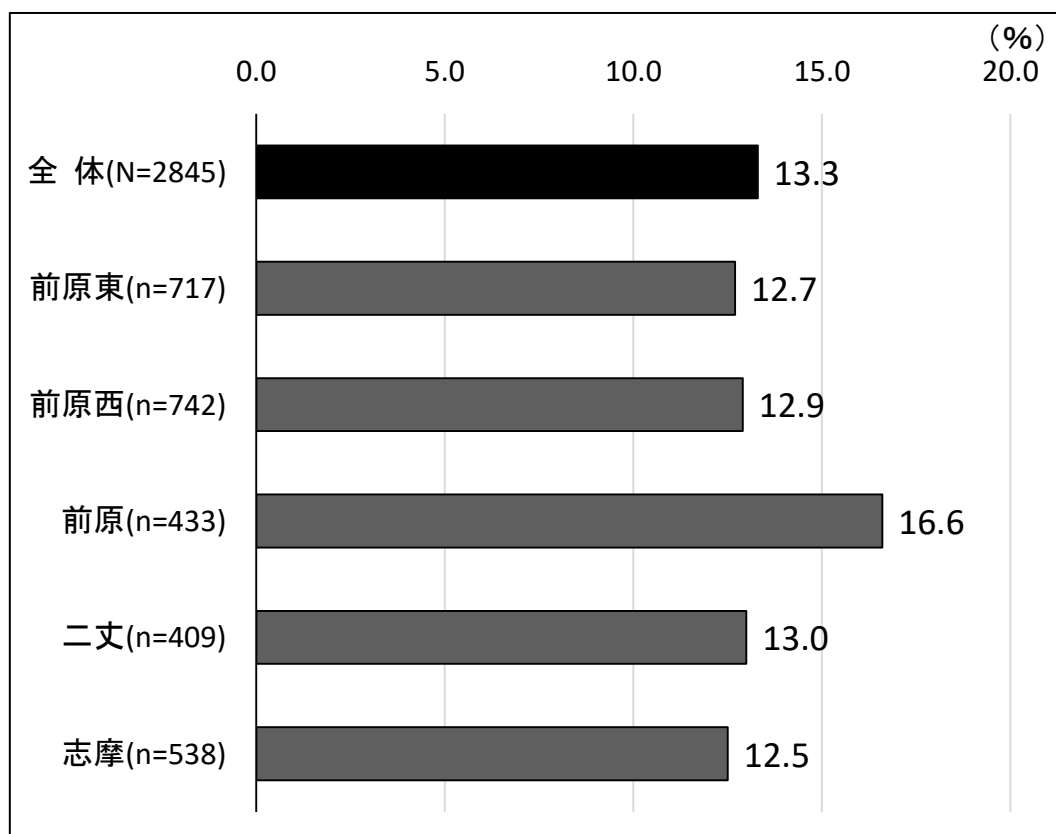
〈要介護度別〉

要介護度別に虚弱該当者の状況についてみると、要支援 1・2 が最も高く 60.4%となっている。次いで、事業対象者は 39.5%である。



〈圏域別〉

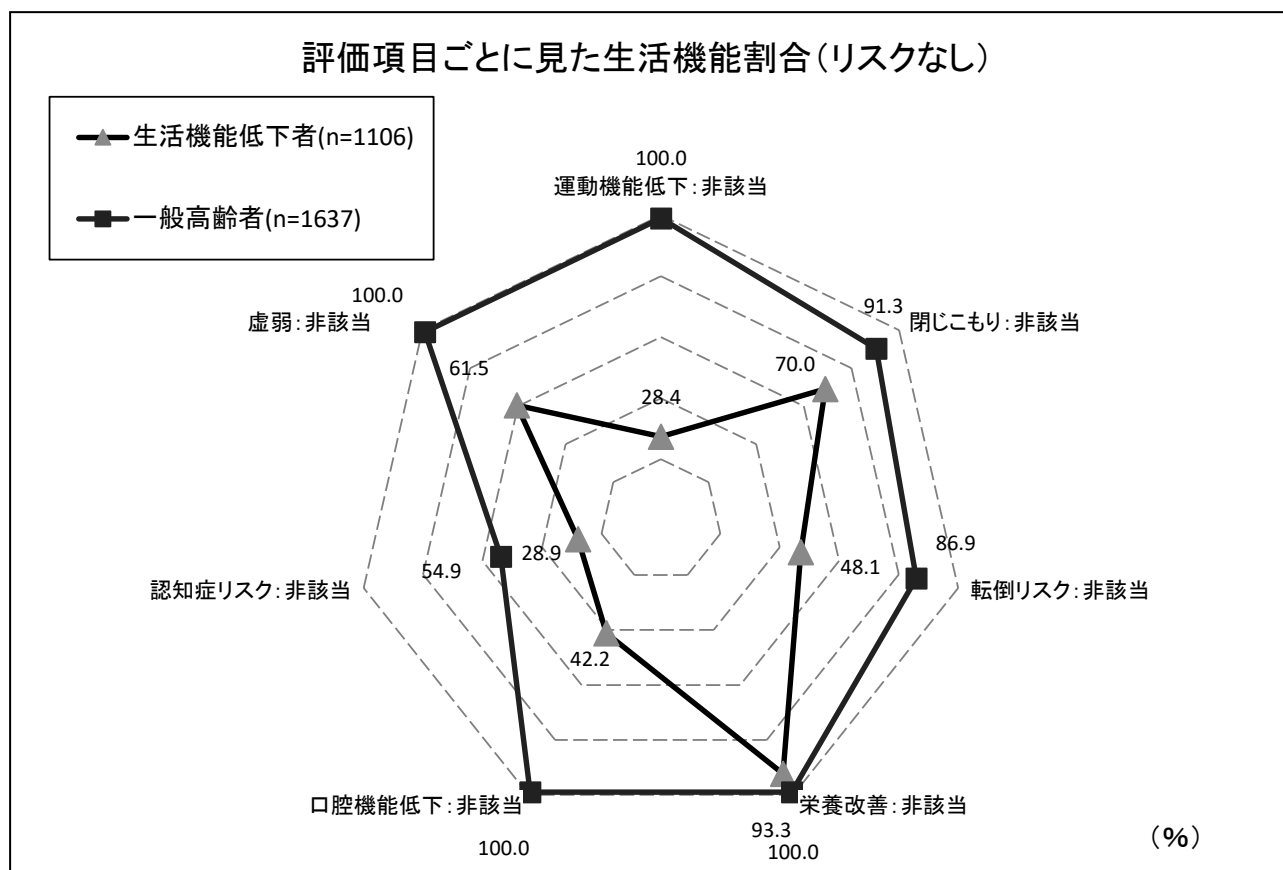
圏域別では、前原圏域が 16.6%と虚弱該当者の割合が他圏域と比較し 3 ポイントほど高くなっている。他圏域は市全体よりも若干ながら低くなっている。



(8) 生活機能の低下状況

生活機能の評価項目ごとのリスクなしの割合を可視化した(リスクなしの割合であるため、数値が高いほど生活機能が高いことを意味する)。

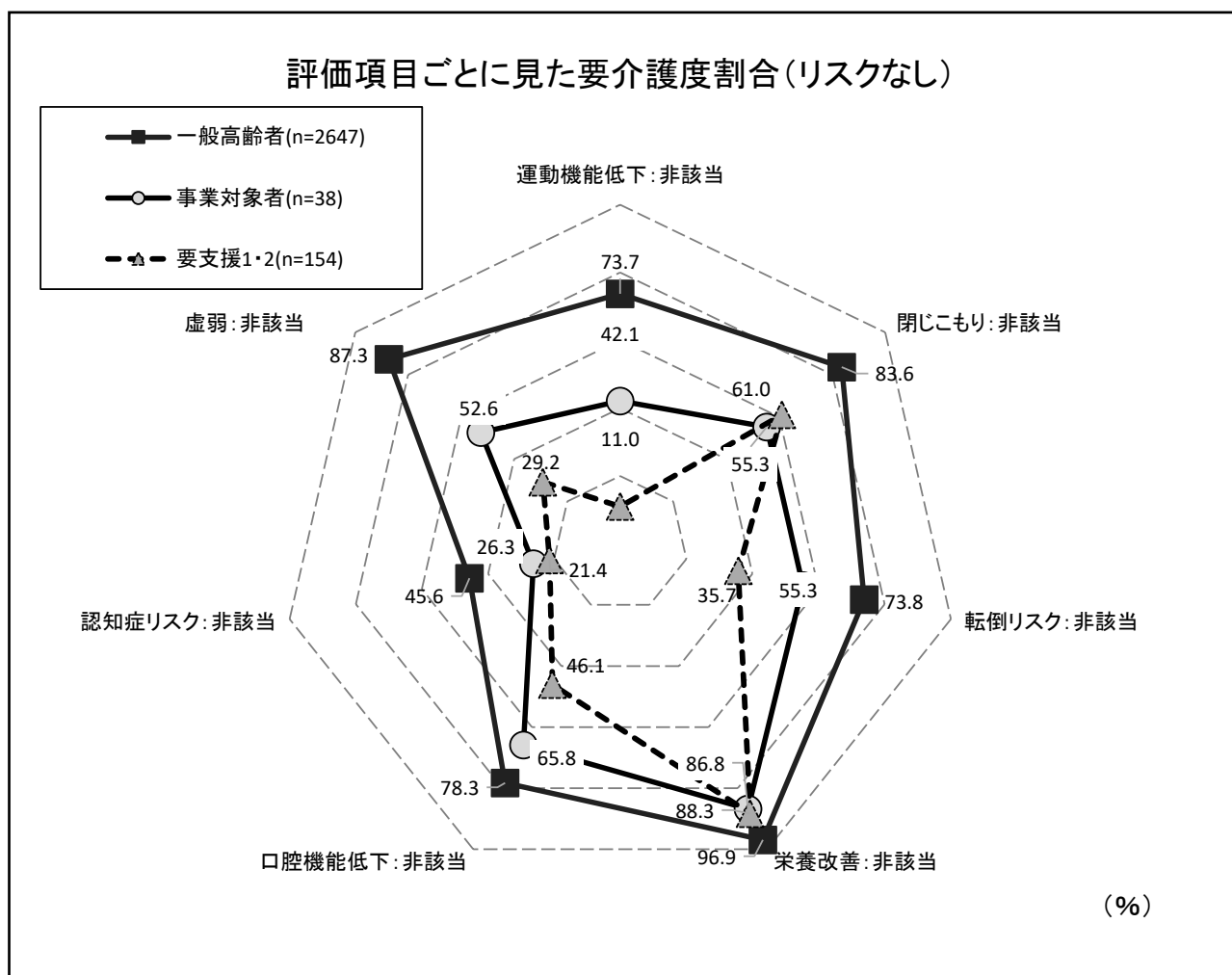
下記評価項目の内、「運動機能低下」、「栄養改善」、「口腔機能低下」、「虚弱」の内の1つに該当すると生活機能低下者と判定される。



〈要介護度別〉

生活機能の評価項目ごとのリスクなしの割合を可視化した(リスクなしの割合であるため、数値が高いほど生活機能が高いことを意味する)。

ほぼすべての項目において要支援1・2は最も低い割合となっている(リスクなしが少なくなっている)。要支援1・2が最低となっていないのは「閉じこもり」、「栄養改善」の二項目のみである。



2 日常生活

(1) 手段的自立度(IADL)低下者

【手段的自立度（IADL）低下者の評価・分析方法】

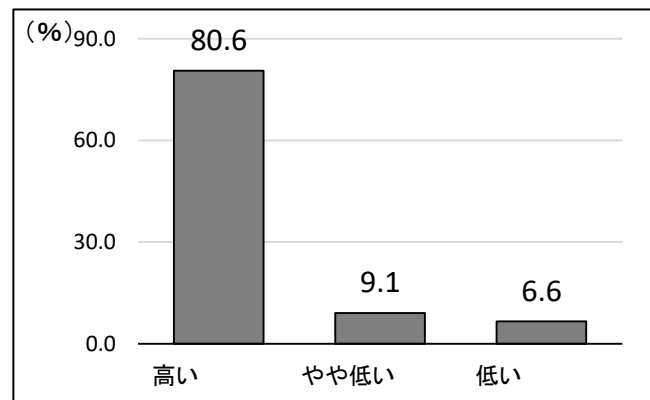
設問番号	設問内容	配点と回答		
問4Q4.	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	できるし、 している	できるけど していない	できない
問4Q5.	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない
問4Q6.	自分で食事の用意をしていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない
問4Q7.	自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない
問4Q8.	自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、 している	できるけど していない	できない

※上記の質問に1つでも「できない」がある場合、手段的自立度低下者として判定されます。

※5点：高い、4点：やや低い、3～0点：低い

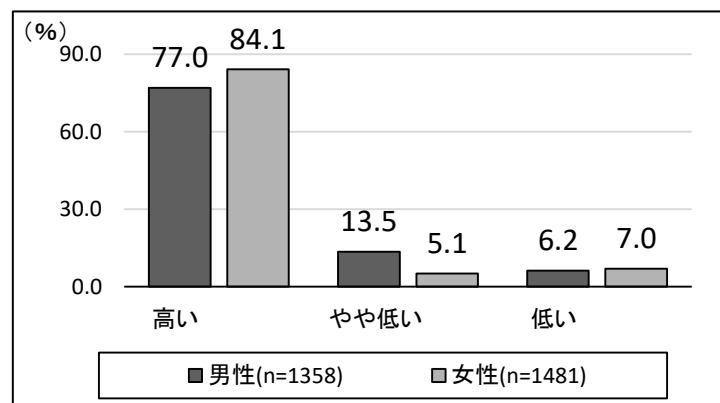
①手段的自立度(IADL)低下者の割合

市全体でみると手段的自立度(IADL)は「高い」が最も高く80.6%となっている。「やや低い」は9.1%、「低い」は6.6%である。



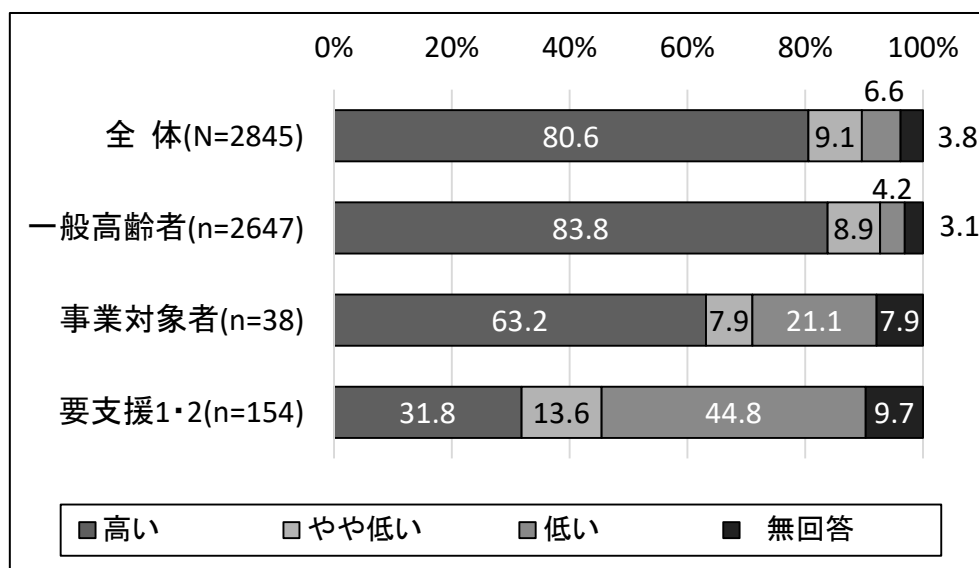
〈性別〉

性別でみると「高い」は男性 77.0%、女性 84.1%と女性が高くなっている。一方、「やや低い」は男性 13.5%、女性 5.1%となっており、手段的自立度(IADL)は男性の方が低下傾向にある。「低い」については男性 6.2%、女性 7.0%で、男女で大きな差はない。



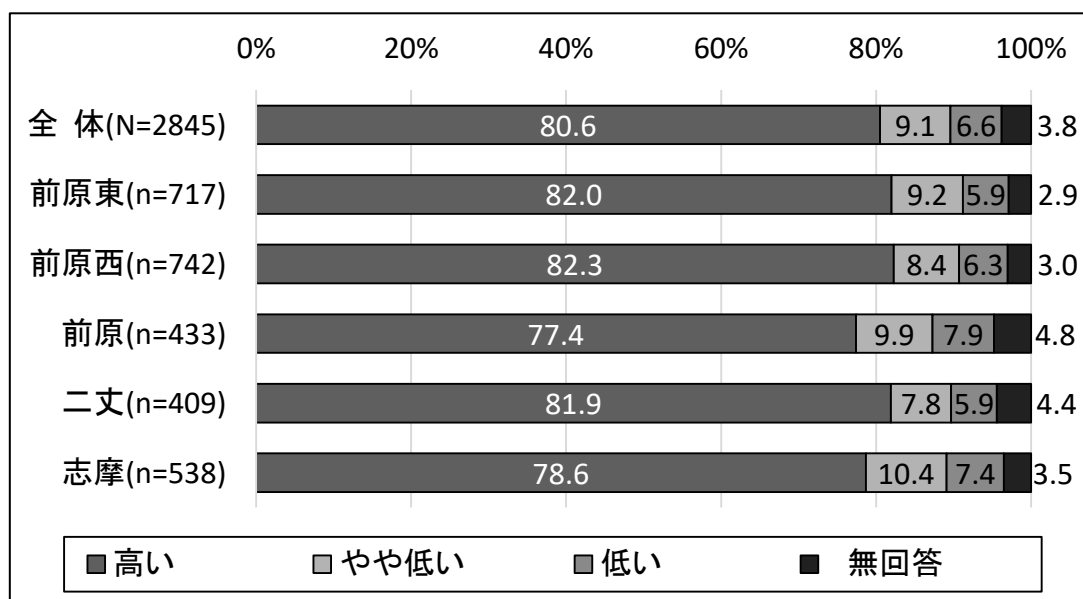
〈要介護度別〉

要介護度別にみると要支援 1・2 は「高い」が 31.8%と他の項目と比較し低く、「低い」が 44.8%となっている。一般高齢者の「低い」が 4.2%、事業対象者の「低い」が 21.1%であることを考えると、要介護度が上がるほど、手段的自立度(IADL)は低くなっていく。



〈圏域別〉

圏域別では、どの圏域においても「高い」が最も高くなっている。前原圏域は他圏域と比較すると「高い」がやや低いものの、差は 3 ポイントほどであり、大きな差とは言い難い。



(2) 社会参加

1) 知的能動性

【知的能動性低下者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答	
問4Q9.	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	はい	いいえ
問4Q10.	新聞を読んでいますか	はい	いいえ
問4Q11.	本や雑誌を読んでいますか	はい	いいえ
問4Q12.	健康についての記事や番組に関心がありますか	はい	いいえ

※上記の質問に1つでも「いいえ」がある場合、知的能動性低下者として判定されます。

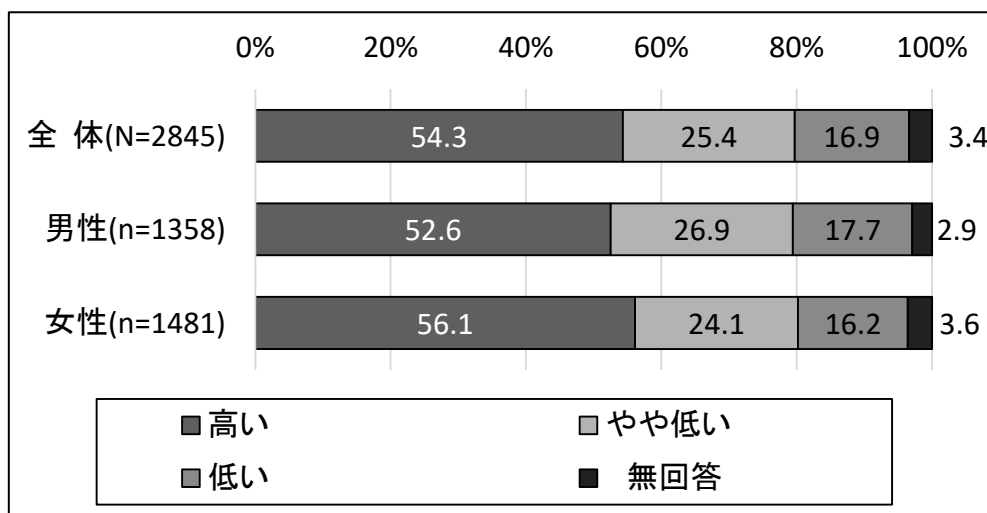
※4点：高い、3点：やや低い、2～0点：低い

①知的能動性低下者の割合

〈市全体・性別〉

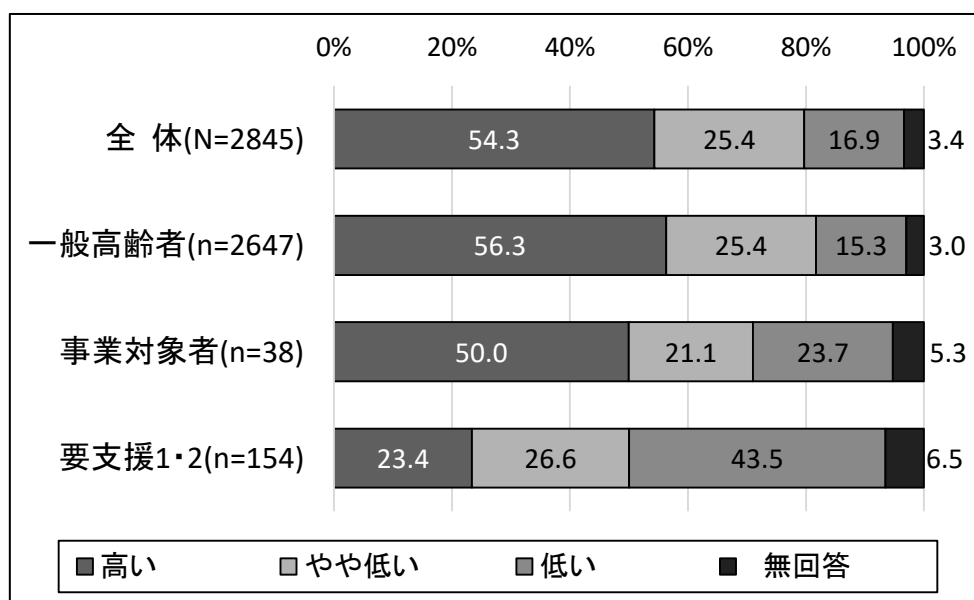
市全体では「高い」が最も高く 54.3%となっている。次いで「やや低い」が 25.4%、「低い」が 16.9%となっている。

性別では、女性の方が「高い」の割合が高く 56.1%、男性 52.6%となっている。「やや低い」と、「低い」は男性の方は高くなっている。



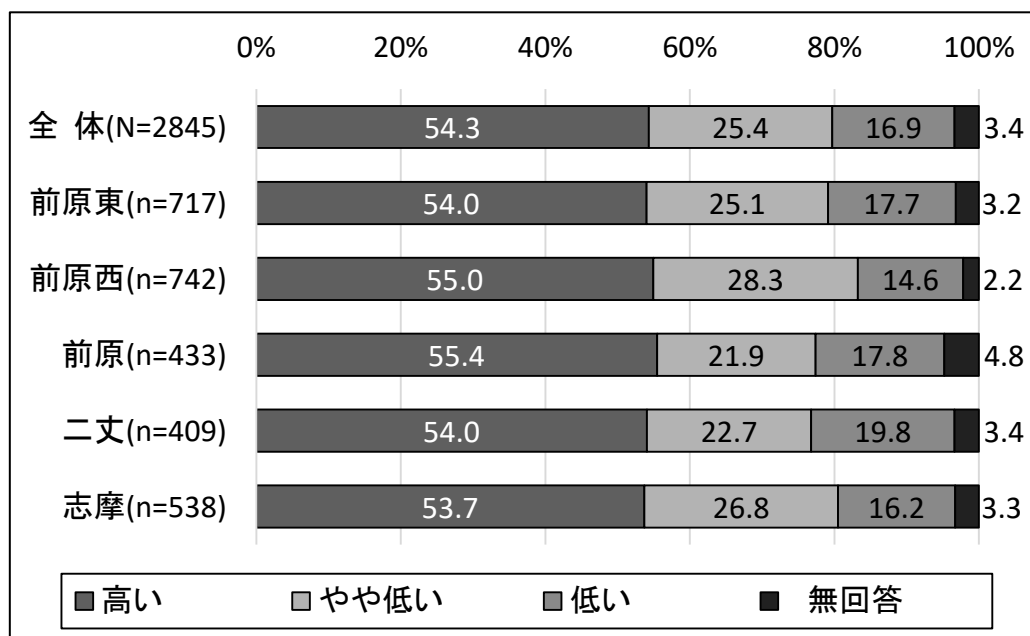
〈要介護度別〉

要介護度別に知的能動性の状況をみると、要支援 1・2 は「低い」の割合が高くなっている。一般高齢者の「低い」が 15.3%であるのに対し、事業対象者は 23.7%、要支援 1・2 は 43.5%である。



〈圏域別〉

圏域別では「高い」の割合については圏域による差はない。「やや低い」と、「低い」については多少のばらつきがあり、「やや低い」は前原西圏域で最も高く 28.3%、次いで志摩圏域 26.8%となっている。「低い」は二丈圏域で最も高く 19.8%、次いで前原圏域 17.8%である。



2) 社会的役割

【社会的役割低下者の評価・分析方法】

設問番号	設問内容	配点と回答	
問4Q13.	友人の家を訪ねていますか	はい	いいえ
問4Q14.	家族や友人の相談にのっていますか	はい	いいえ
問4Q15.	病人を見舞うことができますか	はい	いいえ
問4Q16.	若い人に自分から話しかけることがありますか	はい	いいえ

※上記の質問に1つでも「いいえ」がある場合、社会的役割低下者として判定されます。

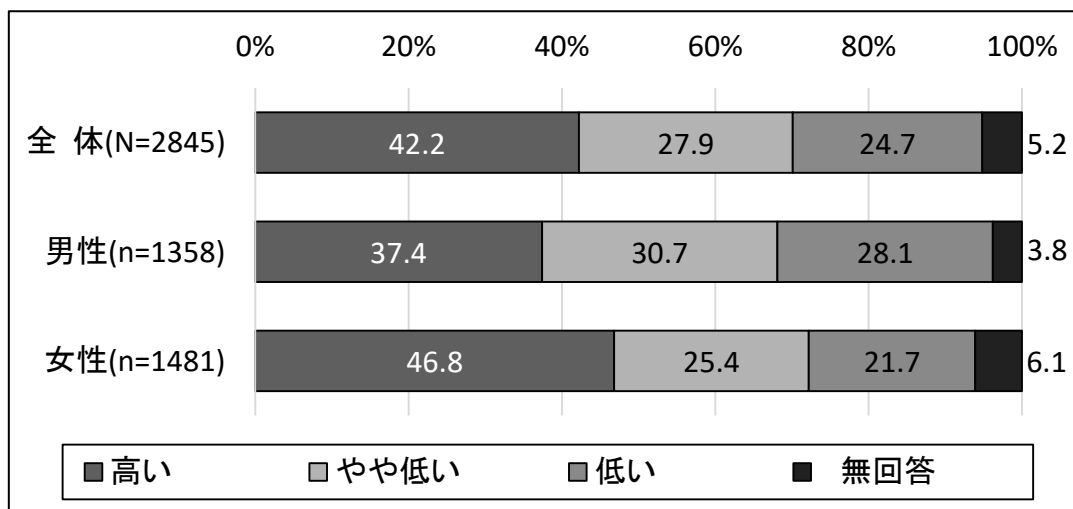
※4点：高い、3点：やや低い、2～0点：低い

①社会的役割低下者の割合

〈市全体・性別〉

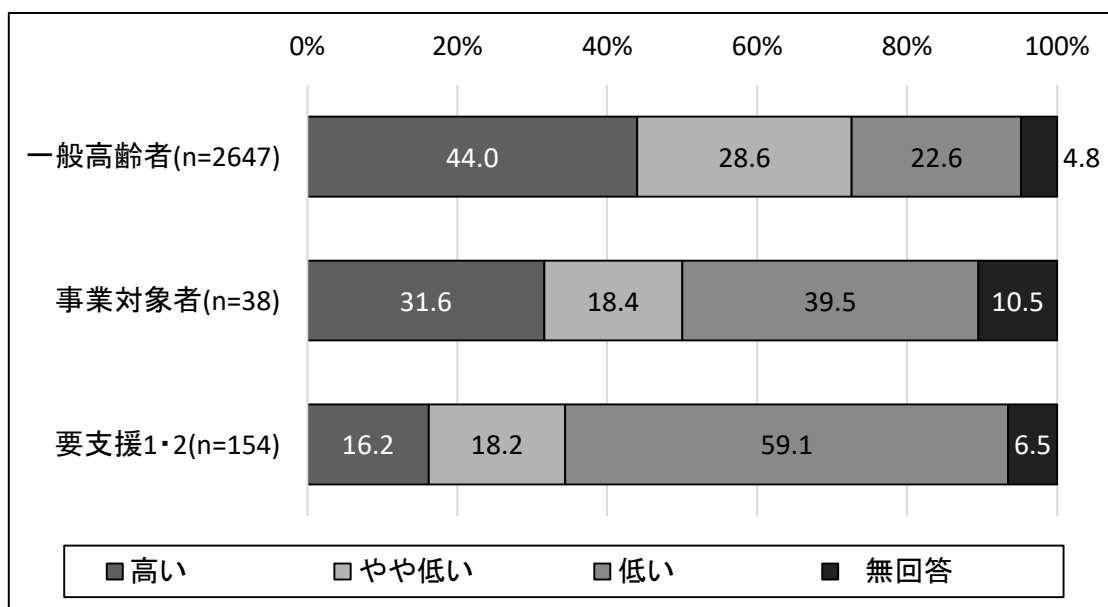
市全体では、社会的役割が「高い」人の割合は 42.2%であり最も高くなっている。「やや低い」は 27.9%、「低い」24.7%である。

性別では、社会的役割の「高い」人は男性 37.4%、女性 46.8%であり、女性は男性よりも社会的役割が高い。「やや低い」は男性 30.7%、女性 25.4%であり、「低い」は男性 28.1%、女性 21.7%である。



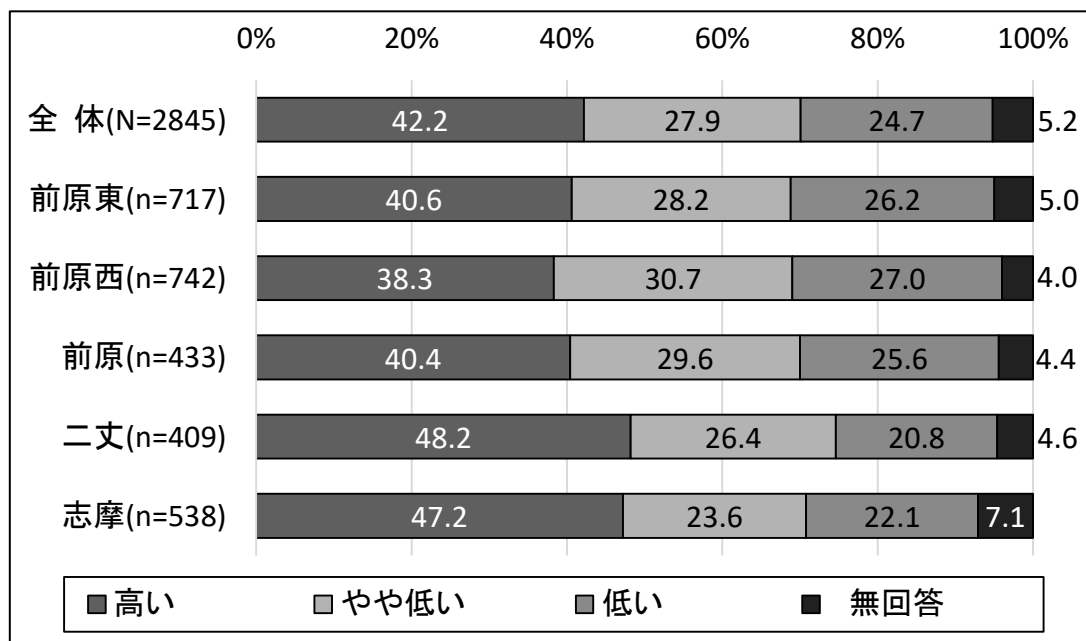
〈要介護度別〉

要介護度別に社会的役割低下者の割合をみると、要支援 1・2 は「低い」の割合が非常に高くなっている。一般高齢者では 22.6%、事業対象者では 39.5%であるのに対し、要支援 1・2 では 59.1%であり、約 6 割にも上る。



〈圏域別〉

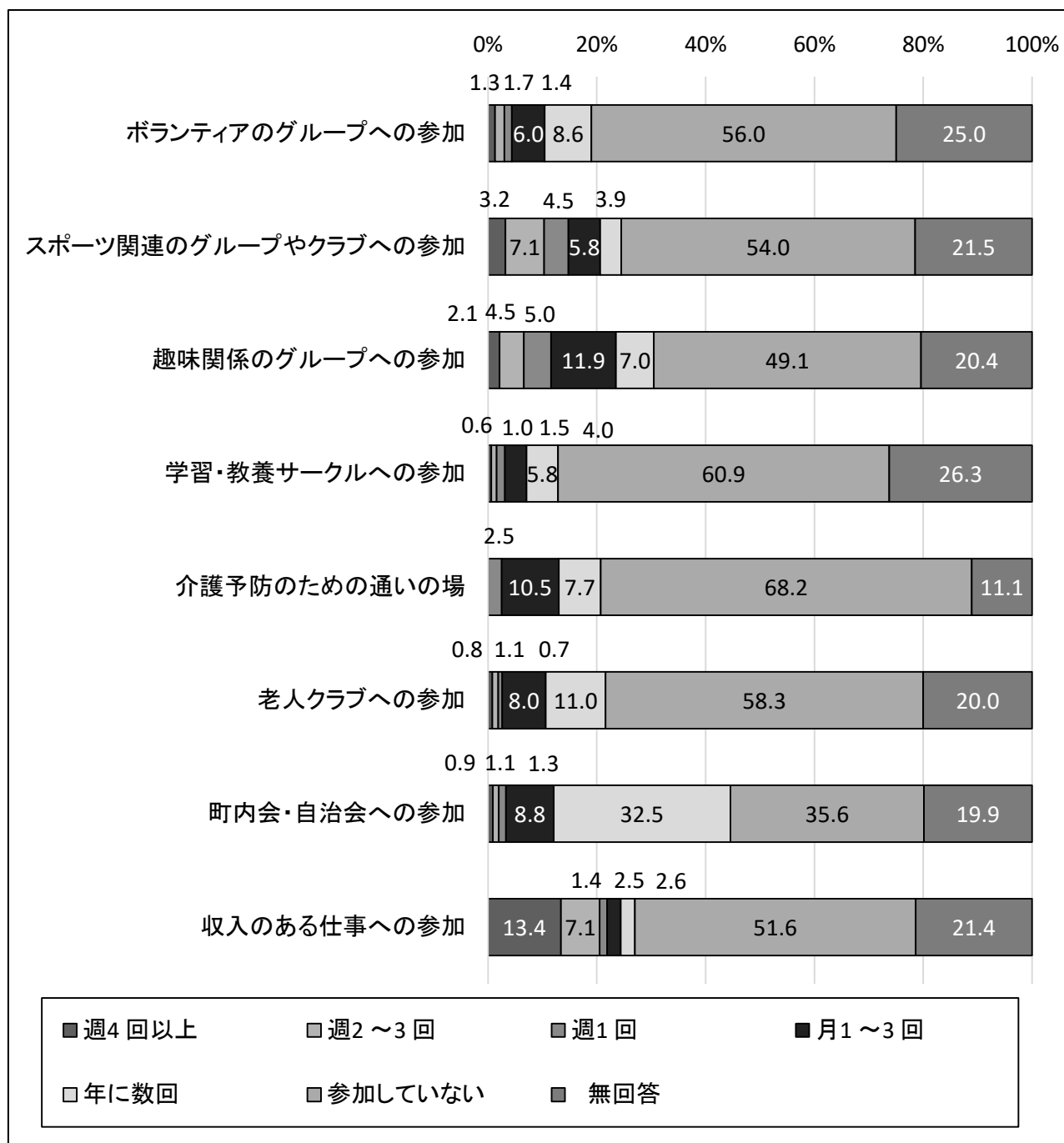
圏域別でみると、社会的役割が「高い」人の割合が最も高いのは二丈圏域 48.2%であり、次いで志摩圏域 47.2%であり、逆に最も低いのが前原西圏域の 38.3%である。



3) 会・グループ等への参加状況

各会、グループへの参加頻度を尋ねた。

どの項目においても「参加していない」が最も高くなっており、最も「参加していない」が高いのは介護予防のための通いの場 68.2%であった。次いで、学習・教養サークル 60.9%である。一方、最も「参加していない」の割合が低いのは町内会・自治会 35.6%であり、町内会・自治会は比較的参加されている会・グループであると言える。町内会・自治会の参加頻度は「年に数回」が最も高く 32.5%である。

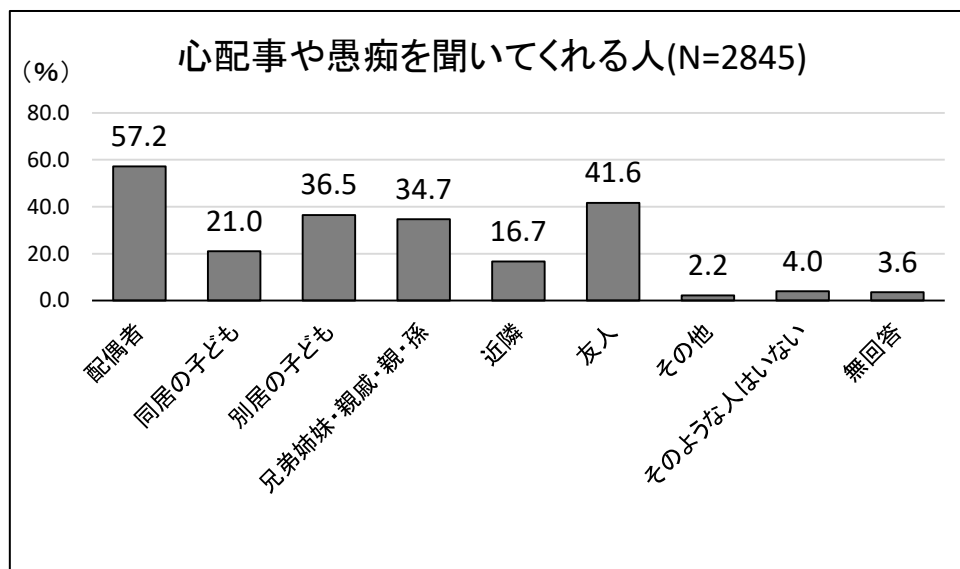


4) 周りの人の「たすけあい」について

① 心配事や愚痴を聞いてくれる人

心配ごとや愚痴を聞いてくれる人について尋ねた。

最も割合が高いのは「配偶者」であり 57.2%であった。次いで「友人」41.6%、「別居の子ども」36.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」34.7%と続く。

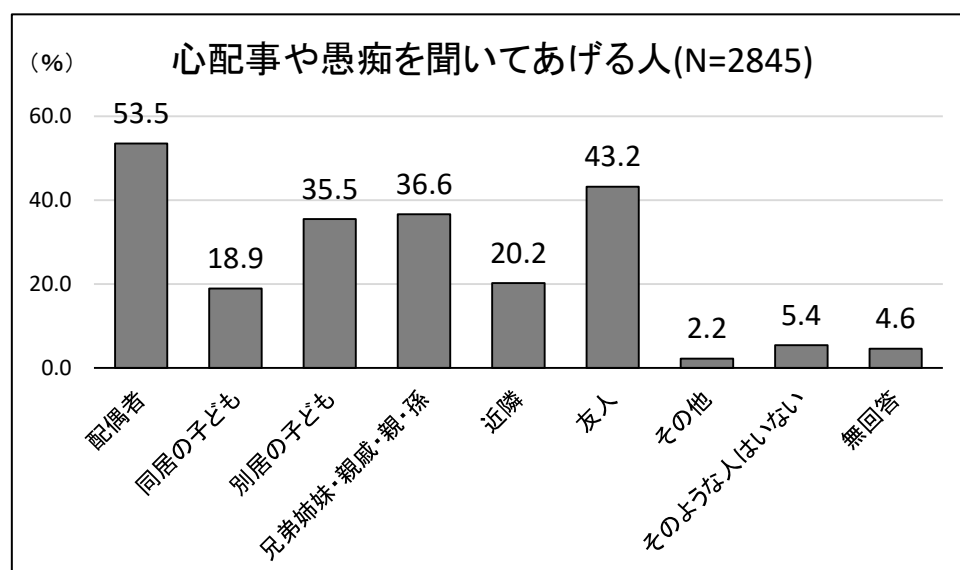


② 心配事や愚痴を聞いてあげる人

心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねた。

最も割合が高かったのは「配偶者」の 53.5%であり、次いで「友人」43.2%である。その後は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」36.6%、「別居の子ども」35.5%と続く。

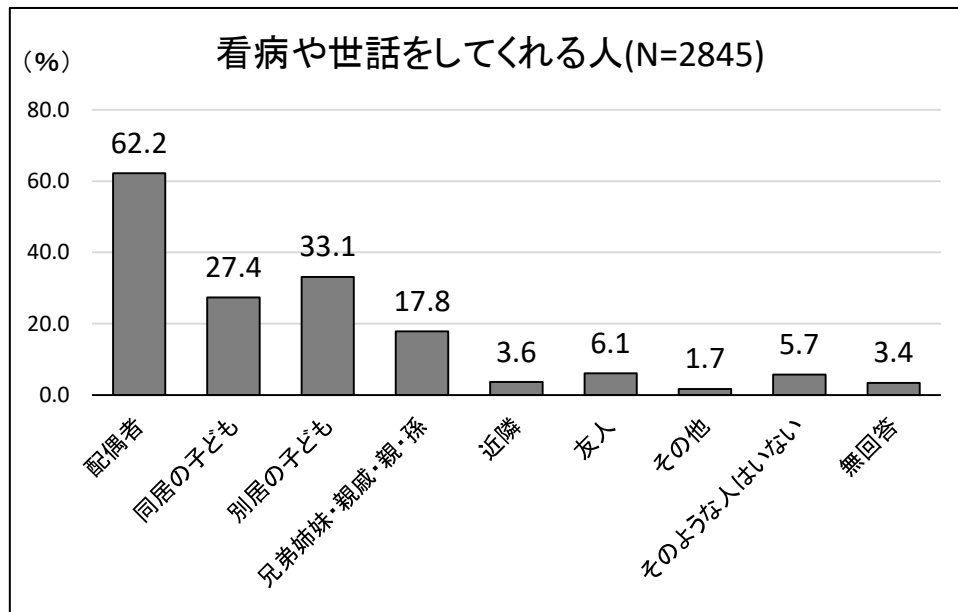
多少の順位の変動はあるものの、前問の「心配事や愚痴を聞いてくれる人」の設問と近い結果となっている。



③看病や世話をしてくれる人

看病や世話をしてくれる人について尋ねた。

最も高いのは「配偶者」62.2%であり、次いで「別居の子ども」33.1%である。その後は「同居の子ども」27.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」17.8%と続く。

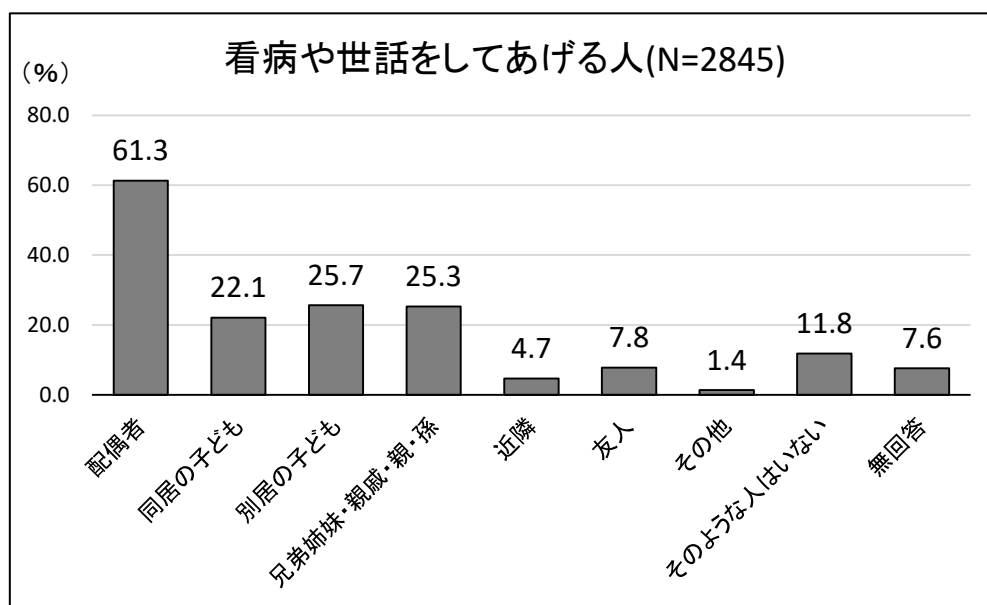


④看病や世話をしてあげる人

看病や世話をしてあげる人について尋ねた。

最も高いのは「配偶者」61.3%であり、続いて「別居の子ども」25.7%である。その後は「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が25.3%、「同居の子ども」が22.1%である。

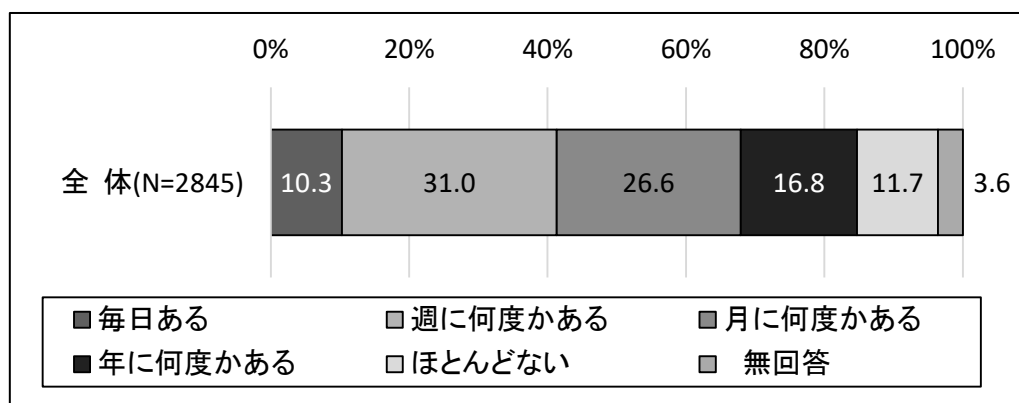
前問の「看病や世話をしてくれる人」と上位四項目は変わらないものの、前問と比較して「別居の子ども」の割合が減少し、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が増加している。



(3) 友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度について尋ねた。

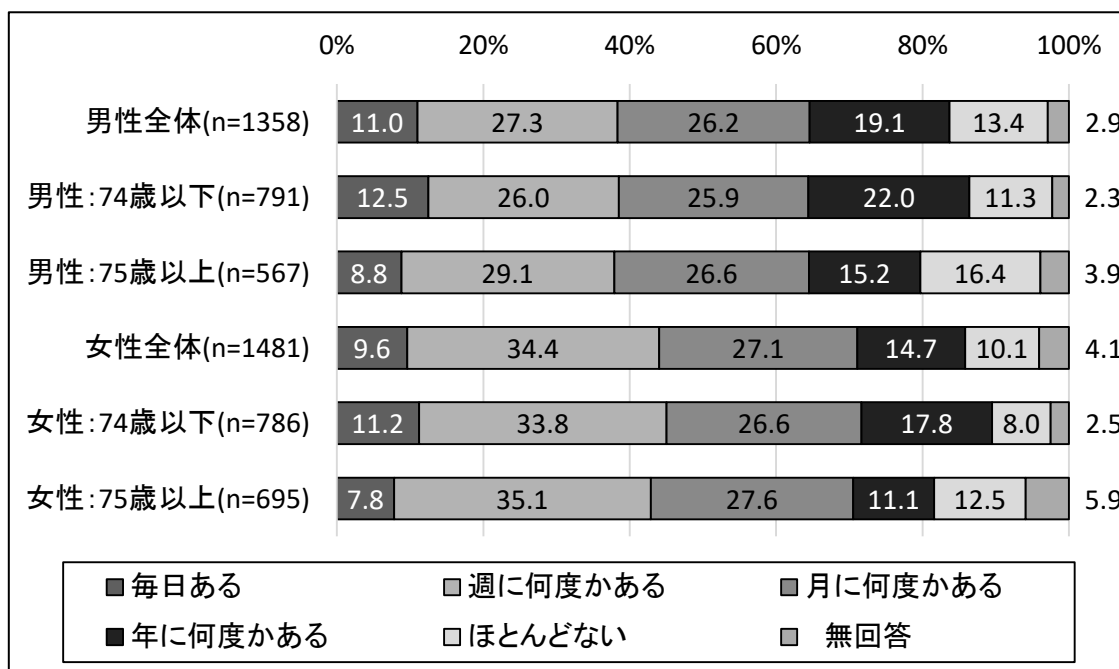
市全体では、「週に何度かある」が最も高く 31.0%である。次いで「月に何度かある」が 26.6%となっている。「ほとんどない」は 11.7%となっている。



〈性年代別〉

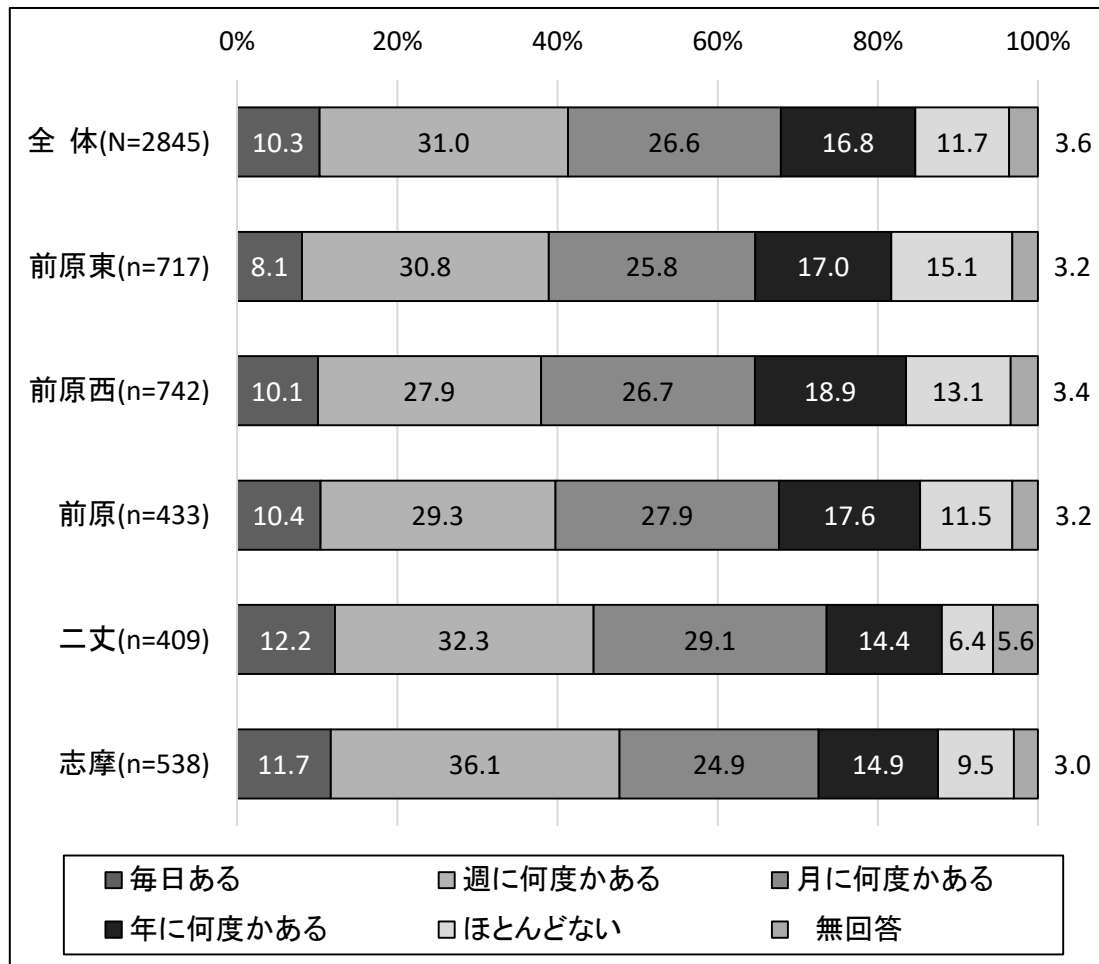
性別では、男性よりも女性の方が友人・知人と会う頻度は高くなっており、男性「週に何度かある」は 27.3%、女性「週に何度かある」は 34.4%である。

年代別では、年代が上がるほど、友人・知人に会う頻度は減少する。男女ともに年代が上がるほど、「毎日ある」の割合が減り、「週に何度かある」「月に何度かある」の割合が増加している。また、「ほとんどない」についても増加するため、友人・知人との接触自体がなくなる高齢者もいるようである。



〈圏域別〉

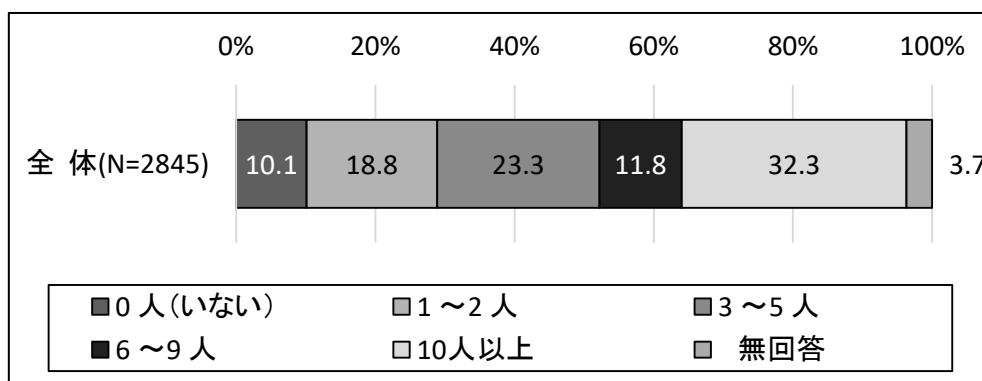
友人・知人と会う頻度に関して、圏域別にみると、『週に 1 回以上は会う(「毎日ある」+「週に何度かある」)』の割合は、二丈圏域 44.5%と志摩圏域 47.8%において高くなっている。反対に「ほとんどない」の割合は前原東圏域で高くなっており、15.1%である。



(4) この1か月に会った友人・知人の数

この1か月間に会った友人・知人の数について尋ねた。

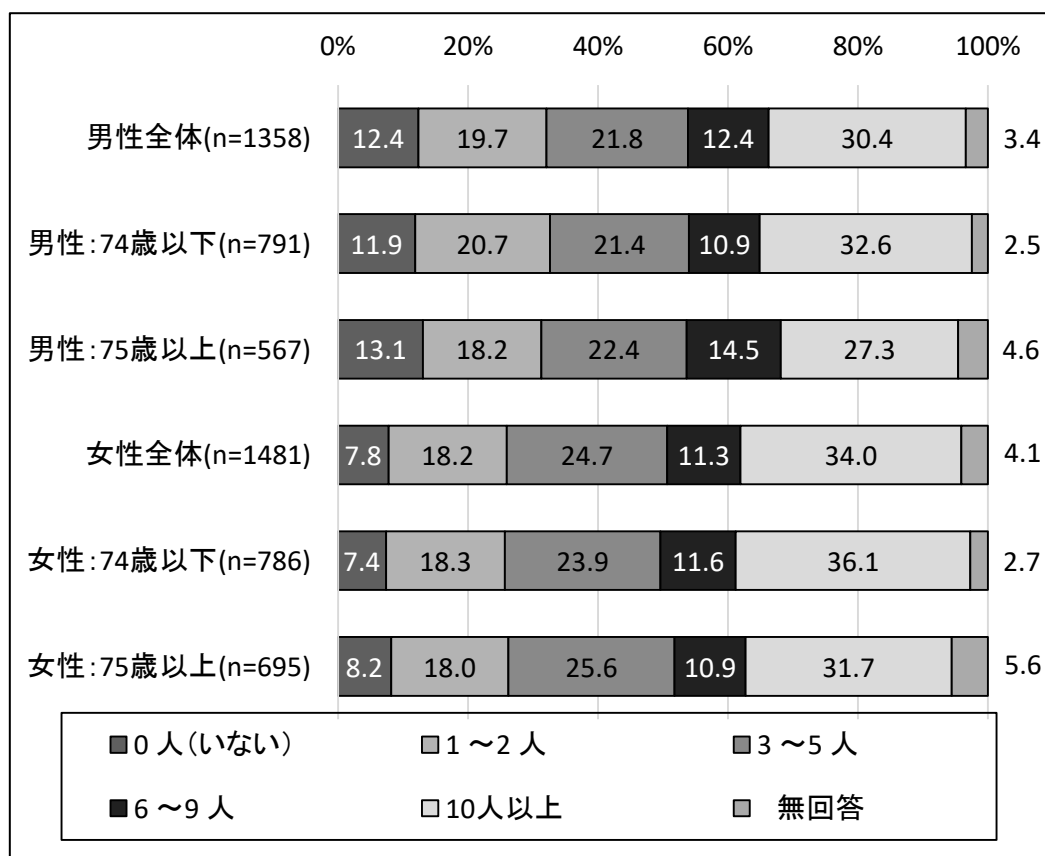
市全体では「10人以上」が最も高く32.3%である。次いで「3～5人」の23.3%、「1～2人」の18.8%と続く。



〈性年代別〉

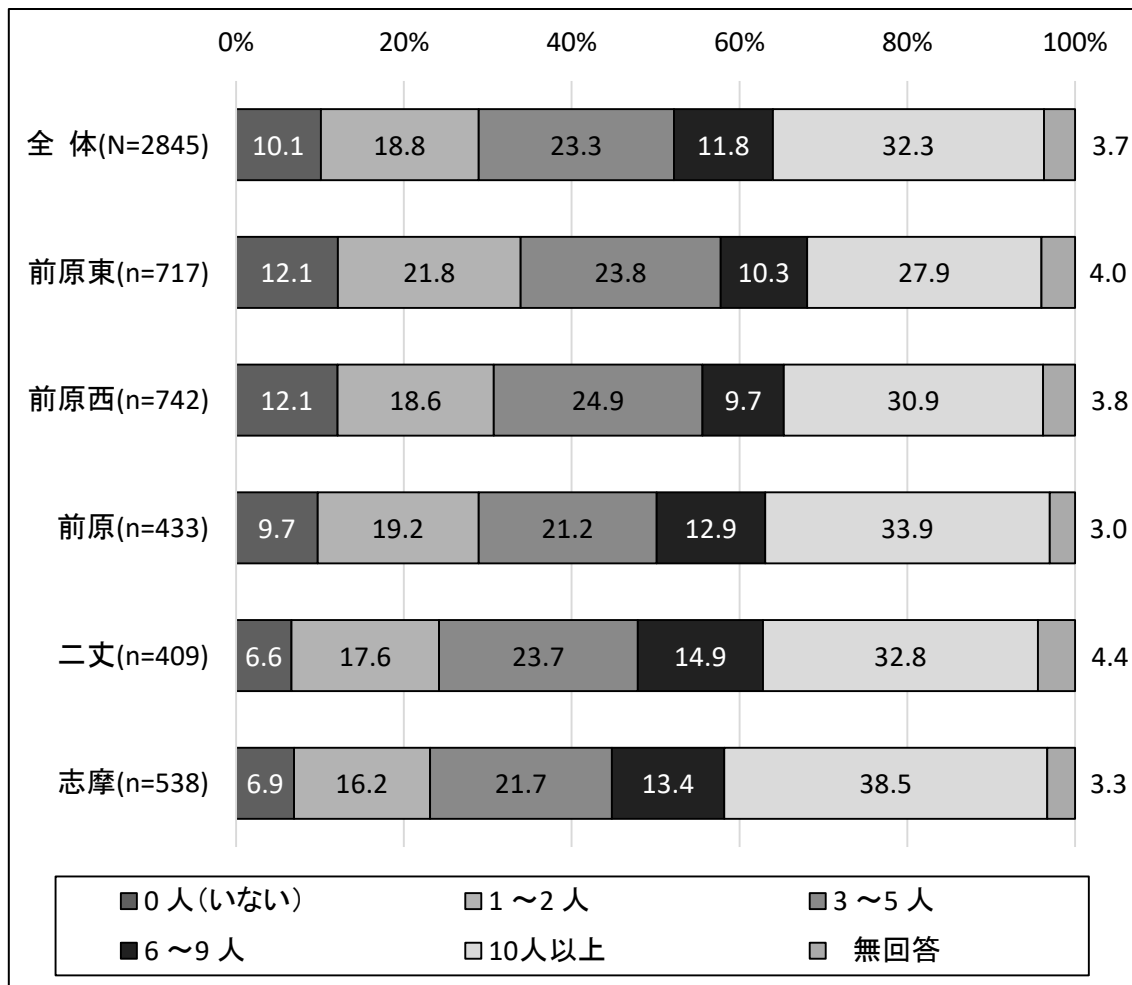
性別でみると男性は女性よりも「0人(いない)」や「1～2人」の割合が高くなっている。

年代別では、性別を問わず大きな差はない。例外的に男性は75歳以上で「6～9人」の割合が増加しているものの、「10人以上」の割合は減少しており、接触する友人・知人の人数は減少している。



〈圏域別〉

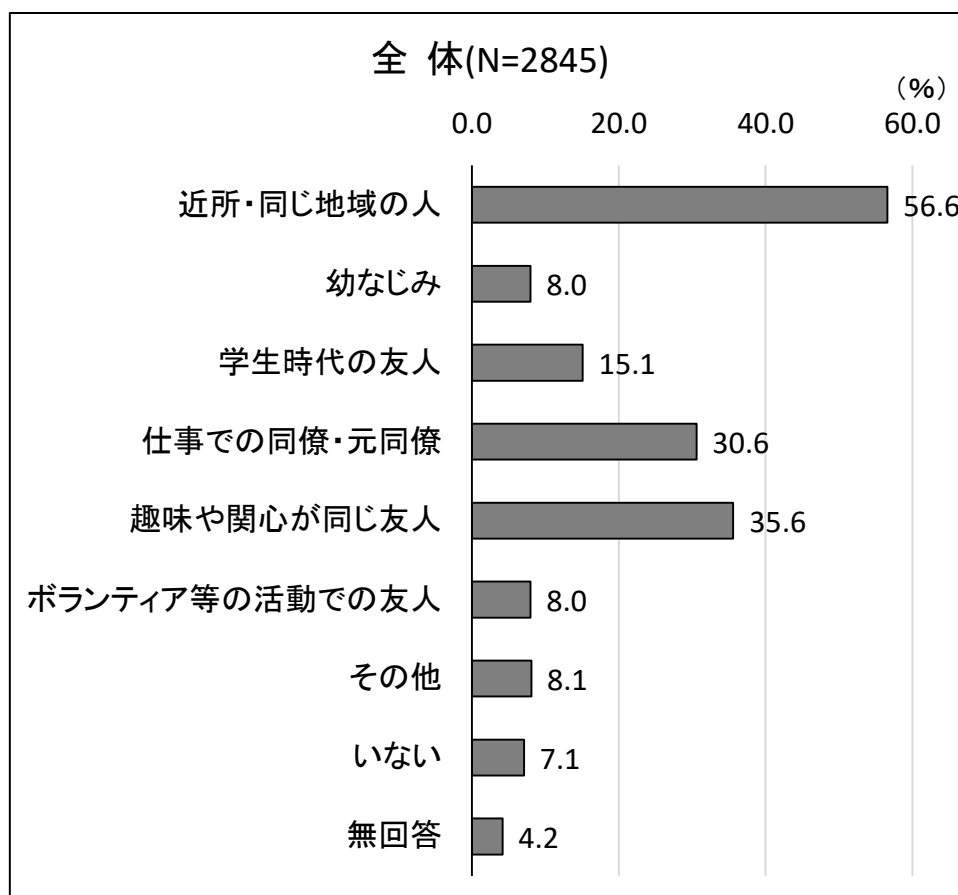
圏域別でみると、どの圏域においても「10人以上」の割合が最も高くなっている。特に志摩圏域は「10人以上」が38.5%であり、他圏域よりも高くなっている。「0人(いない)」についてみると、二丈圏域、志摩圏域は6%台と低くなっており、前原東圏域、前原西圏域は12.1%と他圏域より高くなっている。



(5) よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人との関係について尋ねた(複数回答)。

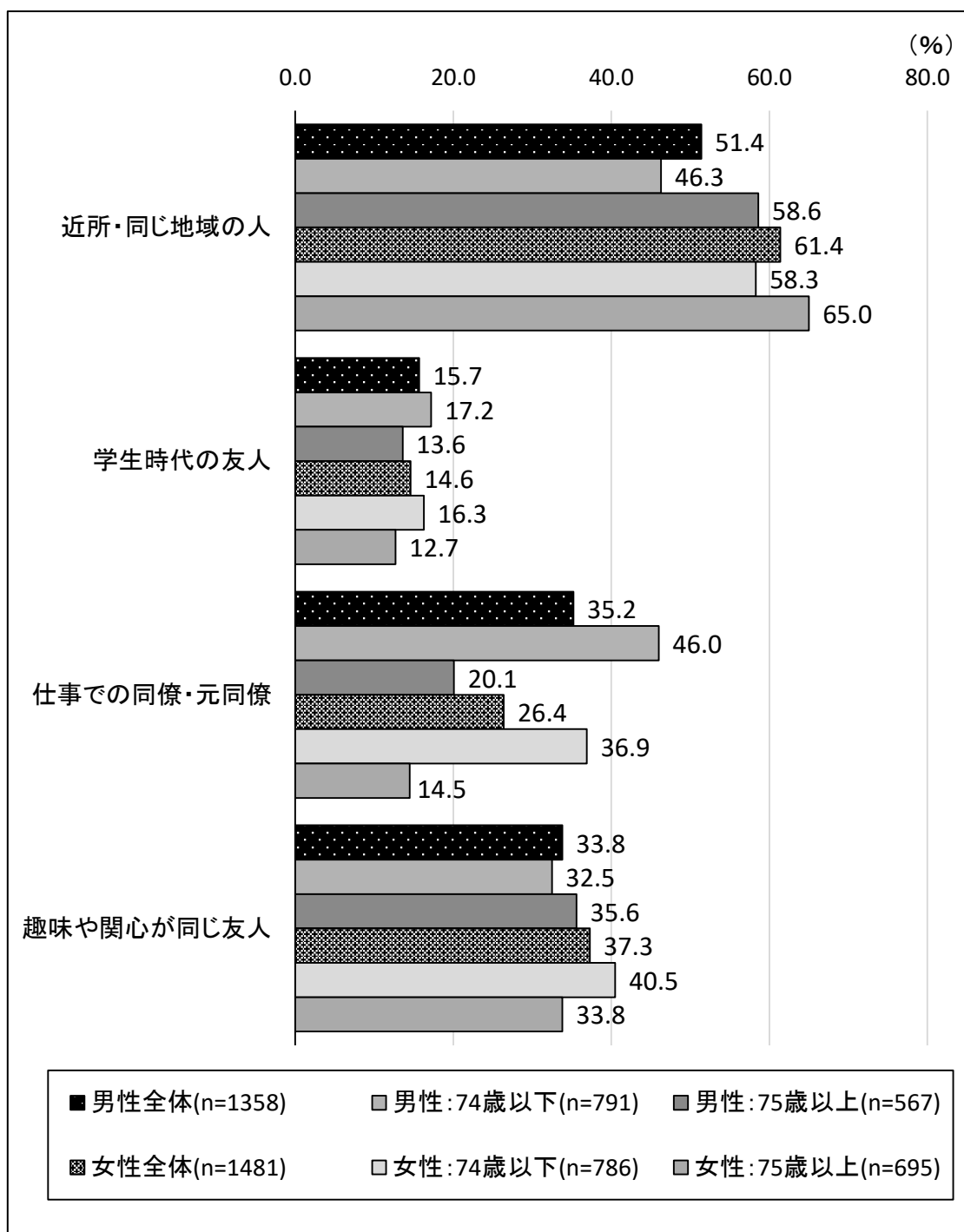
最も高いのは「近所・同じ地域の人」であり 56.6%である。次いで「趣味や関心が同じ友人」が 35.6%、「仕事での同僚・元同僚」30.6%、「学生時代の友人」15.1%である。



〈性年代別〉:上位四項目

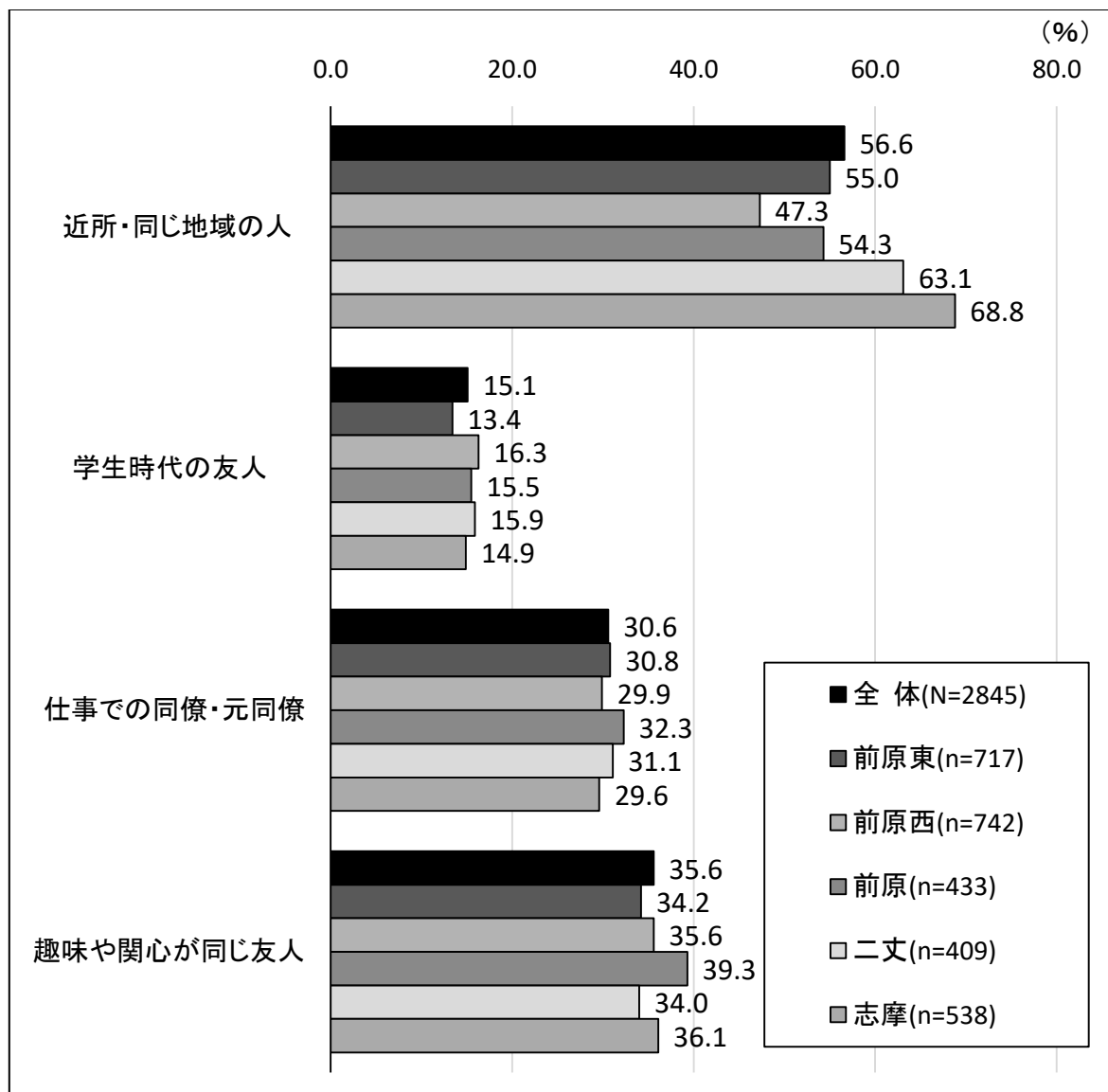
性別で見ると男性は女性よりも「仕事の同僚・元同僚」と会う機会が多い(男性 35.2%、女性 26.4%)。一方、女性は「近所・同じ地域の人」の割合が男性より高くなっており、女性 61.4%、男性 51.4%である。

年代別で見ると「学生時代の友人」や「仕事の同僚・元同僚」は年代が上がるにつれて減少していく。一方、「近所・同じ地域の人」は年代が上がるにつれ増加していく。



〈圏域別〉：上位四項目

圏域別でみると多くの項目において圏域ごとの大きな差はないものの、「近所・同じ地域の人」の項目については圏域によって差がある。前原西圏域は「近所・同じ地域の人」が47.3%であり唯一50%を下回っており、最も低くなっている。一方、二丈圏域63.1%や志摩圏域68.8%は他圏域と比較して高くなっている。

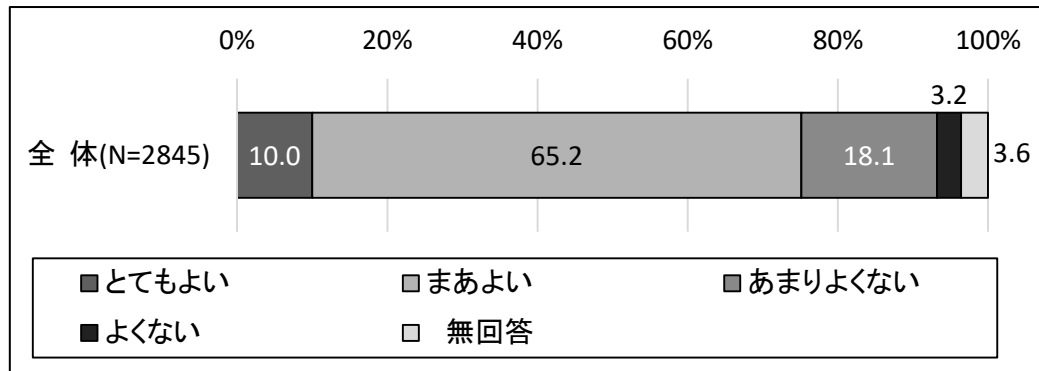


3 健康・疾病

(1) 主観的健康感(あなたの健康状態)

現在の健康状態について尋ねた。

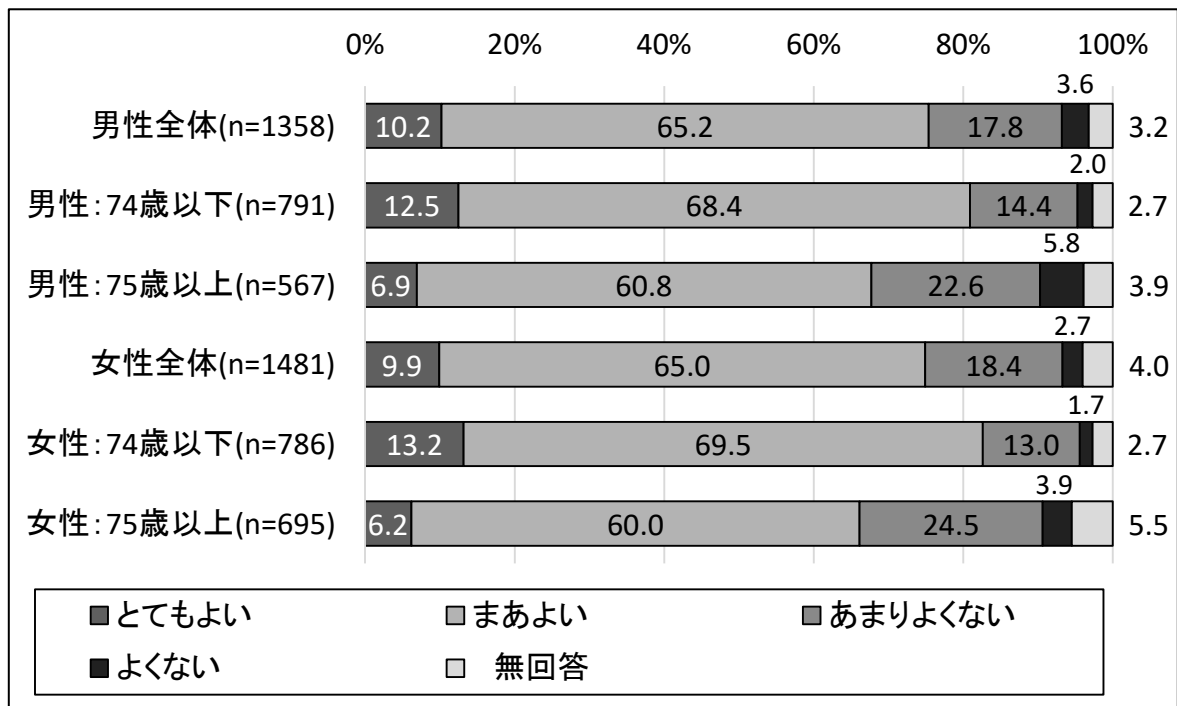
市全体では「まあよい」が最も高く 65.2%である。次いで「あまりよくない」の 18.1%、「とてもよい」の 10.0%が続く。



〈性年代別〉

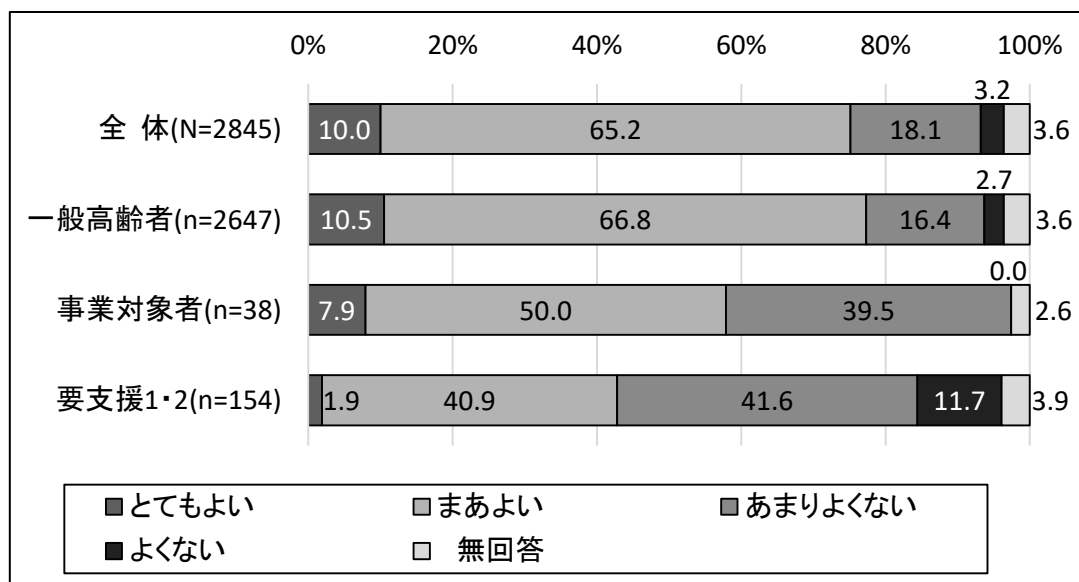
性別では大きな差はない。

年代別では性別に関係なく年代が上がるほど、「とてもよい」、「まあよい」の割合が減少している。



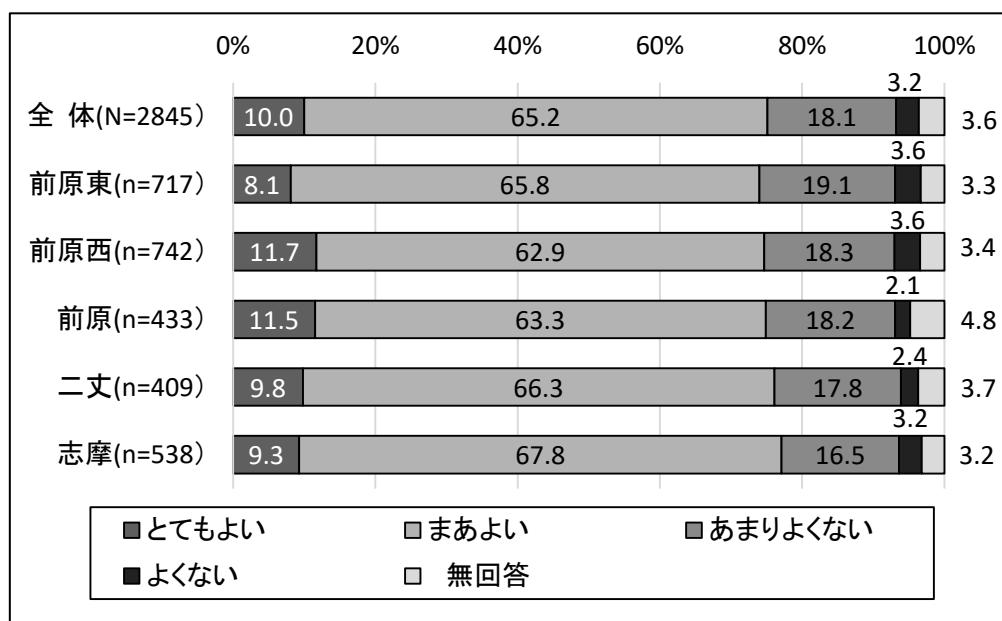
〈要介護度別〉

要介護度別にみると、要介護度が高まるほど、「あまりよくない」、「よくない」の割合が増加している。一般高齢者の「あまりよくない」が 16.4%、事業対象者の「あまりよくない」が 39.5%、要支援 1・2 の「あまりよくない」が 41.6%となっている。



〈圏域別〉

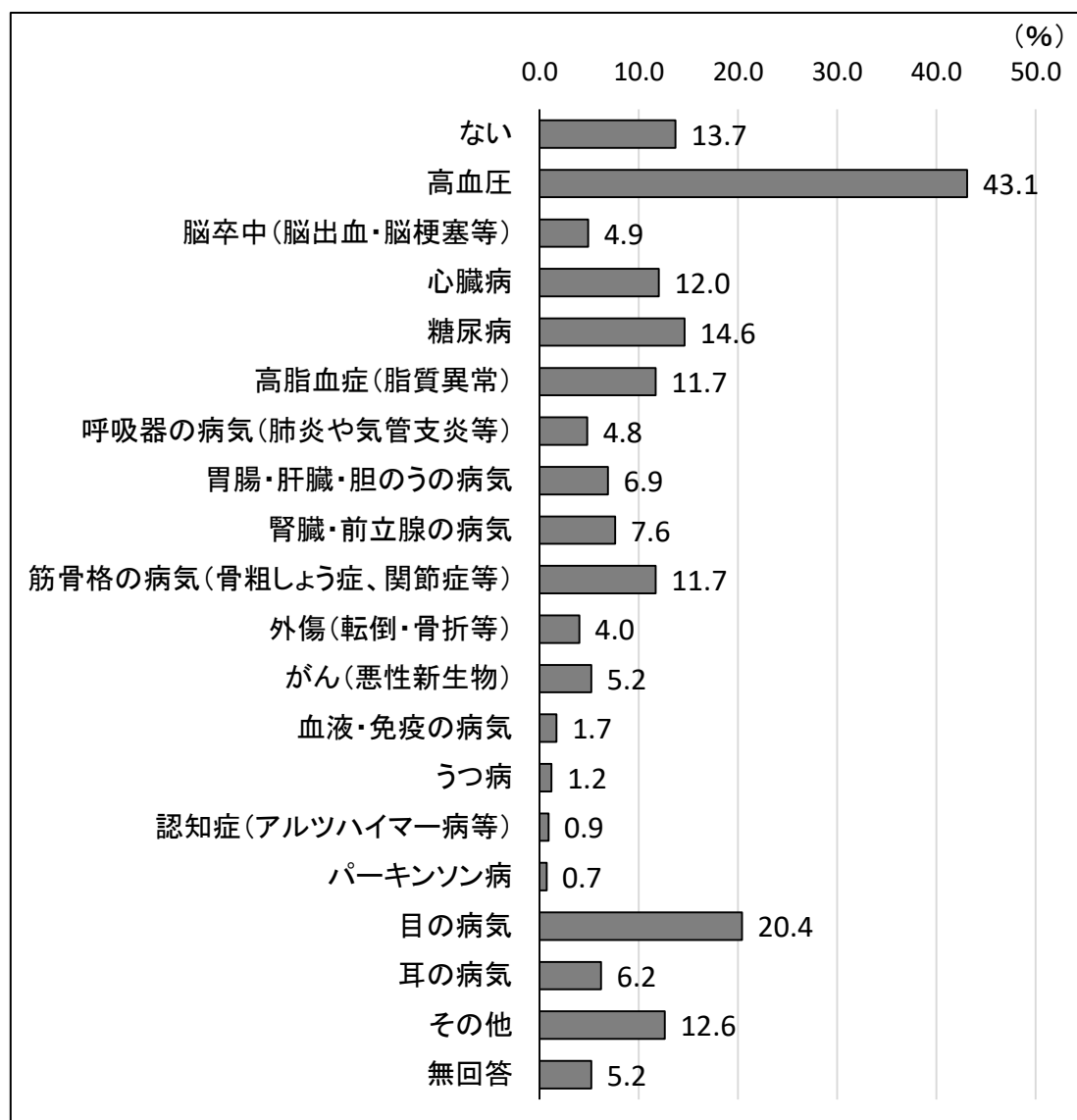
圏域別でみると、「とてもよい」はいずれの圏域も 10%ほどで推移しており、やや前原東圏域の 8.1%が低くなっている。「まあよい」については前原東圏域 65.8%、二丈圏域 66.3%、志摩圏域 67.8%がやや高くなっている。



(2) 有病率(現在、治療中または後遺症のある病気)

現在治療中または後遺症のある病気について尋ねた(複数回答)。

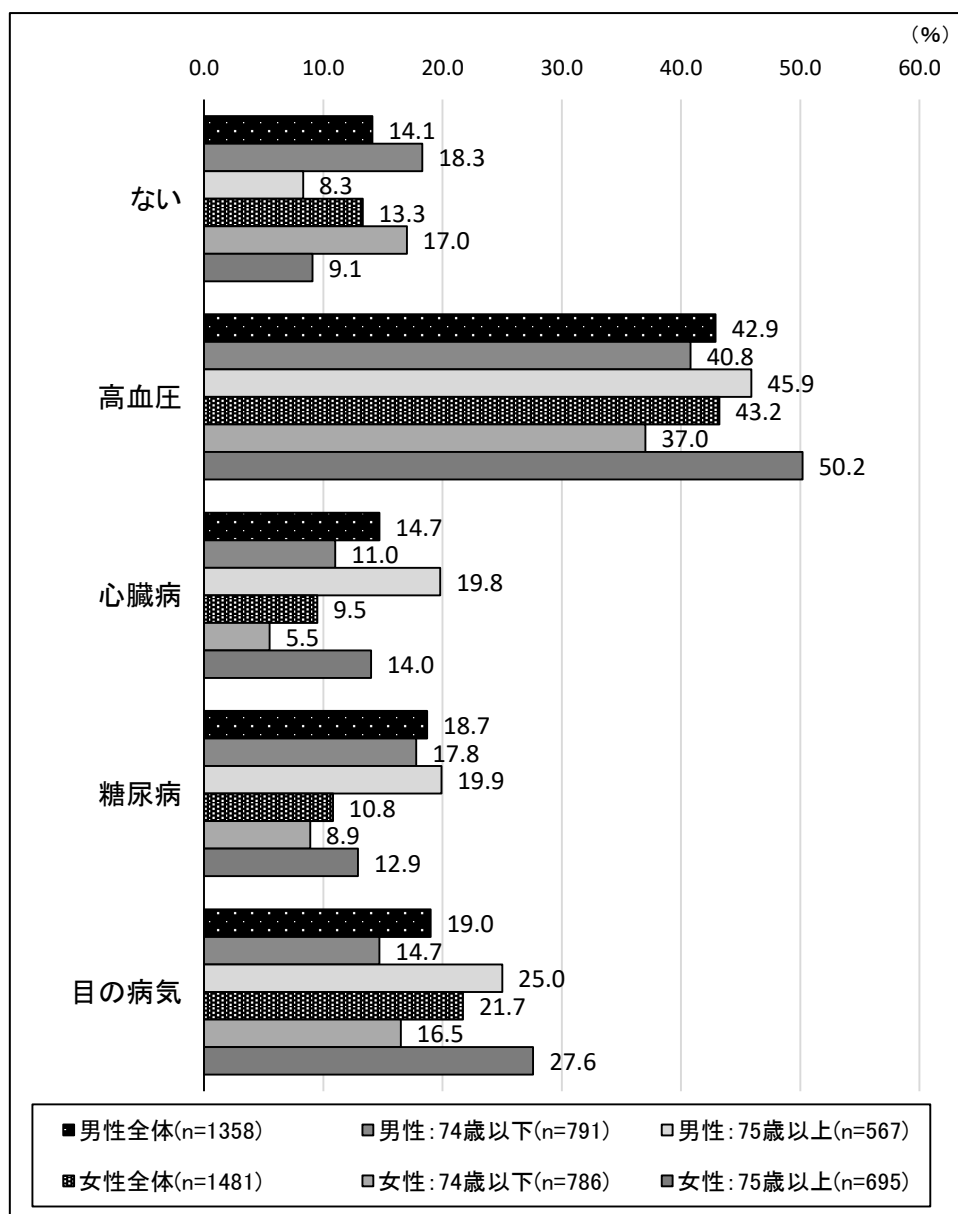
市全体では、「高血圧」が最も高く 43.1%となっている。次いで「目の病気」が 20.4%、「糖尿病」が 14.6%、「ない」が 13.7%と続く。



〈性年代別〉:上位五項目

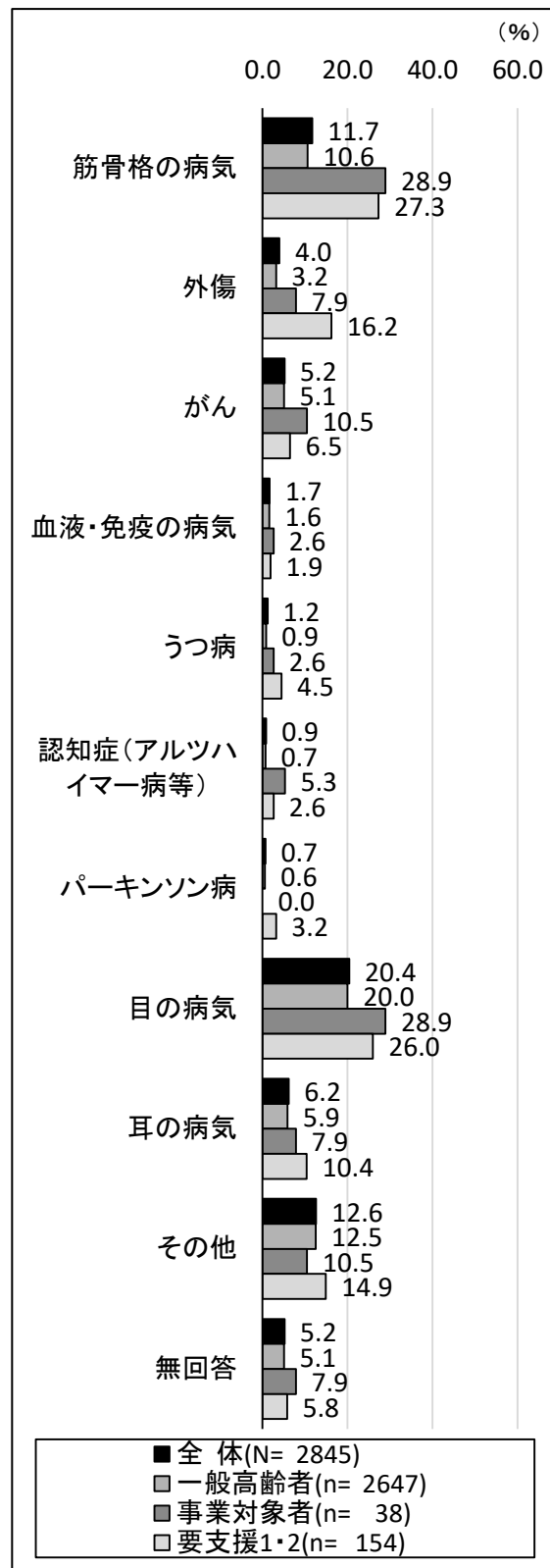
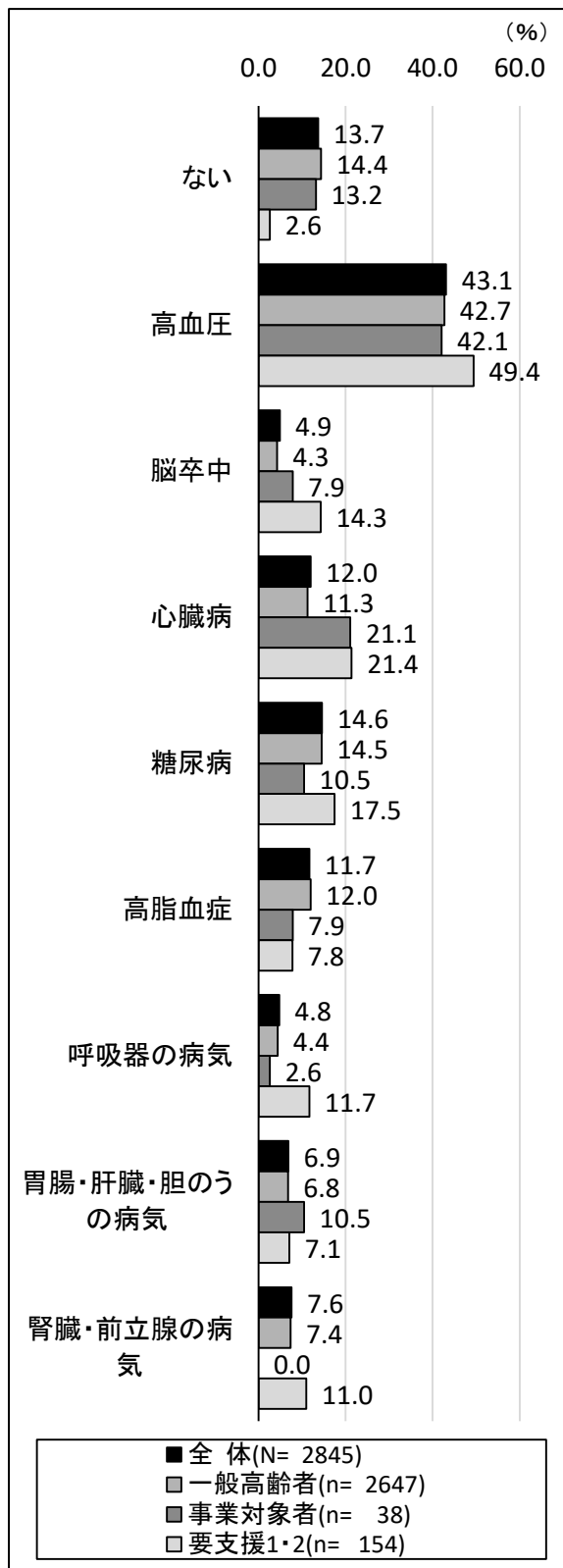
性別では、「心臓病」、「糖尿病」において女性よりも男性の方が高くなっており、男性「心臓病」が14.7%であるのに対し、女性「心臓病」が9.5%。男性「糖尿病」が18.7%であるのに対し、女性「糖尿病」が10.8%となっている。一方、「目の病気」では男性よりも女性の方が高くなっており、女性「目の病気」が21.7%であるのに対し、男性「目の病気」は19.0%である。

年代別では、年代が上がるとう「ない」の割合が減少しており、75歳以上の年代では多くの人が何らかの病気を患っている状態にある。実際、上位五項目に含まれる「高血圧」、「心臓病」、「糖尿病」、「目の病気」では性別に関係なく、年代が上がるとう有病率が増加している。



〈要介護度別〉

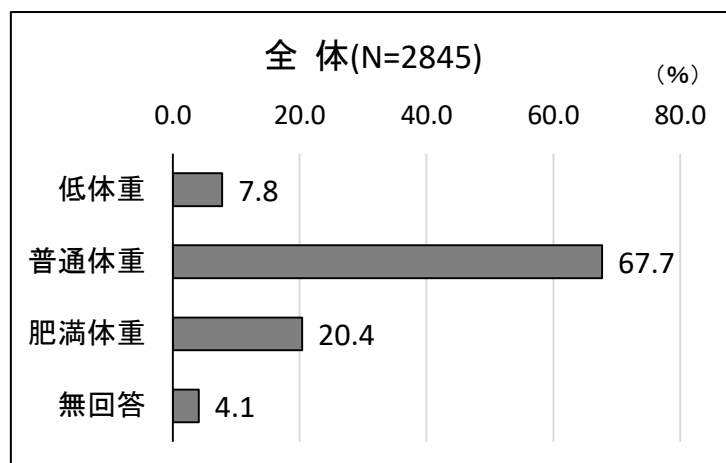
要介護度別に有病率をみると、要支援 1・2 は「ない」の割合が 2.6%と他と比較して低くなっている。事業対象者の「ない」が 13.2%であることと比較すると、要支援の認定を受けている回答者は何らかの治療中・後遺症のある病気を持っている。



4 生活習慣

(1) 肥満

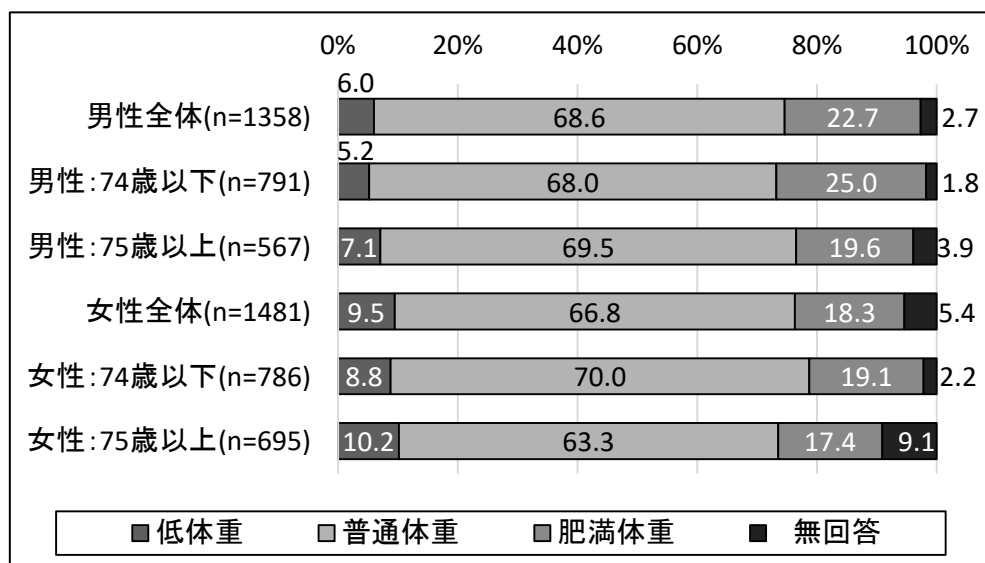
肥満や低体重の指標となる BMI(体重÷身長÷身長)判定の結果をみると、「普通体重」が最も高く全体の 67.7%を占めている。次いで「肥満体重」が 20.4%、「低体重」が 7.8%となっている。



〈性年代別〉

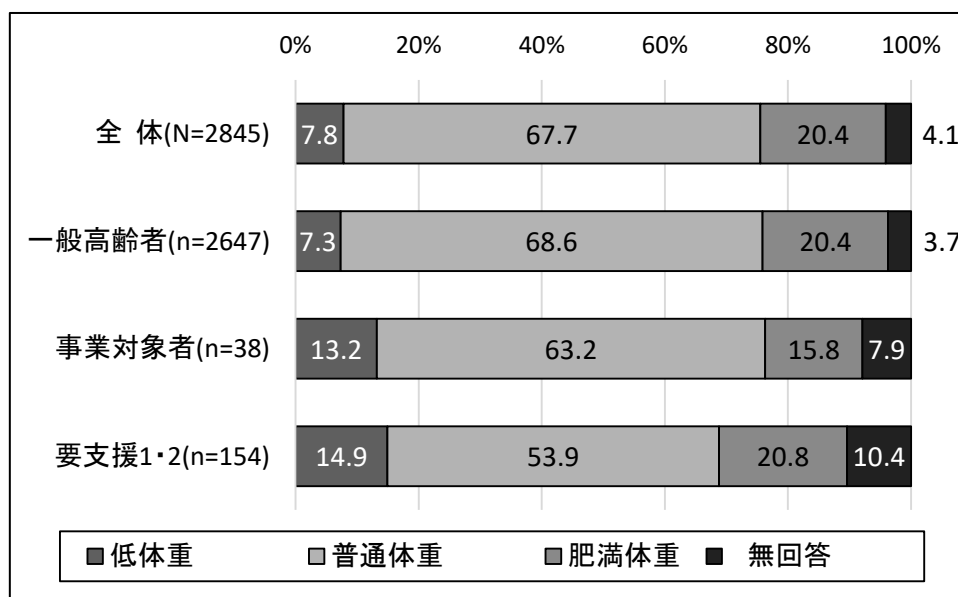
性別でみると、「低体重」は男性よりも女性の方が高くなっており、男性 6.0%、女性 9.5%である。「普通体重」と「肥満体重」については男性の方が高く、男性の「普通体重」が 68.6%、女性の「普通体重」が 66.8%である。また、男性の「肥満体重」が 22.7%であるのに対し、女性の「肥満体重」は 18.3%である。

年代別では、男性は年代が上がる「低体重」と「普通体重」が増加し、「肥満体重」は減少しているのに対し、女性は「低体重」は増加し、「普通体重」と「肥満体重」は減少している。



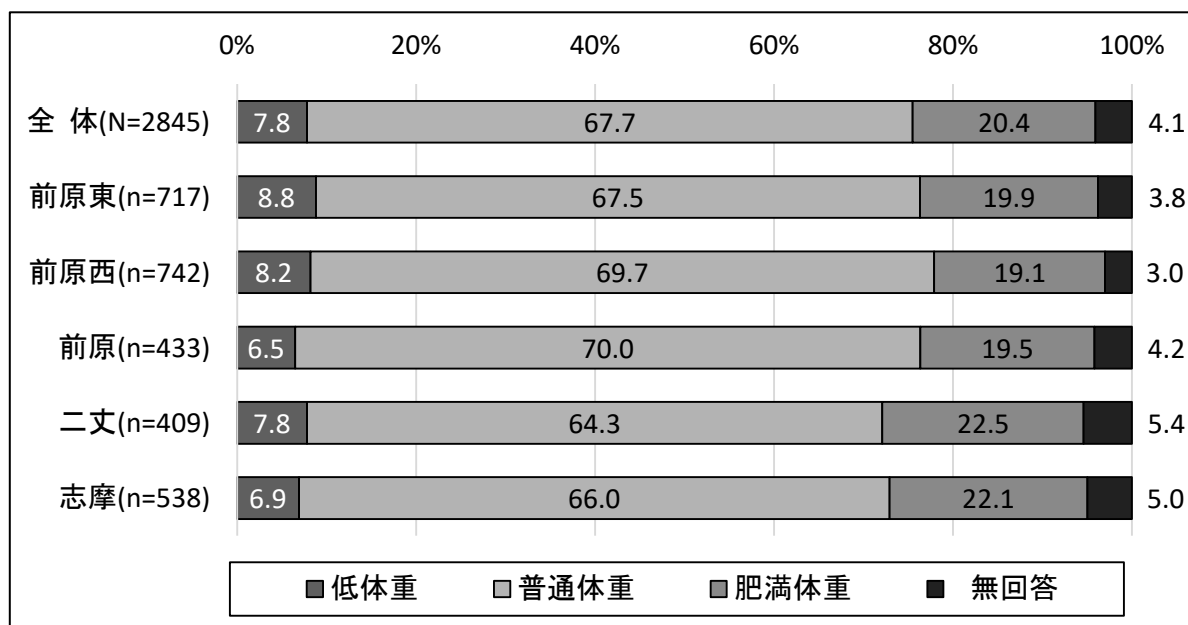
〈要介護度別〉

要介護度別に肥満度をみると、要支援 1・2 は「低体重」の割合が高くなっている。一般高齢者の「低体重」が 7.3%、事業対象者が 13.2%、要支援 1・2 が 14.9%となっている。



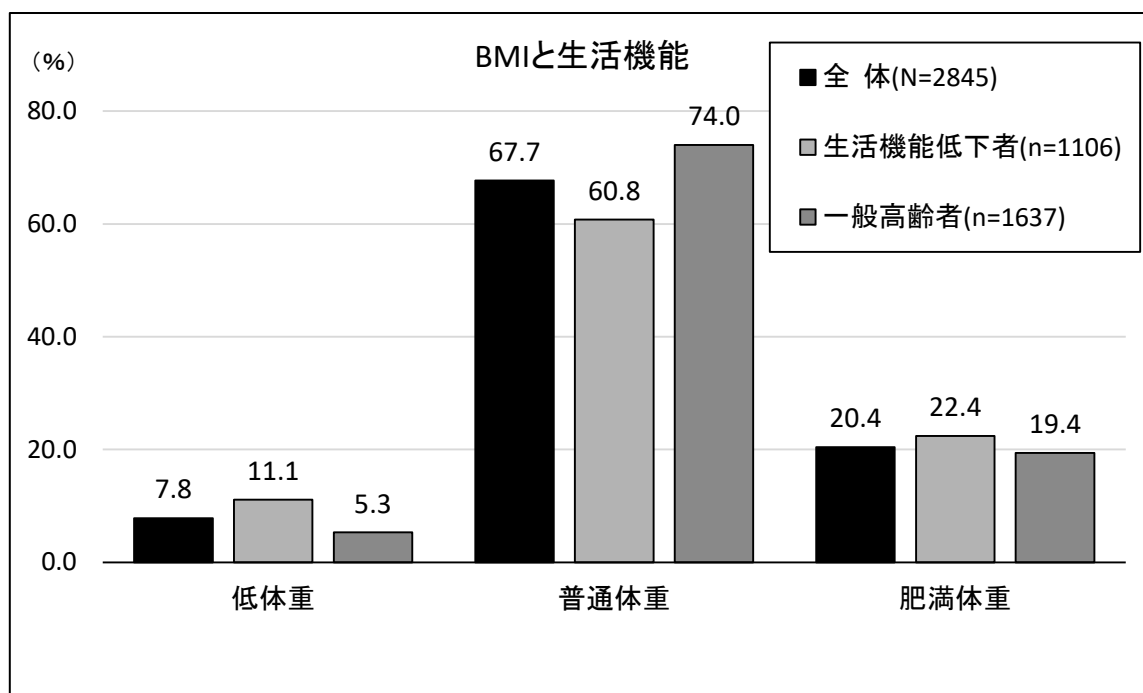
〈圏域別〉

圏域別では、「低体重」は市全体から±1 ポイント程度の幅にあり、大きな差はない。「普通体重」については前原圏域 70.0%が最も高く、次いで前原西圏域 69.7%が高くなっている。「肥満体重」については二丈圏域 22.5%、志摩圏域 22.1%が、市全体より 2 ポイントほど高くなっている。



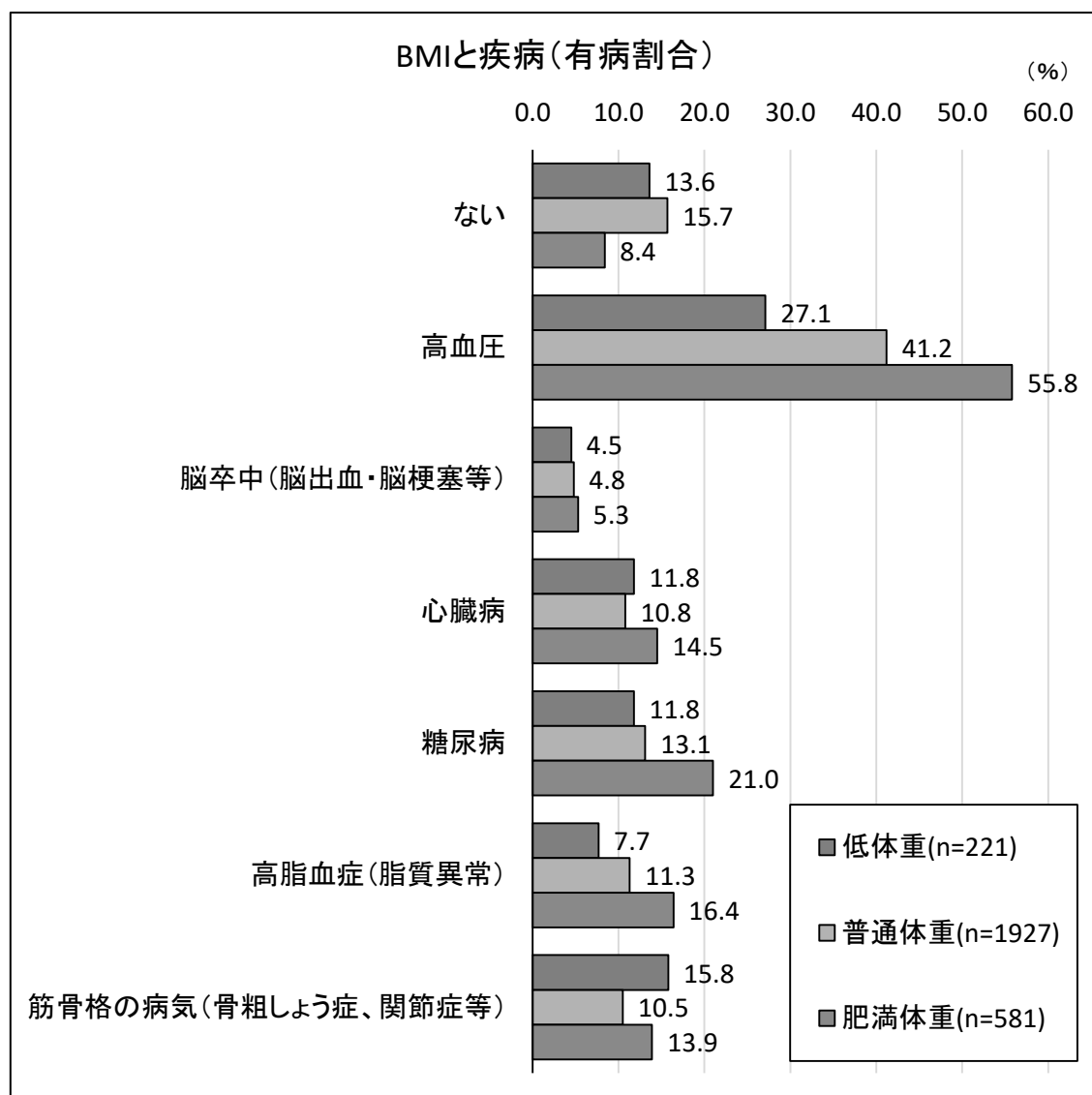
1) 肥満度と生活機能

肥満度と生活機能との関連についてみると、生活機能低下者は一般高齢者と比較して「低体重」と「肥満体重」の割合が高くなっており、「普通体重」の割合が低くなっている。「普通体重」については一般高齢者が 74.0%であるのに対し、生活機能低下者は 60.8%であり、13.2 ポイントもの差が出ている。



2) 肥満度と疾病(ない、高血圧、脳卒中、心臓病、糖尿病、高脂血症、筋骨格の病気)

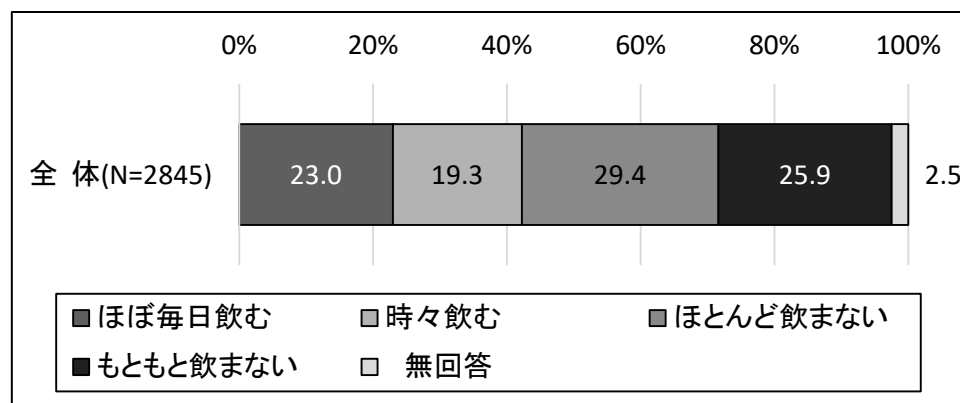
肥満度と疾病有病率との関連をみると、「肥満体重」での「高血圧」の割合が高く 55.8%となっている。そのほかにも「心臓病」14.5%、「糖尿病」21.0%、「高脂血症」16.4%などの項目で「肥満体重」が高くなっている。一方、「筋骨格の病気」では「低体重」の割合が高くなっており 15.8%となっている。



(2) 飲酒の頻度

飲酒の頻度について尋ねた。

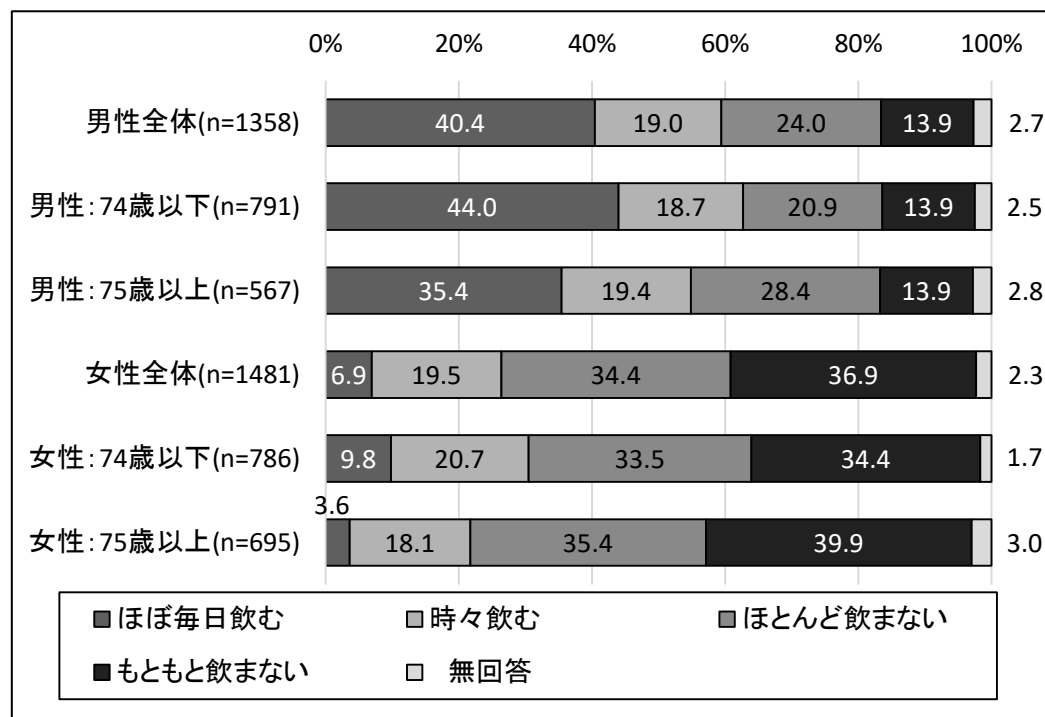
市全体でみると、「ほとんど飲まない」が最も高く 29.4%である。次いで「もともと飲まない」が 25.9%、「ほぼ毎日飲む」が 23.0%、「時々飲む」が 19.3%となっている。



〈性年代別〉

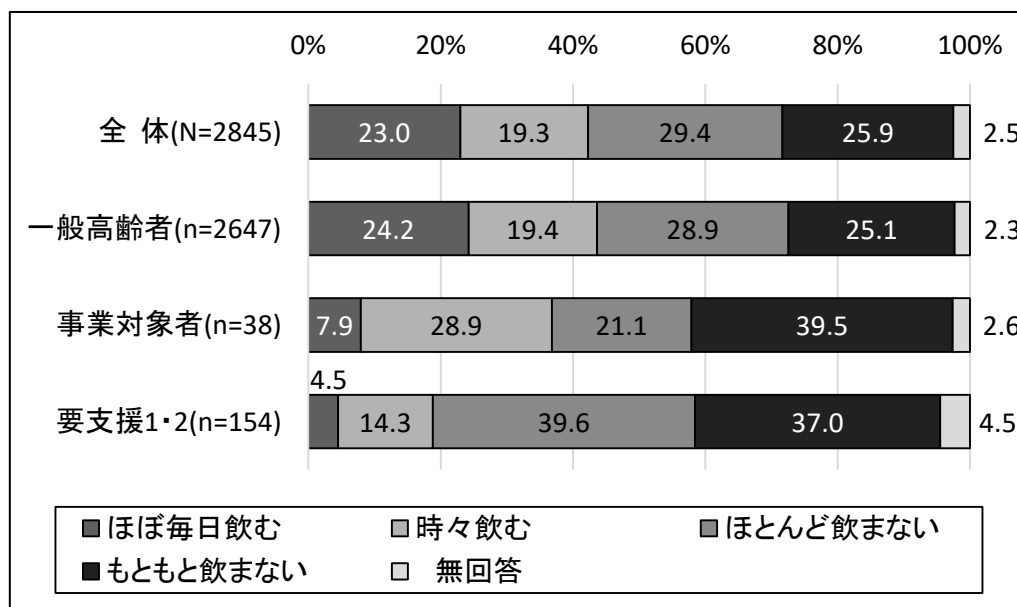
性別でみると男女で飲酒の習慣に大きな差がある。男性では「ほぼ毎日飲む」が 40.4%と最も高くなっている。一方で女性「ほぼ毎日飲む」は 6.9%しかなく、女性で最も高いのは「もともと飲まない」で 36.9%である。

年代別でみると、性別に関係なく年代が上がるほど、飲酒の頻度は減少していく。



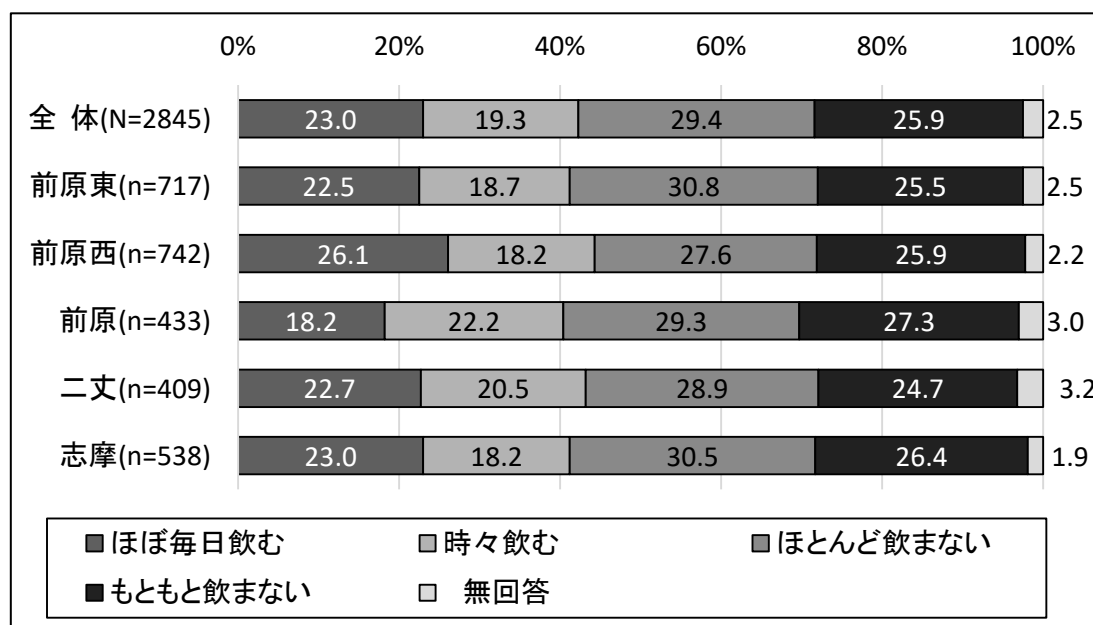
〈要介護度別〉

要介護度別に飲酒状況をみると、要支援 1・2 は「ほとんど飲まない」が 39.6%と高くなっており、飲酒の習慣が一般高齢者、事業対象者と比較し少なくなっている。



〈圏域別〉

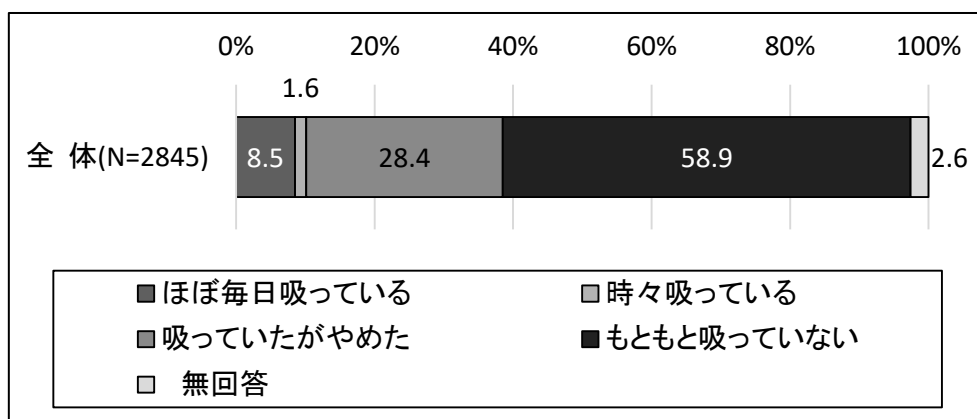
圏域別にみると、前原西圏域は他圏域よりもやや「ほぼ毎日飲む」26.1%の割合が高く、飲酒頻度が高い。一方、前原圏域は「ほぼ毎日飲む」が 18.2%と他圏域よりもやや低く、「時々飲む」22.2%の割合がやや高い。



(3) 喫煙の頻度

喫煙の頻度について尋ねた。

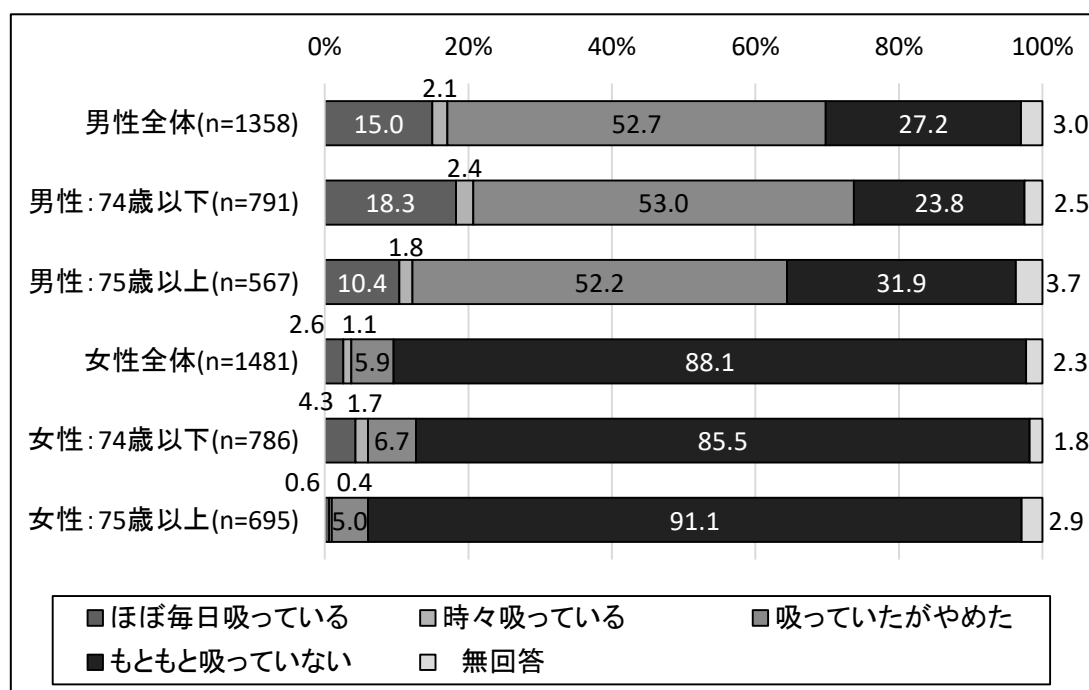
市全体では、「もともと吸っていない」が最も高く 58.9%である。次いで「吸っていたがやめた」が 28.4%である。



〈性年代別〉

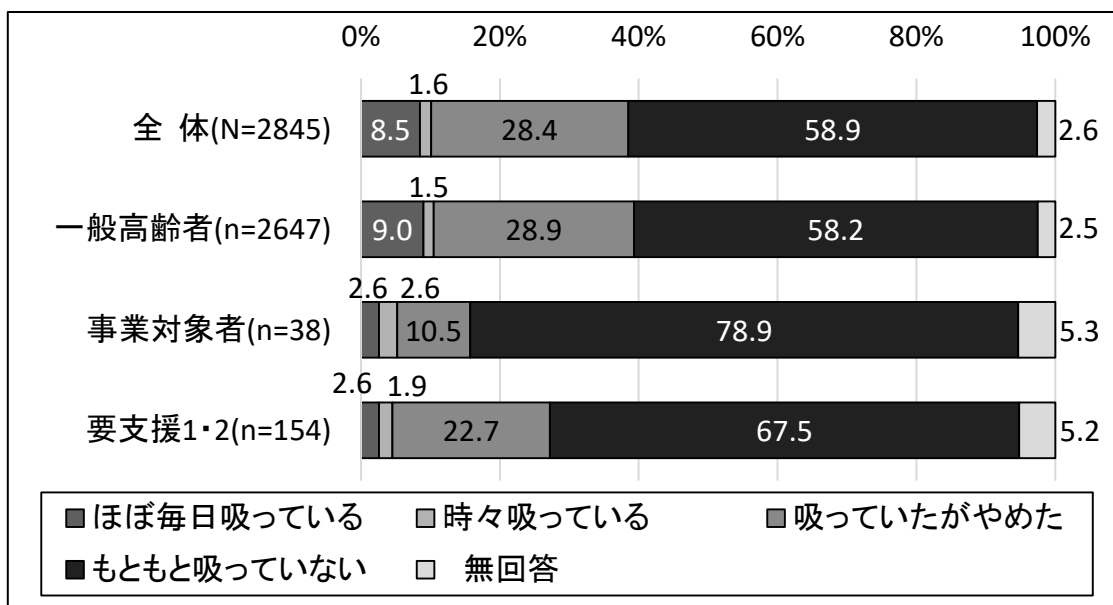
性別では、男性は「吸っていたがやめた」が 52.7%で最も高いのに対し、女性は「もともと吸っていない」が 88.1%で最も高くなっている。「ほぼ毎日吸っている」については男性 15.0%、女性 2.6%であり、男性の方が喫煙習慣を持っている。

年代別では、性別にかかわらず年代が上がると喫煙の頻度が減少する。



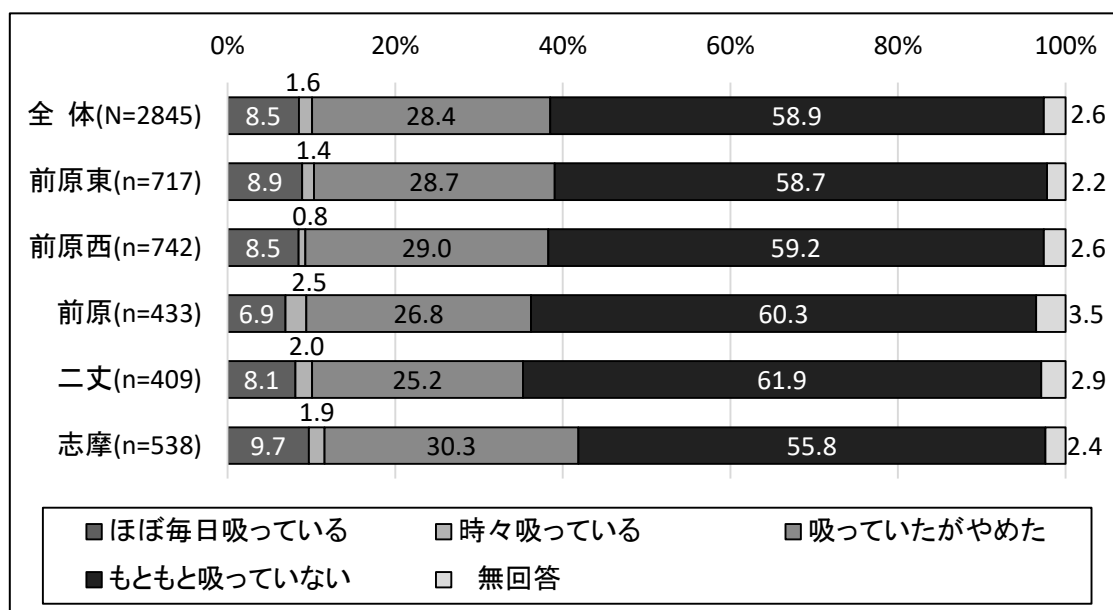
〈要介護度別〉

要介護度別に喫煙習慣状況をみると、「もともと吸っていない」は事業対象者と要支援 1・2 で高くなっており、事業対象者で 78.9%、要支援 1・2 で 67.5%となっている。「吸っていたがやめた」は事業対象者でやや低くなっており 10.5%である。ただし、事業対象者、要支援 1・2 では「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」の割合が一般高齢者と比較して低くなっており 5%ほどである。



〈圏域別〉

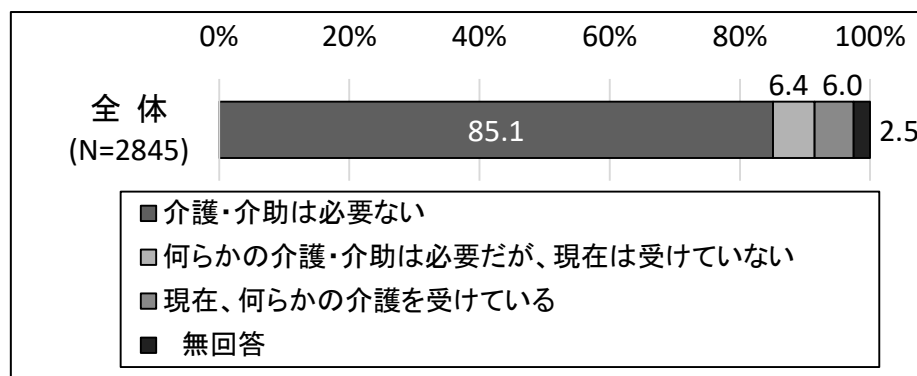
圏域別では、『吸っている(「ほぼ毎日吸っている」+「時々吸っている」)』と『吸っていない(「吸っていたがやめた」+「もともと吸っていない」)』の割合には大きな差はない。いずれの圏域も『吸っている』が 10%前後で推移している。内訳については若干の差があり、前原圏域では「ほぼ毎日吸っている」は 6.9%と他圏域と比較し若干低くなっている。



5 介護・介護予防

(1) 普段の生活における介護・介助の必要性

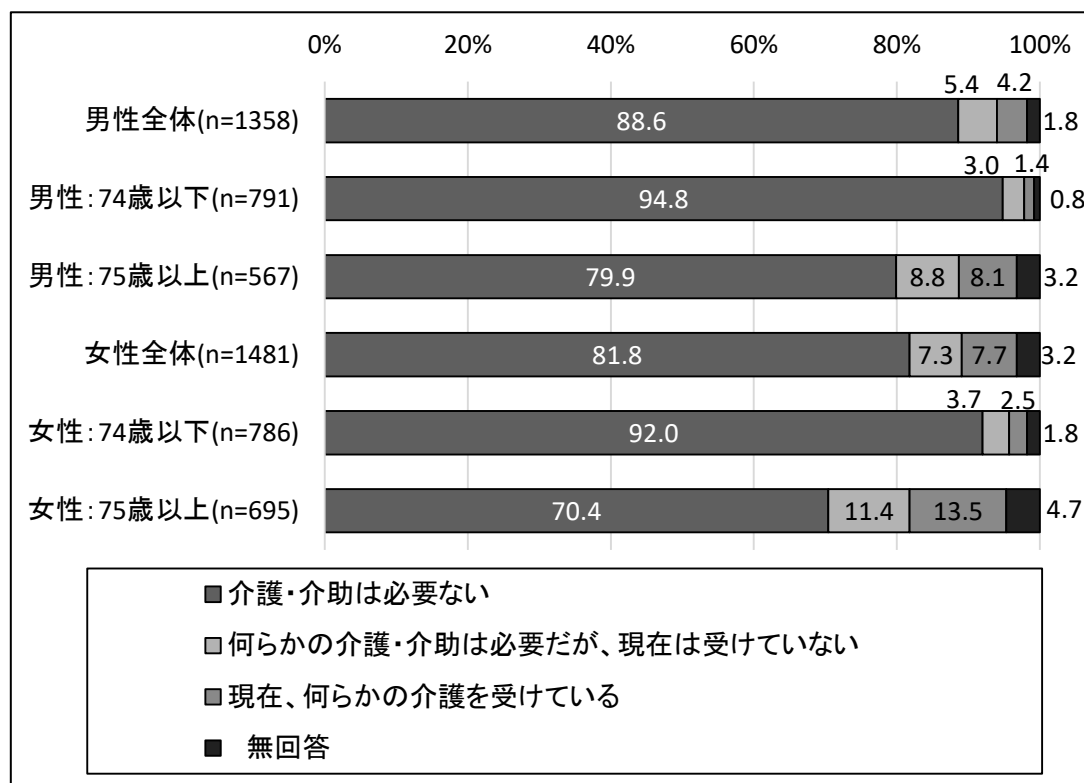
市全体でみると、「介護・介助は必要ない」が最も高く 85.1%である。次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 6.4%、「現在、何らかの介護を受けている」が 6.0%である。



〈性年代別〉

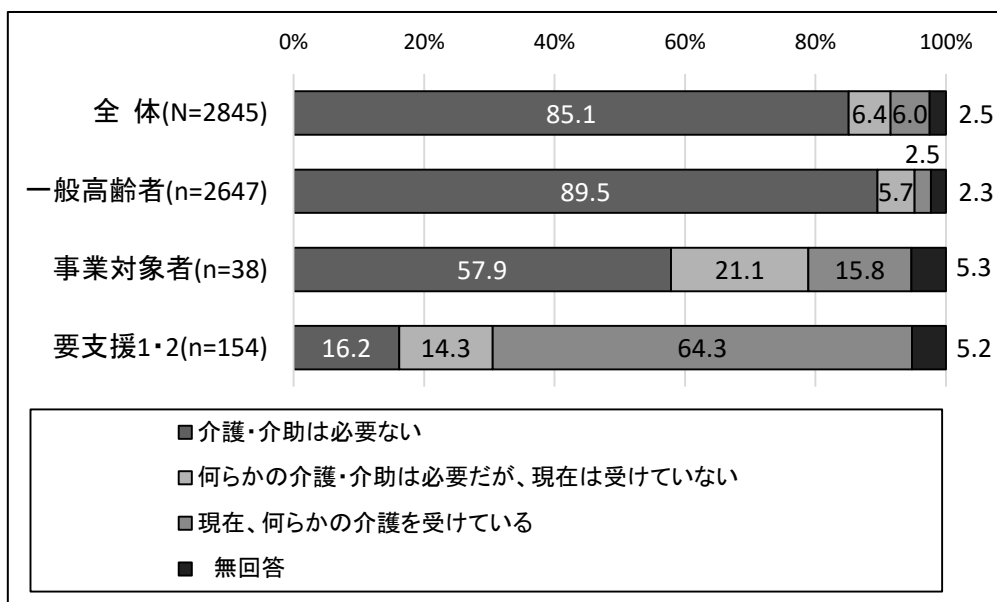
性別では「介護・介助は必要ない」は男性 88.6%、女性 81.8%で、男性の方が高くなっている。

年代別では、性別にかかわらず年代が上がるほど、何らかの介護・介助が必要となり、「介護・介助は必要ない」の割合が減少している。



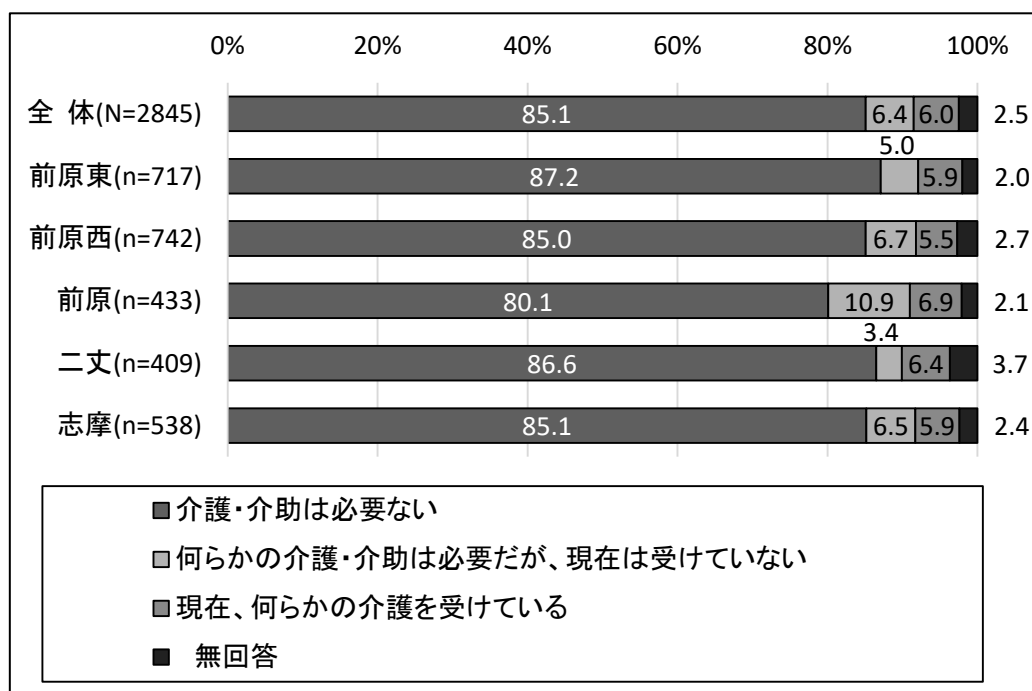
〈要介護度〉

要介護度別に介護・介助の必要性をみると、要支援 1・2 は「介護・介助は必要ない」が 16.2%と低くなっており、一般高齢者 89.5%より 70 ポイントほど低くなっている。「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は一般高齢者で 5.7%、要支援 1・2 で 14.3%であるのに対し、事業対象者では 21.1%であり最も高くなっている。



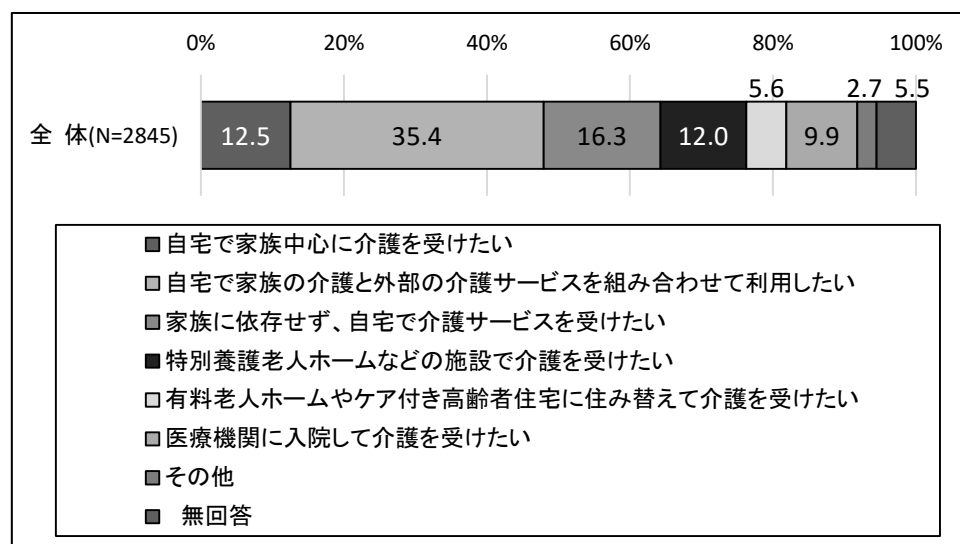
〈圏域別〉

圏域別では、前原圏域は「介護・介助は必要ない」の割合が他圏域と比較して 5 ポイントほど低く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が 10.9%と他圏域と比較し 5 ポイントほど高くなっている。



(2) 介護が必要になった際の意向

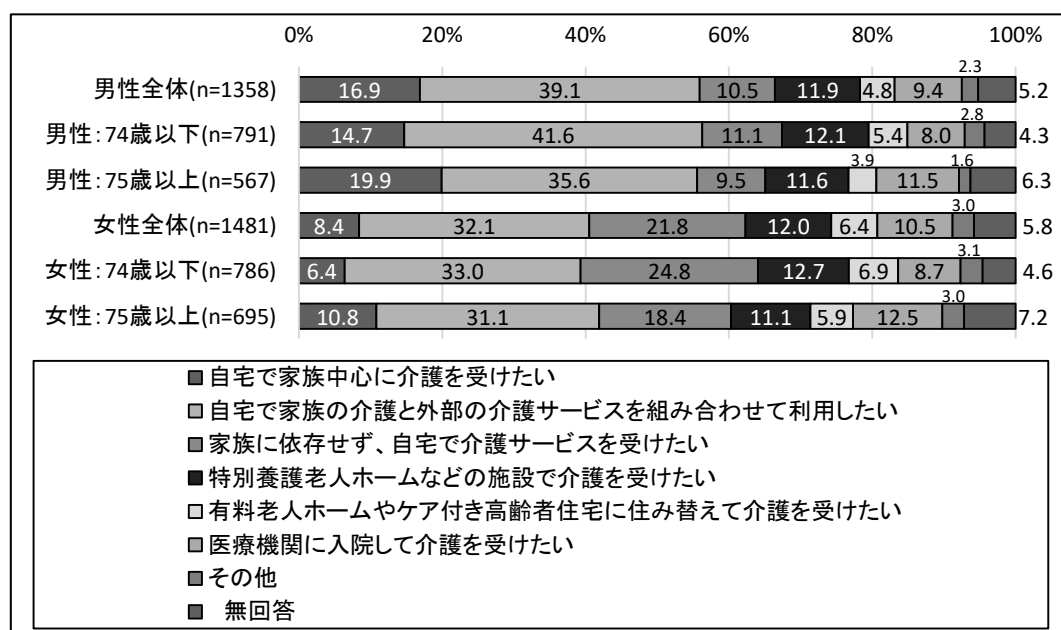
市全体では「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 35.4%で最も高くなっている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 16.3%、「自宅で家族中心に介護を受けたい」が 12.5%である。



〈性年代別〉

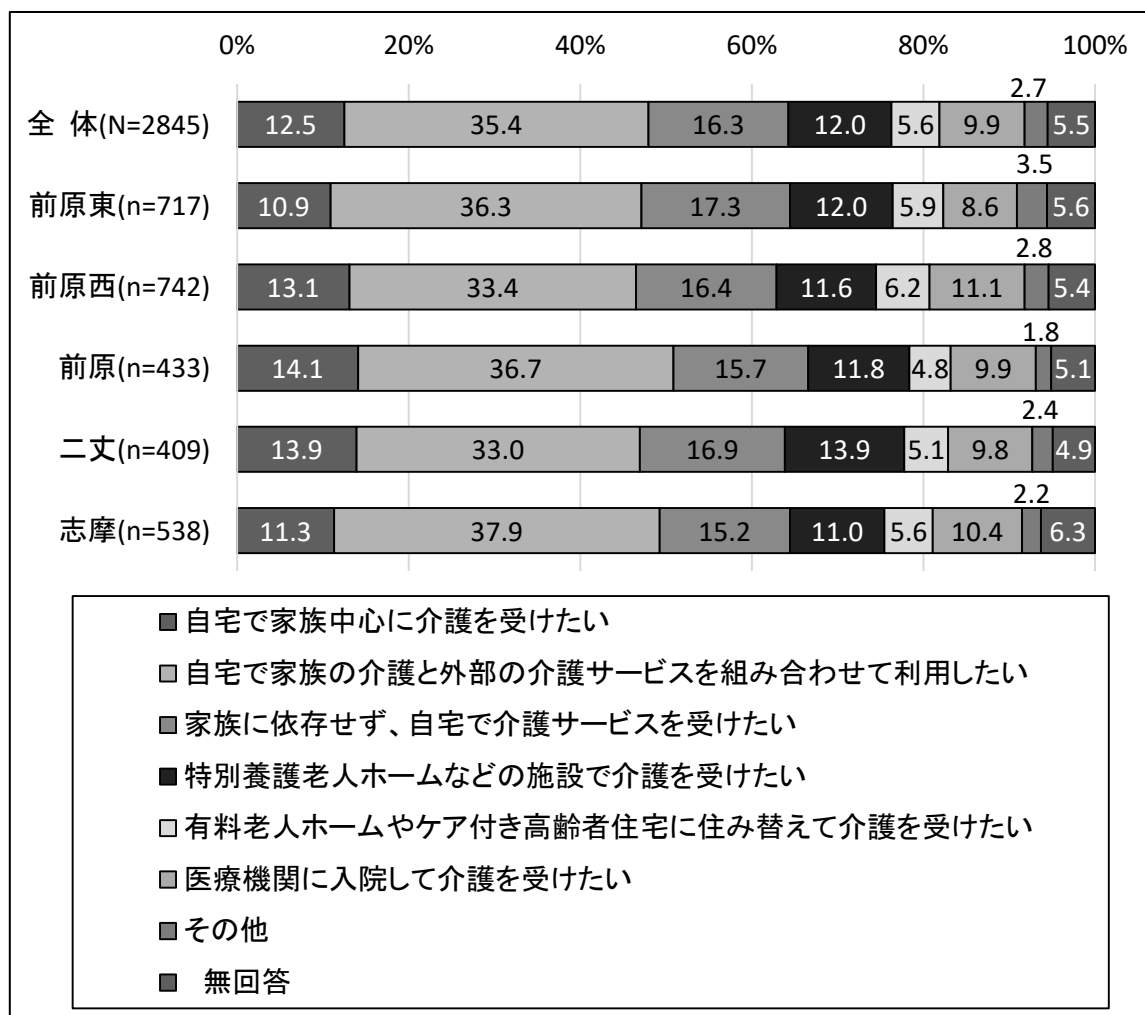
性別では、女性は男性よりも「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が高くなっており、女性 21.8%、男性 10.5%となっている。一方、男性は「自宅で家族中心に介護を受けたい」、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が女性よりも高くなっており、男性は家族からの介護を女性よりも望んでいるようである。

年代別では、年代が上がるほど、「自宅で家族中心に介護を受けたい」の割合が増加し、「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」の割合が減少する。



〈圏域別〉

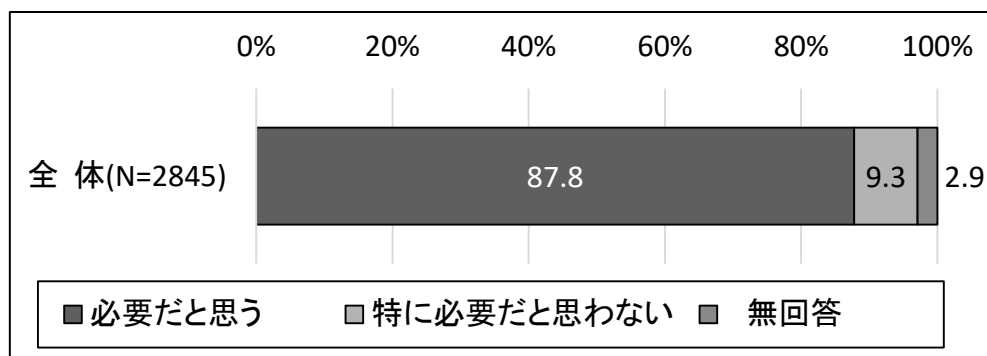
圏域別では大きな差はないが「自宅で家族中心に介護を受けたい」と「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」を合わせた『家族からの介護を受けたい』が前原圏域で唯一 50%を超えている。



(3) 介護予防の必要性

介護予防(介護を必要とする状態を防ぐこと)は必要だと思うかどうか尋ねた。

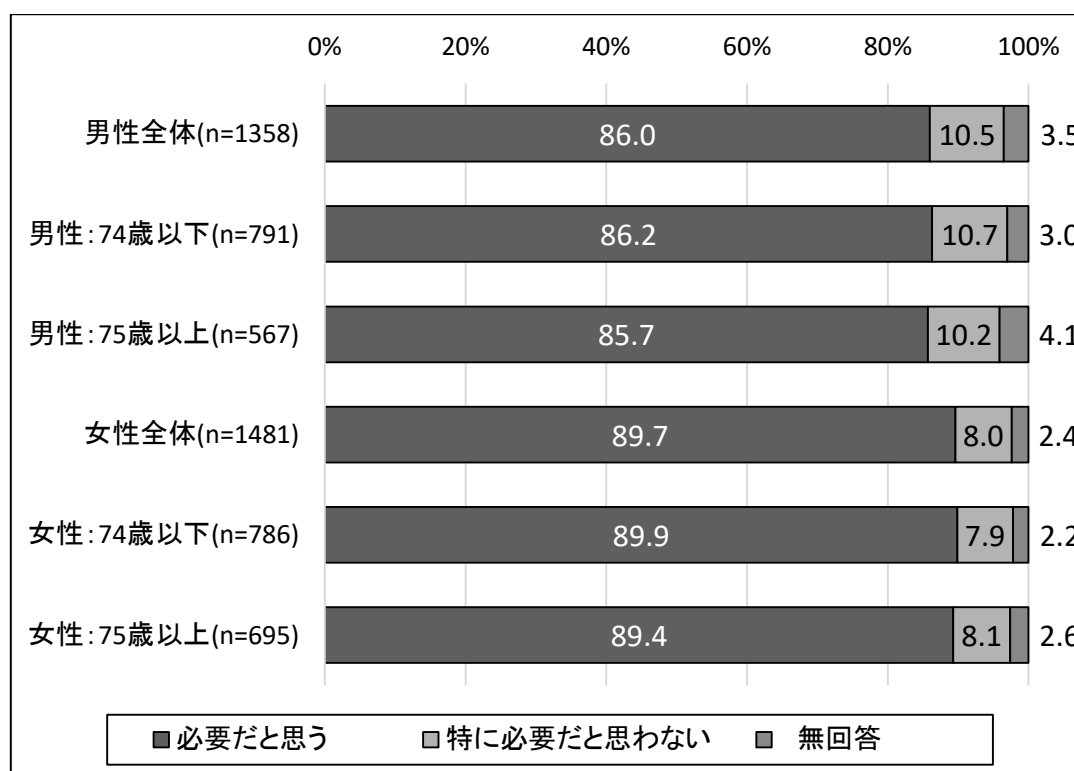
市全体では、「必要だと思う」が 87.8%で最も高くなっている。「特に必要だと思わない」は 9.3%となっている。



〈性年代別〉

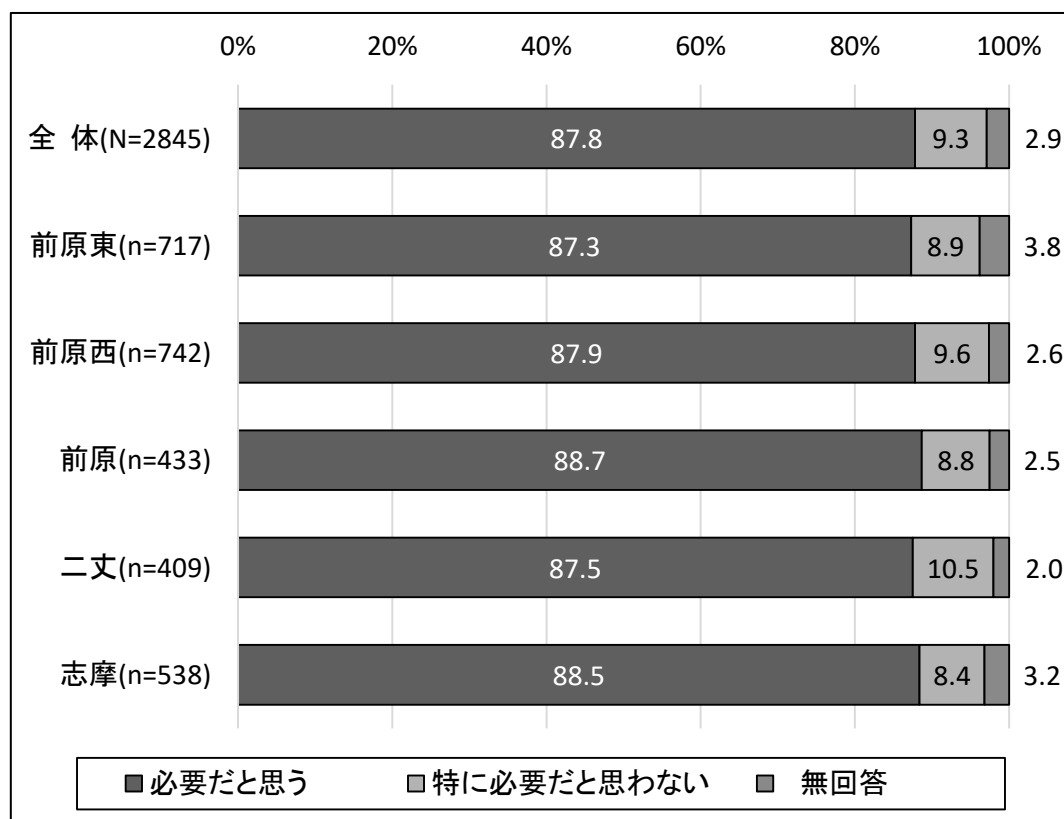
性別でみると、「必要だと思う」は男性 86.0%、女性 89.7%で、女性の方がやや高くなっている。

年代別では、大きな差はない。



〈圏域別〉

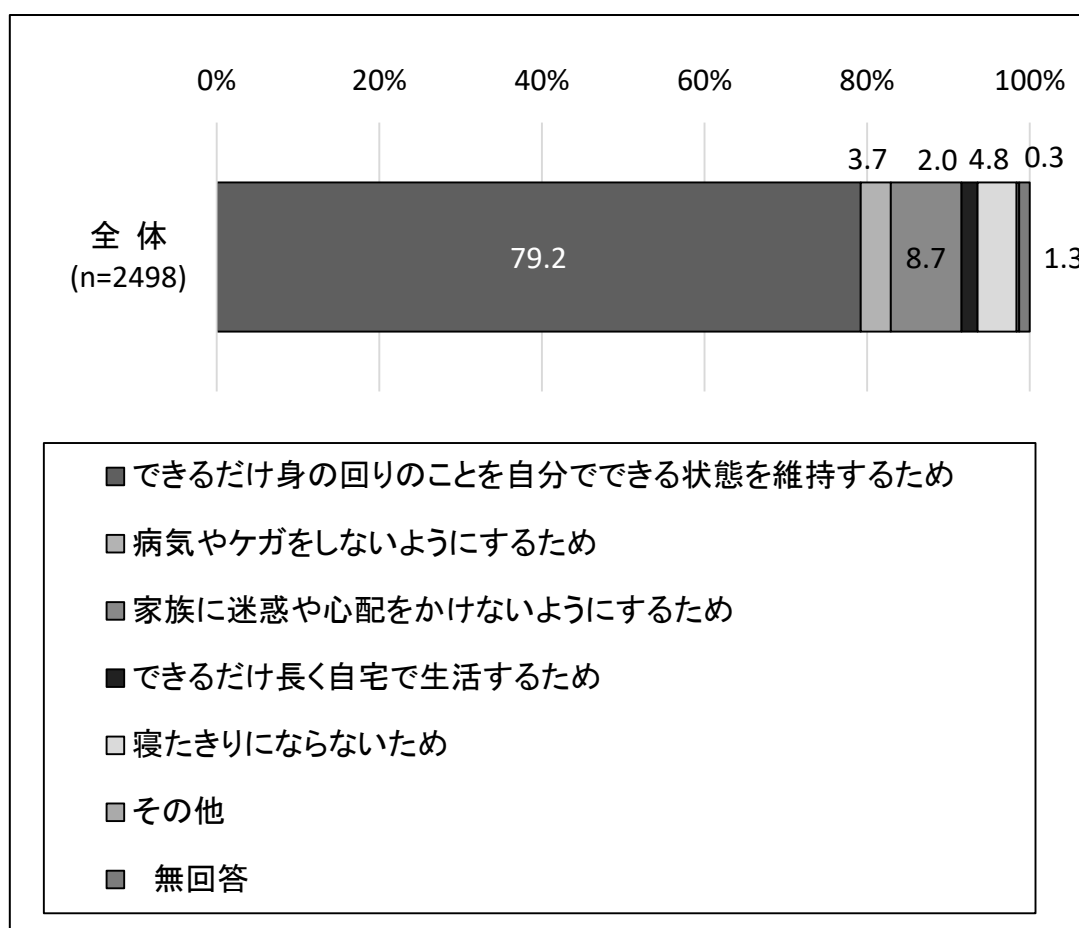
圏域別では、いずれの圏域においても「必要だと思う」が 87.5%程度の水準であり、介護予防の必要性は広く認識されている。



(4) 介護予防はなぜ必要か

前問において「必要だと思う」と回答した人に、なぜ介護予防は必要だと思うか尋ねた。

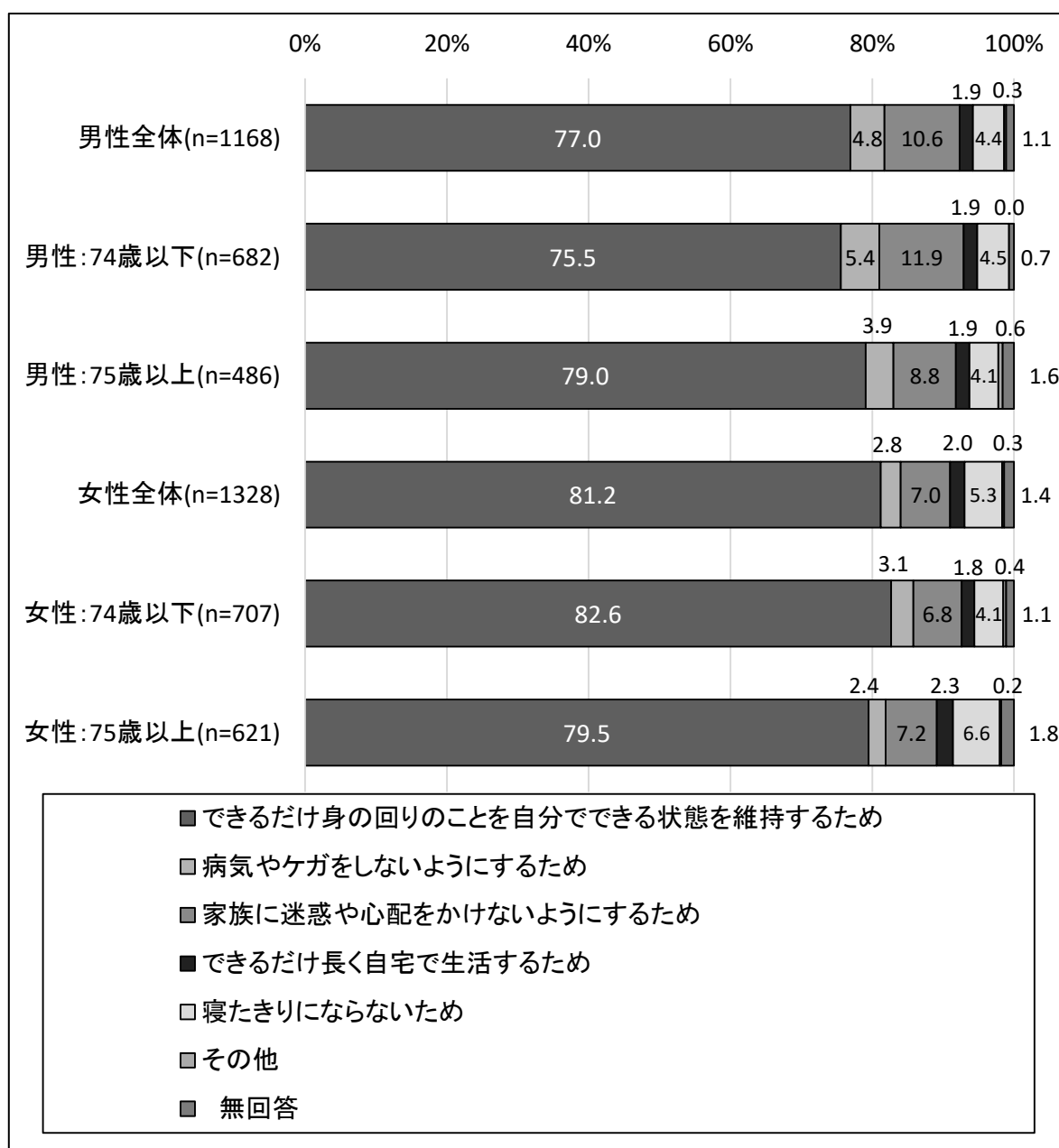
市全体では、「できるだけ身の回りのことを自分でできる状態を維持するため」が79.2%で最も高くなっている。次いで「家族に迷惑や心配をかけないようにするため」が8.7%、「寝たきりにならないため」が4.8%である。



〈性年代別〉

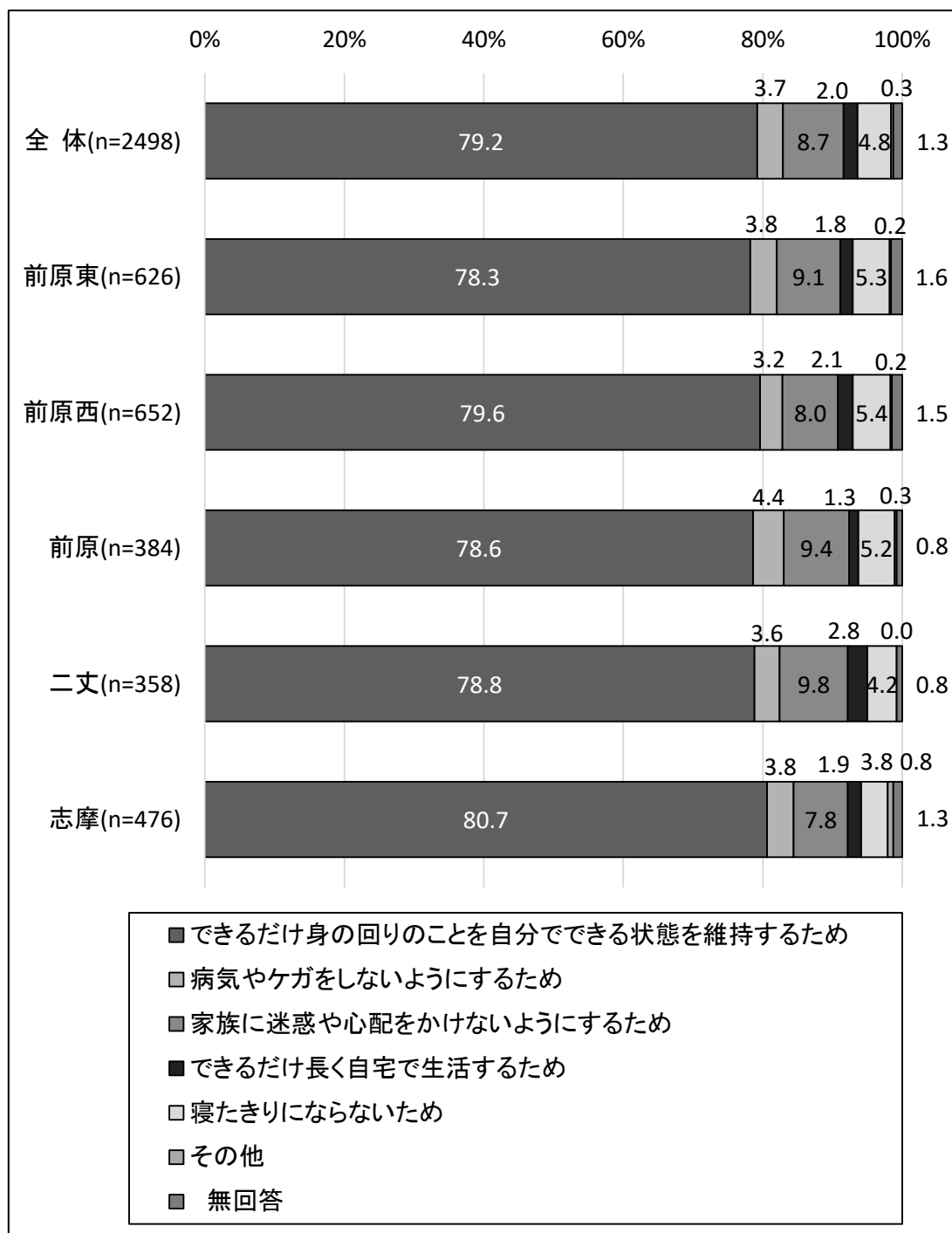
性別では、「できるだけ身の回りのことを自分でできる状態を維持するため」が男性で 77.0%、女性で 81.2%となっており、女性の方が 4 ポイントほど高い。

年代では、男性は年代が上がると「できるだけ身の回りのことを自分でできる状態を維持するため」の割合がわずかに増加するものの、女性は減少している。



〈圏域別〉

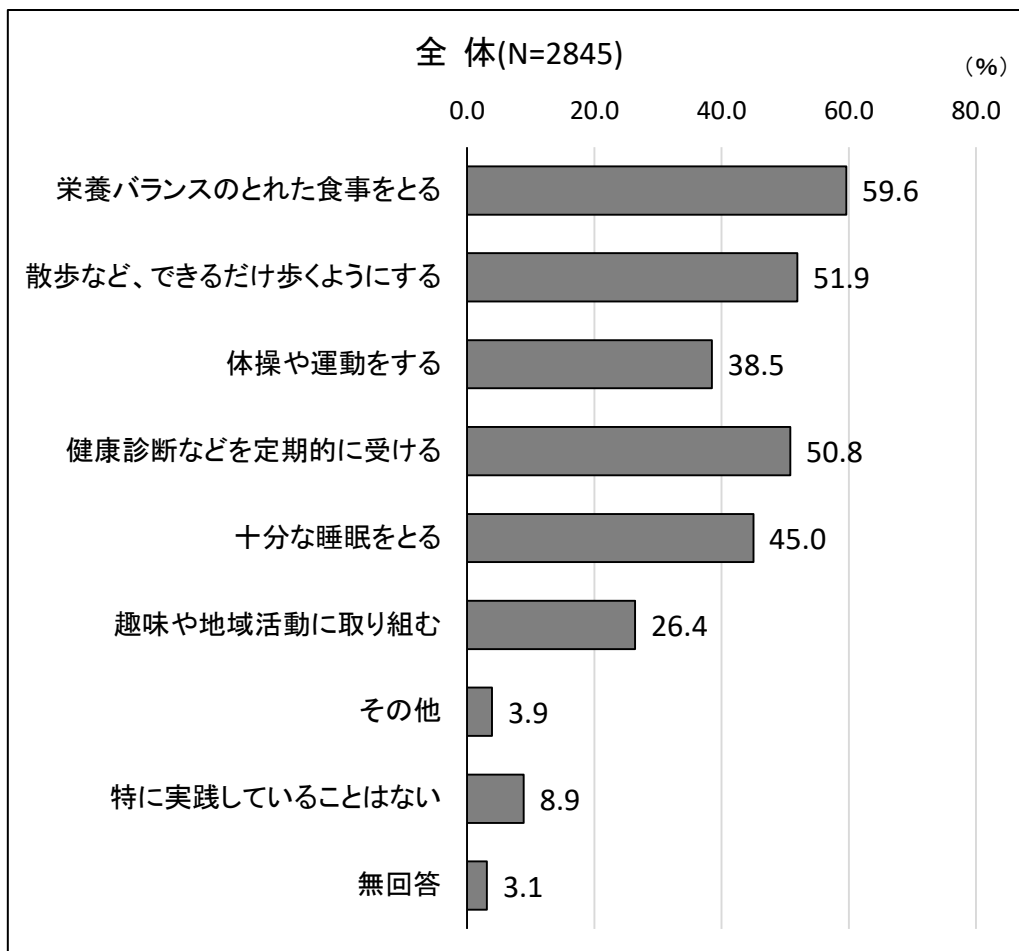
圏域別では、大きな差はない。



(5) 介護予防のために実践していること

介護予防のためにやっていることを尋ねた(複数回答)。

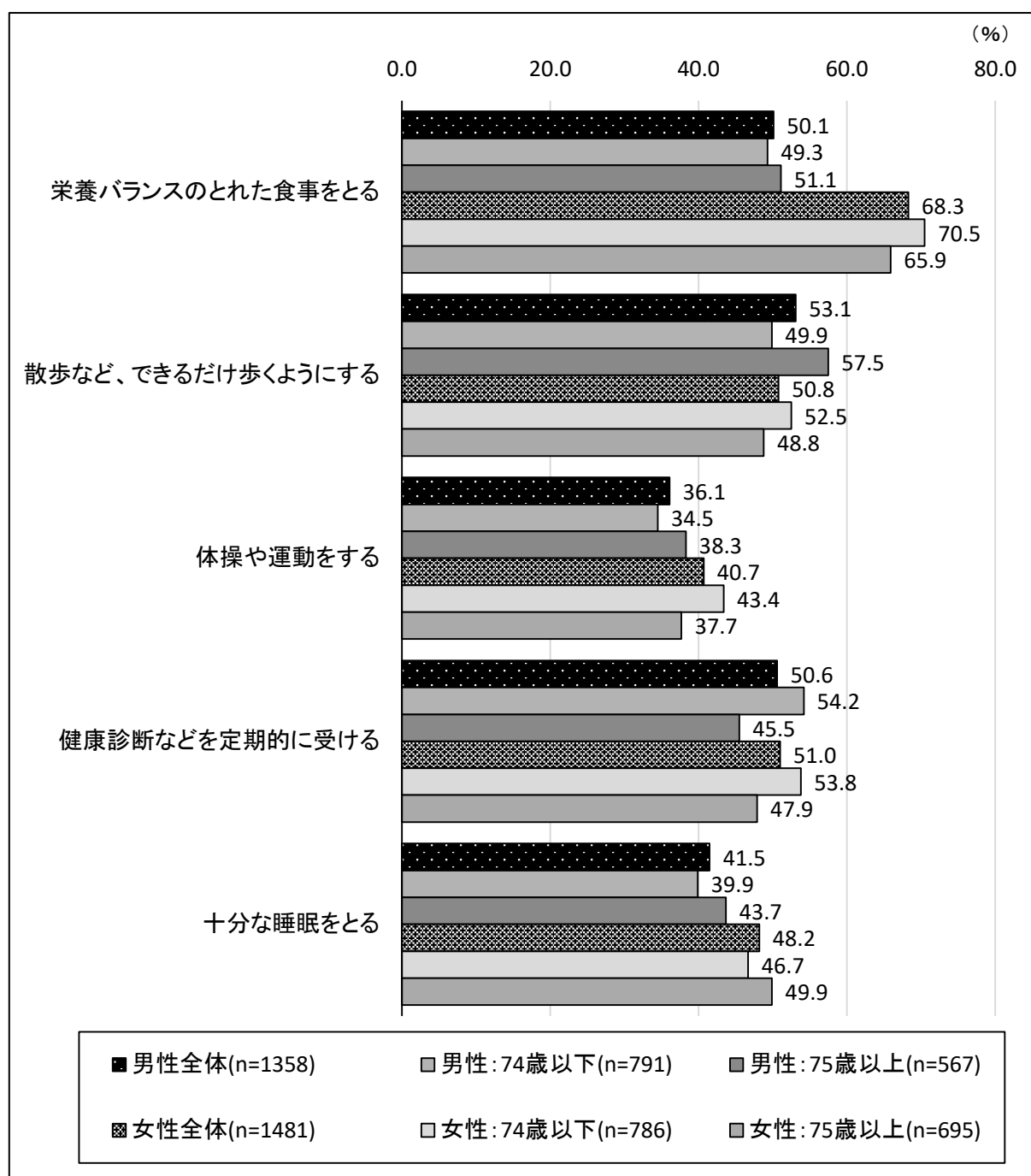
市全体では、「栄養バランスのとれた食事をする」が 59.6%で最も高く、「散歩など、できるだけ歩くようにする」が 51.9%、「健康診断などを定期的に受ける」が 50.8%、「十分な睡眠をとる」が 45.0%と続く。



〈性年代別〉:上位五項目

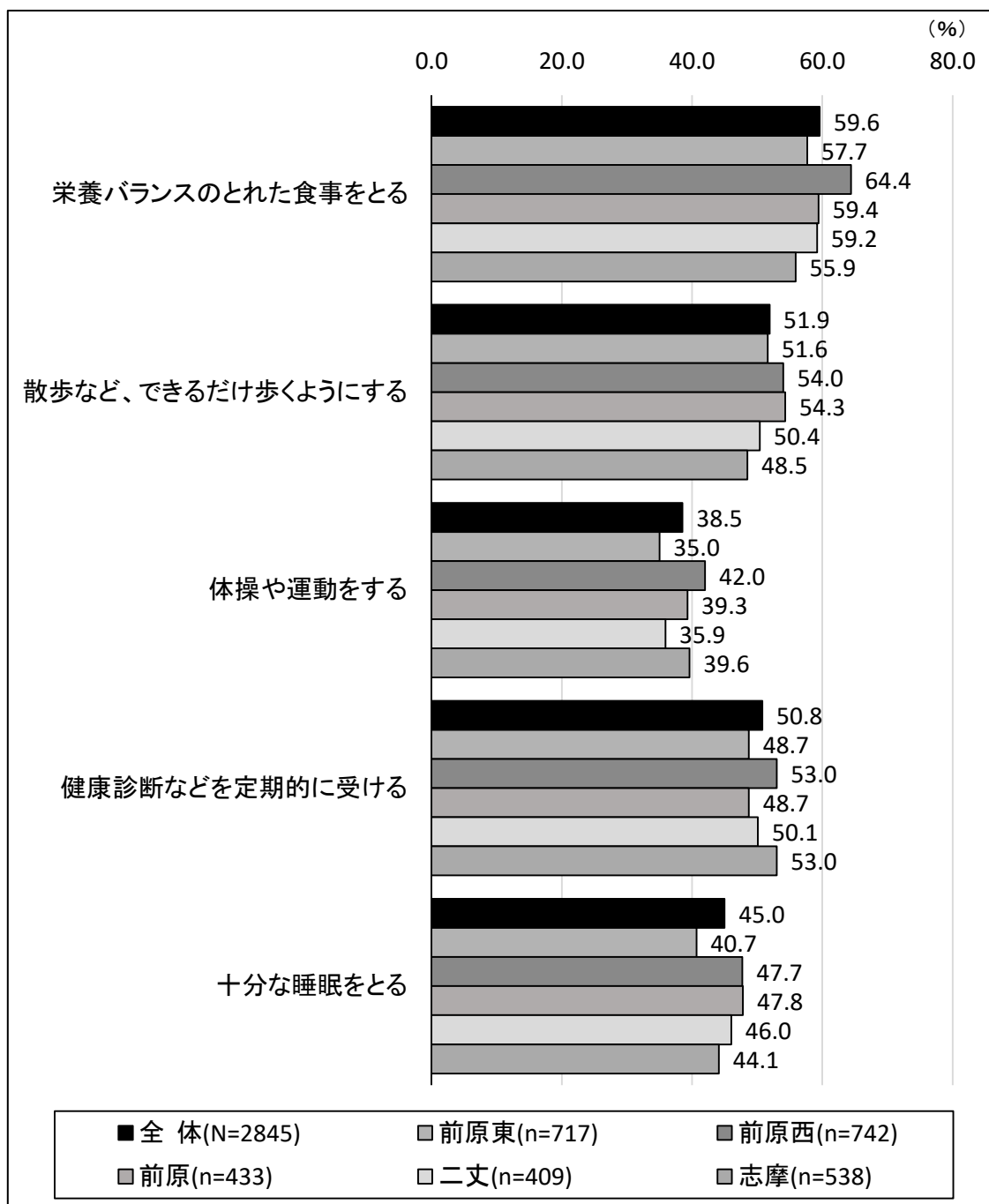
性別では、「栄養バランスのとれた食事をする」、「体操や運動をする」、「十分な睡眠をとる」等の項目で女性の方が高くなっている。男性の方が高いのは「散歩など、できるだけ歩くようにする」である。

年代別では、「散歩など、できるだけ歩くようにする」で男性 75 歳以上 57.5%が男性 74 歳以下 49.9%を上回っている。一方、女性は 75 歳以上で若干減少する。また、「健康診断などを定期的に受ける」は年代が上ると性別を問わず割合が減少している。反対に「十分な睡眠をとる」は年代が上ると増加する。



〈圏域別〉：上位五項目

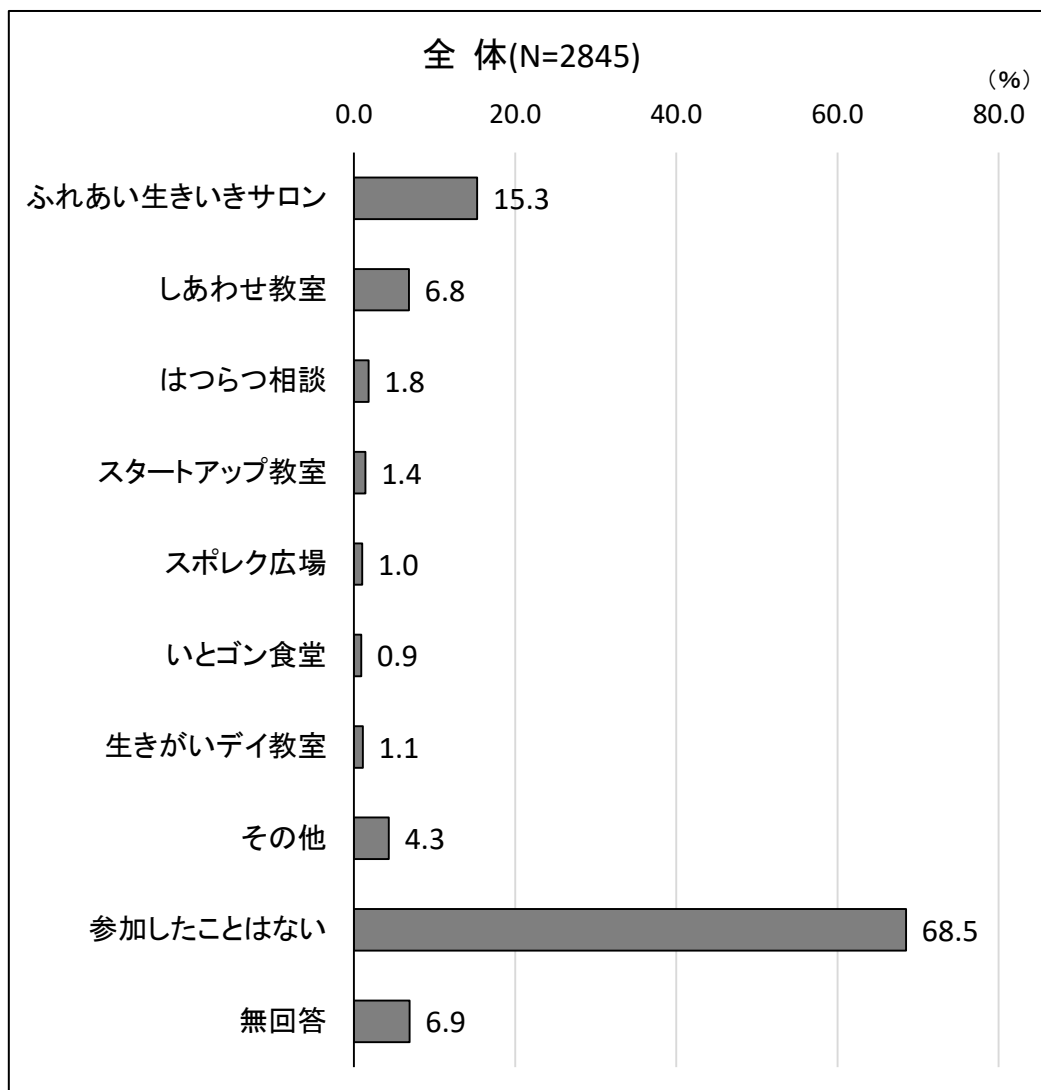
圏域別では、「栄養バランスのとれた食事をとる」は前原西圏域で 64.4%と高くなっている。「散歩など、できるだけ歩くようにする」は志摩圏域で 48.5%となり唯一 50%を下回っている。「体操や運動をする」は前原東圏域 35.0%と二丈圏域 35.9%で他圏域と比較してやや低くなっている。「健康診断などを定期的に受ける」は前原東圏域と前原圏域において 48.7%となり 50%を下回り低くなっている。「十分な睡眠をとる」は前原東圏域で 40.7%と最も低くなっている。



(6) 介護予防を目的とした活動への参加経験

介護予防を目的とした事業への参加経験について尋ねた(複数回答)。

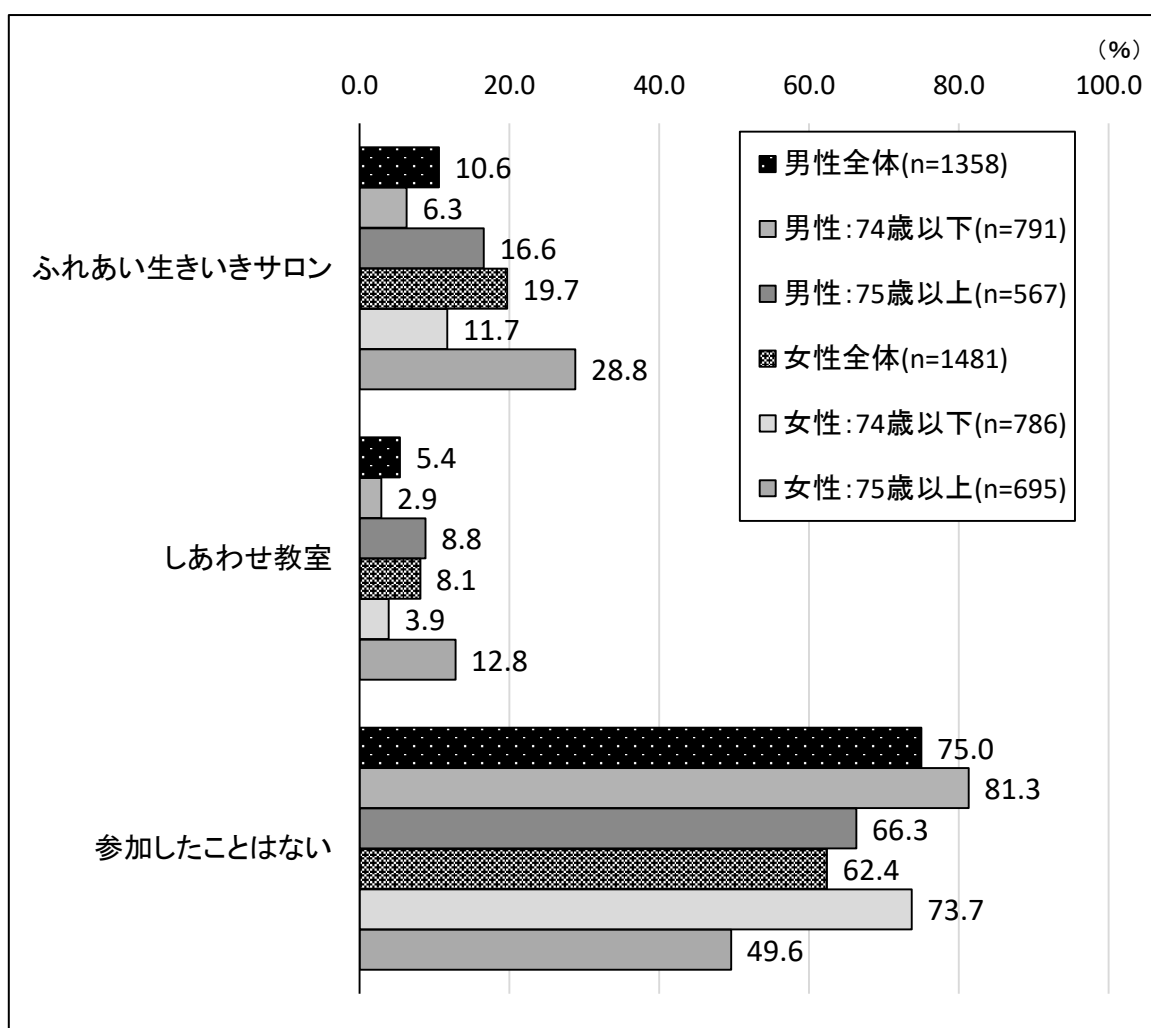
市全体では「参加したことはない」が68.5%で最も高くなっている。次いで「ふれあい生きいきサロン」の15.3%、「しあわせ教室」の6.8%となっている。



〈性年代別〉:上位三項目

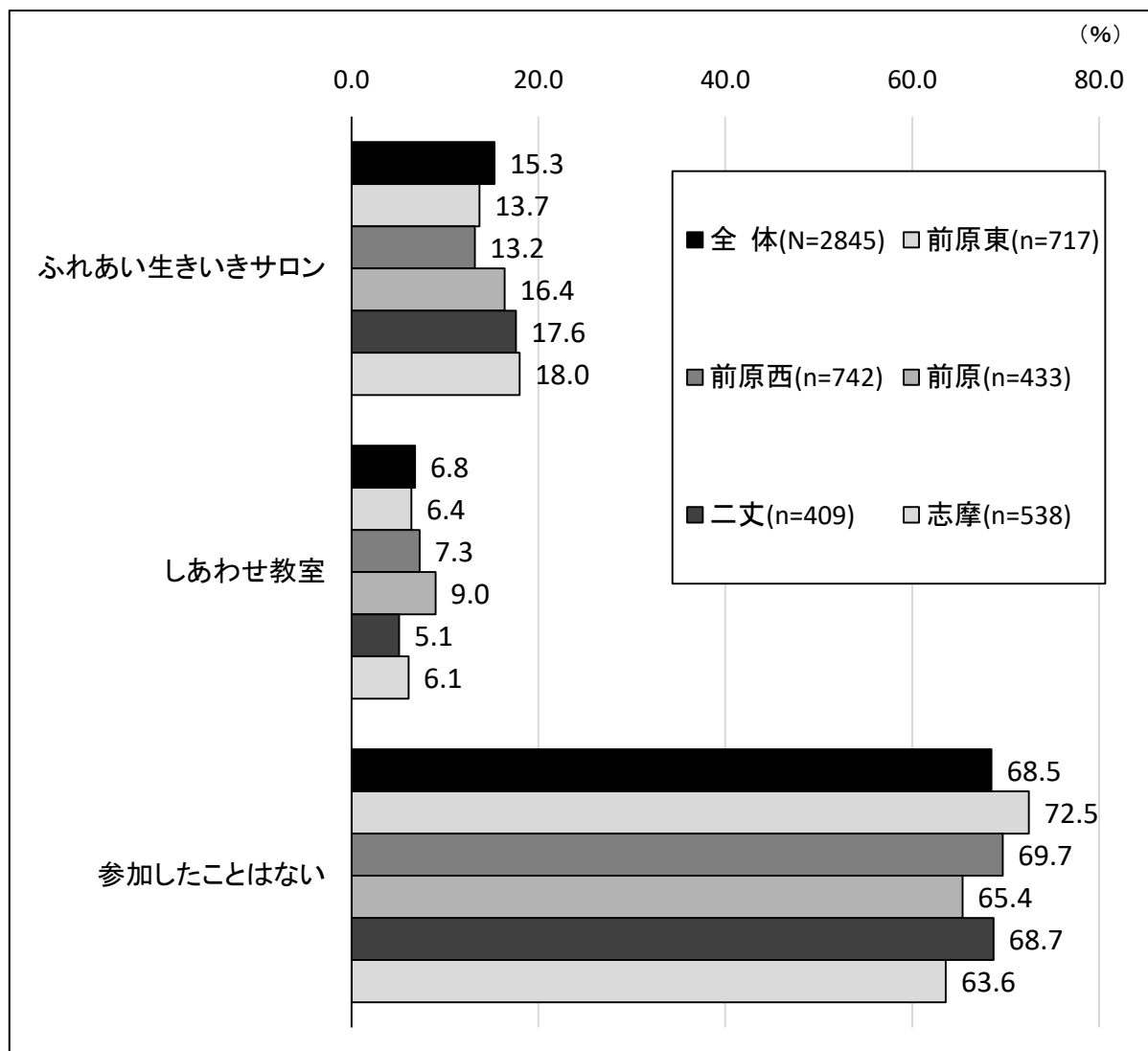
性別では、女性で男性より高いのは「ふれあい生きいきサロン」(女性 19.7%、男性 10.6%)と「しあわせ教室」(女性 8.1%、男性 5.4%)である。「参加したことはない」については男性 75.0%、女性 62.4%であり男性の方が介護予防を目的とした事業への参加経験が少ない。

年代別でみると、男女ともに、年代が上がるほどに「参加したことはない」の割合が減少し、「ふれあい生きいきサロン」、「しあわせ教室」の割合が増加している。年代が上がるほど、介護予防のための活動へ参加する傾向がある。



〈圏域別〉：上位三項目

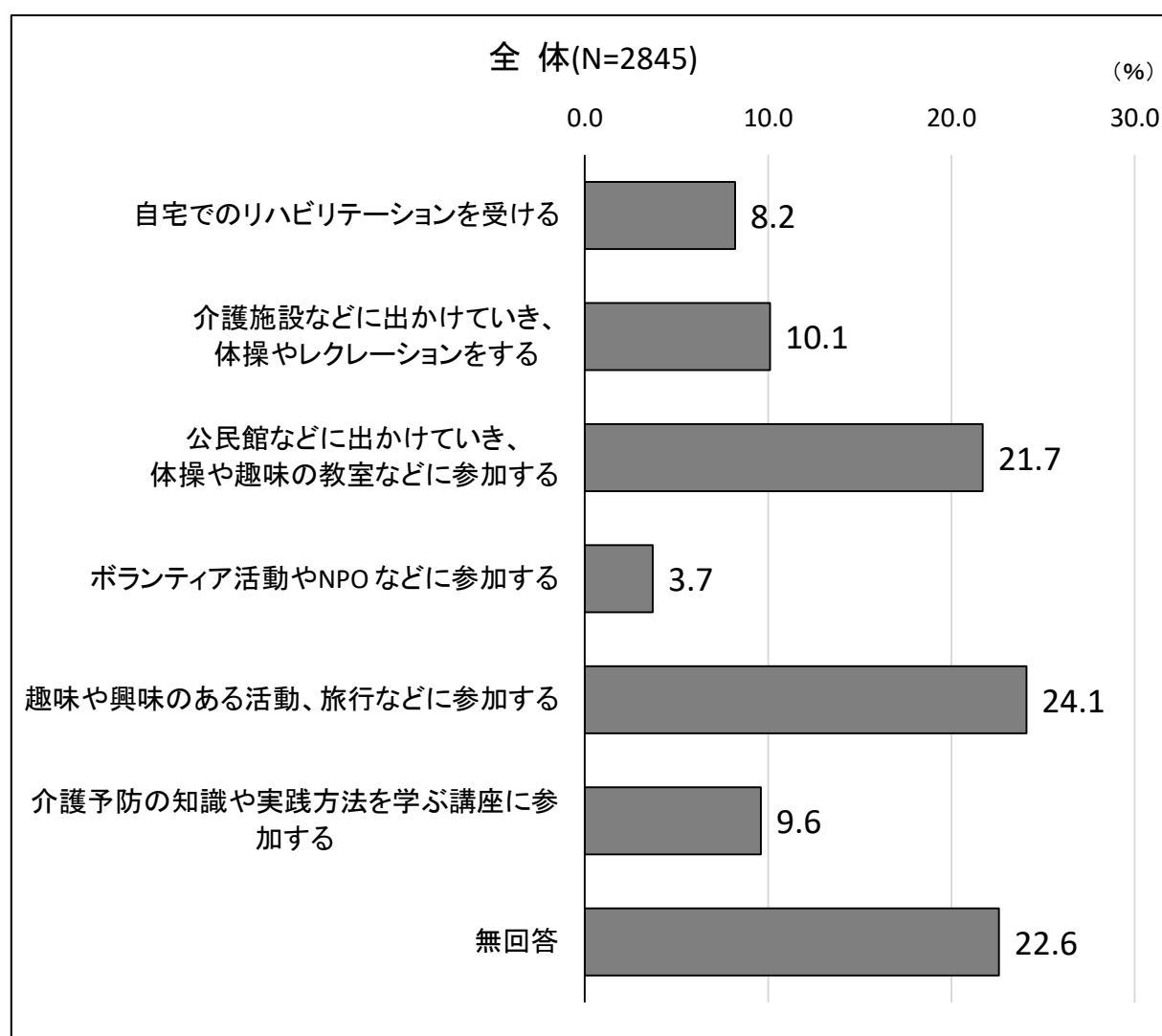
圏域別でみると、「ふれあい生きいきサロン」は志摩圏域で参加経験率が高く、18.0%となっている。「しあわせ教室」は前原圏域で9.0%と他圏域と比較しやや高くなっている。「参加したことはない」は前原東圏域で72.5%と高くなっている。



(7) 参加したい介護予防の取り組み

参加したい介護予防の取り組みについて尋ねた。

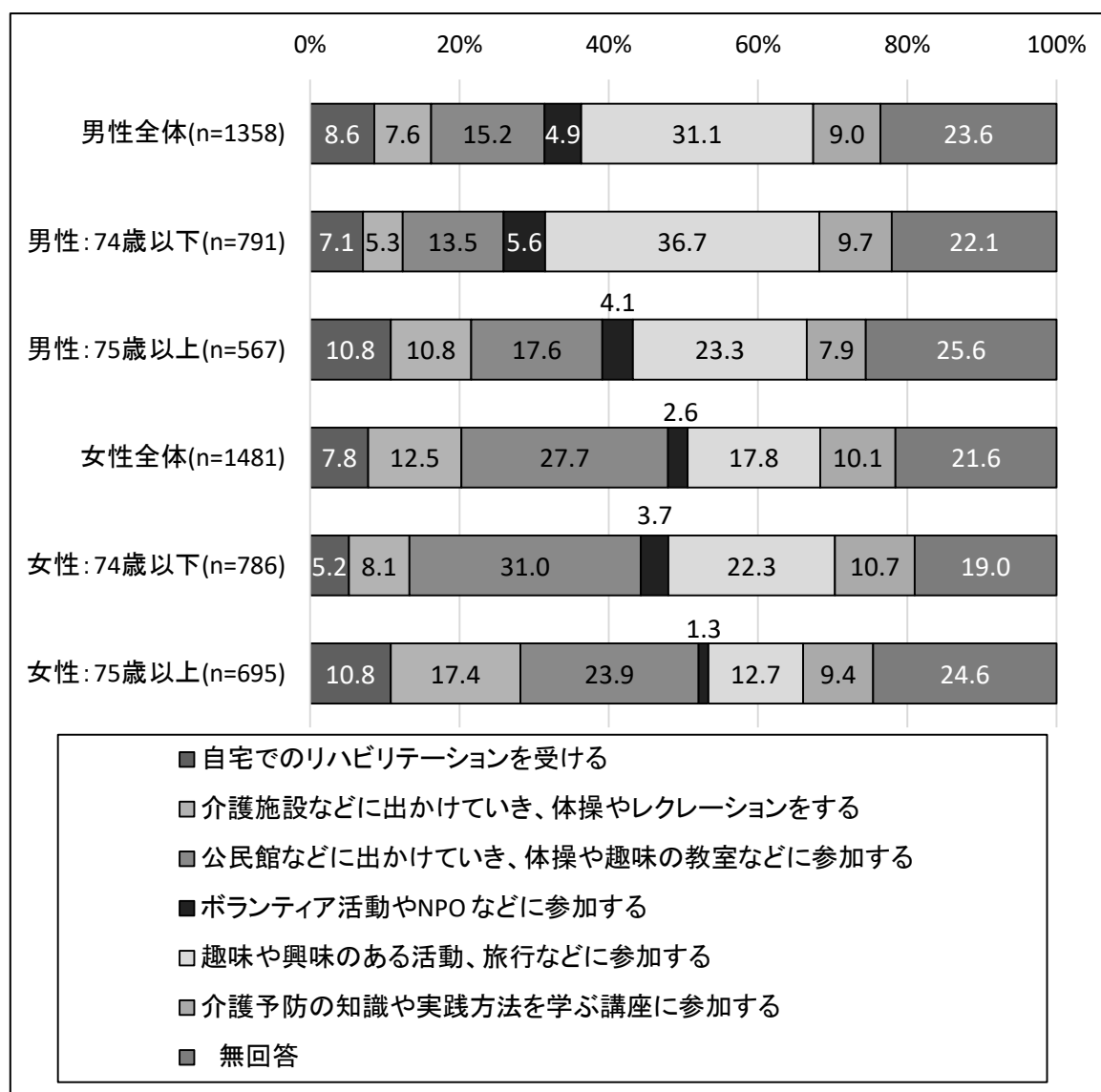
市全体では「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 24.1%で最も高く、続いて「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 21.7%、「介護施設などに出かけていき、体操やレクレーションをする」が 10.1%である。



〈性年代別〉

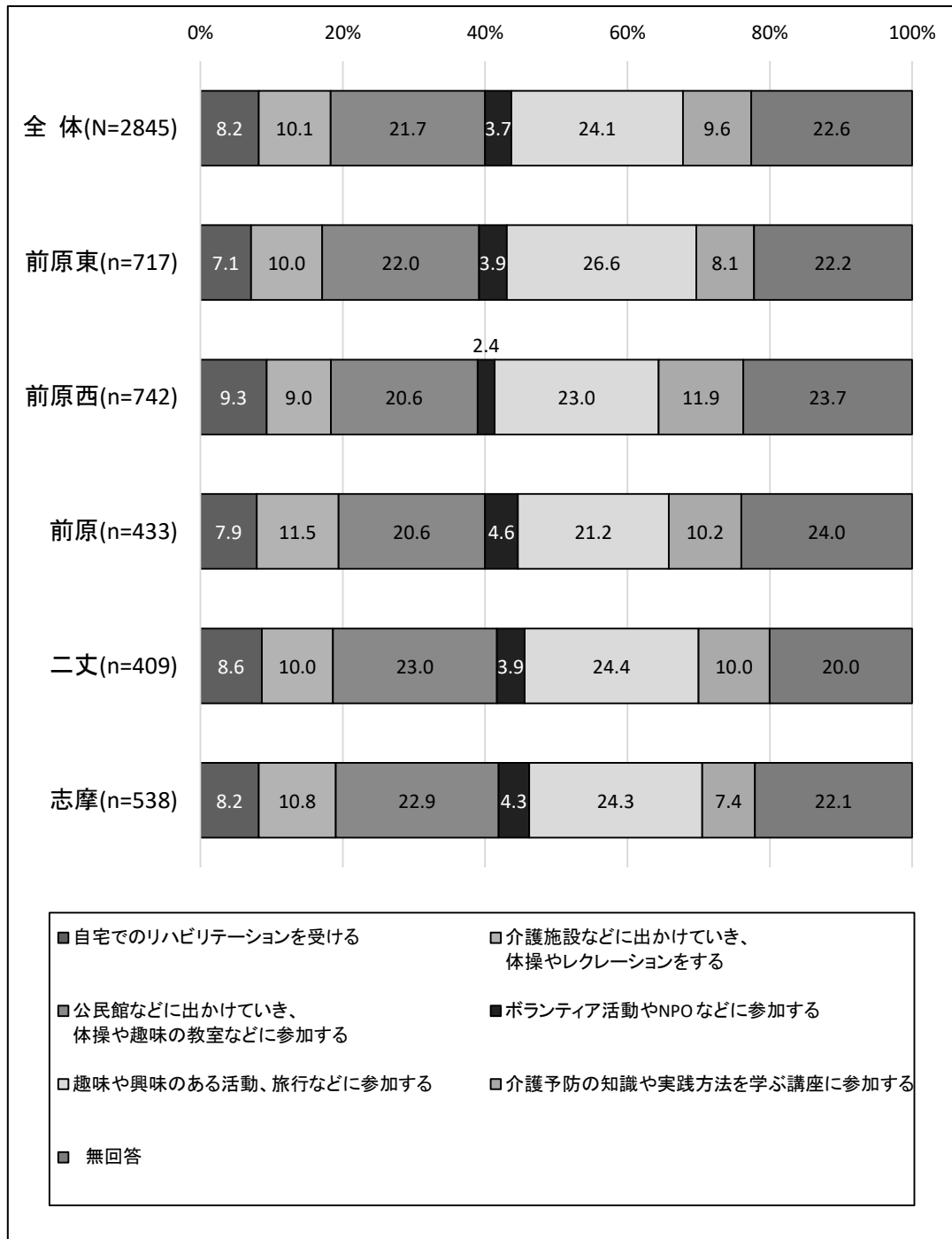
性別では、男性の方が女性より高いのは「ボランティア活動や NPO などに参加する」(男性 4.9%、女性 2.6%)、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」(男性 31.1%、女性 17.8%)である。反対に女性の方が男性より高いのは「介護施設などに出かけていき、体操やレクレーションをする」(女性 12.5%、男性 7.6%)、「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」(女性 27.7%、男性 15.2%)である。

年代別では、「自宅でのリハビリテーションを受ける」、「介護施設などに出かけていき、体操やレクレーションをする」は年代が上がるに参加意向が高まる。また、男性の場合は「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」についても年代が上がるに参加意向が増加している。



〈圏域別〉

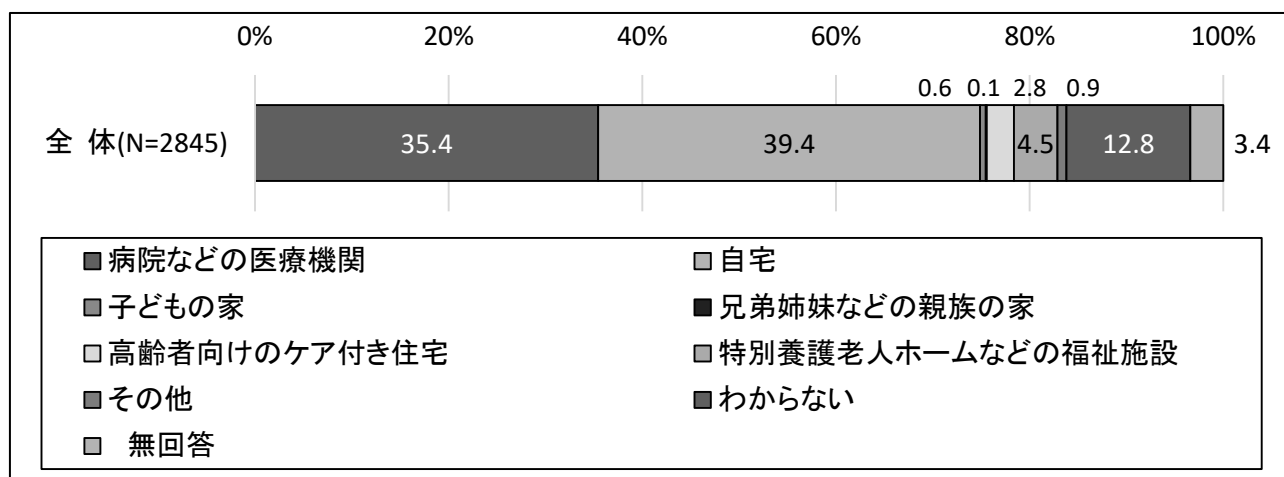
圏域別では 1～3 ポイント程度の差はあるものの、大きな差とは言い難い。いずれの圏域においても、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が高くなっている。



(8) 最期をどこで迎えたいか

治る見込みのない病気になった場合に最期をどこで迎えたいかを尋ねた。

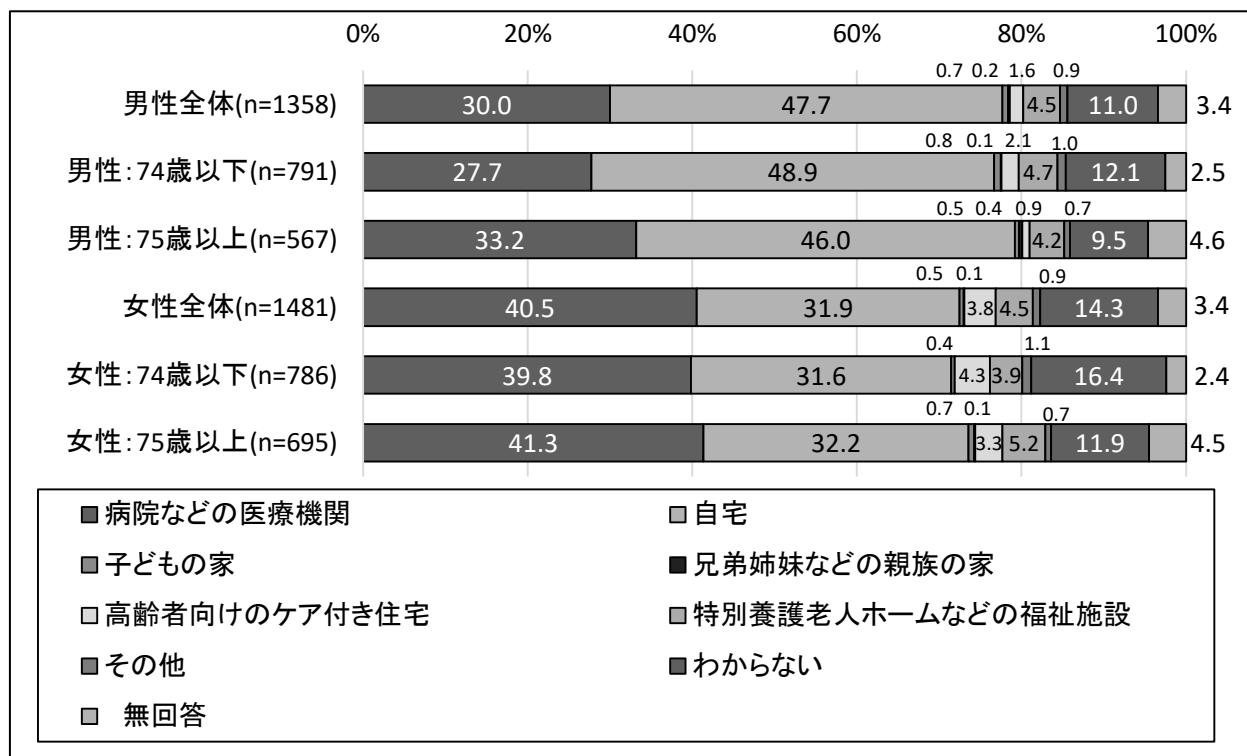
市全体では、「自宅」が 39.4%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が 35.4%となっている。



〈性年代別〉

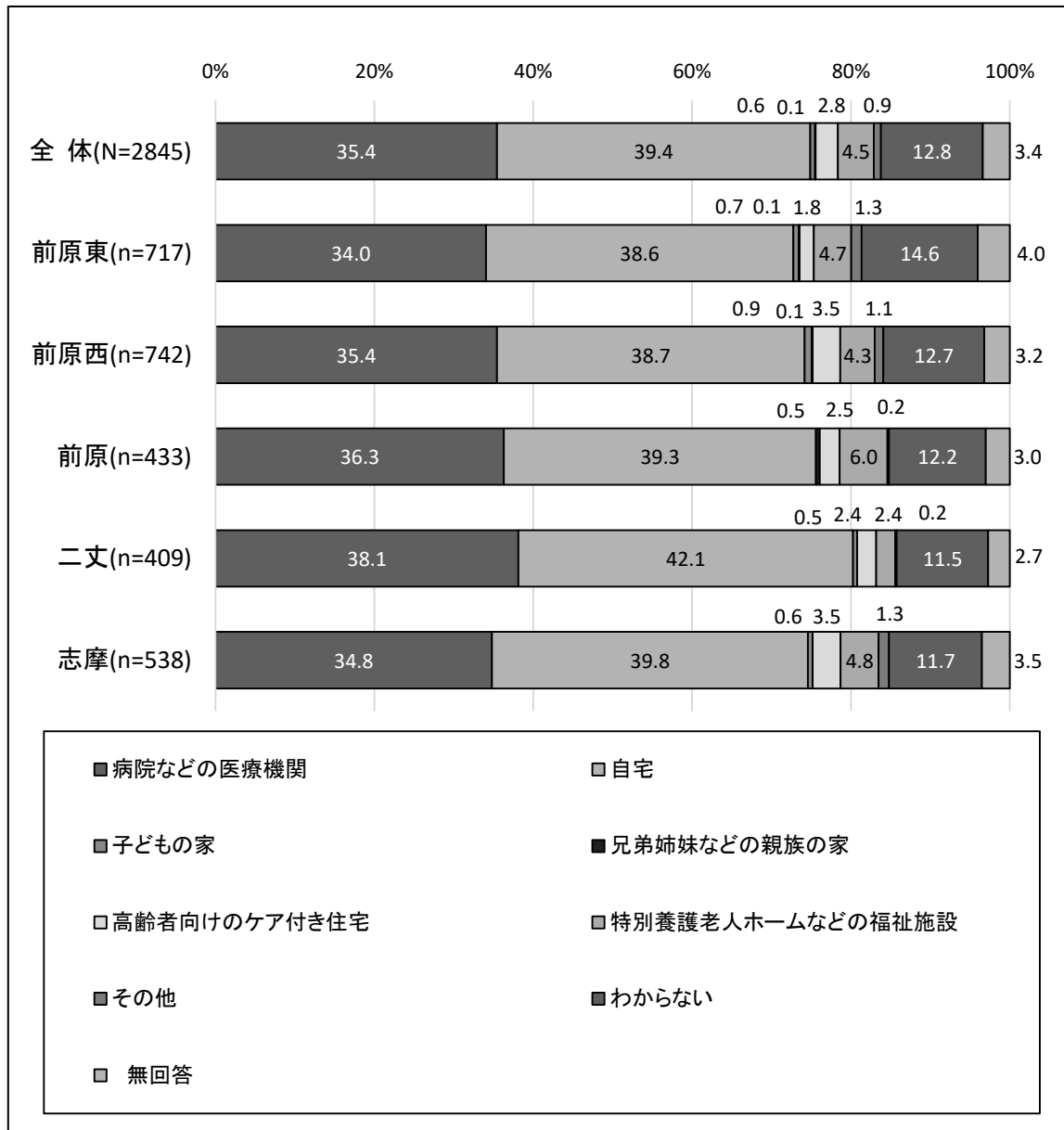
性別でみると、男性は「自宅」が 47.7%と最も高く、女性は「病院などの医療機関」が 40.5%と最も高くなっており、性別によって最期を迎える場所の希望が異なっている。

年代別では、年代が上ると「病院などの医療機関」の割合が増加している（特に男性は 74 歳以下 27.7%から 75 歳以上 33.2%）。また、「病院などの医療機関」と「自宅」以外の場所の割合も減少する。



〈圏域別〉

圏域別では、二丈圏域は「病院などの医療機関」38.1%、「自宅」42.1%となっており、どちらも他圏域と比較し最も高くなっている。あわせて、二丈圏域は「病院などの医療機関」と「自宅」以外の場所の割合が他圏域に比較し低くなっている。

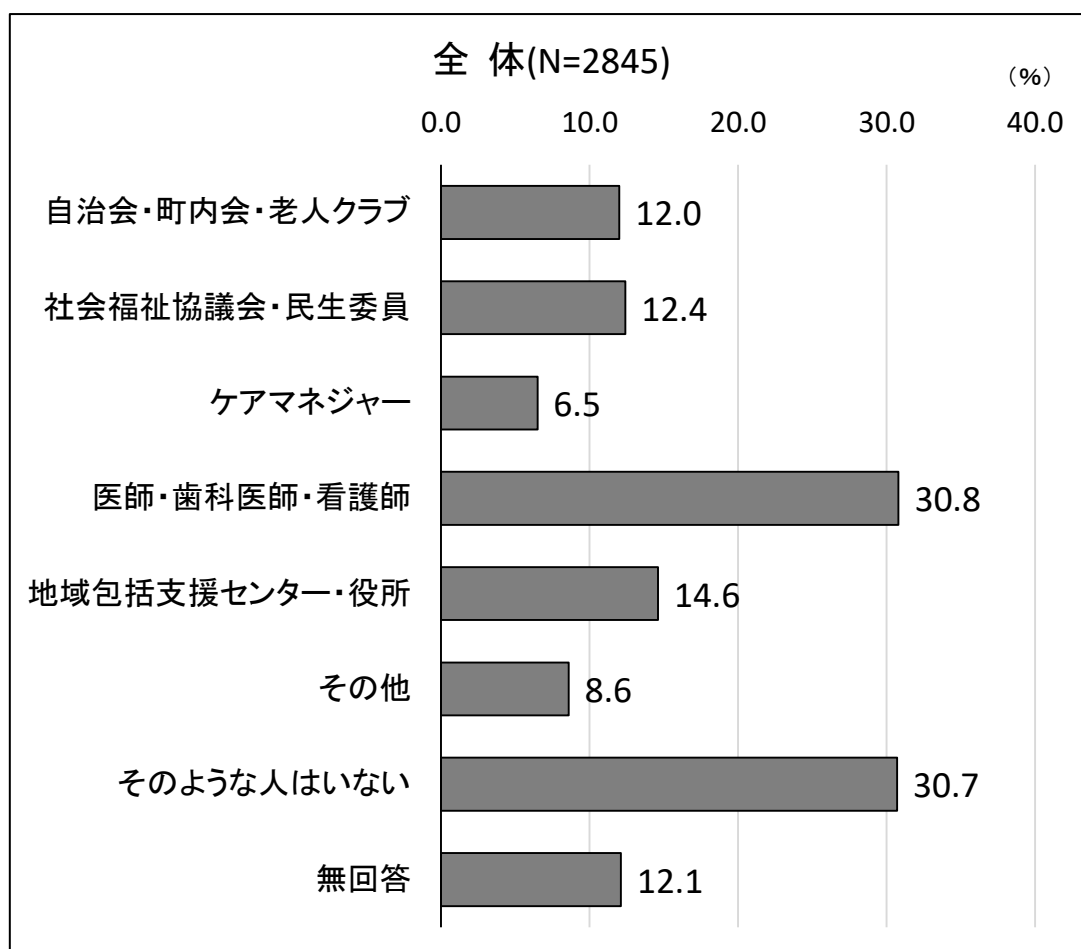


6 相談・支援

(1) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を尋ねた(複数回答)。

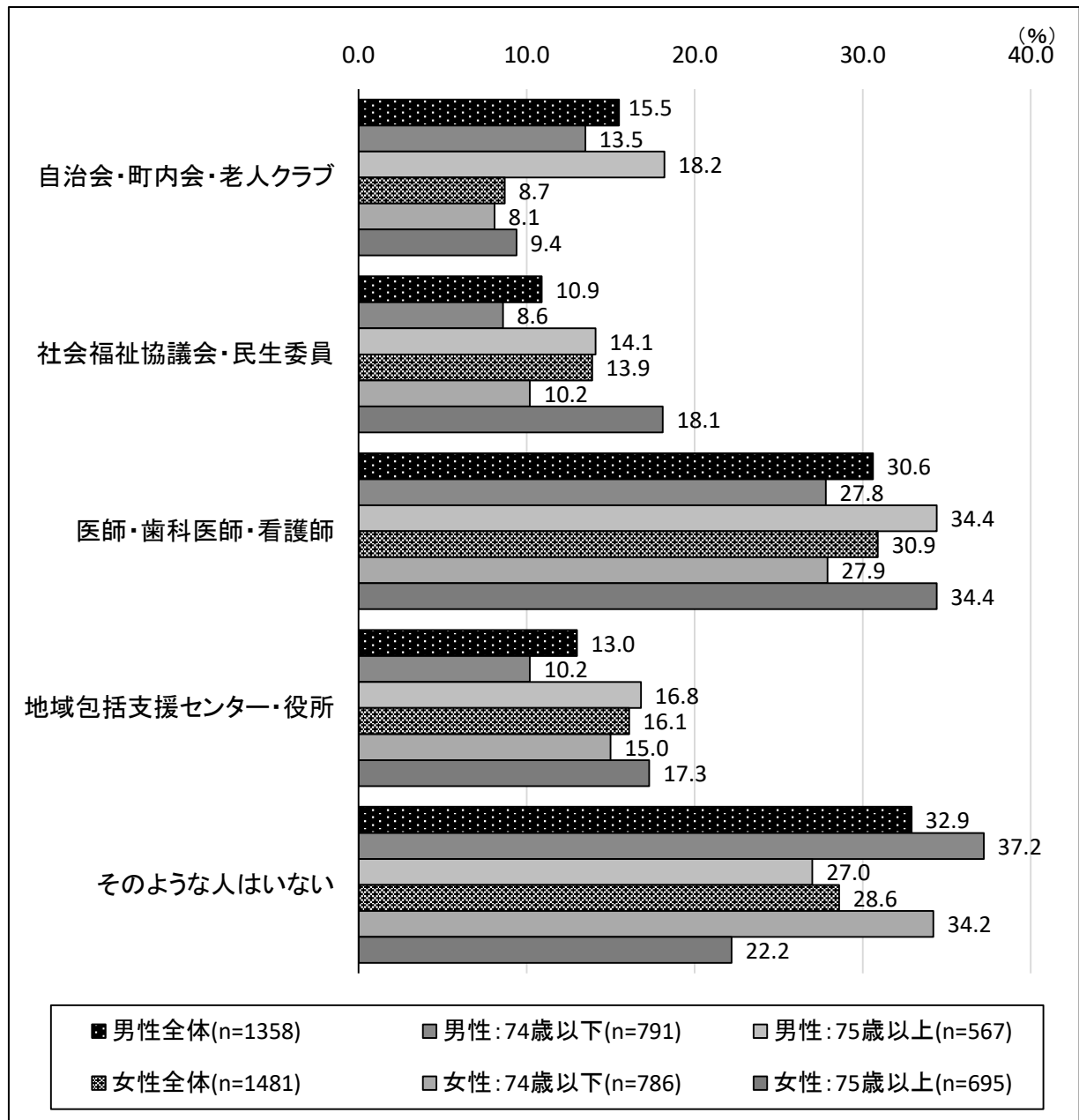
市全体では「医師、歯科医師、看護師」が 30.8%、「そのような人はいない」が 30.7%でほぼ同率で最も高くなっている。次いで「地域包括支援センター・役所」が 14.6%、「社会福祉協議会、民生委員」が 12.4%、「自治会・町内会・老人クラブ」が 12.0%と続いている。



〈性年代別〉:上位五項目

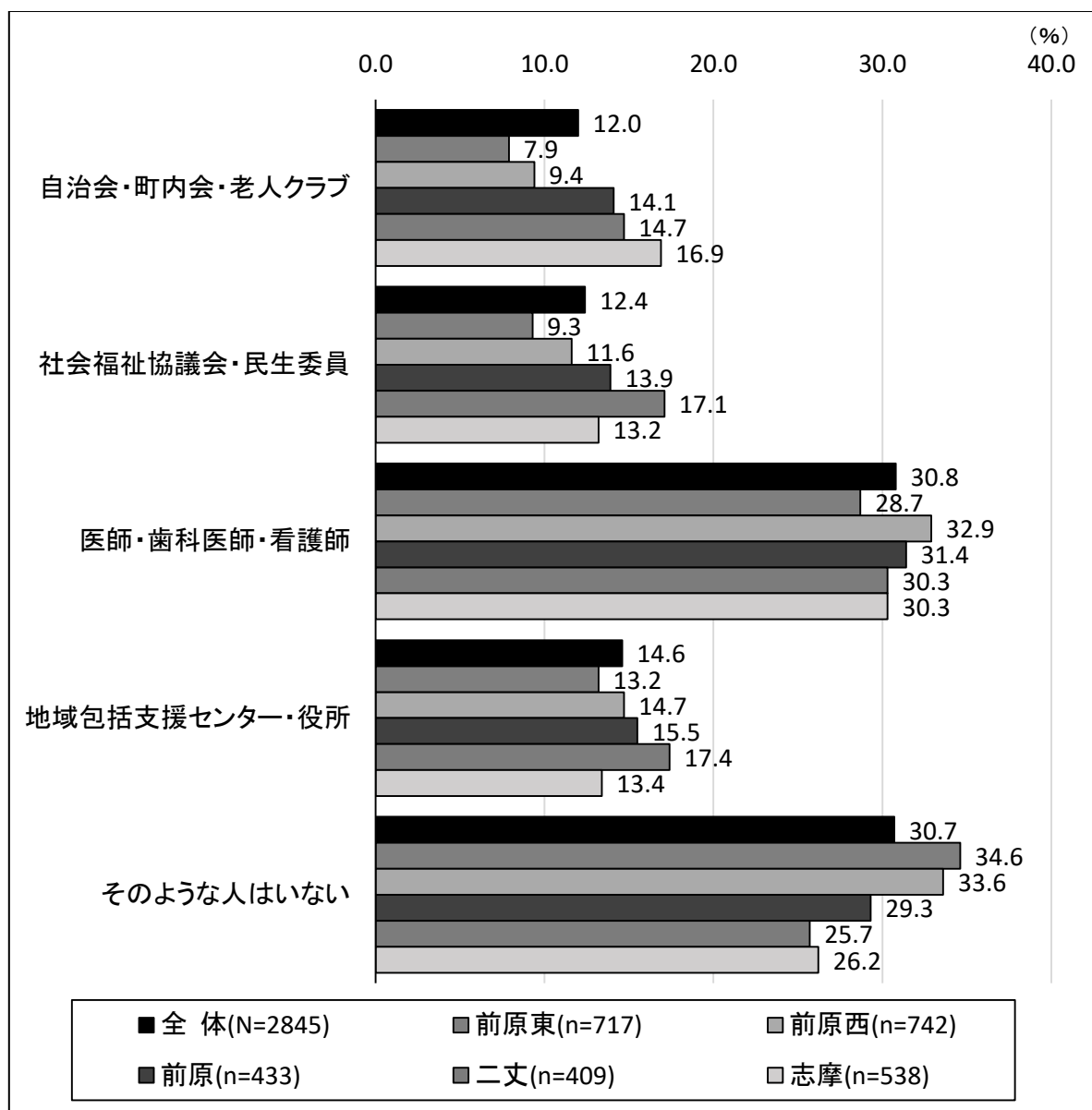
性別でみると男性は「そのような人はいない」が 32.9%で最も高いのに対し、女性は「医師、歯科医師、看護師」が 30.9%で最も高くなっている。

年代別では男女ともに多くの項目で年代が上がるほど、割合が増加する。一方、「そのような人はいない」は年代が上がるると減少しており、年代が上がるほど、何らかの形での相談相手をみつけている。



〈圏域別〉

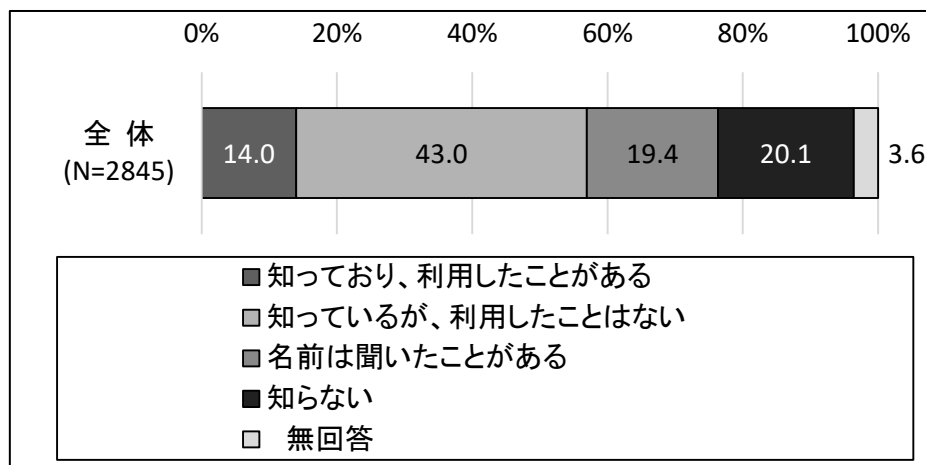
圏域別ではあまり大きな差はないものの、二丈圏域は「社会福祉協議会・民生委員」への相談率が高くなり17.1%、「地域包括支援センター・役所」が17.4%と高くなっている。志摩圏域では「自治会、町内会、老人クラブ」への相談率がやや高く16.9%となっている。また「そのような人はいない」は前原東圏域 34.6%、前原西圏域 33.6%が他圏域よりも高くなっている。特に前原東圏域は「そのような人はいない」以外のすべての項目において市全体を下回っている。



(2) 地域包括支援センターの認知度

地域包括支援センターの認知度について尋ねた。

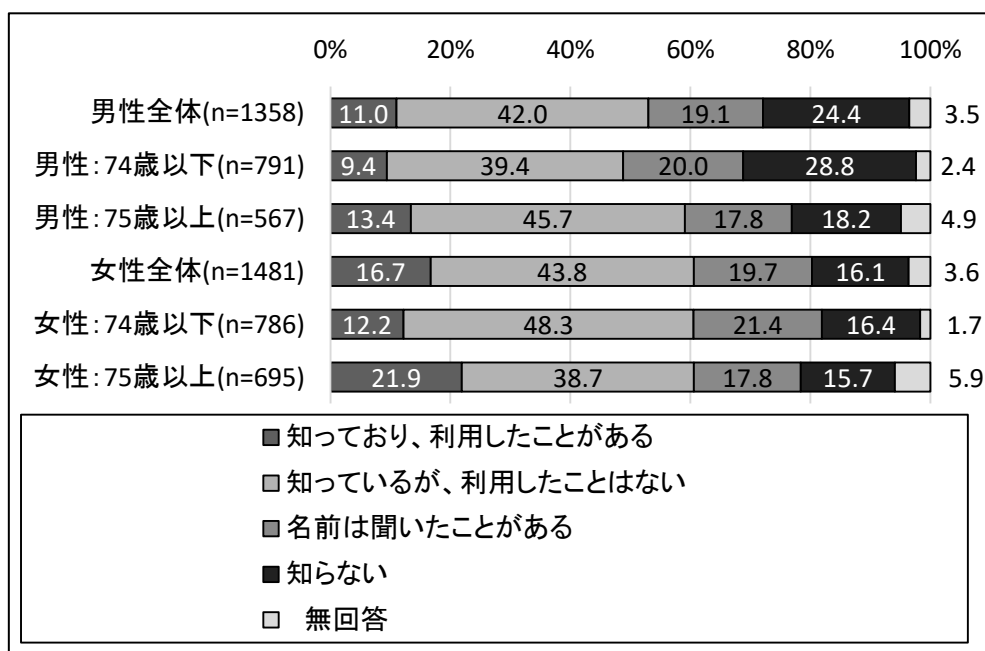
市全体では「知っているが利用したことはない」が最も高く 43.0%である。次いで「知らない」20.1%、「名前は聞いたことがある」19.4%と続いている。



〈性年代別〉

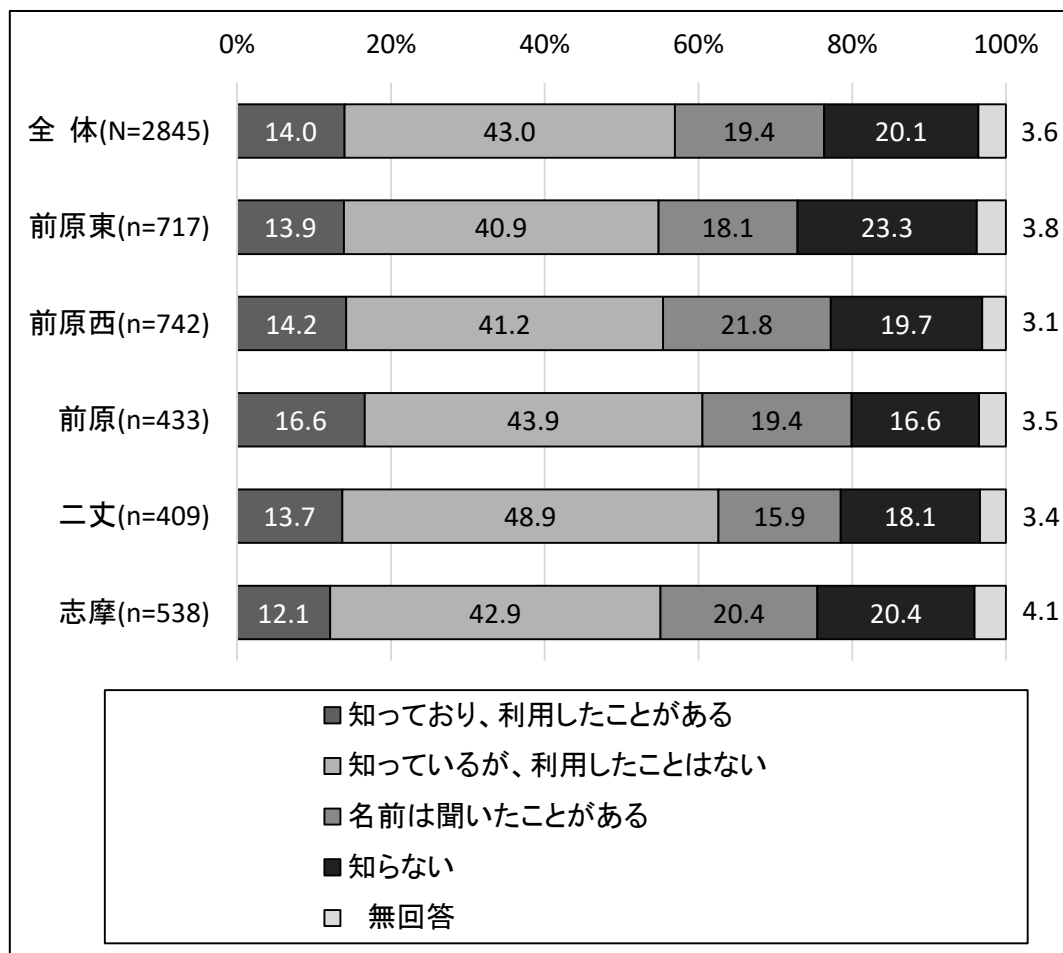
性別では、男性よりも女性の方が地域包括支援センターについて何らかの情報を認知している。実際、「知らない」は男性 24.4%であるのに対し、女性は 16.1%である。

年代別では、年代が上がるほど、認知割合も増加している。男性は 75 歳以上の年代になると「知っており、利用したことがある」、「知っているが、利用したことはない」の割合が 3～5 ポイントずつ増加している。一方、女性は「知っているが、利用したことはない」の割合は 10 ポイントほど減少するものの、「知っており、利用したことがある」の割合は 10 ポイントほど増加しており、年代が上がると地域包括支援センターの利用率も増加している。



〈圏域別〉

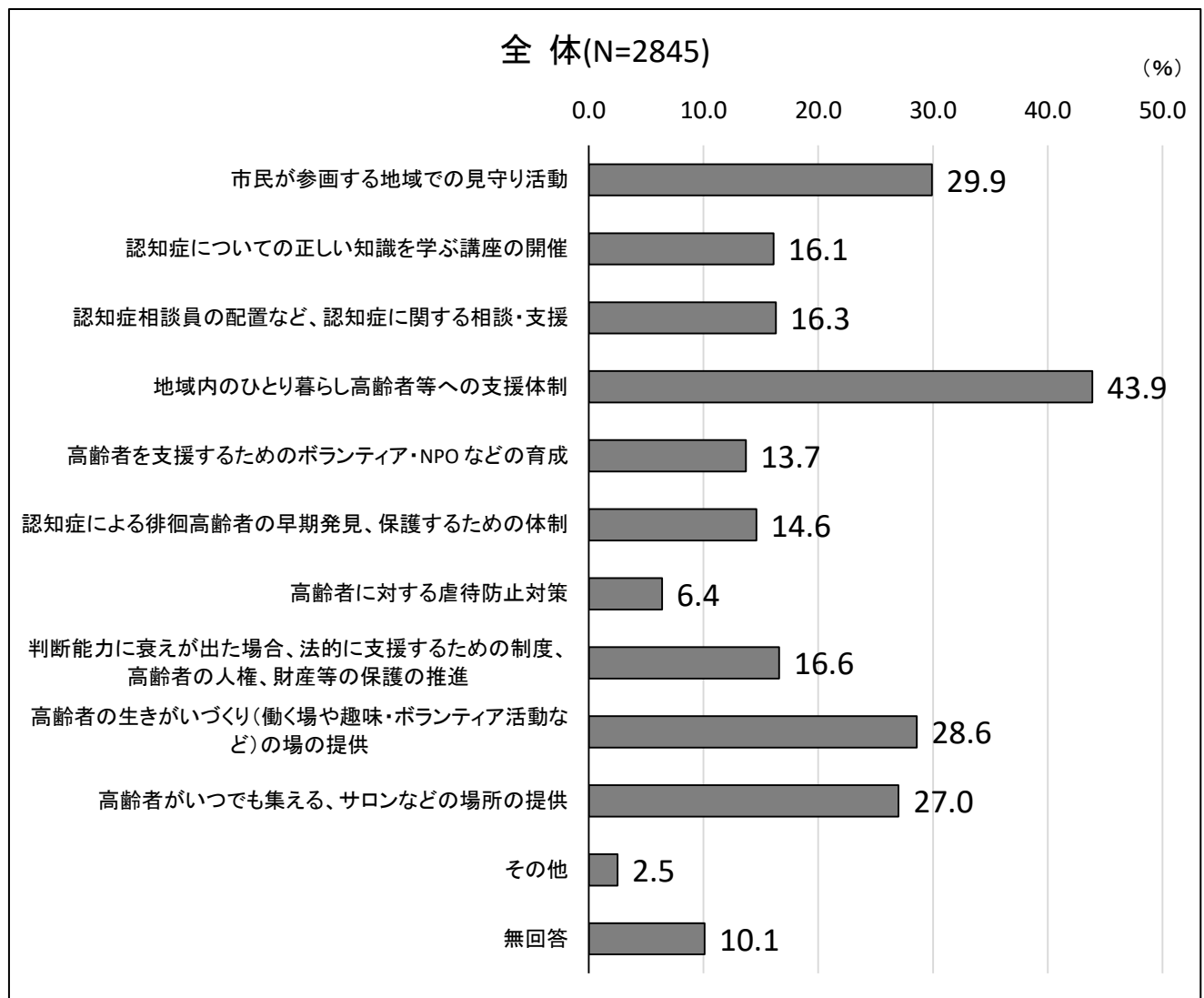
圏域別でみると「知っており、利用したことがある」は前原圏域が最も高く 16.6%、前原西圏域が 14.2%と続いている。一方、「知らない」の割合でみると、最も高いのは前原東圏域の 23.3%、次いで志摩圏域の 20.4%である。



(3) 高齢化に対応するために望まれる活動・体制

高齢化に対応するためにどのような活動・体制の充実が必要か尋ねた(3つまで回答)。

市全体で最も割合が高かったのは「地域内のひとり暮らし高齢者等への支援体制」であり、43.9%である。次いで「市民が参画する地域での見守り活動」が 29.9%、「高齢者の生きがいづくりの場の提供」が 28.6%である。



糸島市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書

〈性別・年代別・性年代別・家族構成別・圏域別〉

(上段：人、下段：%)

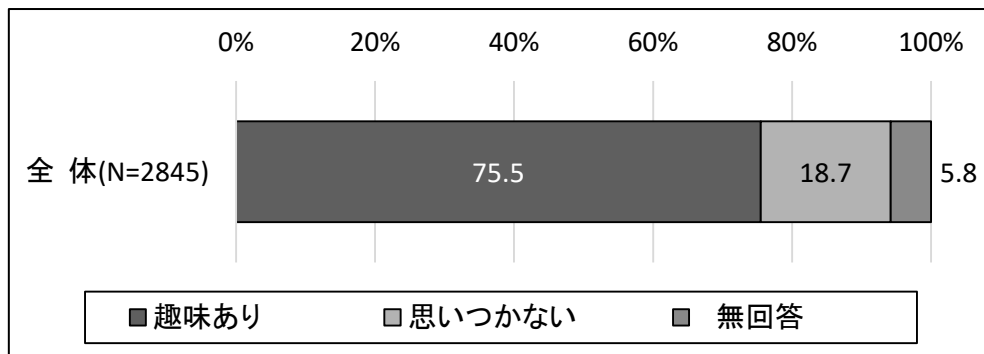
		全 体	市民が参 画する地 域での見 守り活動	認知症に 関する講 座の開催	認知症に 関する相 談・支援	地域内の ひとり暮 らし高齢 者等への 支援体制	高齢者を 支援する ためのボ ランティア ・NPOな ど	認知症に よる徘徊 高齢者の 早期発見 、保護す るための 体制	高齢者に 対する虐 待防止対 策	判断能力 に衰える 場合の保 護の推進	合意、高 齢者の人 権、財産 の保護	高齢者の 生きがい づくり（ 活動や趣 味・ラン グエイジ 活動など ）の場の 提供	高齢者が いつでも 集える、 サロンな どの場所 の提供	その他	無回 答	
	全 体	2845 100.0	850 29.9	458 16.1	464 16.3	1248 43.9	390 13.7	416 14.6	183 6.4	472 16.6	815 28.6	768 27.0	70 2.5	287 10.1		
性別	男性	1358 100.0	434 32.0	204 15.0	227 16.7	623 45.9	194 14.3	212 15.6	89 6.6	261 19.2	429 31.6	288 21.2	30 2.2	117 8.6		
	女性	1481 100.0	415 28.0	253 17.1	237 16.0	622 42.0	196 13.2	204 13.8	94 6.3	208 14.0	384 25.9	479 32.3	39 2.6	169 11.4		
	無回答	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	3 50.0	-	-	-	3 50.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7		
年代別	前期高齢者（74歳以下）	1577 100.0	507 32.1	231 14.6	261 16.6	766 48.6	230 14.6	220 14.0	85 5.4	265 16.8	567 36.0	431 27.3	33 2.1	109 6.9		
	後期高齢者（75歳以上）	1262 100.0	342 27.1	226 17.9	203 16.1	479 38.0	160 12.7	196 15.5	98 7.8	204 16.2	246 19.5	336 26.6	36 2.9	177 14.0		
	無回答	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	3 50.0	-	-	-	3 50.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7		
性年代別	男性全体	1358 100.0	434 32.0	204 15.0	227 16.7	623 45.9	194 14.3	212 15.6	89 6.6	261 19.2	429 31.6	288 21.2	30 2.2	117 8.6		
	男性：74歳以下	791 100.0	271 34.3	105 13.3	126 15.9	384 48.5	120 15.2	116 14.7	41 5.2	155 19.6	297 37.5	168 21.2	16 2.0	48 6.1		
	男性：75歳以上	567 100.0	163 28.7	99 17.5	101 17.8	239 42.2	74 13.1	96 16.9	48 8.5	106 18.7	132 23.3	120 21.2	14 2.5	69 12.2		
	女性全体	1481 100.0	415 28.0	253 17.1	237 16.0	622 42.0	196 13.2	204 13.8	94 6.3	208 14.0	384 25.9	479 32.3	39 2.6	169 11.4		
	女性：74歳以下	786 100.0	236 30.0	126 16.0	135 17.2	382 48.6	110 14.0	104 13.2	44 5.6	110 14.0	270 34.4	263 33.5	17 2.2	61 7.8		
	女性：75歳以上	695 100.0	179 25.8	127 18.3	102 14.7	240 34.5	86 12.4	100 14.4	50 7.2	98 14.1	114 16.4	216 31.1	22 3.2	108 15.5		
	無回答	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	3 50.0	-	-	-	3 50.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7		
家族構成別	一人暮らし	437 100.0	105 24.0	49 11.2	55 12.6	227 51.9	50 11.4	58 13.3	29 6.6	70 16.0	108 24.7	127 29.1	18 4.1	53 12.1		
	夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上）	1158 100.0	373 32.2	186 16.1	183 15.8	522 45.1	195 16.8	163 14.1	71 6.1	215 18.6	337 29.1	304 26.3	21 1.8	104 9.0		
	夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下）	154 100.0	49 31.8	33 21.4	31 20.1	74 48.1	15 9.7	19 12.3	10 6.5	30 19.5	52 33.8	36 23.4	4 2.6	11 7.1		
	息子・娘と2世帯	484 100.0	156 32.2	92 19.0	90 18.6	187 38.6	56 11.6	84 17.4	34 7.0	51 10.5	149 30.8	141 29.1	12 2.5	45 9.3		
	その他	560 100.0	160 28.6	92 16.4	102 18.2	221 39.5	68 12.1	84 15.0	31 5.5	101 18.0	162 28.9	151 27.0	13 2.3	58 10.4		
	無回答	52 100.0	7 13.5	6 11.5	3 5.8	17 32.7	6 11.5	8 15.4	8 15.4	5 9.6	7 13.5	9 17.3	2 3.8	16 30.8		
圏域別	前原東	717 100.0	189 26.4	112 15.6	121 16.9	321 44.8	94 13.1	105 14.6	55 7.7	115 16.0	208 29.0	198 27.6	20 2.8	77 10.7		
	前原西	742 100.0	225 30.3	109 14.7	128 17.3	340 45.8	118 15.9	107 14.4	44 5.9	139 18.7	198 26.7	193 26.0	18 2.4	68 9.2		
	前原	433 100.0	138 31.9	81 18.7	81 18.7	177 40.9	61 14.1	57 13.2	22 5.1	78 18.0	110 25.4	111 25.6	10 2.3	48 11.1		
	二丈	409 100.0	128 31.3	74 18.1	59 14.4	174 42.5	43 10.5	63 15.4	25 6.1	55 13.4	132 32.3	117 28.6	9 2.2	41 10.0		
	志摩	538 100.0	169 31.4	81 15.1	75 13.9	233 43.3	74 13.8	84 15.6	37 6.9	82 15.2	165 30.7	148 27.5	12 2.2	52 9.7		
	無回答	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	3 50.0	-	-	-	3 50.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7		

7 地域社会への参加等に関する意識

(1) 趣味の有無

趣味の有無について尋ねた。

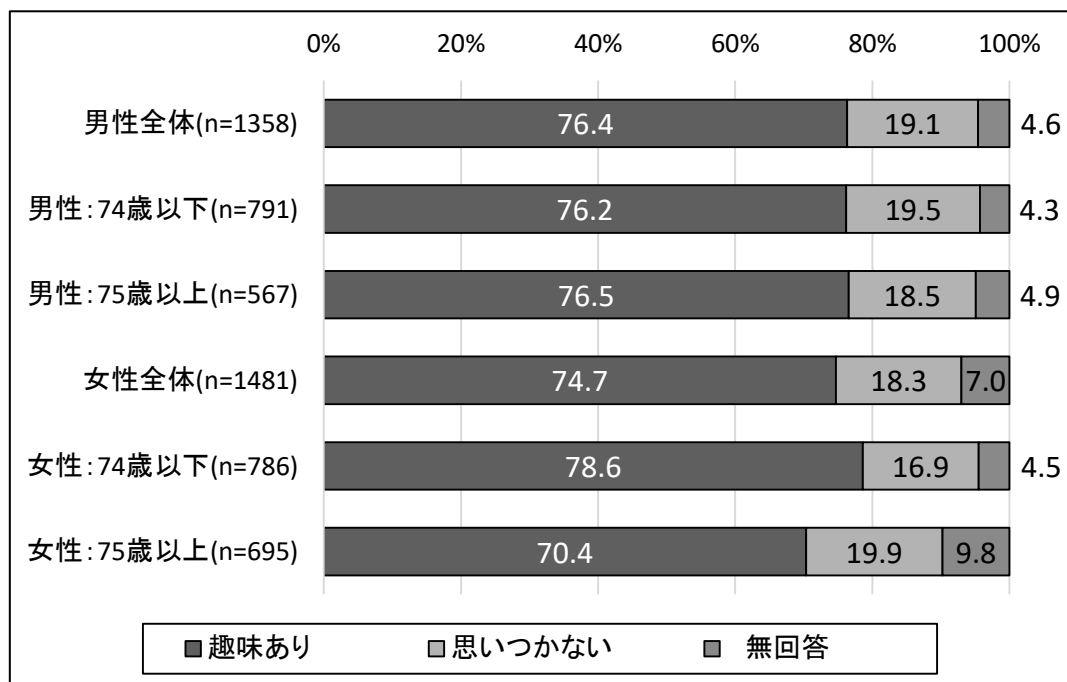
市全体では、「趣味がある」が 75.5%で最も高くなっている。一方、「思いつかない」は 18.7%である。



〈性年代別〉

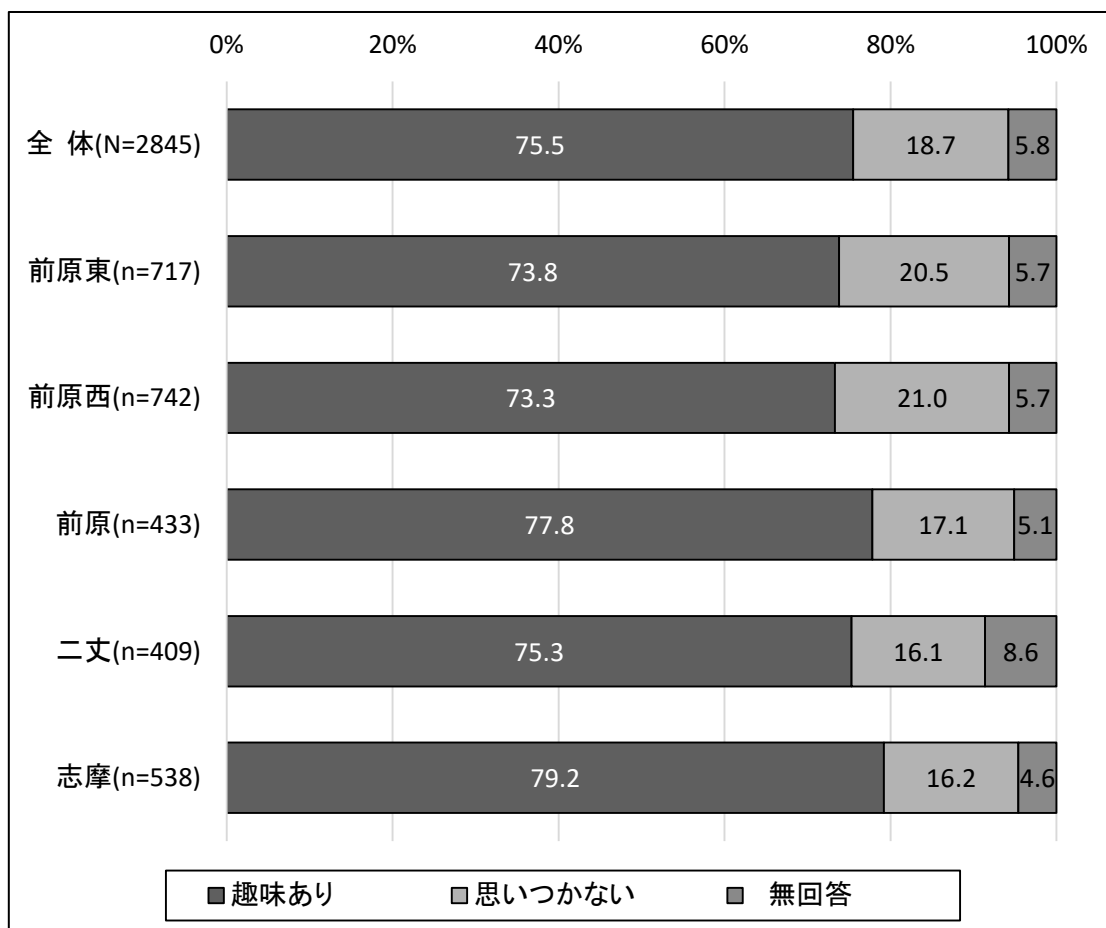
性別では大きな差はなく、「趣味がある」が約 75%前後、「思いつかない」が約 18.5%前後である。

年代別では、男性は年代による変化はないものの、女性は 75 歳以上の年代になると「趣味がある」の割合が 8.2 ポイント減少している。



〈圏域別〉

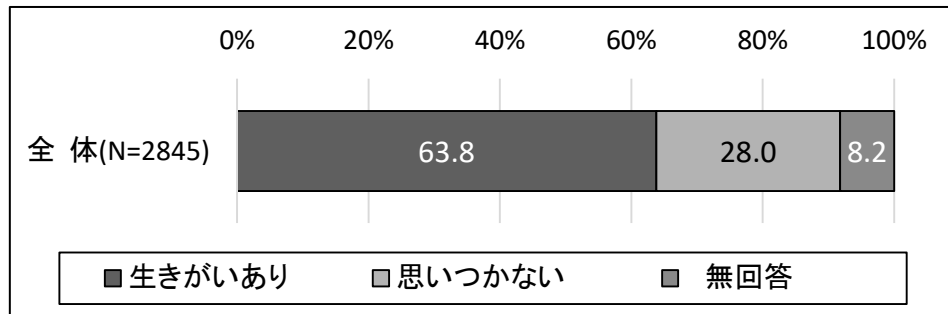
圏域別では、「趣味がある」が最も高いのは志摩圏域の 79.2%で、次いで前原圏域の 77.8%である。一方、「思いつかない」が最も高いのは前原西圏域の 21.0%、次いで前原東圏域の 20.5%である。



(2) 生きがいの有無

生きがいの有無について尋ねた。

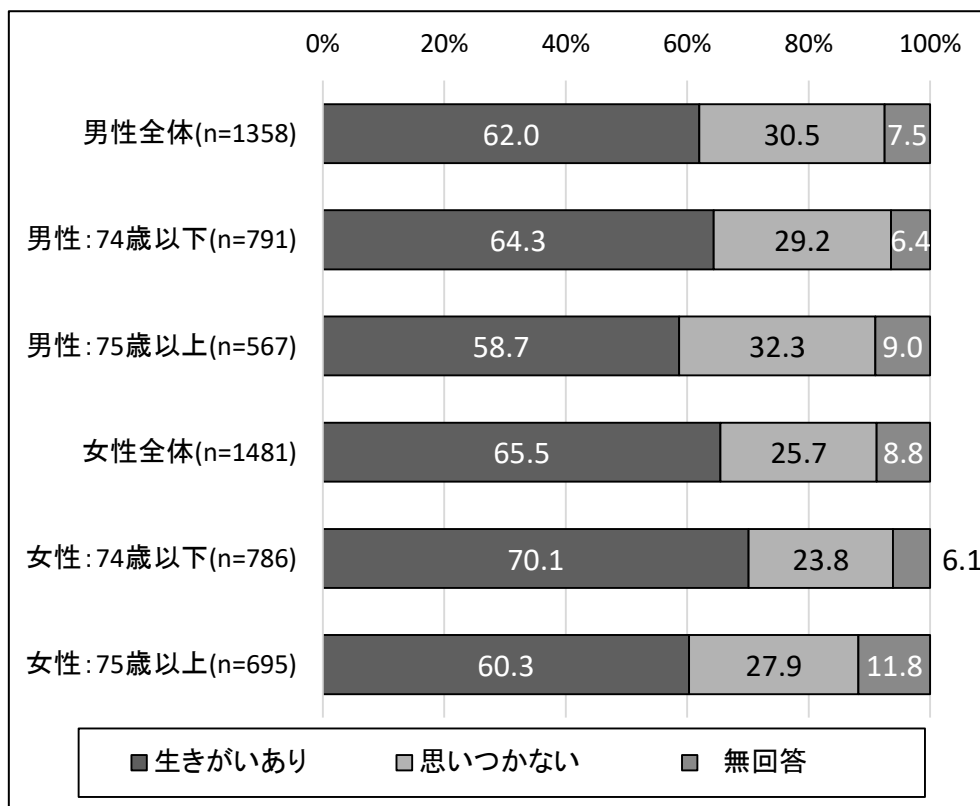
市全体では、「生きがいあり」が 63.8%であり、「思いつかない」が 28.0%である。



〈性年代別〉

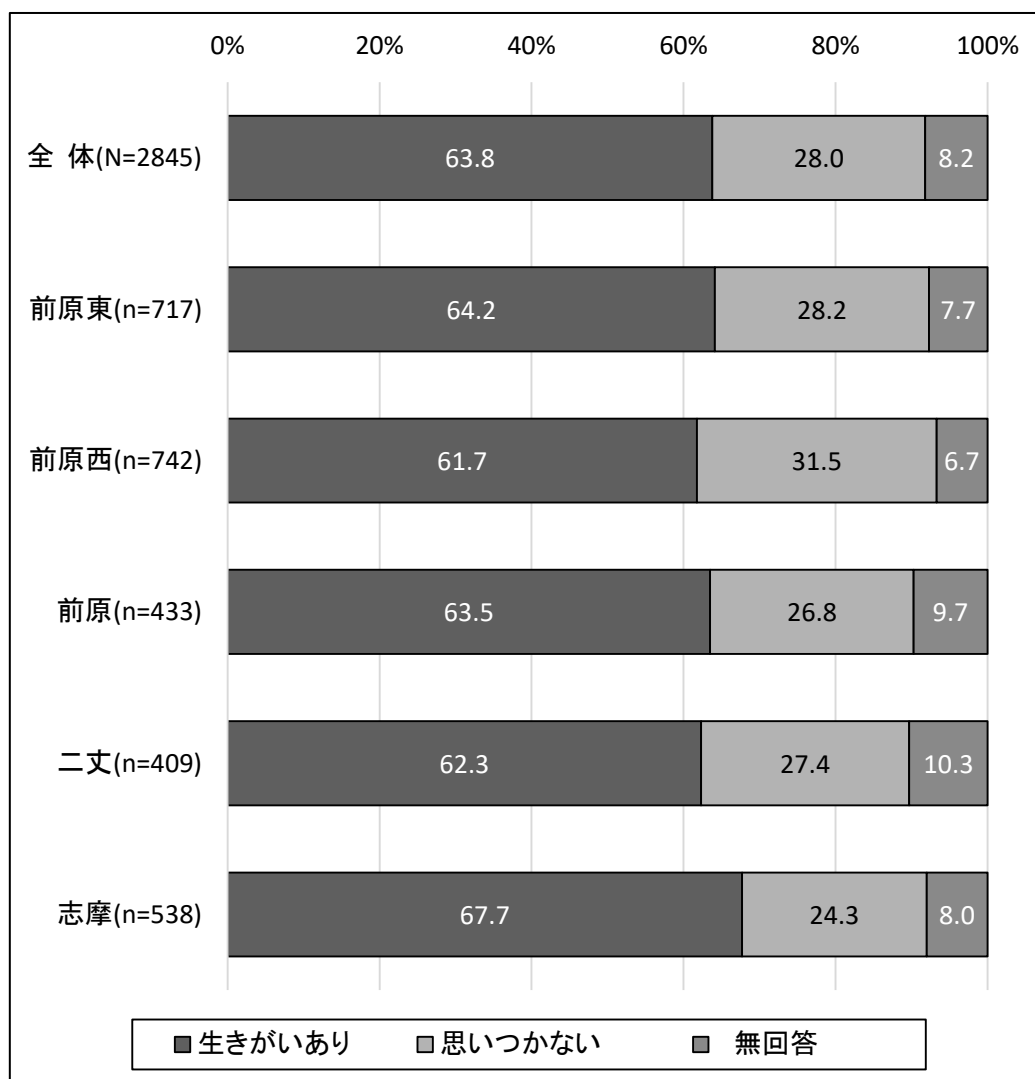
性別では、男性の「生きがいあり」が 62.0%であるのに対し、女性は 65.5%であり、女性の方が生きがいを持っている。

年代別では、男女ともに年代が上がると「生きがいあり」の割合が減少し、特に女性は 74 歳以下の年代では 70.1%であるのに対し、75 歳以上の年代では 60.3%であり、10 ポイント近く減少している。



〈圏域別〉

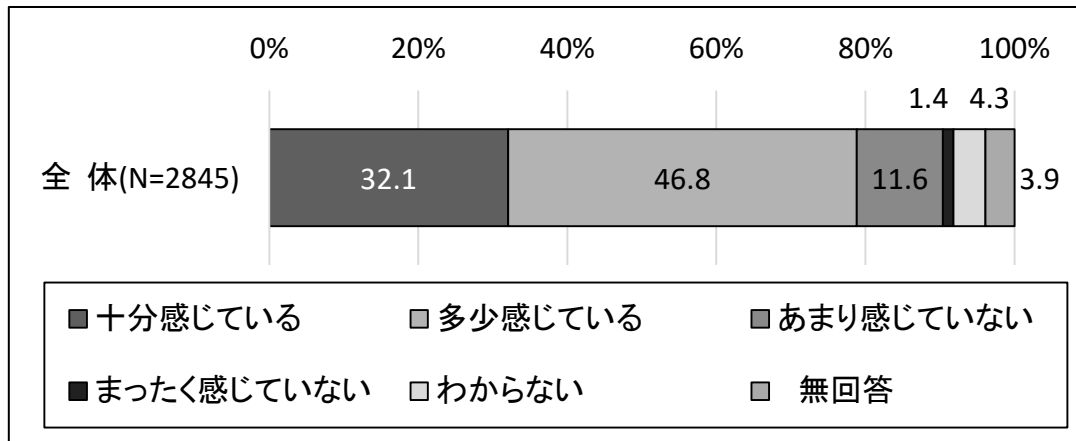
圏域別では、「生きがいあり」と最も多く回答したのは志摩圏域であり 67.7%である。一方、「思いつかない」と回答した割合が最も高いのは前原西圏域であり 31.5%となっている。



(3) 現在、感じている生きがい(喜びや楽しみ)の程度

現在感じている生きがい(喜びや楽しみ)の程度について尋ねた。

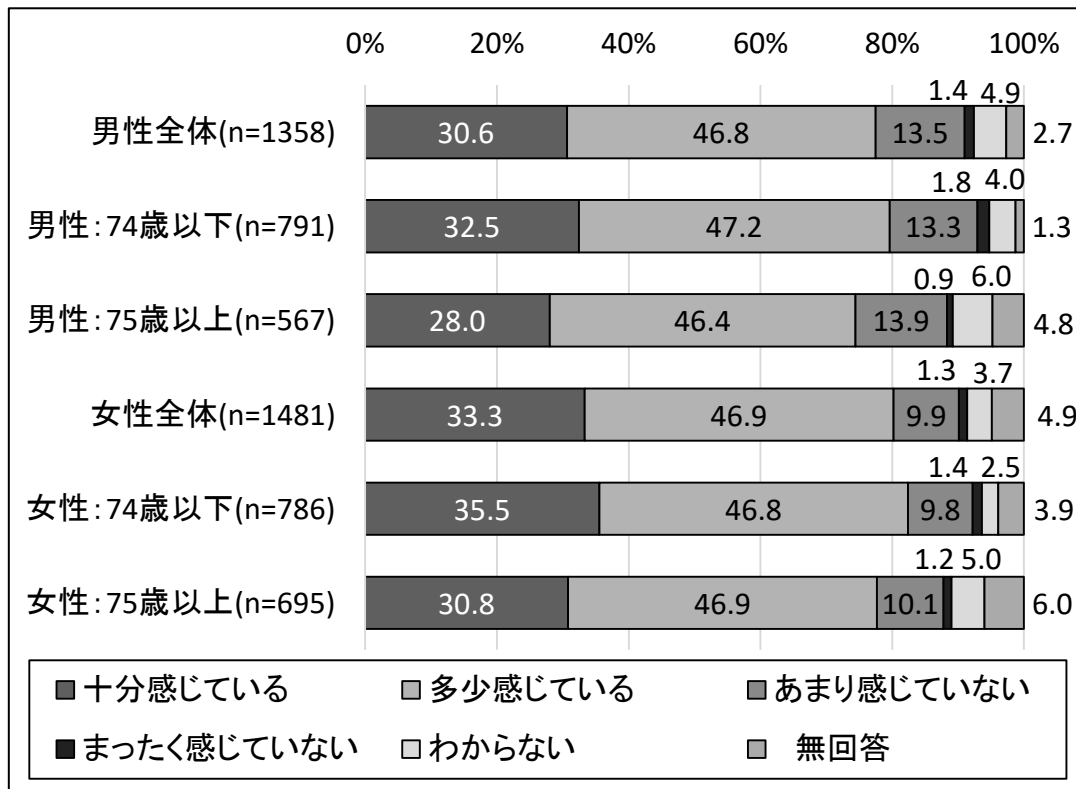
市全体では「多少感じている」が最も高く 46.8%であった。次いで「十分感じている」が 32.1%であり、「あまり感じていない」は 11.6%である。



〈性年代別〉

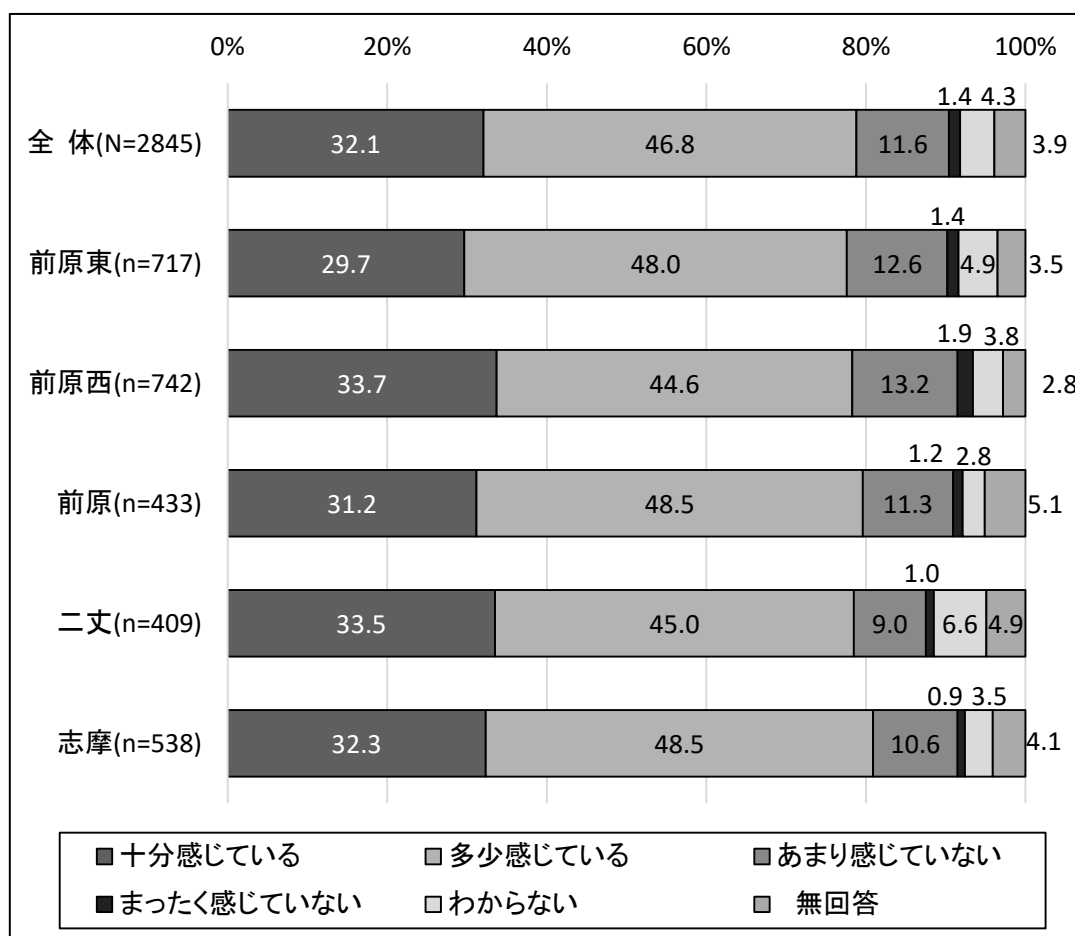
性別では、「多少感じている」は男性 46.8%、女性 46.9%でほぼ同率となっている。「十分感じている」については男性 30.6%、女性 33.3%となっており、女性の方がやや高い結果となった。

年代別では、男女ともに年代が上がると「十分感じている」の割合が 4 ポイントほど減少している。



〈圏域別〉

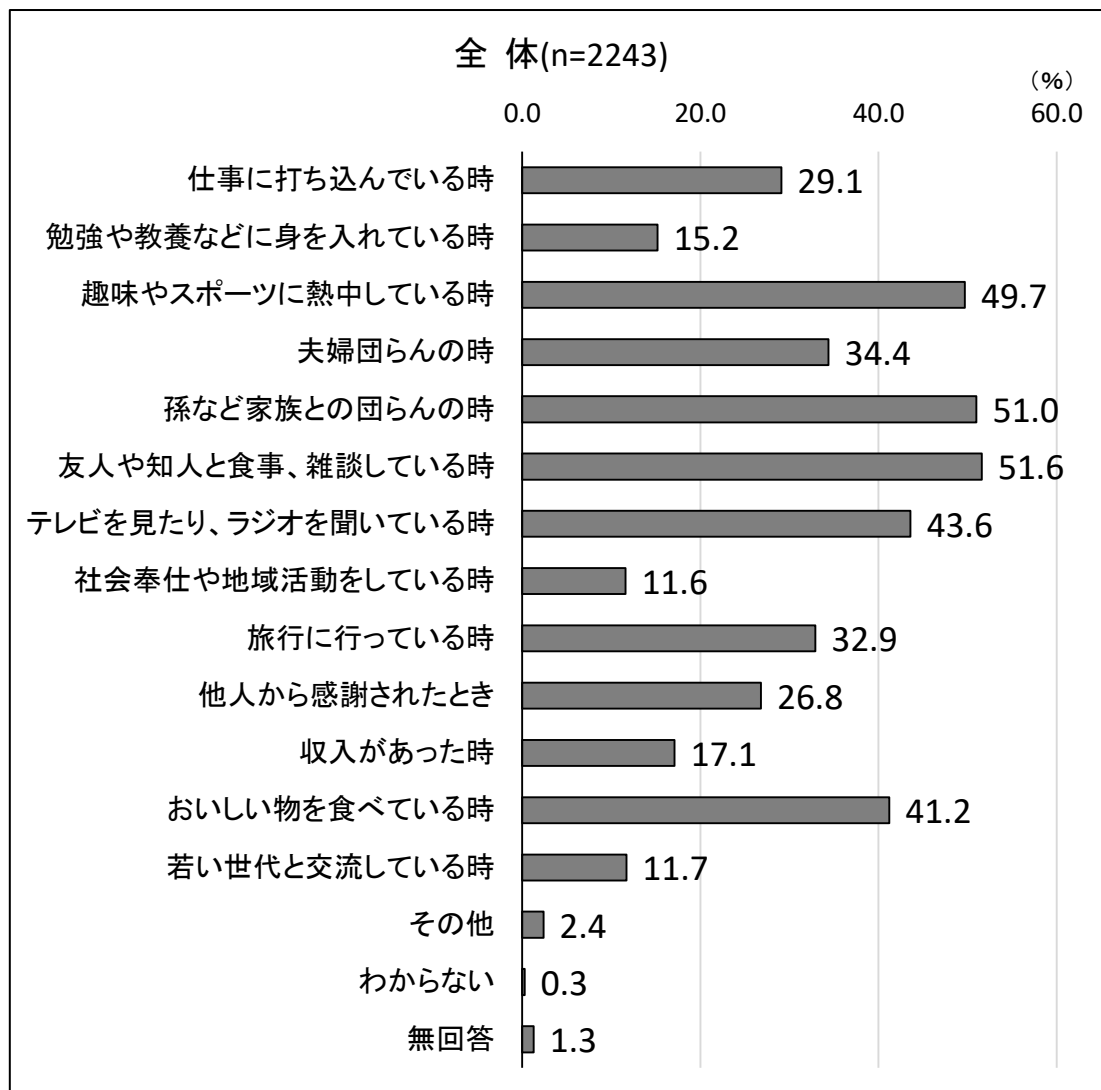
圏域別では、「十分感じている」は前原東圏域で他圏域と比較しやや低くなっており、29.7%である。



(4) 生きがいを感じる時

前問において「十分に感じている」、「多少感じている」と回答した人に、生きがい(喜びや楽しみ)を感じるのはどのようなときか尋ねた。

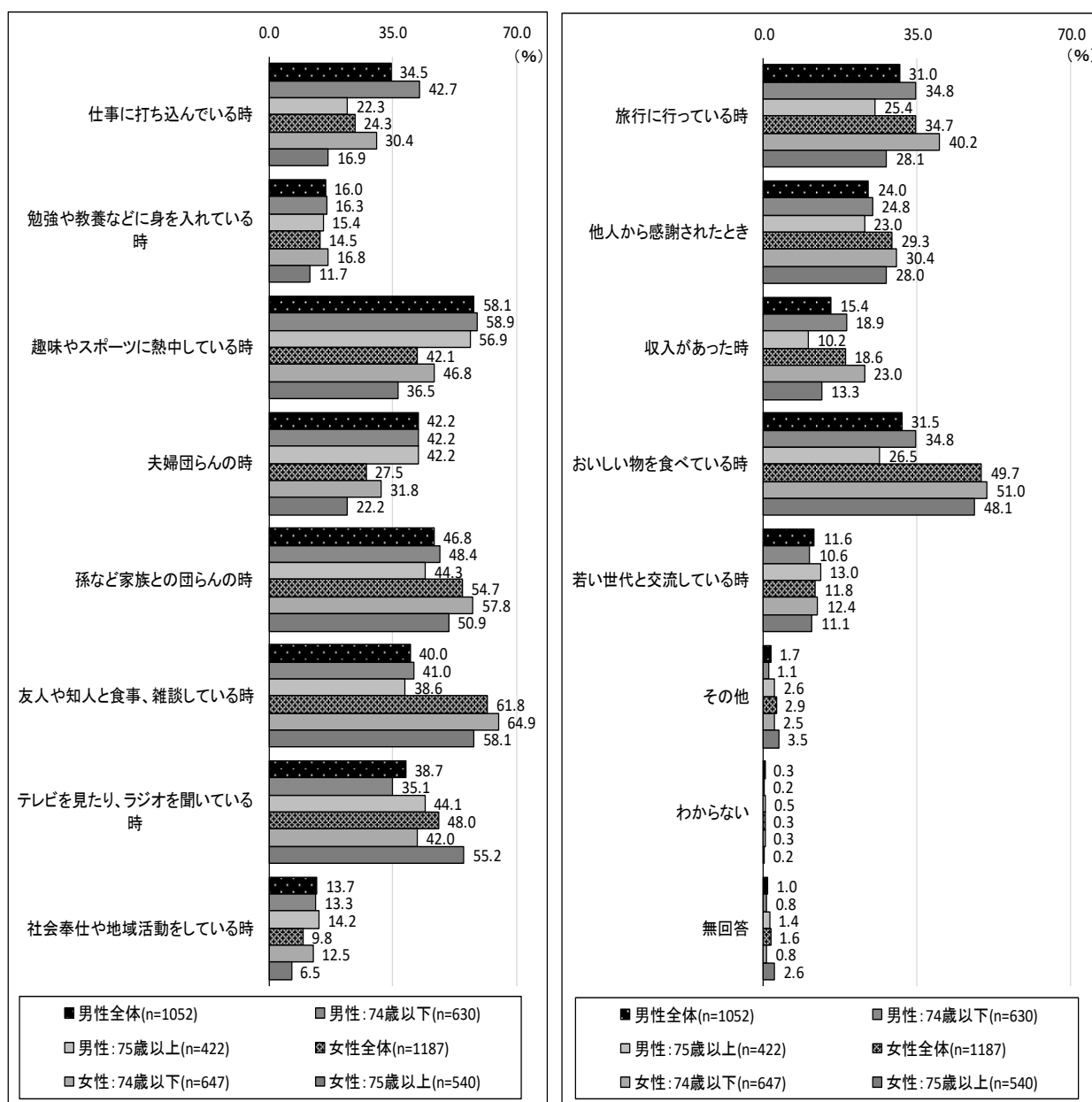
市全体では「友人や知人と食事、雑談している時」が最も高く 51.6%となっている。次いで「孫など家族との団らんの時」が 51.0%、「趣味やスポーツに熱中している時」49.7%である。その後、「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」が 43.6%、「おいしい物を食べている時」が 41.2%と続く。



〈性年代別〉

性別では、「仕事に打ち込んでいる時」、「趣味やスポーツに熱中している時」、「夫婦団らんの時」などで男性が女性よりも高くなっている。女性で最も割合が高いのは「友人や知人と食事、雑談している時」であり61.8%となっている。

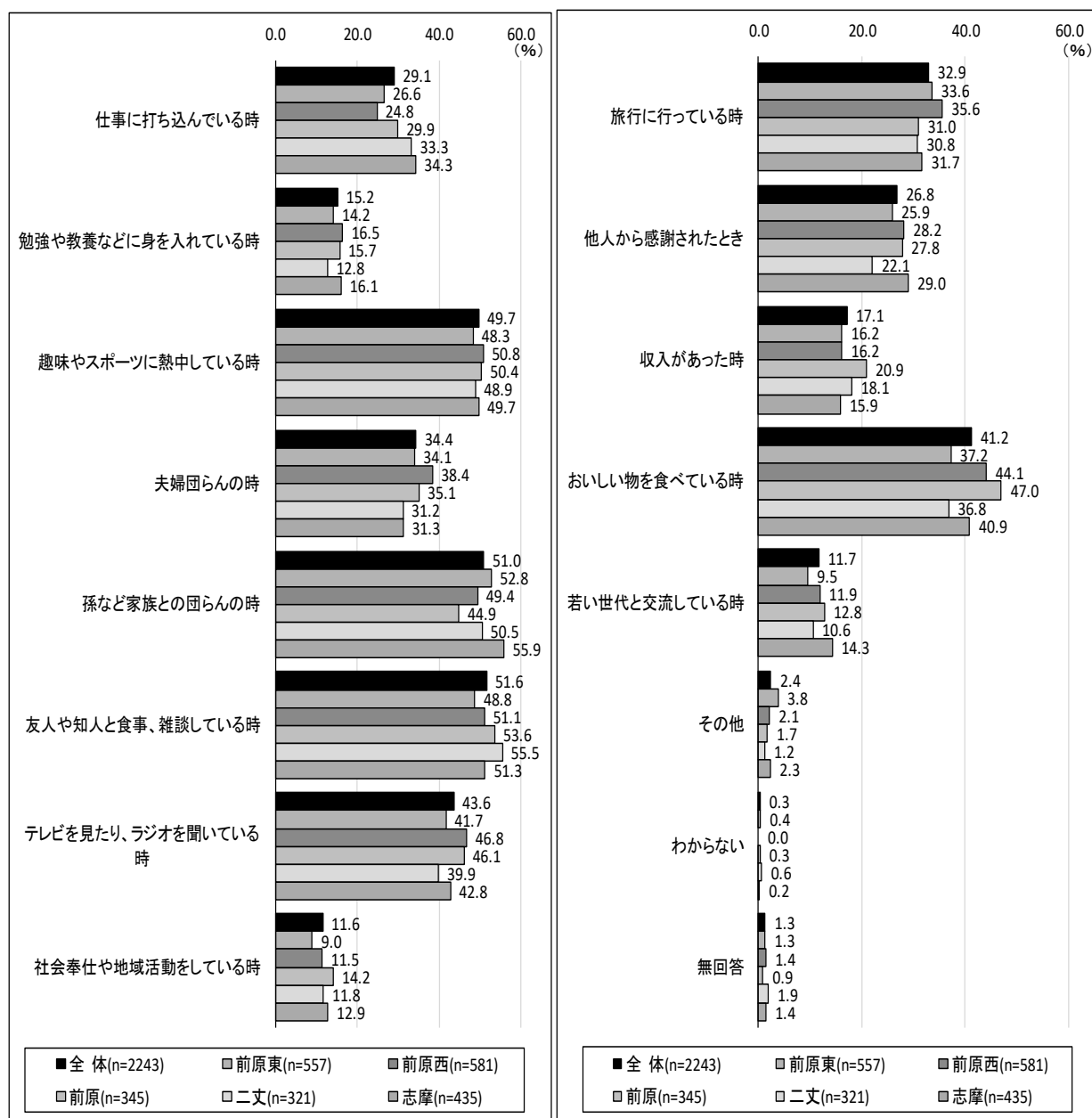
年代別では、男女を問わず年代が上がると多くの項目で割合が減少する。



〈圏域別〉

圏域別では、圏域によって細かなばらつきがある。

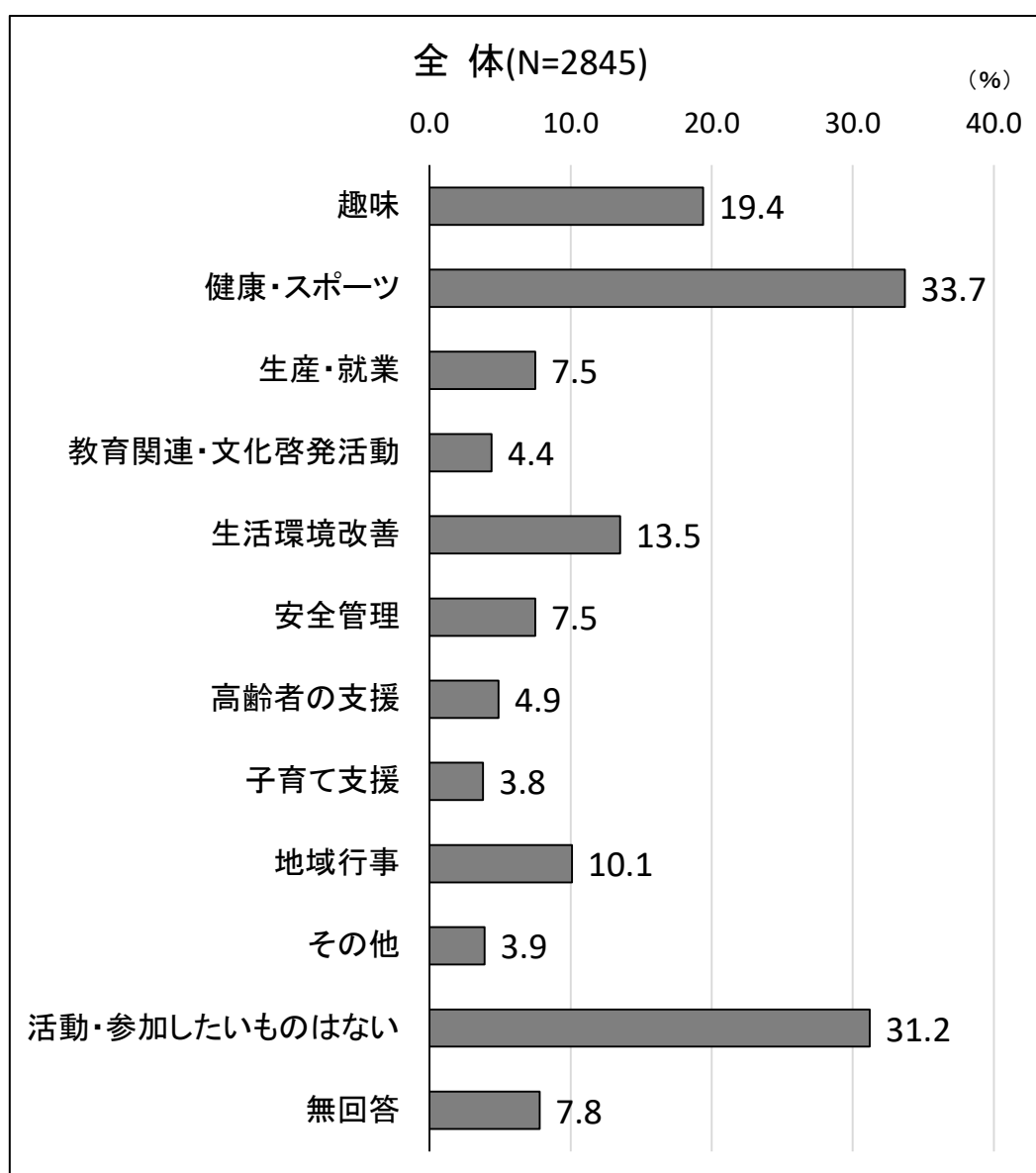
前原東圏域では「孫など家族との団らんの時」が 52.8%で最も高く、前原西圏域では「友人や知人と食事、雑談している時」が最も高く 51.1%となっている。同様に前原圏域でも「友人や知人と食事、雑談している時」が 53.6%と最も高くなっている。二丈圏域では「友人や知人と食事、雑談している時」が 55.5%で他圏域よりも高くなっている。志摩圏域では「孫など家族との団らんの時」が最も高く 55.9%である。



(5) 自主的に行われている活動への参加意向

個人または友人と、あるいはグループや団体で、自主的に行われている活動への参加意向を尋ねた(複数回答)。

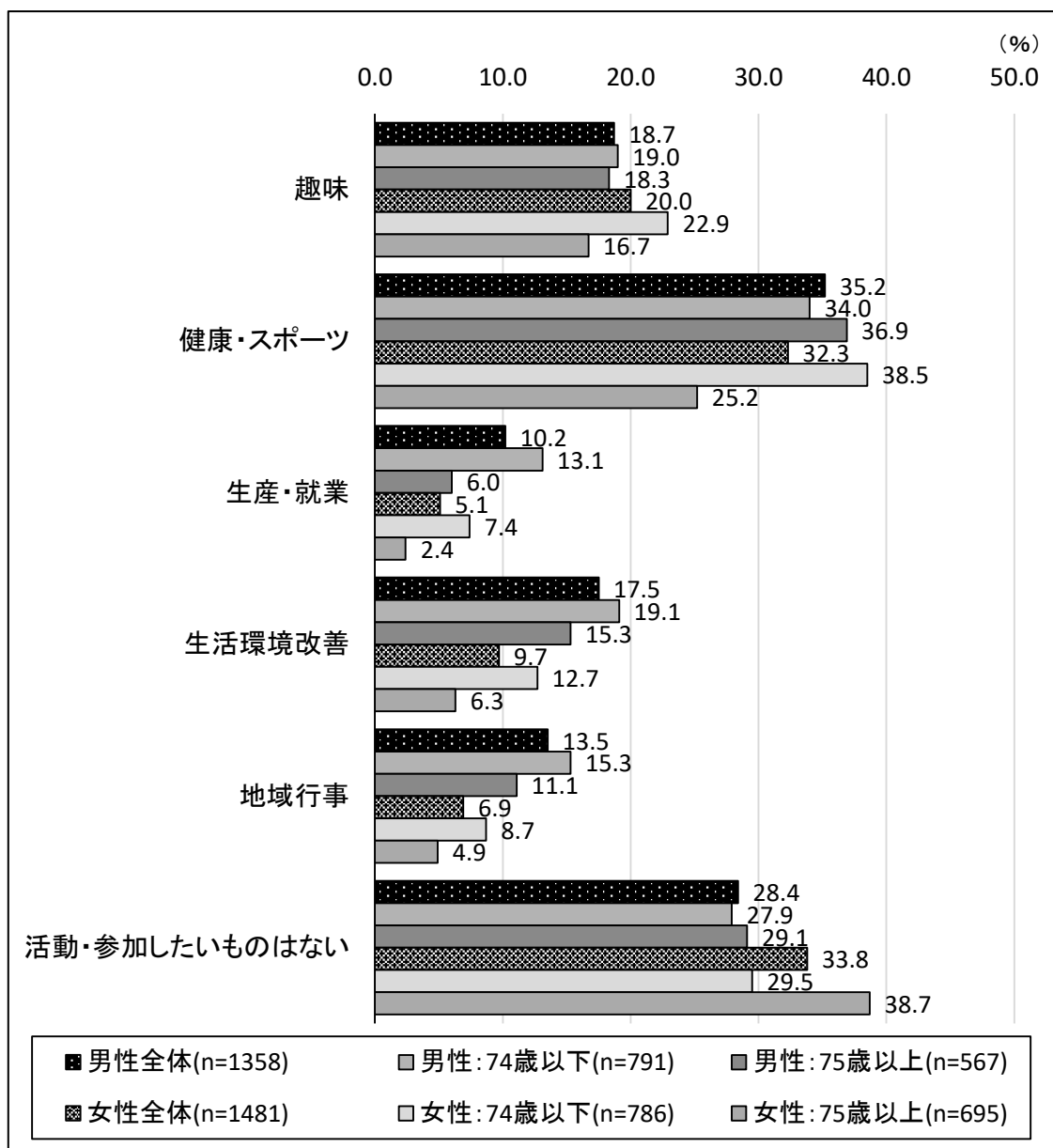
市全体では、「健康・スポーツ」が最も高く 33.7%であった。一方、「活動・参加したいものはない」も 31.2%と高くなっている。次いで「趣味」が 19.4%、「生活環境改善」が 13.5%と続いている。



〈性年代別〉: 主要六項目

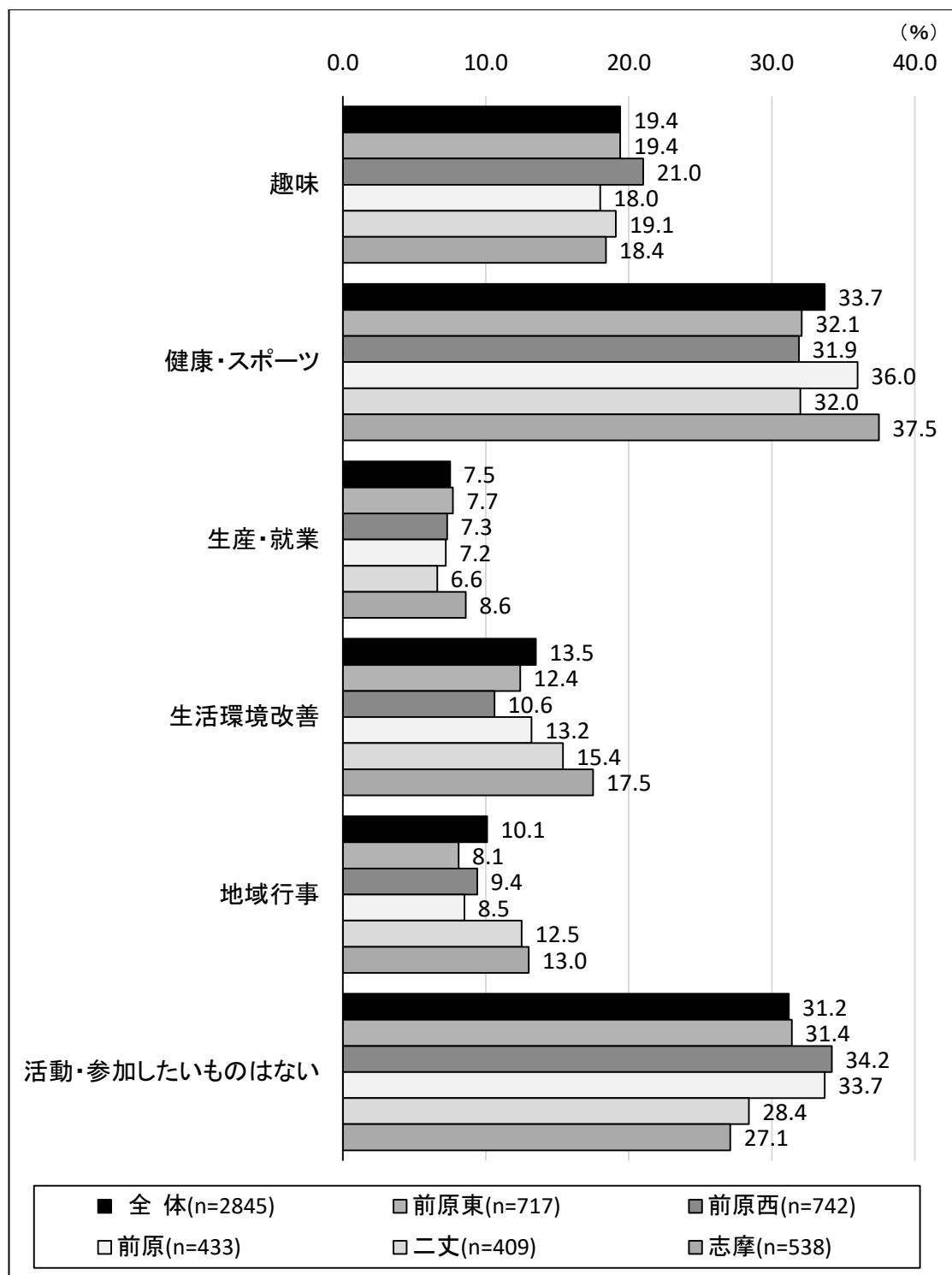
性別では、男性の方が女性よりも高いのは「健康・スポーツ」(男性 35.2%、女性 32.3%)、「生活環境改善」(男性 17.5%、女性 9.7%)、「地域行事」(男性 13.5%、女性 6.9%)、「生産・就業」(男性 10.2%、女性 5.1%)である。反対に女性の方が男性よりも高いのは「趣味」(女性 20.0%、男性 18.7%)、「活動・参加したいものはない」(女性 33.8%、男性 28.4%)である。

年代別では、多くの項目で年代が上がるほど、割合が減少し、「活動・参加したいものはない」は増加する。ただし、男性の「健康・スポーツ」のみは年代が上がるとう参加意向が増加しており(男性 74 歳以下 34.0%、男性 75 歳以上 36.9%)、男性へのアプローチとしては「健康・スポーツ」に関する活動が有効である。



〈圏域別〉：主要六項目

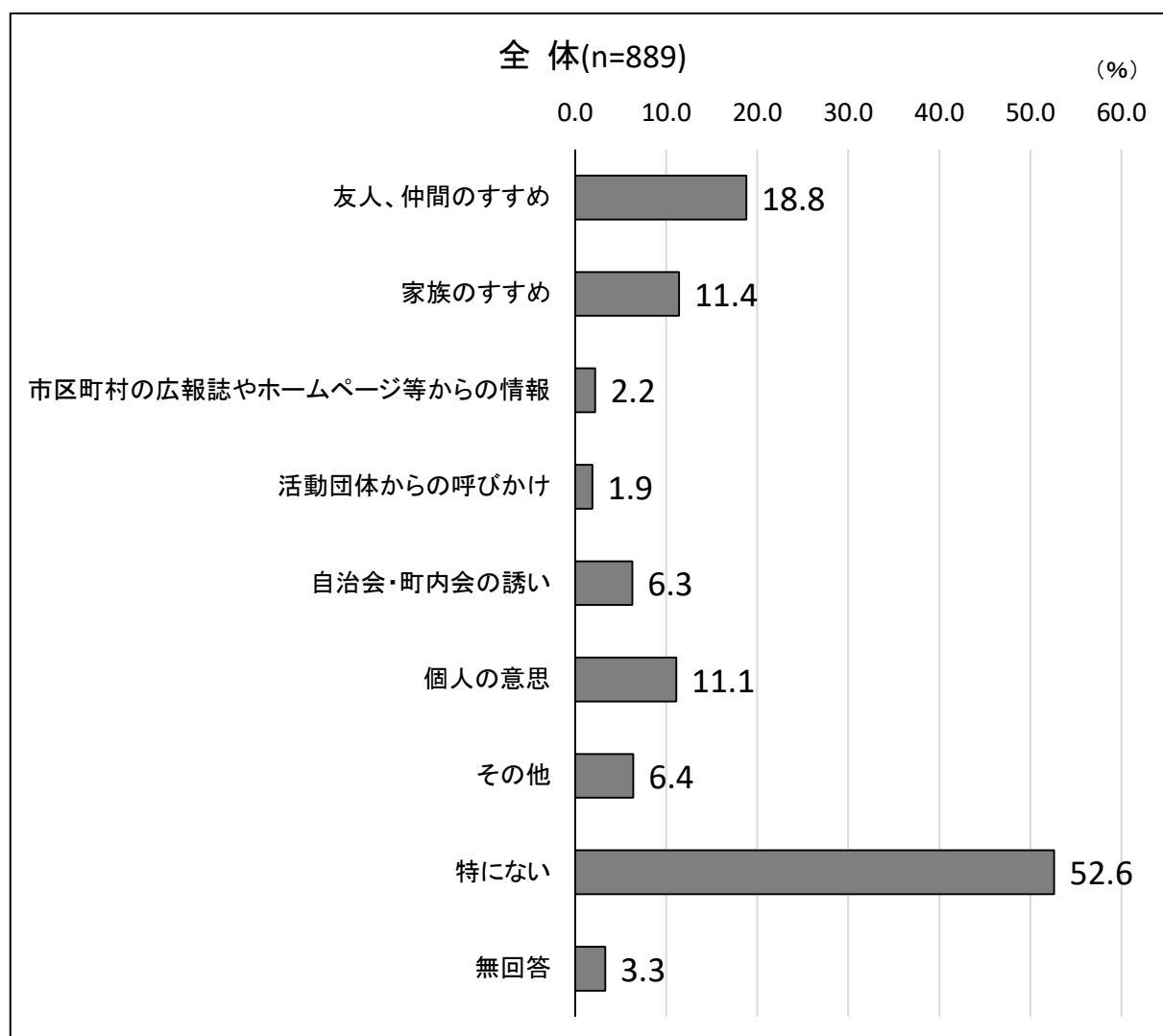
圏域別でみると、市全体で割合の高かった「健康・スポーツ」の項目では、前原圏域 36.0%と志摩圏域 37.5%が高くなっている。同様に市全体で上位に入っていた「活動・参加したいものはない」では前原西圏域が 34.2%、前原圏域が 33.7%と高くなっている。一方、二丈圏域 28.4%と志摩圏域 27.1%では他圏域と比較し「活動・参加したいものはない」の割合が低くなっている。



(6) 自主的に行われている活動に参加するためのきっかけ

前問で「活動・参加したいものはない」と回答した人に、参加するために必要なきっかけを尋ねた(複数回答)。

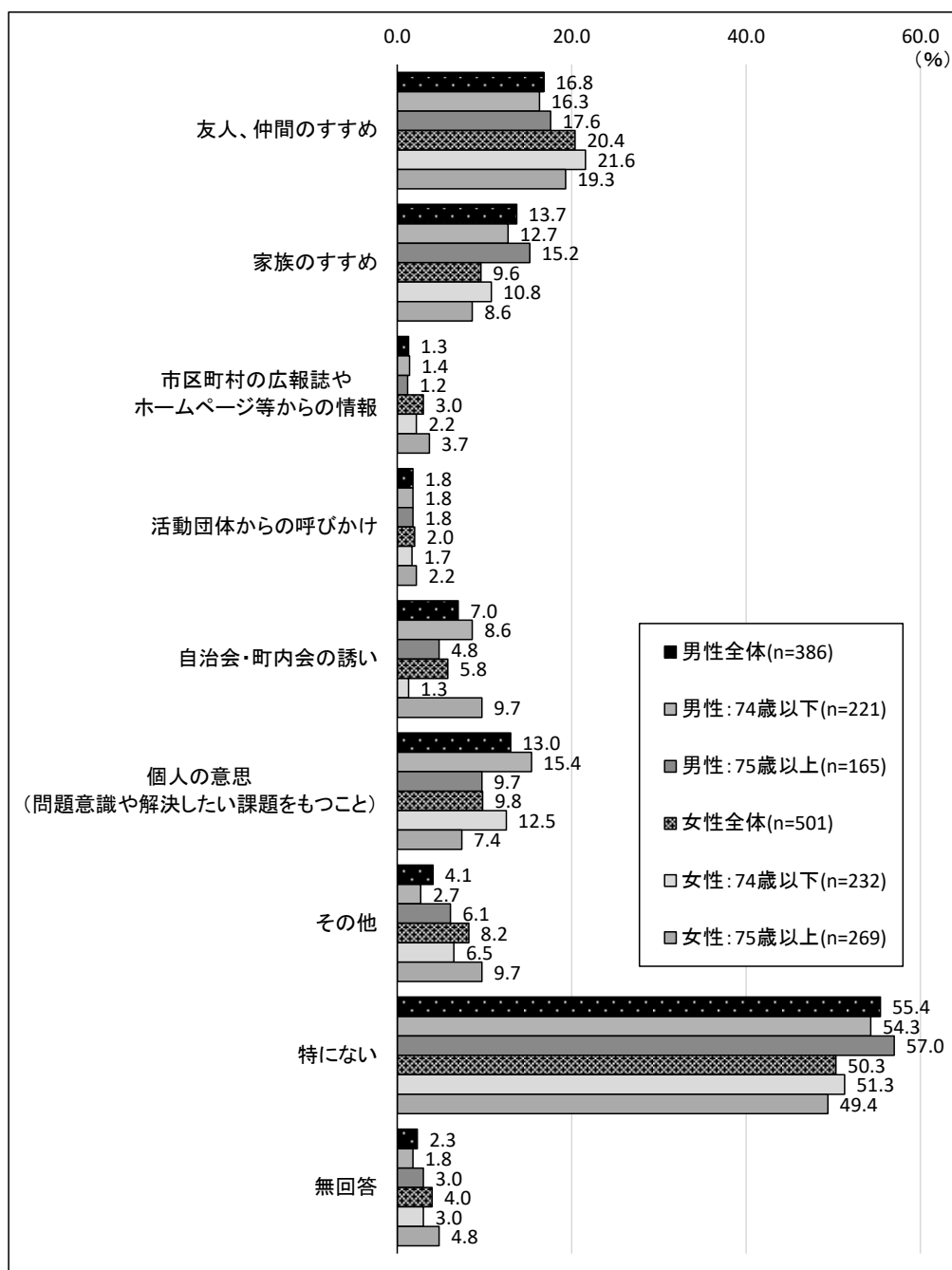
市全体では、「特にない」が 52.6%と非常に高くなっている。次いで「友人、仲間のすすめ」が 18.8%、「家族のすすめ」が 11.4%、「個人の意思」が 11.1%と続いている。



〈性年代別〉

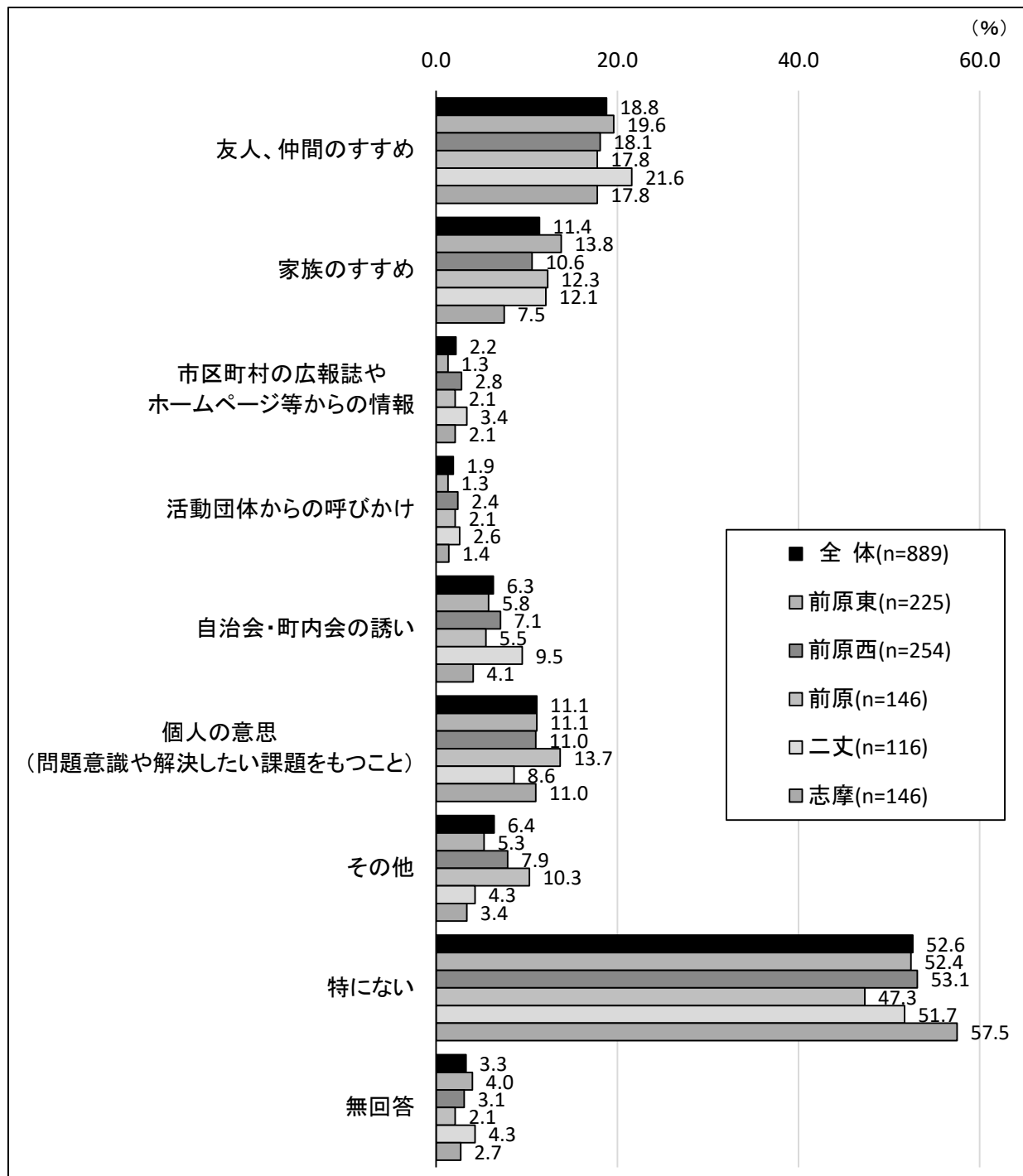
性別では男女ともに「特にない」が最も高くなっている。男性の方が女性より割合が高いのは「家族のすすめ」(男性 13.7%、女性 9.6%)、「個人の意思」(男性 13.0%、女性 9.8%)、「特にない」(男性 55.4%、女性 50.3%)である。一方、女性の方が男性よりも高いのは「友人、仲間のすすめ」(女性 20.4%、男性 16.8%)と「その他」(女性 8.2%、男性 4.1%)である。

年代別では、男性は年代が上がる「特にない」の割合が増加するのに対し、女性は減少している。そのほかにも、男性は年代が上がる「友人、仲間のすすめ」、「家族のすすめ」などの項目が増加している。男女ともに「個人の意思」は年代が上がる減少している。



〈圏域別〉

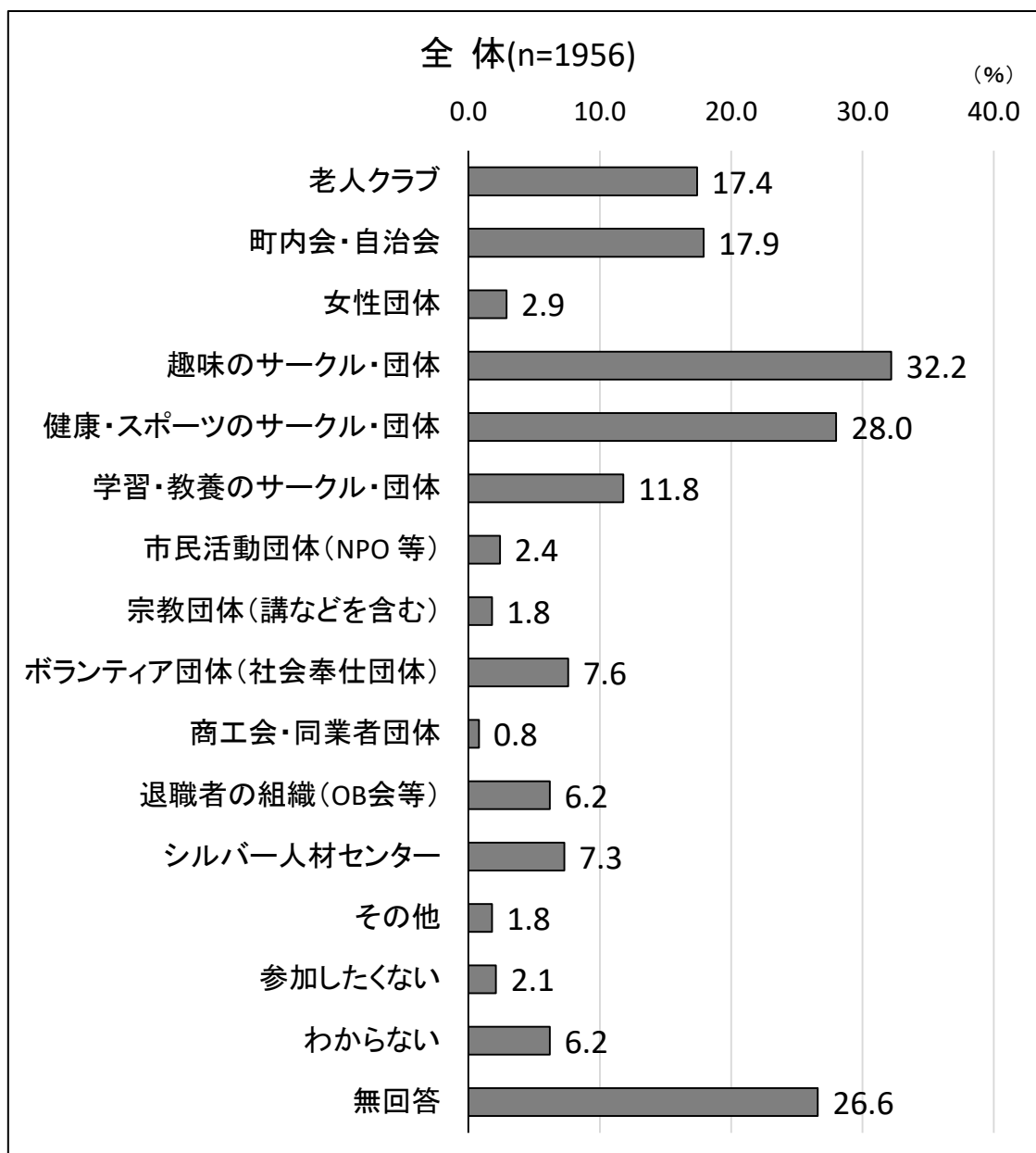
「特にない」は志摩圏域において 57.5%と最も高くなっており、前原圏域で 47.3%と最も低くなっている。「友人、仲間のすすめ」は二丈圏域において 21.6%と他圏域と比較して高くなっている。「家族のすすめ」は前原東圏域で 13.8%と最も高くなり、志摩圏域で 7.5%と最も低くなる。「個人の意思」は前原圏域で 13.7%と最も高く、二丈圏域で 8.6%と最も低い。



(7) 参加したい団体や組織

「自主的に行われている活動への参加意向」の設問において「活動・参加したいものはない」以外の回答をした人に参加したい団体や組織について尋ねた(複数回答)。

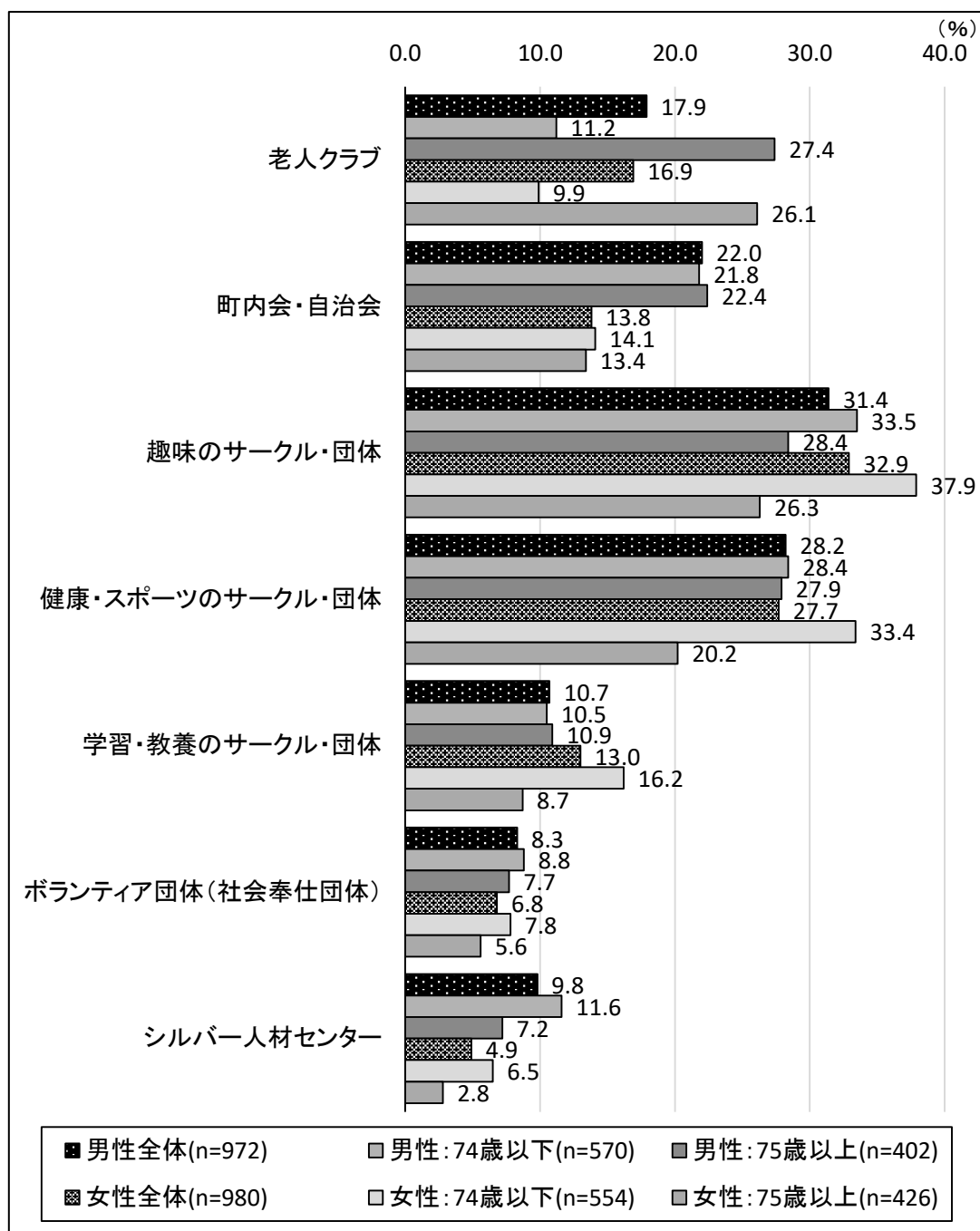
市全体では、「趣味のサークル・団体」が32.2%と最も高く、次いで「健康・スポーツのサークル・団体」が28.0%であった。



〈性年代別〉:主要七項目

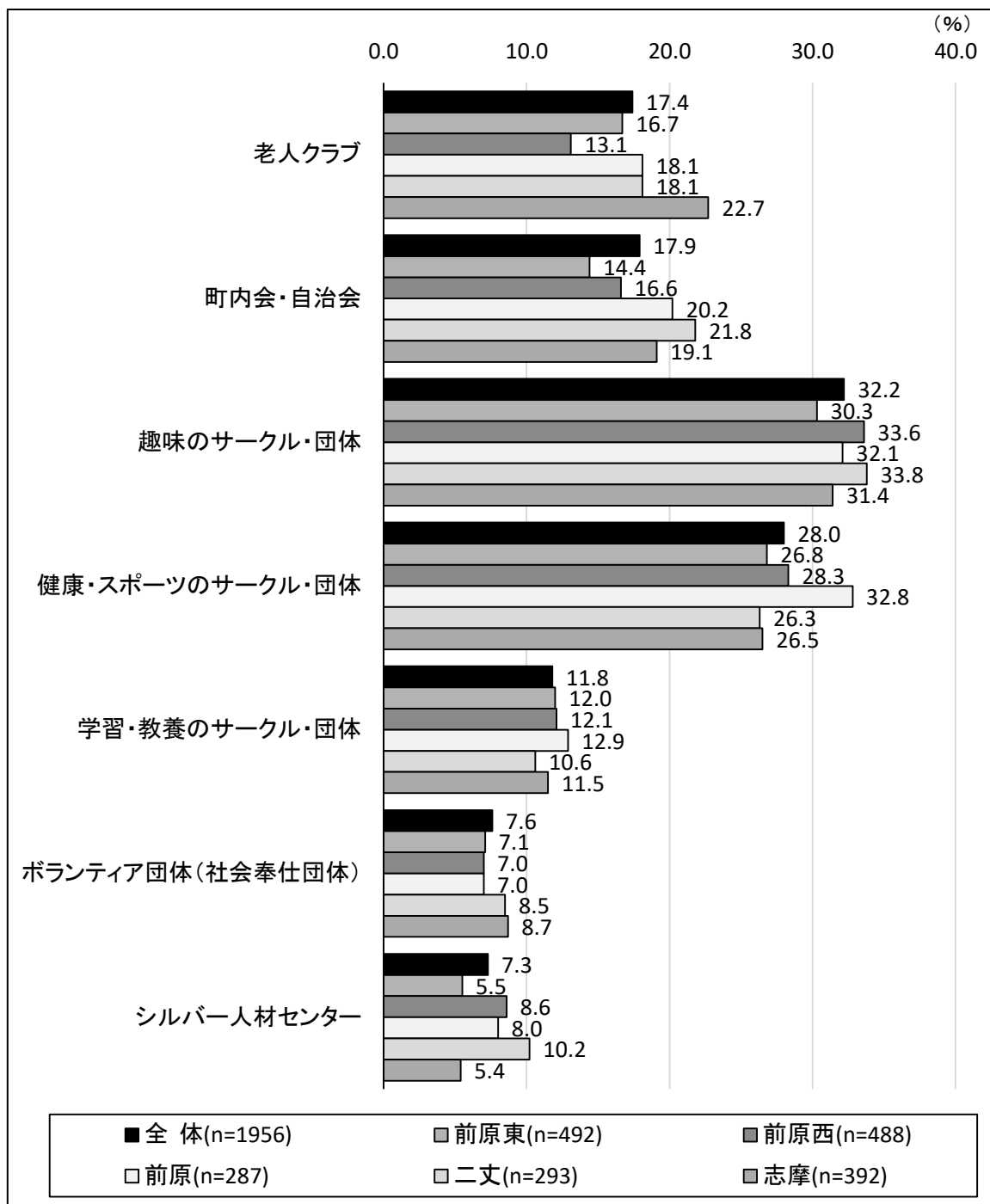
性別でみると、男女差による大きな差はないものの、「町内会・自治会」のみは男性の方が明確に高くなっており、男性 22.0%、女性 13.8%である。「シルバー人材センター」についても男性 9.8%、女性 4.9%で男性の方がやや高い。

年代別では、性別を問わず年代が上がる则「老人クラブ」への参加意向が大きく高まっており、15 ポイントほど増加している。「趣味のサークル・団体」は年代が上がる则男女ともに減少している。また、女性は年代が上がる则「健康・スポーツのサークル・団体」への参加意向が大きく減少している（女性 74 歳以下 33.4%、女性 75 歳以上 20.2%）。



〈圏域別〉：主要七項目

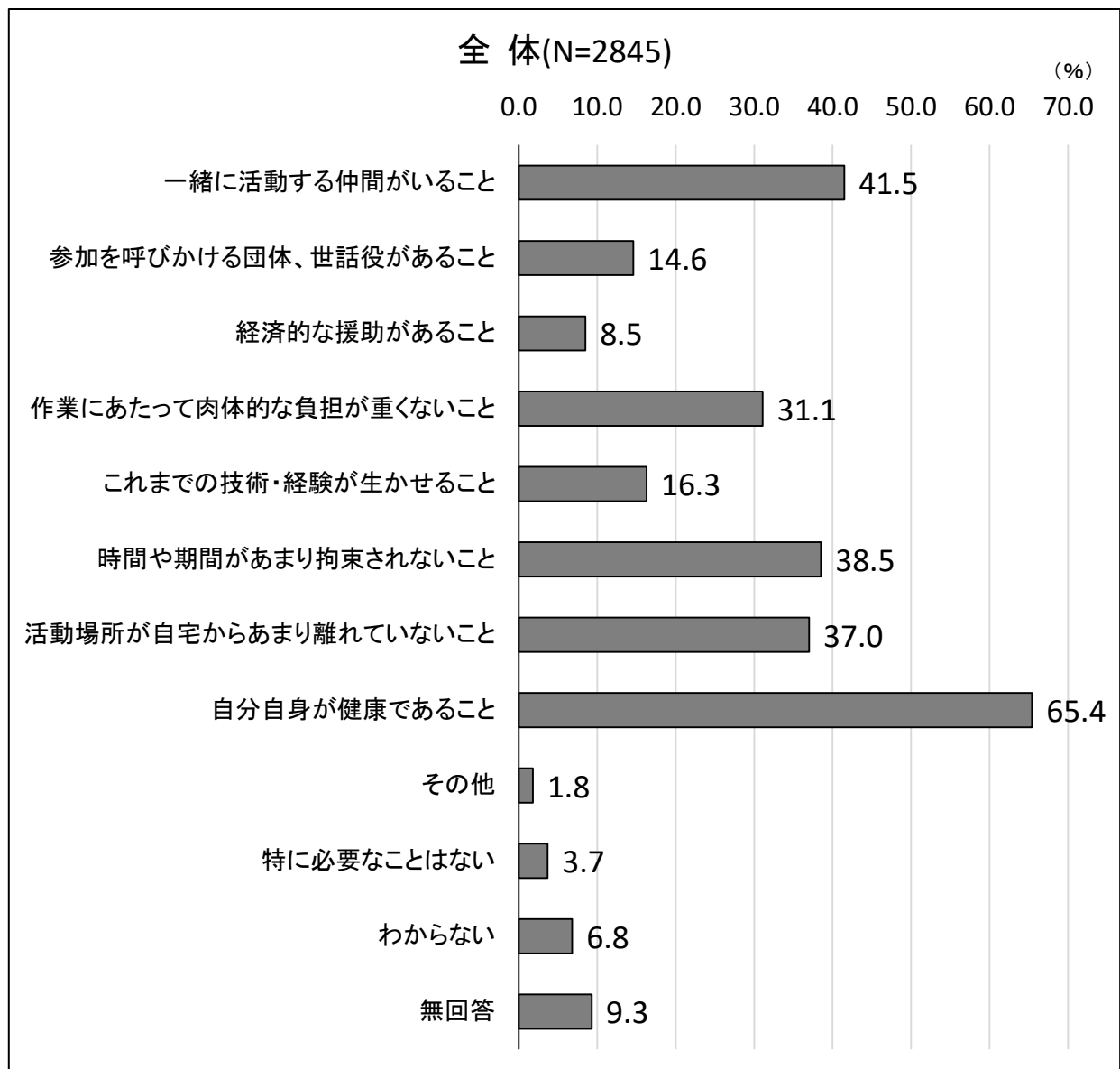
圏域別では、「老人クラブ」は志摩圏域で 22.7%と最も高く、前原西圏域で 13.1%と最も低くなっている。「町内会・自治会」は二丈圏域で 21.8%と最も高く、前原東圏域で 14.4%と最も低い。「健康・スポーツのサークル・団体」は前原圏域で 32.8%となっており、他圏域と比較し 5 ポイントほど高くなっている。「シルバー人材センター」は二丈圏域で 10.2%と市全体より 3 ポイントほど高くなっている。



(8) 地域の奉仕活動に参加するための条件

地域の奉仕活動に実際に参加するためにはどのような条件が必要だと思うかを尋ねた(複数回答)。

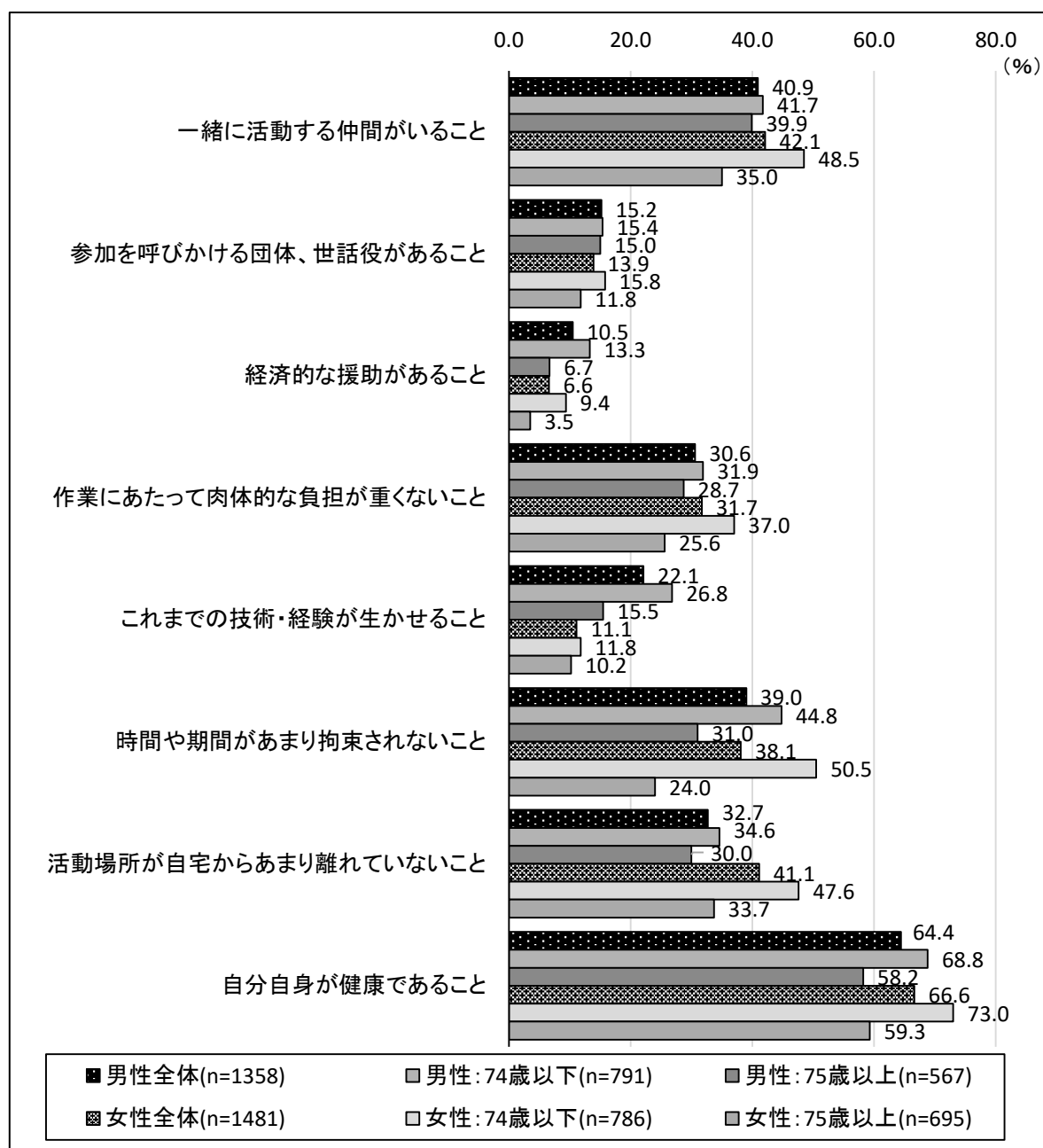
市全体では、「自分自身が健康であること」が最も高く 65.4%、次いで「一緒に活動する仲間がいること」が 41.5%、「時間や期間があまり拘束されないこと」が 38.5%、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと」が 37.0%となっている。



〈性年代別〉:主要八項目

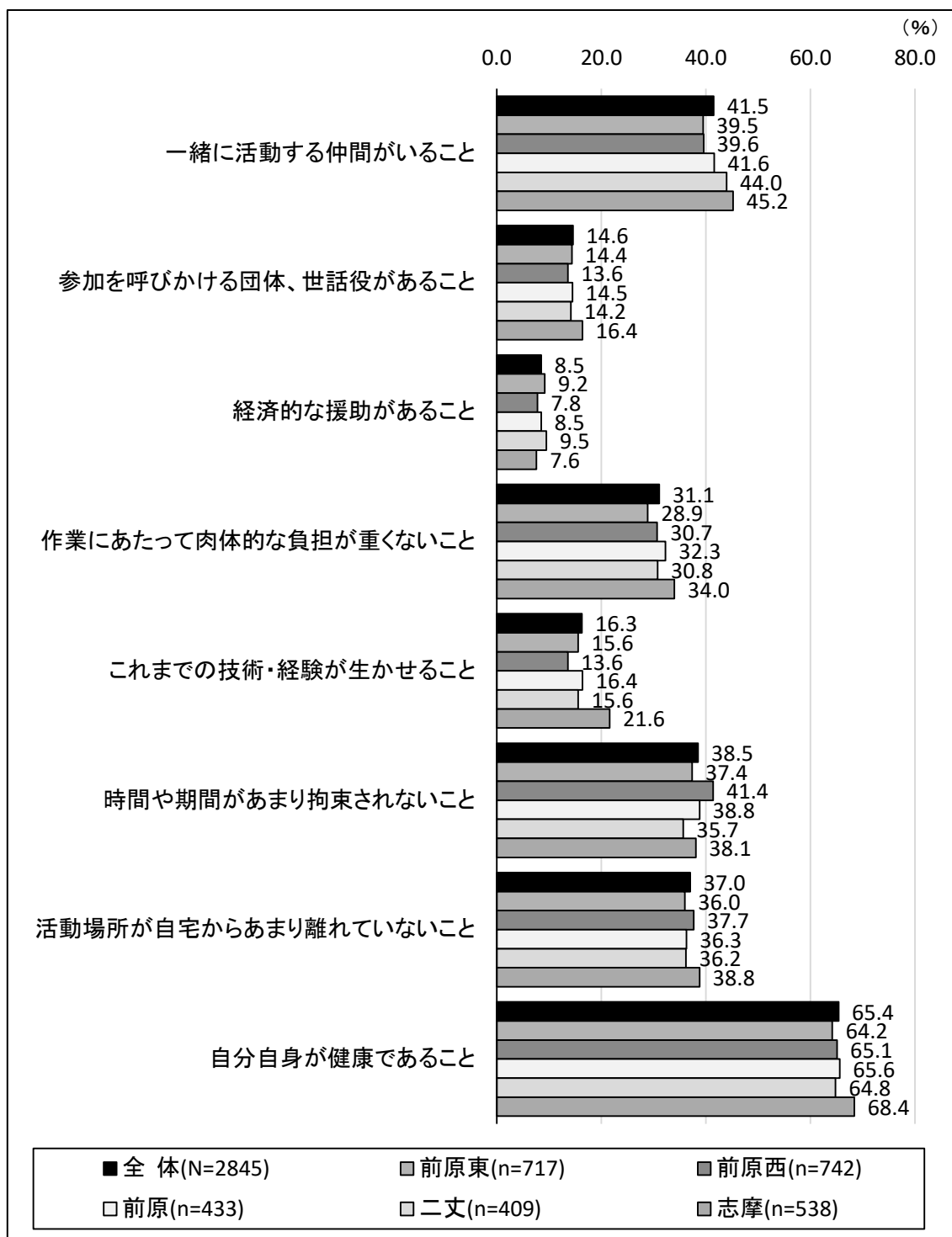
性別では多くの項目において差はない。例外として「活動場所が自宅からあまり離れていないこと」は男性 32.7%、女性 41.1%で女性の方が自宅からの距離を考慮している。

年代別では、すべての項目において年代が上がる割合が減少している。特に減少幅が大きいものとしては女性の「一緒に活動する仲間がいること」(女性 74 歳以下 48.5%、女性 75 歳以上 35.0%)、女性の「作業にあたって肉体的な負担が重くないこと」(女性 74 歳以下 37.0%、女性 75 歳以上 25.6%)、男女ともに「時間や期間があまり拘束されないこと」、女性の「活動場所が自宅からあまり離れていないこと」(女性 74 歳以下 47.6%、女性 75 歳以上 33.7%)などである。「自分自身が健康であること」については年代が上がる、男女ともに 10 ポイント近く減少している。



〈圏域別〉: 主要八項目

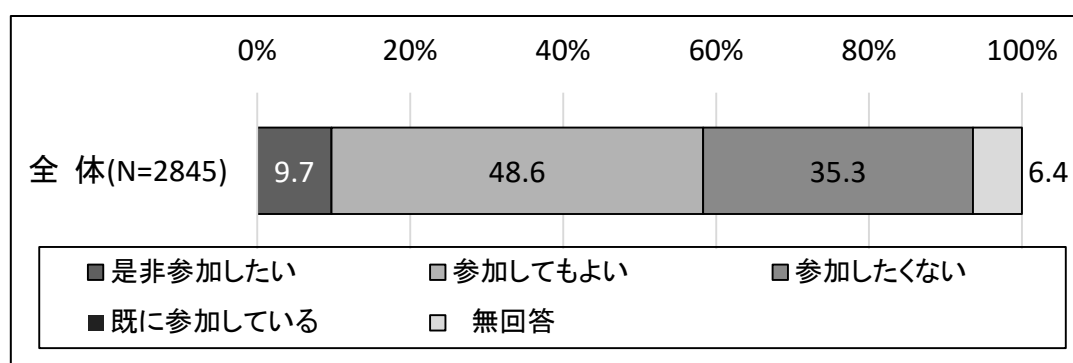
圏域別では、大きな差はないが、「これまでの技術・経験が生かせること」の志摩圏域 21.6%、「一緒に活動する仲間がいること」の志摩圏域 45.2%が市全体と比較し 4 ポイントほど高くなっている。



(9) 健康づくり活動や趣味のグループに参加者として参加したいか

地域住民の有志によって行われる健康づくりや趣味等のグループに参加者として参加したいか尋ねた。

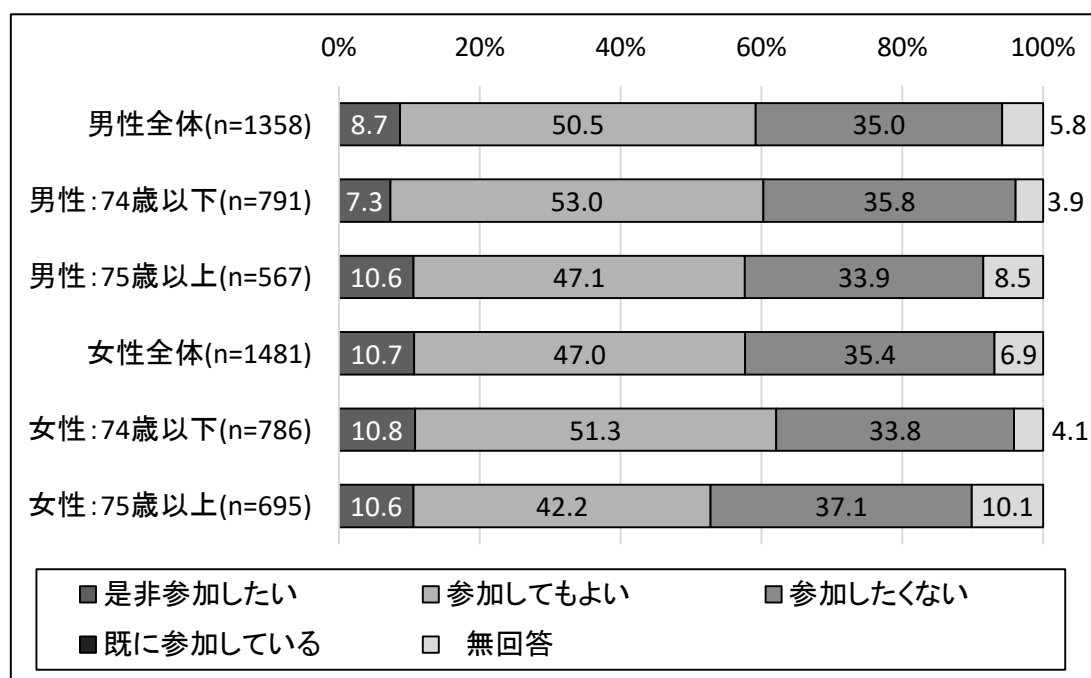
市全体では、「参加してもよい」が 48.6%、「参加したくない」が 35.3%、「是非参加したい」が 9.7%である。



〈性年代別〉

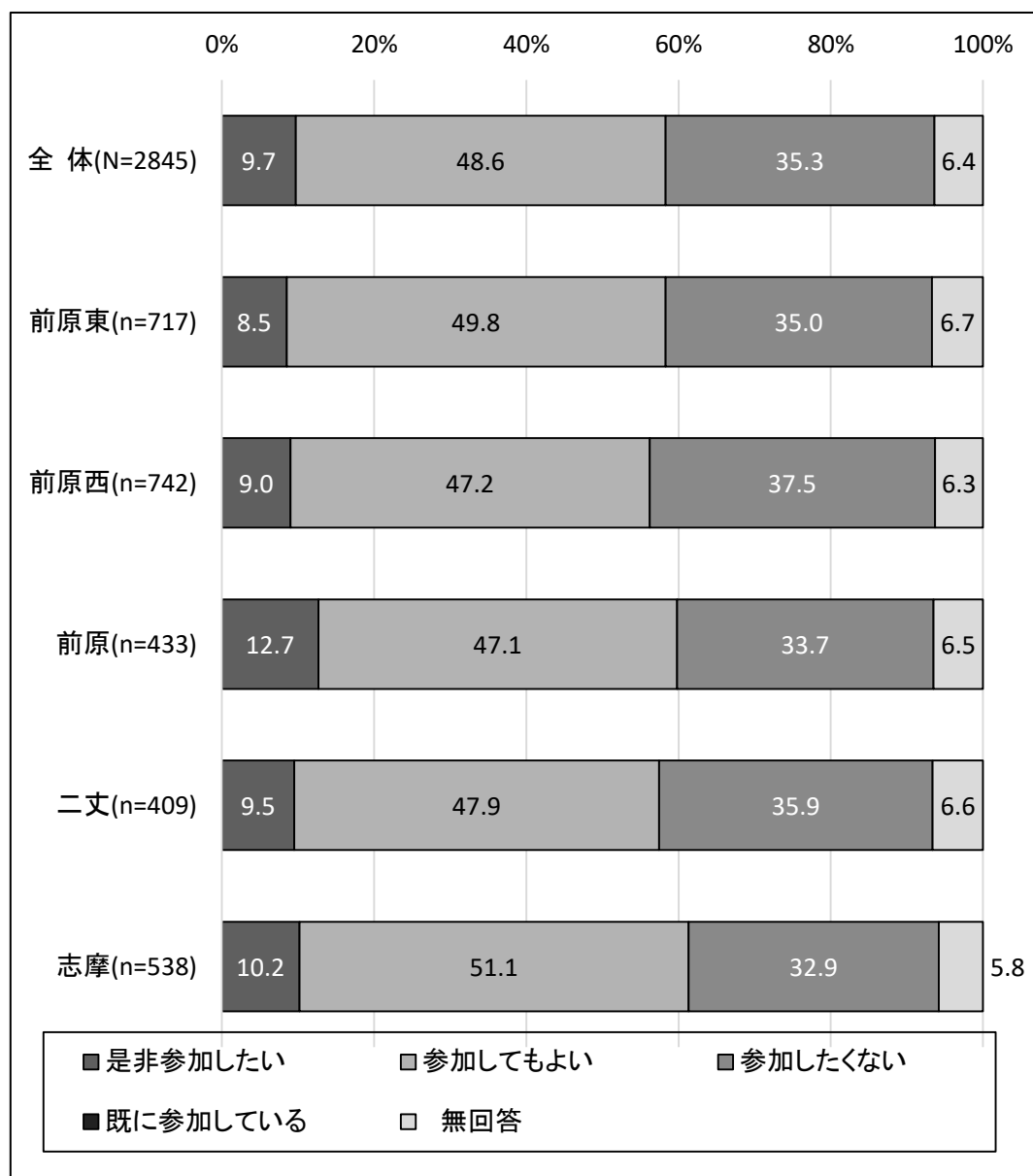
性別では、女性の方が若干「是非参加したい」の割合が高く(女性 10.7%、男性 8.7%)、「参加してもよい」の割合が低いものの(女性 47.0%、男性 50.5%)、大きな差はない。

年代別では男女ともに年代が上がる则『参加したい(「是非参加したい」+「参加してもよい」)』の割合が減少する。特に女性は「参加してもよい」が 10 ポイント近く減少している。



〈圏域別〉

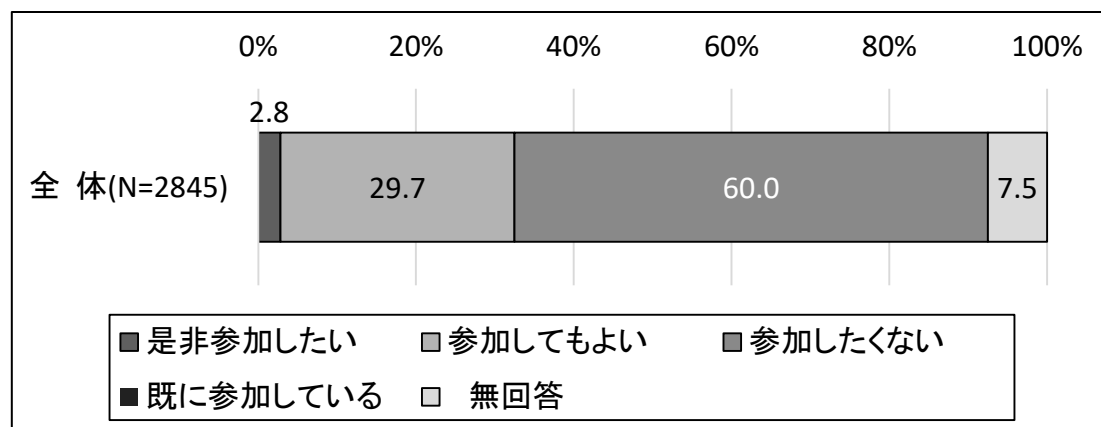
圏域別では、志摩圏域において『参加したい』が最も高く 61.3%となっている。「是非参加したい」については前原圏域において最も高く 12.7%となっている。



(10) 健康づくり活動や趣味のグループに企画・運営(お世話役)として参加したいか

地域住民の有志によって行われる健康づくりや趣味等のグループに企画・運営(お世話役)として参加したいか尋ねた。

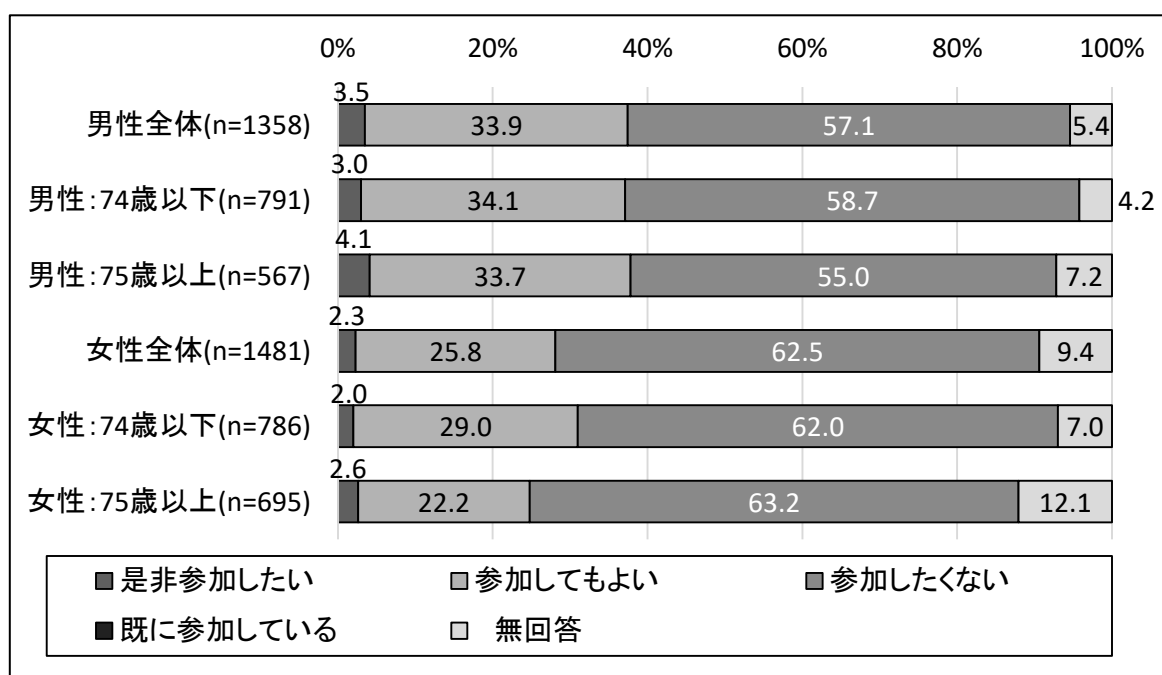
市全体で最も高かったのは「参加したくない」であり 60.0%、次いで「参加してもよい」が 29.7%、「是非参加したい」が 2.8%であった。



〈性年代別〉

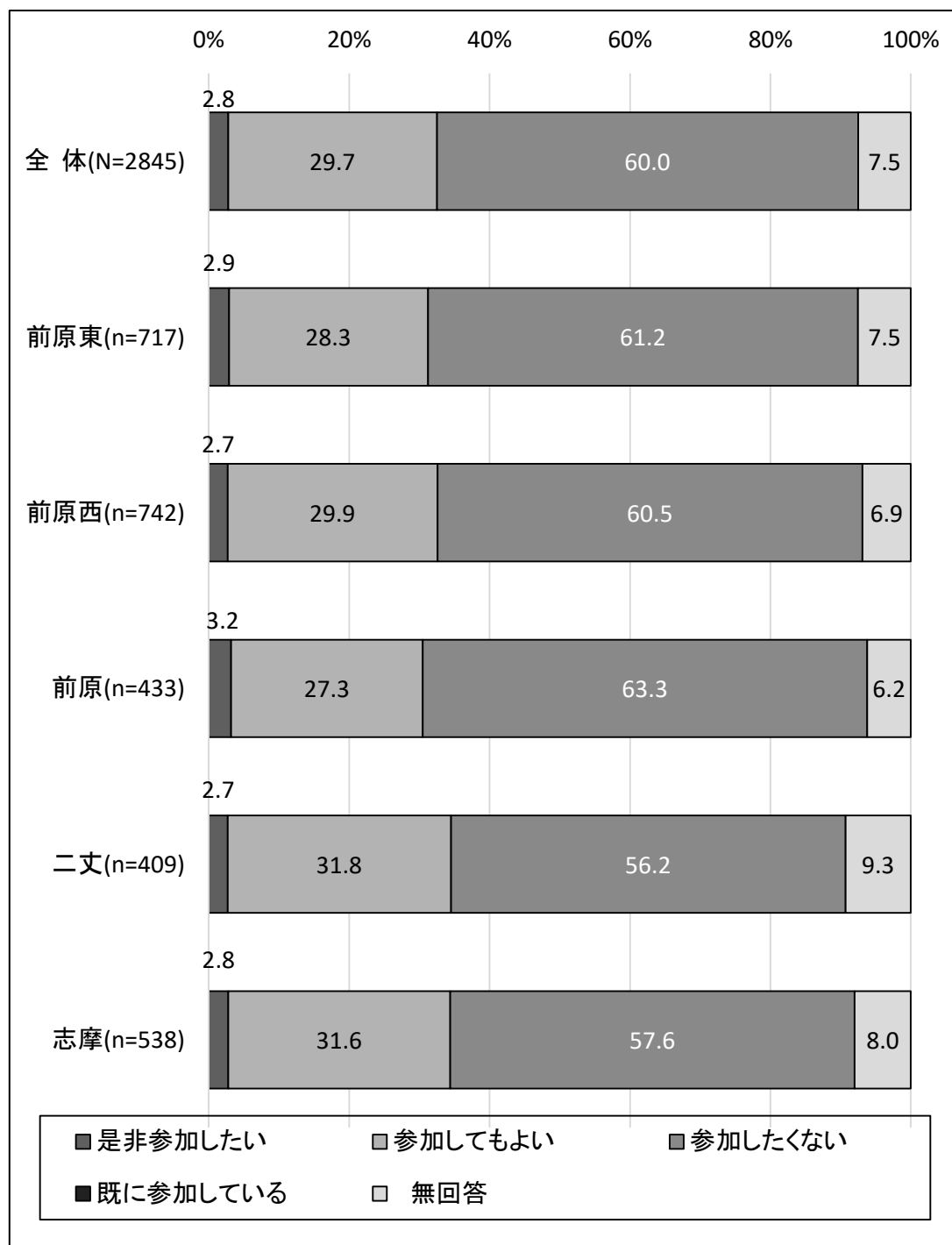
性別でみると、男性は女性よりも「参加してもよい」の割合が高く、男性 33.9%、女性 25.8%であった。反対に「参加したくない」については女性 62.5%、男性 57.1%であった。

年代別でみると、女性は年代が上がると「参加してもよい」がやや減少しており、女性 74 歳以下 29.0%、女性 75 歳以上 22.2%である。



〈圏域別〉

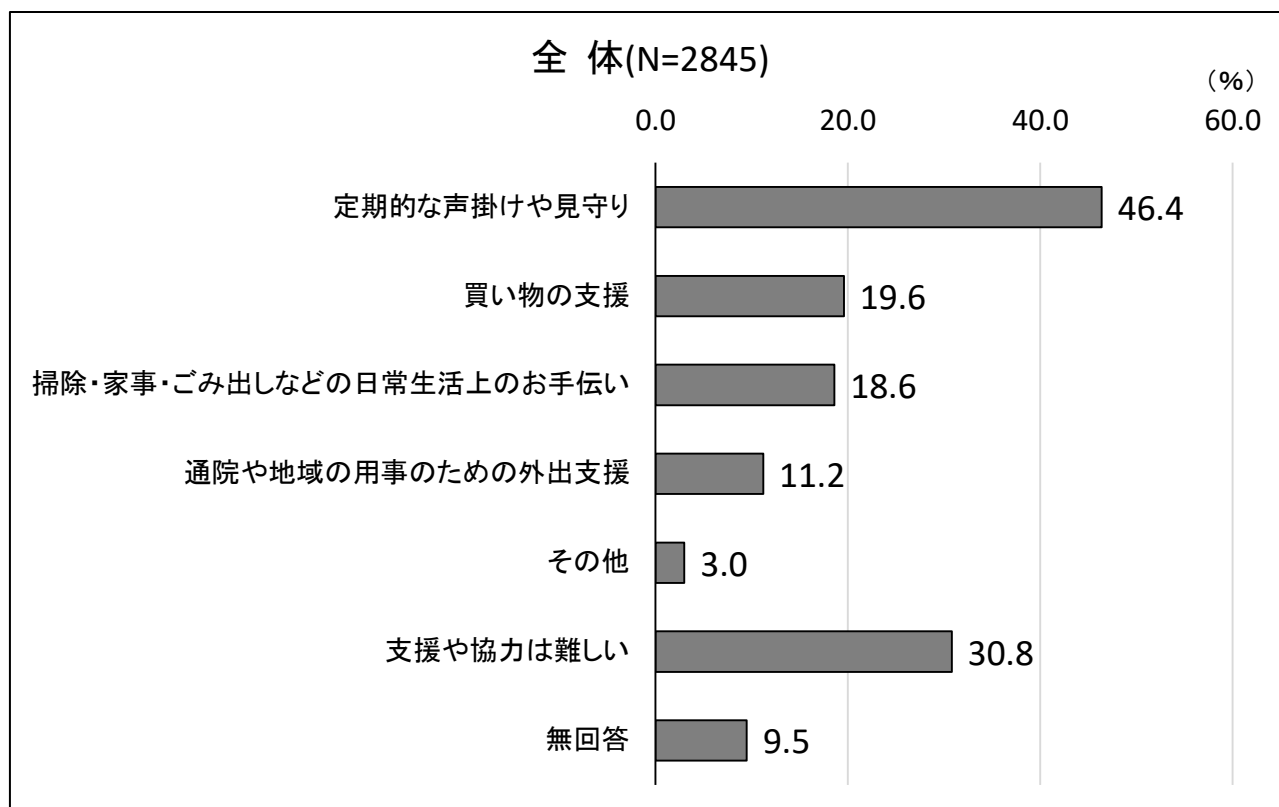
圏域別でみると、「参加してもよい」は、二丈圏域 31.8%と志摩圏域 31.6%で他圏域と比較し、やや高くなっているとともに、「参加したくない」についても他圏域と比較し、やや低くなっている。



(11) あなたができる地域支援や協力

地域で支援や協力をするとしたら、どのようなことができると思うか尋ねた(複数回答)。

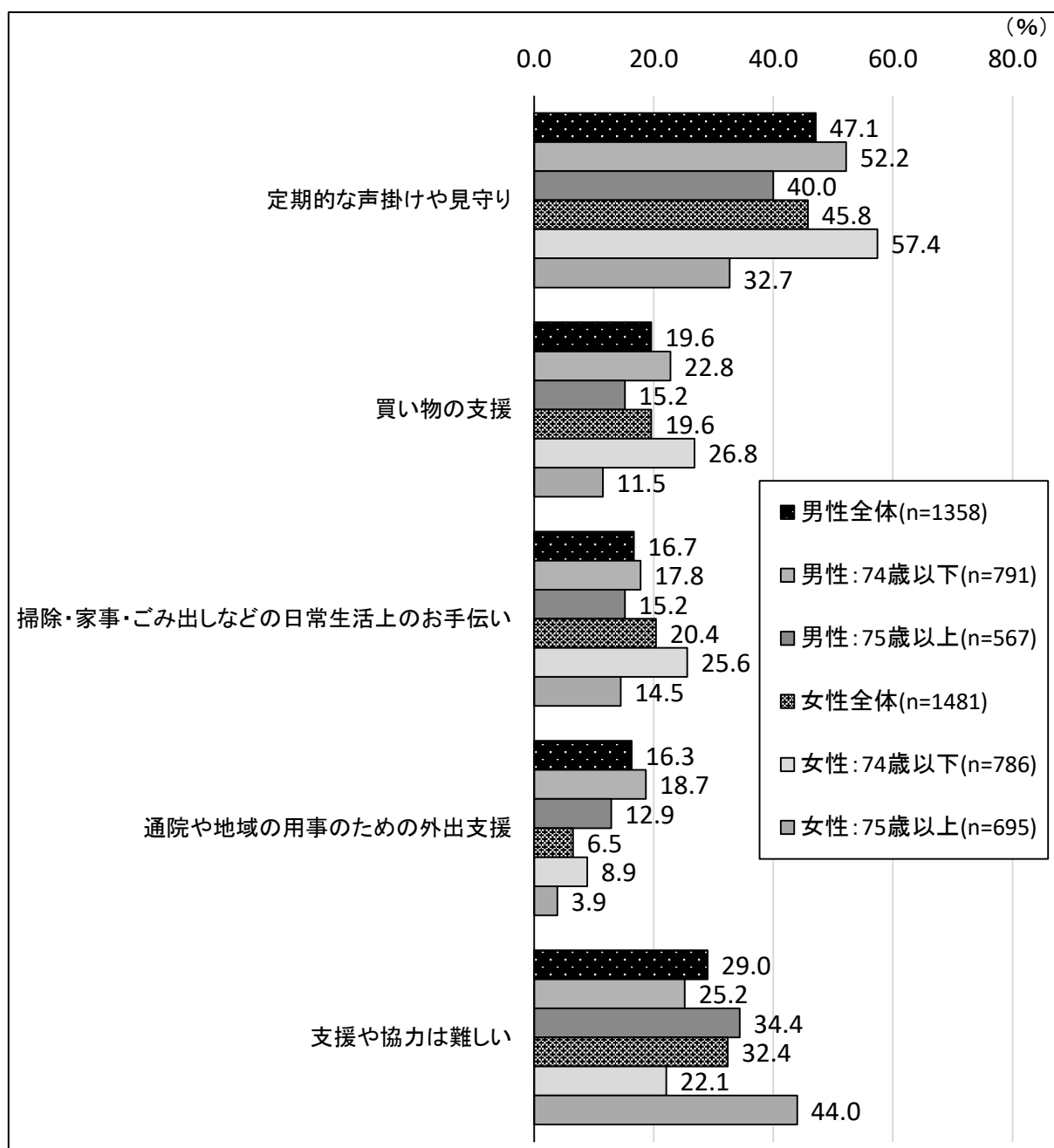
市全体では「定期的な声掛けや見守り」が 46.4%と最も高く、次いで「支援や協力は難しい」が 30.8%、「買い物の支援」が 19.6%、「掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝い」が 18.6%である。



〈性年代別〉

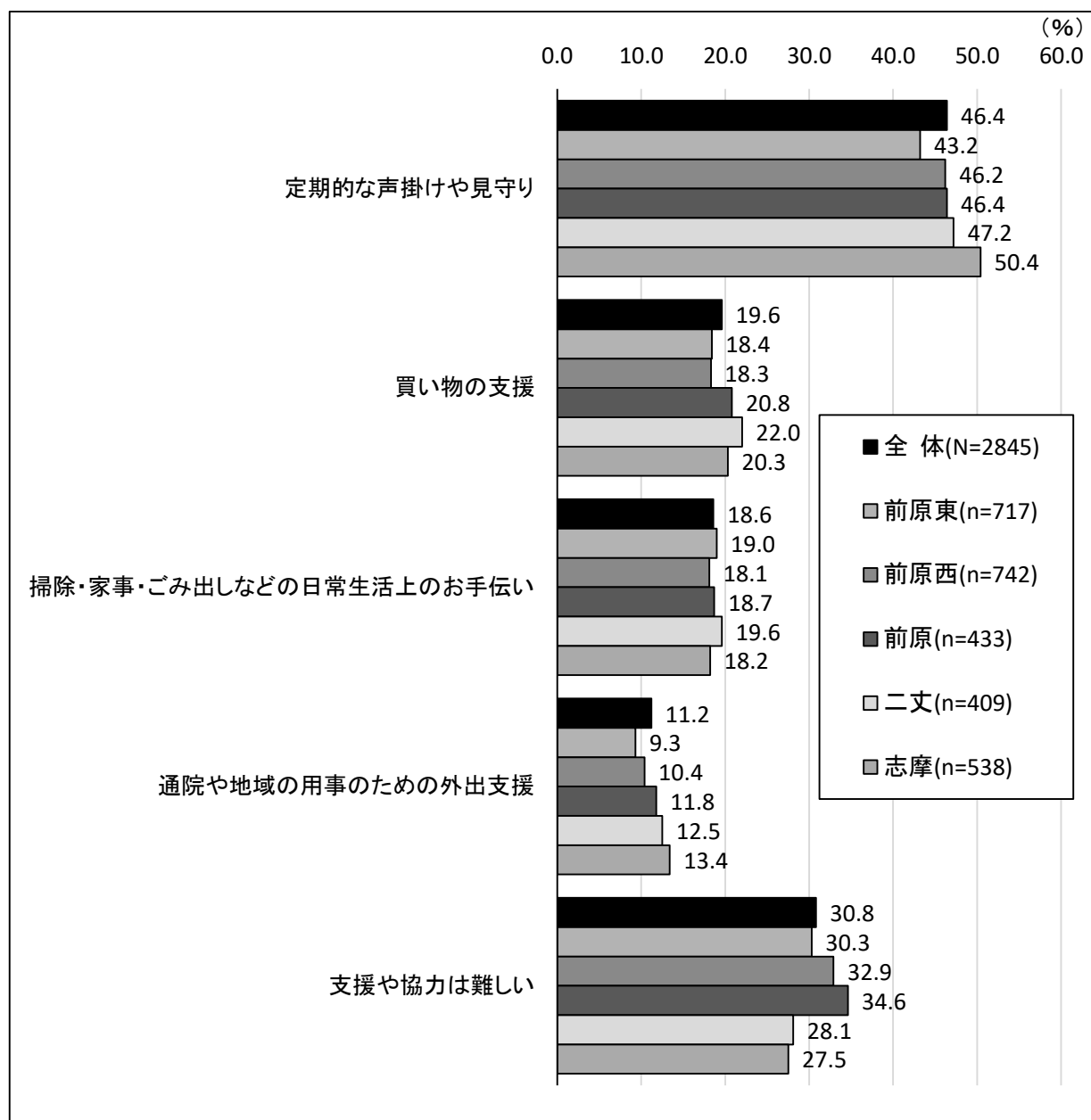
性別では、大きな差はないが、「通院や地域の用事のための外出支援」は男性 16.3%、女性 6.5%で男性の方が高くなっている。また、「掃除・家事・ごみ出しなどの日常生活上のお手伝い」と「支援や協力は難しい」は女性の方が3～4ポイントほど高くなっている。

年代別では、年代が上がるほど、「支援や協力は難しい」の割合が高くなり、他項目の割合は下がっている。



〈圏域別〉

圏域別では、「定期的な声掛けや見守り」は志摩圏域で 50.4%と高くなっている。一方で前原東圏域は 43.2%とやや低くなっている。「支援や協力は難しい」は前原圏域で 34.6%と高くなっている。反対に最も低いのは志摩圏域の 27.5%である。他の項目については、差は 3 ポイントほどで小さくなっている。



Ⅲ 日常生活圏域の特性

調査結果に基づいて、日常生活圏域および小学校区ごとに、市全体との比較を通して、高齢者の特性と課題について整理した。

1 前原東圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

前原東圏域

「持家(一戸建て)」が比較的少なく、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が多い。家族構成としては「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が多く、他圏域と比較するとやや「息子・娘と 2 世帯」が多い地域でもある。暮らしの経済状況は、「やや苦しい」から「ふつう」が他圏域と比較し高くなっている。

外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」か「徒歩」が主流である。他圏域との比較では「自転車」利用の割合が高くなっている。

自治会・町内会への参加状況は「参加していない」が 39.3%と最も高く、他圏域の未参加率と比較しても最も高い。一方、看病してくれる人、愚痴を聞いてくれる人として「近隣」と回答した割合は他圏域と比較し、いずれも高く、地域づきあいが行われていないわけではない。

主観的健康感をみると、「まあよい」が 65.8%と最も高い。一方で、「とてもよい」の割合が市全体よりやや低くなっている。有病率は「高血圧」が 43.7%、次いで「目の病気」が 18.3%となっている。ただし「目の病気」の割合は他圏域に比較し低くなっている。

生活機能の低下状態をみると「生活機能低下」非該当率は 59.0%となっており、市全体よりもやや高くなっている。これは「虚弱」、「運動機能低下」、「口腔機能低下」、「閉じこもり」、「転倒リスク」などにも当てはまり、生活機能をはじめとした諸機能の低下はあまり進んでいない地域であると言える。

実際に介護・介助の必要状況についてみると、「介護・介助は必要ない」が 87.2%であり、これは全圏域の中で最も高い。ただし、介護予防の実践状況をみると「栄養バランスのとれた食事をとる」と「散歩など、できるだけ歩くようにする」に半数の人が取り組んでいるものの、「特に実践していることはない」を除くすべての項目で市全体の平均を下回っており、今後の介護予防の取り組みが必要とされる。参加したい介護予防の取り組みとしては、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 26.6%で最も高く、「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が次いで高い。

介護が必要になった際の生活形態は、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせで利用したい」が 36.3%で最も高くなっている。

(2) 小学校区ごとの特性

波多江小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が 66.3%で最も多く回答されているものの、他の小学校区と比較すると割合は低くなっている(市全体「持家(一戸建て)」83.1%)。一方、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」の割合は市全体よりも高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 63.7%である。市全体との比較では「大変ゆとりがある」の割合が高くなっており、全小学校区の中で最も高い。 外出する際の移動手段としては「徒歩」が最も高く 62.4%である。次いで「自動車(自分で運転)」49.2%である。市全体と比較すると、「自動車(自分で運転)」は 10 ポイントほど低く、「徒歩」、「電車」、「自転車」等の項目で市全体よりも高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感「まあよい」が 67.3%で最も高くなっている。有病率では「高血圧」が最も高く、次いで「目の病気」となっている。また「パーキンソン病」が 2.3%と市全体と比較し有意に高くなっている。肥満度は市全体と比較すると「低体重」が 9.2%でやや高くなっている。 生活機能 「生活機能低下」の該当状況は一般高齢者が 60.7%で市全体よりも 3 ポイントほど高い。「運動機能低下」、「口腔機能低下」、「閉じこもり」などでも市全体より低い該当率である。一方、「認知症リスク」判定では該当が市全体よりも高くなっている。 地域活動 生きがい 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 48.0%で最も高い。生きがいを感じるときは「孫など家族との団らんの時」が 52.8%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が 48.8%である。 介護予防・終末期に関する希望 介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が 86.8%となっている。介護予防のための取り組みとしては「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」に半数以上の回答者が取り組んでいる。一方、「十分な睡眠をとる」は市全体よりも 8 ポイントほど低くなっている。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 24.1%で最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 23.4%である。 介護が必要になった際の生活形態は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせ利用したい」が 38.9%で最も高い。「自宅で家族中心に介護を受けたい」は 9.9%で市全体よりも低くなっている。
---------	---

暮らしの状況

「持家（一戸建て）」が他小学校区と比較して少なく、また「民間賃貸住宅（集合住宅）」に居住する回答者が多い地区である。家族構成は「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が最も高く 41.9%である。暮らしの経済状況は、市全体と比較しても大きな差はなく、「ふつう」が 64.0%、次いで「やや苦しい」が 24.4%となっている。

外出時の移動手段は「徒歩」が 63.4%、次いで「自動車（自分で運転）」が 58.7%である。市全体と比較すると「徒歩」63.4%、「自転車」36.6%、「電車」33.7%が有意に高くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感は、「まあよい」が 65.1%で最も高くなっており、次いで「あまりよくない」が 18.0%である。有病率は「高血圧」が 45.9%で最も高く、次いで「目の病気」が 20.3%である。

生活機能

各種リスク判定については、「虚弱」判定において非該当が 89.5%で市全体と比較して有意に高くなっている（虚弱リスクがないと判定された人が多い）。「運動機能低下」判定においては非該当が 77.3%で有意に高く、該当が 19.3%で有意に低い。また、「認知症リスク」についても非該当が 51.7%で市全体よりも有意に高くなっている。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 51.2%で最も高く、次いで「十分感じている」が 30.8%である。生きがいを感じる時は「趣味やスポーツに熱中している時」が 55.3%で最も高く、次いで「孫など家族との団らんの時」が 52.5%である。参加したい活動としては「健康・スポーツ」が最も高く 34.9%である。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性については「介護・介助は必要ない」が 89.0%である。実践している介護予防の取り組みについては「栄養バランスのとれた食事をとる」と「散歩など、できるだけ歩くようにする」が半数を超えている。参加したい介護予防の取り組みでは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く 27.9%である。市全体との比較では「自宅でのリハビリテーションを受ける」が 3.5%と有意に低くなっている。

介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせ利用したい」が 28.5%で最も高くなっている。市全体との比較では「その他」が 5.8%と有意に高くなっており、多様な生活様式が望まれている地域である。

怡土小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が非常に多く 96.7%となっている。一方、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」が市全体よりも低く、一戸建ての多い地域である。暮らしの経済状況は「ふつう」が59.1%で最も高く、次いで「やや苦しい」の29.8%である。市全体と比較すると「やや苦しい」が有意に高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康状態は「まあよい」が 64.5%で最も高くなっている。次いで「あまりよくない」の 20.2%である。有病率では「高血圧」が 43.8%で最も高く、次いで「目の病気」が 17.4%である。 生活機能 「生活機能低下」は 42.1%である。他のリスク判定については市全体からの大きな差はない。 地域活動 生きがい 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 50.0%で最も高く、次いで「十分感じている」の 29.8%である。生きがいを感じる時としては「孫など家族との団らんの時」が 55.4%で最も高くなっている。市全体との比較では、「趣味やスポーツに熱中している時」が 40.4%、「おいしい物を食べている時」が 33.2%、「勉強や教養などに身を入れている時」が 8.3%となっており、市全体と比較し有意に低くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 回答者の介護・介助の必要性については「介護・介助は必要ない」が 86.4%で最も高くなっている。実践している介護予防のための取り組みでは「栄養バランスのとれた食事をとる」を半数以上の回答者が選択しており 56.2%である。市全体との比較では「体操や運動をする」が 31.0%であり、やや低くなっている。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 28.9%で最も高くなっている。 介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせ利用したい」が 38.4%で最も高くなっている。 終末期を迎える場所の希望では「自宅」が 40.5%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が 32.2%である。
--------	--

2 前原西圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

前原西圏域

「持家(一戸建て)」のほか、「持家(集合住宅)」、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が比較的多い地域である。「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が最も多い圏域であり、経済状況は「大変ゆとりがある」、「ややゆとりがある」と回答した方の割合が最も高い圏域でもある。

外出時の移動手段として「徒歩」や「電車」、「路面バス」などを利用する割合が他圏域より高く、新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「低い」と判定された対象者も 14.6%で最も低くなっている。

自治会・町内会へ「参加していない」人は 38.9%であり、市全体と比較してやや高くなっており、看病してくれる人や愚痴を聞いてくれる人に「近隣」と回答した方の割合も他圏域と比較して低くなっている。

回答者の主観的な健康感をみると、『健康(「とてもよい」+「まあよい」)』と回答した方の割合はやや市全体を下回っている。有病率では「高血圧」の割合が最も低くなっている。また、「生活機能低下」、「虚弱」、「運動機能低下」、「転倒リスク」該当者の割合も他圏域と比較し低くなっている。

現在、何らかの介護・介助を受けている人の割合は最も低く、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「体操・運動をする」、「健康診断を定期的に受ける」などの介護予防のための取り組みを他圏域と比較して多くの人が行っている。「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」も最も高くなっている。

将来介護が必要になった際の生活形態は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 33.4%で最も高い。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 16.4%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

前原小学校区	暮らしの状況 「持家(集合住宅)」の割合が市全体と比較し、非常に高い地域である。家族構成としては「一人暮らし」が有意に高く 20.0%である。暮らしの経済状況としては「ふつう」が最も多く回答されており 62.5%である。また「ややゆとりがある」が 7.0%で他小学校区と比較し高くなっている。移動手段としては「徒歩」と「自動車(自分で運転)」の割合が高い。市全体との比較では「徒歩」60.7%と「タクシー」16.1%の割合が有意に高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感「まあよい」が 63.5%となっているものの、市全体と比較するとやや低い。有病率についてみると、「高血圧」が最も多く選択されており 42.8%、次いで「目の病気」が 23.5%となっている。肥満度は「普通体重」が最も高く、市全体よりも「肥満体重」の割合は少なくなっているものの、「低体重」の割合は高くなっている。 生活機能 「生活機能低下」の割合は 36.5%であり、市全体より低くなっている。「認知症リスク」該当は 54.0%で市全体よりもわずかに高くなっている。 地域活動 生きがい 感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 43.5%で最も高く、次いで「十分感じている」が 33.3%である。市全体と比較すると「あまり感じていない」が 15.4%と有意に高くなっており、注意が必要である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が 53.9%で最も高い。市全体と比較すると「他人から感謝されたとき」が 34.7%、「おいしい物を食べている時」が 51.6%で有意に高くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が 84.2%となっており、介護予防のための取り組みとして「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」が半数を超えている。「栄養バランスのとれた食事をとる」は市全体よりも 6 ポイントほど高くなっている。参加したい介護予防の取り組みとしては「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 22.1%、「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 21.4%である。 介護が必要になった際の生活形態の意向としては、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせたい」が 34.0%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 15.4%となっている。
--------	---

南風小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が89.1%で市全体と比較しても多い地域であり、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が45.5%で最も多い。次いで「息子・娘と2世帯」が19.1%となっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が56.8%と最も多く回答されているものの、市全体と比較すると「ややゆとりがある」が11.5%と有意に高くなっている。 外出する際の移動手段としては、「徒歩」が65.0%で最も高くなっている。市全体との比較では「徒歩」65.0%、「電車」32.8%、「路線バス」24.6%が有意に高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感「まあよい」が63.9%と最も高く、次いで「あまりよくない」が15.8%である。有病率では「高血圧」が38.8%で最も高く、次いで「目の病気」が19.7%である。市全体と比較すると「血液・免疫の病気」が3.8%と有意に高くなっている。 生活機能 各種リスク該当状況については多少のばらつきはあるものの、有意な差ではない。 地域活動 生きがい 回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人については「配偶者」が62.3%で最も高くなっている。市全体と比較すると「近隣」が8.7%と有意に低くなっており、「その他」が4.4%と高くなっている。「近隣」については全小学校区の中でも最も低く、地域でのコミュニケーションが低い可能性がある。 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が39.3%で最も高く、次いで「十分感じている」が37.2%である。 介護予防・終末期に関する希望 回答者の介護・介助の必要性は「介護・介助は必要ない」が85.8%で最も高くなっている。実践している介護予防のための取り組みは「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」で半数を超している。市全体との比較では「栄養バランスのとれた食事をとる」69.4%、「散歩など、できるだけ歩くようにする」59.6%、「体操や運動をする」48.1%が有意に高い。また、「特に実践していることはない」が4.4%と有意に低く、南風小学校区は介護予防の取り組み・実践が活発に行われている地区と言える。加えて、参加したい介護予防の取り組みでも「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」が16.4%で有意に高く、介護予防知識の習得に積極的な地区でもある。 介護が必要になった際の生活様式については「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が31.7%と最も高くなっている。市全体との比較では「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」が9.3%と高くなっている。
--------	---

加布里小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が非常に多く、回答者の 91.2%が「持家(一戸建て)」と回答している。また「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が回答者の 44.2%を占めている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 61.3%で最も多く回答されており、他小学校区と比較すると「ややゆとりがある」がやや高い。 外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」が 60.6%、「徒歩」が 51.8%である。他小学校区との比較では「電車」31.0%も高くなっている。知的能動性判定については「高い」と判定された回答者が 53.3%で最も高くなっているものの市全体との比較では低く、「やや低い」32.1%は市全体よりも 7 ポイントほど高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感については、「まあよい」が 61.7%と最も多く回答されており、次いで「あまりよくない」が 19.0%である。有病率については「高血圧」が 40.9%で最も高い。次いで「目の病気」21.2%である。肥満度は「普通体重」が 70.8%であり、他小学校区と比較しても高くなっている。 生活機能 多くのリスクについて非該当が市全体を上回っているものの、「転倒リスク」は該当が市全体よりもやや高くなっており注意が必要である。 地域活動 生きがい 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が最も高く49.3%である。次いで「十分感じている」が 31.8%である。市全体と比較すると「全く感じていない」が 2.9%で有意に高くなっている。生きがいを感じるときは「友人や知人と食事、雑談している時」が 54.1%と最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」で 50.0%である。市全体との比較では「孫など家族との団らんの時」が 43.7%と有意に低くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 現在の介護・介助の必要状況についてみると、「介護・介助は必要ない」が 85.4%と最も高くなっている。介護予防のための取り組みとしては半数以上の回答者が「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」を行っている。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く21.9%、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 20.4%である。 介護が必要になった際の生活形態については「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 33.9%で最も高くなっている。次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 18.2%である。
---------	--

3 前原圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

前原圏域

他圏域と比較して「持家（一戸建て）」が最も少なく、「公営賃貸住宅」や「民間賃貸住宅（集合住宅）」が多い地域であり、「一人暮らし」の割合が最も高い地域でもある。暮らしの経済状況は、「大変苦しい」、「やや苦しい」が他圏域と比較し最も高くなっている。

外出時の移動手段は「自動車（自分で運転）」、「徒歩」などが多く利用されているものの、「閉じこもり」判定該当者の割合は 18.9%で最も高い。新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「高い」と判定された対象者の割合は最も高く、盛んな情報収集を行う回答者が多い地域である。

病気になった際、看病してくれる人として「近隣」を挙げる割合が他圏域と比較して最も高く、愚痴などを聞いてくれる人としても「近隣」が比較的高くっており、地域コミュニティが強い地域であると言える。

主観的健康感では「まあよい」の回答が最も多い。一方で、有病率では「脳卒中」、「心臓病」、「筋骨格の病気」、「がん」、「血液・免疫の病気」などいくつかの項目において、他圏域と比較して最も高くなっている。肥満度は「普通体重」の割合が市全体や他圏域よりも高くなっている。「生活機能低下」の該当状況は他圏域と比較し、最も該当割合が高く 43.9%となっている。加えて、「虚弱」、「運動機能低下」、「口腔機能低下」、「転倒リスク」該当者の割合は全圏域の中で最も高く、きめ細やかな注意と支援が必要な地域と言える。

実際、「現在、何らかの介護を受けている」と「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合も全圏域の中で最も高くなっている。介護予防への取り組みとして「栄養バランスのとれた食事をとる」や「散歩など、できるだけ歩くようにする」などに半数以上の人に取り組んでおり、「十分な睡眠をとる」や「趣味や地域活動に取り組む」への取り組みが他圏域と比較してより多く行われている。

介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 36.7%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 15.7%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

前原南小学校区

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が市全体と比較して少なく、「公営賃貸住宅」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「借家」などに居住する回答者が多い。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も多く 40.9%である。暮らしの経済状況は「ふつう」が 58.7%で最も高くなっている。次いで「やや苦しい」が 26.3%であるが、いずれの項目も市全体と比較し有意な差ではない。

外出時の移動手段は、「徒歩」が 63.3%で最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」が 48.6%となっている。市全体と比較すると「徒歩」63.3%と「自転車」29.3%は有意に高くなっている。一方、「自動車(自分で運転)」48.6%は市全体よりも 10 ポイント低くなっている。日常的に歩く習慣がある地域であると言える。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が 67.2%で最も高くなっている。次いで「あまりよくない」の 15.1%である。有病率は「高血圧」が 41.7%で最も高く、次いで「目の病気」が 21.2%である。

生活機能

各種リスク判定についてはいずれも市全体と比較して有意な差はなく、地域としては大きな問題はない。

地域活動 生きがい

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 48.3%で最も高く、次いで「十分感じている」が 30.9%である。生きがいを感じる時は「友人や知人と食事・雑談している時」が最も高く 54.6%、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が 50.7%である。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性は「介護・介助は必要ない」が 79.9%、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 10.8%である。市全体と比較すると「介護・介助は必要ない」は 10 ポイントほど低く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は 4 ポイントほど有意に高い。実践している介護予防のための取り組みでは「栄養バランスのとれた食事をとる」が 61.4%で最も高く、次いで「散歩など、できるだけ歩くようにする」が 56.0%である。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 21.2%で最も高く、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 20.8%である。ただし、市全体と比較すると有意な差はない。

介護が必要となった際の生活様式については、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 37.5%と最も高くなっている。

長系小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が93.4%で最も高くなっている。市全体との比較では「持家(一戸建て)」は 10 ポイントほど高い。加えて「借家」も市全体、他小学校区と比較し割合が高くなっている。持家・賃貸を問わず一戸建てが多い地域であると言える。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 37.7%で最も高くなっている。一方で市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」は低く、「一人暮らし」や「その他」の家族構成が高くなっている。暮らしの経済状況は市全体と比較し「やや苦しい」32.8%が 9 ポイントほど高くなっている。 外出時の移動手段としては「自動車(自分で運転)」が 57.4%で最も高い。一方、「徒歩」は 26.2%と他小学校区と比較して最も低くなっている。また、「病院や施設のバス」は 13.1%で有意に高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感「あまりよくない」が市全体より 10 ポイントほど高くなっている。有病率は「高血圧」が 42.6%、次いで「目の病気」と「筋骨格の病気」が 24.6%である。また、「がん」についても 11.5%で市全体と比較し有意に高くなっている。肥満度は「肥満体重」が市全体と比較してやや高くなっている。 生活機能 「生活機能低下」該当が 52.5%で市全体よりも 13 ポイントほど高くなっており、「運動機能低下」42.6%、「閉じこもり」29.5%等でも市全体を有意に上回っている。 地域活動 生きがい 自治会・町内会への参加は「参加していない」が 27.9%となっており、市全体と比較して 8 ポイントほど低くなっており、自治体・町内会活動への参加率は高い地域である。 参加したい自主的な活動は「活動・参加したいものはない」が 39.3%で最も高く、次いで「健康・スポーツ」の 24.6%である。市全体と比較すると「生産・就業」が 16.4%であり、有意に高くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 回答者の介護・介助の必要状況は「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 14.8%で市全体よりも 8 ポイントほど高くなっている。介護予防のために行っている取り組みとしては「栄養バランスのとれた食事をとる」は半数以上の回答者が取り組んでいる。参加したい介護予防の取り組みとしては「介護予防の知識や実践方法を学ぶ講座に参加する」が 21.3%で最も高く、市全体と比較して 11 ポイントほど高くなっている。 介護が必要となった際の生活様式としては「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 39.3%で最も多く回答されている。次いで「自宅で家族中心に介護を受けたい」が 18.0%である。
--------	--

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が84.1%で最も多い地域である。家族構成としては「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も高く41.6%である。暮らしの経済状況は「ふつう」が59.3%、次いで「やや苦しい」が26.5%である。外出の際の移動手段は、「自動車(自分で運転)」が64.6%で最も高く、次いで「徒歩」が38.9%である。

健康状態

主観的健康感については「まあよい」が59.3%で最も多く回答されており、次いで「あまりよくない」が20.4%である。有病率については「高血圧」が50.4%、「目の病気」が22.1%となっている。市全体との比較では「高血圧」は7ポイントほど高くなっている。肥満度は「普通体重」が74.3%で高い。市全体と比較すると「低体重」が1.8%と非常に低くなっている。

生活機能

「生活機能低下」については市全体並みであるが、「口腔機能低下」該当者は31.0%と市全体よりも有意に高い。また、「閉じこもり」該当者についても24.8%と市全体よりも高くなっており注意が必要である。

地域活動 生きがい

自治会・町内会への参加頻度は「参加していない」が23.9%と市全体と比較して4ポイントほど低くなっている。

現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が44.2%、「十分感じている」が34.5%である。生きがいを感じる時は「友人や知人と食事、雑談している時」が56.2%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が52.8%である。市全体と比較すると、「社会奉仕や地域活動をしている時」が19.1%で市全体よりも有意に高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

回答者の介護・介助の必要性はほぼ市全体並みであり、82.3%の回答者が「介護・介助は必要ない」と回答している。介護予防のために実践していることは「栄養バランスのとれた食事をする」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」などであり、これらの取り組みは雷山小学校区の回答者の半数以上が実践している。市全体との比較では「趣味や地域活動に取り組む」が38.9%と有意に高くなっていることが特徴である。参加したい介護予防の取り組みでは、「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」、「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が23.0%と最も高くなっている。

介護が必要となった際の生活様式としては「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせ利用したい」が33.6%で最も高くなっている。

4 二丈圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

二丈圏域

「持家(一戸建て)」の割合が志摩圏域に次いで高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が少ない地域である。「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」世帯が多い地域であり、また、「その他」の割合が他圏域と比較し高くなっている。多様な家族構成の世帯が存在する圏域であると言える。暮らしの経済状況は「ふつう」が 62.1%で最も多い回答となっている。

移動手段としては「自動車(自分で運転)」が最も高く 62.1%となっている。この数値は志摩圏域に次いで二番目に高い数値である。そのため、「路面バス」、「タクシー」などは市全体と比較しやや低くなっている。新聞や本、雑誌の閲覧、健康についての情報への関心などで判定する知的能動性が「低い」と判定された対象者は 19.8%であり、他圏域と比較し最も高い。

自治会・町内会への非参加率は 27.4%であり、他圏域と比較し最も低く、自治会・町内会への参加が行われている地域である。

有病率は「高血圧」が 45.7%、次いで「目の病気」が 18.6%となっている。ただし「目の病気」の割合は他圏域と比較し低くなっている。

肥満の状況を見ると「肥満体重」が 22.5%であり、他圏域と比較して高くなっている点は注意が必要である。「生活機能低下」状況についても低下該当者率が他圏域と比較しやや高く、「運動機能低下」、「栄養改善」、「閉じこもり」についても該当率が高くなっている。一方で、「認知症リスク」該当率については他圏域よりも低くなっている。

現在の介護・介助の必要状況については「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が占める割合が他圏域と比較し非常に低く、介護・介助を必要とする人の捕捉率は高いものと推定される。介護予防のため実践している取り組みは、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」を半数以上の回答者が実践している。

介護が必要になった際の生活形態は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 33.0%で最も高く、次いで「家族に依存せず、自宅で介護サービスを受けたい」が 16.9%となっている。

(2) 小学校区ごとの特性

一貴山小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が多い地域であり 95.6%である。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 46.9%で最も高い。市全体と比較すると「息子・娘と 2 世帯」が 9.7%で有意に低くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 66.4%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 23.0%である。外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が最も高く 61.9%、次いで「徒歩」が 41.6%である。市全体との比較では「病院や施設のバス」が 10.6%で有意に高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感「まあよい」が 68.1%で最も高くなっている。有病率では「高血圧」が 47.8%、次いで「目の病気」が 19.5%である。肥満度については「普通体重」が 58.4%であり、市全体と比較して有意に低くなっており、「肥満体重」が 7 ポイントほど市全体よりも高くなっている。 生活機能 各種リスク判定においては市全体並みが多くなっているが、「認知症リスク」については非該当が 53.1%と市全体よりも有意に高くなっており、他地区よりも「認知症リスク」は低い状態にある。 地域活動 生きがい 町内会・自治会への参加頻度では「週 4 回以上」の参加が 2.7%であり、市全体よりも有意に高くなっている。町内会・自治会活動が活発な地域であると言える。現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 45.1%で最も高く、次いで「十分感じている」が 34.5%となっている。生きがいを感じる時は「友人や知人と食事、雑談している時」が 52.2%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」の 50.0%である。 介護予防・終末期に関する希望 介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が 89.4%で最も高い。市全体と比較すると「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 0.9%で有意に低くなっている。介護・介助を必要とする人が必要な介護・介助を受けられているようである。実践している介護予防の取り組みとしては「栄養バランスのとれた食事をとる」と「散歩など、できるだけ歩くようにする」は半数以上の回答者が取り組んでいる。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 21.2%で最も高くなっている。介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 29.2%で最も高い。市全体との比較では「自宅で家族中心に介護を受けたい」が 21.2%で市全体よりも 10 ポイントほど有意に高くなっている。
---------	--

深江小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」に居住する回答者が 84.5%と最も高い。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 39.8%で最も多いが、市全体と比較すると「その他」の家庭が 26.0%と有意に高く、多様な家族構成が存在する地域である。暮らしの経済状況は「ふつう」が 55.8%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 29.3%である。 外出時の移動手段は「自動車(自分で運転)」が 57.5%、「徒歩」が 51.9%である。市全体と比較すると「自転車」が 25.4%、「電車」が 40.3%と有意に高くなっている。一方、「路線バス」は 7.7%と低くなっている。町内会・自治会への参加頻度は「参加していない」が 21.0%と市全体よりも低くなっている。ただし、無回答の割合が他小学校区よりも高いため、参考程度にとどめる必要がある。 健康状態 回答者の主観的健康感については「まあよい」が 63.5%で最も高い。次いで「あまりよくない」の 23.2%である。有病率は「高血圧」が 44.8%で最も高く、次いで「目の病気」が 18.2%である。市全体と比較すると「外傷」が 1.1%と有意に低くなっている。 生活機能 各種リスク判定については市全体並みであり、有意な差はない。 地域活動 生きがい 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 48.1%で最も高く、次いで「十分感じている」が 31.5%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が 54.2%で最も高く、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」が 53.5%となっている。 介護予防・終末期に関する希望 回答者の介護・介助の必要性は「介護・介助は必要ない」が 86.7%で最も高くなっている。実践している介護予防のための取り組みとして、「栄養バランスのとれた食事をとる」と「健康診断などを定期的に受ける」については半数以上の回答者が行っている。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が最も高く 28.7%、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 22.7%である。 介護が必要となった際の生活様式としては、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 35.9%と最も高くなっている。
--------	--

福吉小学校区	暮らしの状況 「持家（一戸建て）」が多く、家族構成としては「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が多い地区である。暮らしの経済状況は「ふつう」が 67.8%で、次いで「やや苦しい」が 19.1%である。 外出する際の移動手段は「自動車（自分で運転）」が 69.6%で、市全体と比較しても有意に高くなっている。一方、「徒歩」37.4%、「自転車」10.4%、「路線バス」1.7%、「タクシー」1.7%などは市全体と比較して有意に低くなっており、自動車移動が習慣化した地区であると言える。回答者の心配事や愚痴を聞いてくれる人としては「配偶者」が 53.9%で最も高い。市全体との比較では「兄弟姉妹、親戚、親、孫」43.5%、「近隣」24.3%で有意に高くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感「まあよい」が 68.7%で最も高くなっている。有病率では「高血圧」が 45.2%、次いで「目の病気」が 18.3%である。 生活機能 「運動機能低下」判定では非該当が 60.9%で市全体より 9 ポイントほど低くなっており、注意が必要である。 地域活動 生きがい 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 40.0%で最も高く、次いで「十分感じている」が 35.7%である。生きがいを感じる時は「友人や知人と食事、雑談をしている時」が 62.1%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中している時」が 48.3%である。市全体との比較では「仕事に打ち込んでいる時」が 47.1%で有意に高くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 介護・介助の必要状況は「介護・介助は必要ない」が最も高く 83.5%となっている。実践している介護予防のための取り組みでは「栄養バランスのとれた食事をとる」、「健康診断などを定期的に受ける」、「十分な睡眠をとる」で半数を超えている。 介護が必要になった際の生活様式では「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 32.2%で最も高くなっている。市全体との比較では「特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい」が 19.1%で有意に高くなっている。 最期を迎える場所の希望は「病院などの医療機関」が 45.2%で最も高く、市全体と比較しても有意に高くなっている。
--------	---

5 志摩圏域の特性

(1) 圏域全体の特性

志摩圏域
「持家(一戸建て)」が非常に多い地域であり、回答者の 93.5%が「持家(一戸建て)」である。家族構成は「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も高く、次いで「息子・娘と 2 世帯」である。暮らしの経済状況としては「ふつう」が 63.0%であり、他圏域と比較し最も高い。 外出時の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が最も高く 64.3%となっており、他圏域と比較して最も高い。また、他圏域の割合との比較では「路面バス」の割合も高くなっている。一方、「徒歩」は 36.1%で他圏域と比較し最も低くなっている。 自治会・町内会への参加状況は他圏域と比較し、「月 1～3 回」以上の頻度が高くなっており、他圏域と比較すると頻繁に自治会・町内会活動へ参加する人の多い地域であると言える。実際、愚痴を聞いてくれる人として「近隣」を挙げた回答者が 21.7%であり、市全体と比較して 5 ポイントほど高くなっている。 回答者の主観的健康感「まあよい」が最も高く 67.8%となっており、他圏域と比較して最も高くなっている。有病率についても「ない」が 14.5%とわずかながらではあるが他圏域よりも高くなっている。有病の具体的項目としては「高血圧」が 42.2%、「目の病気」が 21.7%となっている。「高血圧」については全圏域の中で最も低くなっている。肥満度は「肥満体重」が 22.1%と市全体よりも高くなっている。 「虚弱」該当者が 12.5%で市全体よりもやや低く、「閉じこもり」該当者が 13.2%と全圏域で最も低い。一方、「認知症リスク」該当者は 54.3%と全圏域の中で最も高い。 介護・介助の必要状況は、市全体水準とほぼ同じで「介護・介助は必要ない」が 85.1%となっている。介護予防のため実践している取り組みは、「栄養バランスのとれた食事をとる」と「健康診断などを定期的に受ける」が半数を超えている。一方、「散歩など、できるだけ歩くようにする」については 48.5%となっているものの、全圏域の中で唯一半数を下回っている。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 24.3%、「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 22.9%となっている。 介護が必要になった際の生活様式は「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 37.9%で最も高く、他圏域と比較しても最も高い。

(2) 小学校区ごとの特性

可也小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が多く、「持家(集合住宅)」や「民間賃貸住宅(集合住宅)」が少ない地区である。暮らしの経済状況としては、「ふつう」が最も高く 62.9%、次いで「やや苦しい」が 24.3%である。 外出する際の移動手段は、「自動車(自分で運転)」が最も高く 61.0%である。市全体との比較では「路線バス」22.8%、「電動車いす(カート)」0.8%が有意に高くなっている。一方、「徒歩」41.7%と「電車」12.7%は低くなっている。 健康状態 回答者の主観的健康感については「まあよい」が 65.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.1%となっている。有病率では「高血圧」が 40.9%で最も高く、次いで「目の病気」が 22.8%である。市全体との有意な差はない。 生活機能 「生活機能低下」判定では一般高齢者が 64.5%で市全体よりも有意に高くなっており、生活機能低下者 32.4%が有意に低くなっている。「閉じこもり」判定では、該当 11.2%が市全体よりも有意に低くなっている。 地域活動 生きがい 町内会・自治会の参加頻度は「年に数回」が 38.6%で最も高く、次いで「参加していない」が 29.3%である。市全体と比較すると「参加していない」は市全体よりも 6 ポイントほど低く、「年に数回」は高くなっている。回答者が病気の際、看病や世話をしてくれる人は「配偶者」が 66.4%で最も高くなっている。市全体との比較では「近隣」6.2%が有意に高くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 介護・介助の必要状況については、「介護・介助は必要ない」が 82.6%で最も高くなっている。実践している介護予防の取り組みとしては、「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」などの取り組みは回答者の半数以上が実践している。参加したい介護予防の取り組みは「趣味や興味のある活動、旅行などに参加する」が 25.1%、次いで「公民館などに出かけていき、体操や趣味の教室などに参加する」が 20.1%である。 介護が必要になった際の生活様式については「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 41.7%で市全体よりも 6 ポイントほど高くなっている。反対に、「有料老人ホームやケア付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい」は 2.7%で市全体より有意に低くなっている。
--------	---

暮らしの状況

「持家(一戸建て)」が96.6%と多い地区である。家族構成では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が最も高く32.2%である。市全体と比較すると「息子・娘と2世帯」が25.3%と有意に高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が70.1%で最も高く、次いで「やや苦しい」が23.0%である。

外出時の移動手段としては「自動車(自分で運転)」が最も高く60.9%である。市全体と比較すると「病院や施設のバス」12.6%や「その他」4.6%は有意に高く、「徒歩」33.3%、「自転車」10.3%、「電車」5.7%は市全体よりも低くなっている。

健康状態

回答者の主観的健康感「まあよい」が71.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」が13.8%となっている。有病率では「高血圧」が49.4%で最も高く、次いで「目の病気」が20.7%である。

生活機能

「運動機能低下」判定は該当が36.8%であり、市全体と比較しても10ポイントほど有意に高くなっている。

地域活動 生きがい

町内会・自治会への参加頻度は「参加していない」が41.4%で最も高くなっている。看病・世話してくれる人としては「配偶者」が66.7%と最も高い。市全体との比較では「同居の子ども」が41.4%で13ポイントほど有意に高くなっている。

介護予防・終末期に関する希望

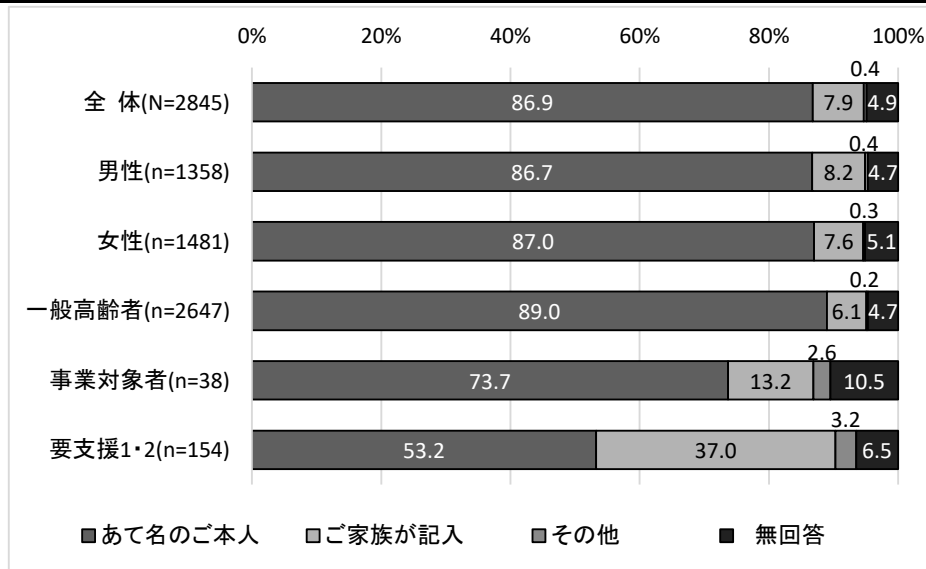
介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が88.5%で最も高くなっている。実践している介護予防の取り組みは「栄養バランスのとれた食事をとる」、「散歩など、できるだけ歩くようにする」、「健康診断などを定期的に受ける」が高くなっており、回答者の半数が実践している。

介護が必要になった際の生活様式は、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせ利用したい」が41.4%で最も高くなっている。

引津小学校区	暮らしの状況 「持家(一戸建て)」が 92.2%と最も高く、「持家(一戸建て)」が多い地域である。家族構成としては「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 32.3%で最も高いものの、市全体と比較すると「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」は有意に低くなっている。一方、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)」は 9.4%で市全体と比較すると高くなっている。暮らしの経済状況は「ふつう」が 59.9%で最も高く、次いで「やや苦しい」の 21.4%である。 健康状態 回答者の主観的健康状態は「まあよい」が 69.8%で最も高く、次いで「あまりよくない」の 15.6%である。有病率は「高血圧」が 40.6%、次いで「目の病気」が 20.8%である。市全体と比較すると「呼吸器の病気」が 8.3%で高くなっている。 生活機能 「生活機能低下」判定率は 41.7%で、市全体と比較してやや高い。他のリスク判定については、多少のばらつきはあるものの、市全体と比較して有意な差はない。 地域活動 生きがい 現在感じている生きがいの程度は「多少感じている」が 46.9%で最も高くなっており、次いで「十分感じている」が 33.9%である。生きがいを感じる時は「孫など家族との団らんの時」が 57.4%、次いで「テレビを見たり、ラジオを聞いている時」が 48.4%である。 参加したい自主的活動では「健康・スポーツ」が 34.9%で最も高く、次いで「活動・参加したいものはない」が 28.1%である。市全体との比較では「生活環境改善」が 19.8%で市全体よりも有意に高くなっている。参加したい団体では、「老人クラブ」が 25.4%、「宗教団体」が 4.3%で市全体よりも有意に高くなっている。 介護予防・終末期に関する希望 介護・介助の必要状況については「介護・介助は必要ない」が 87.0%で最も高くなっている。実践している介護予防の取り組みは「栄養バランスのとれた食事をとる」が 56.3%で最も高く、次いで「健康診断などを定期的に受ける」が 49.5%となっている。介護が必要になった際の生活様式は、「自宅で家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて利用したい」が 31.3%で最も高くなっている。 最期を迎えたい場所の希望は「自宅」が 35.9%で最も高く、次いで「病院などの医療機関」が 30.7%である。市全体との比較では「高齢者向けケア付き住宅」が 5.2%で有意に高くなっている。
--------	--

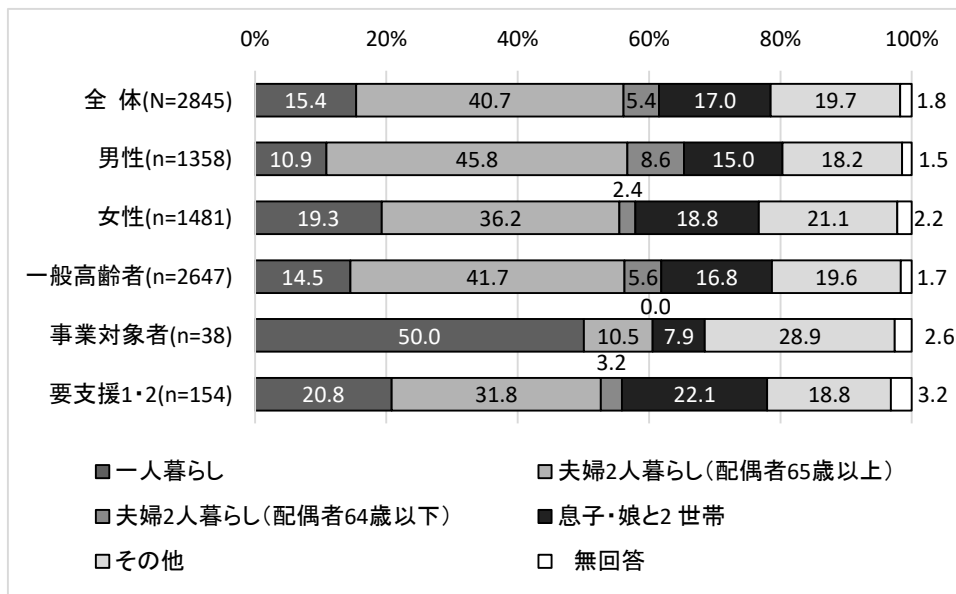
IV 集計結果

回答者について

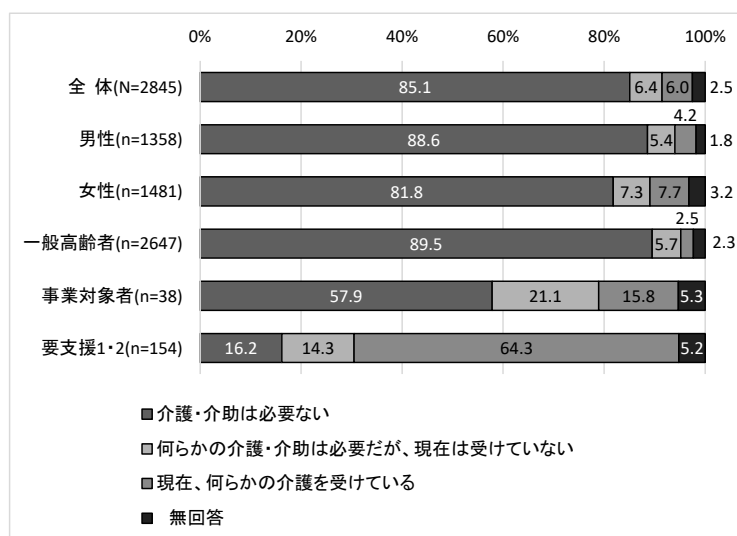


問1 あなたのご家庭や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

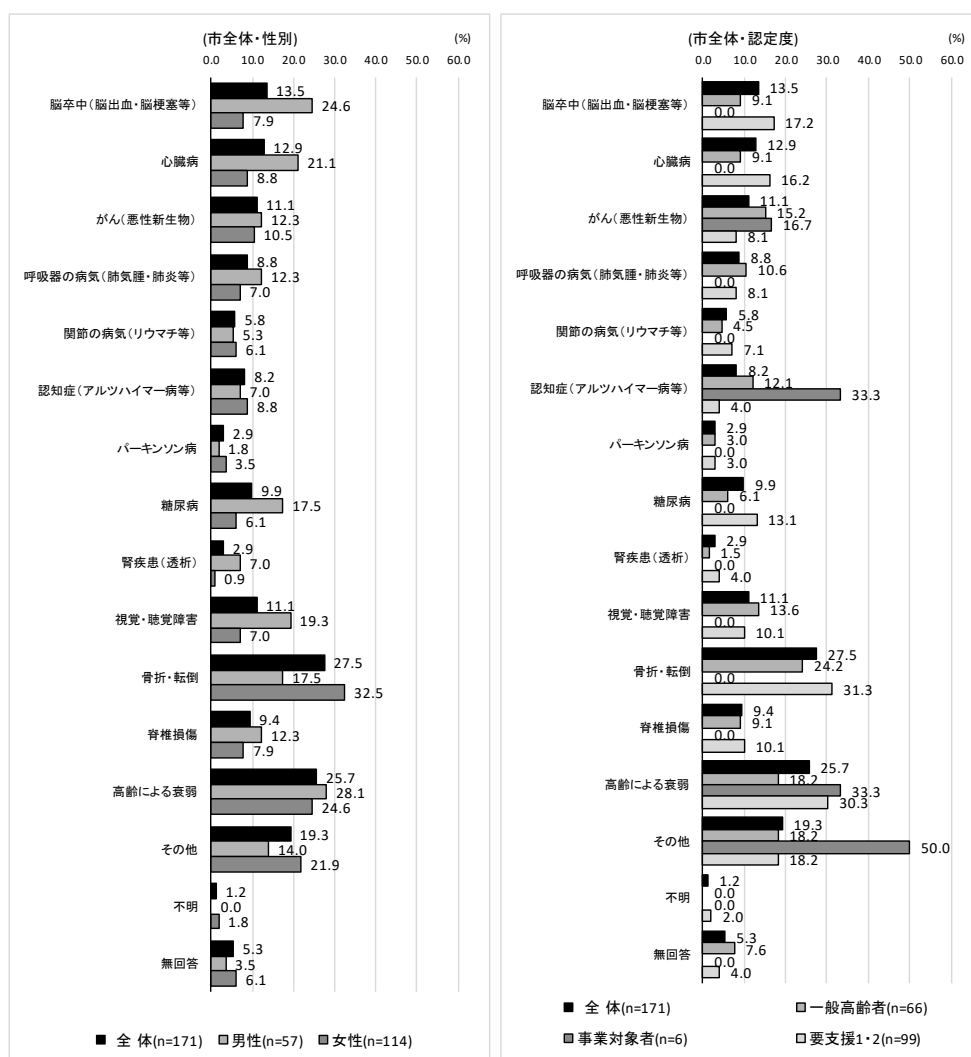


(2)あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか



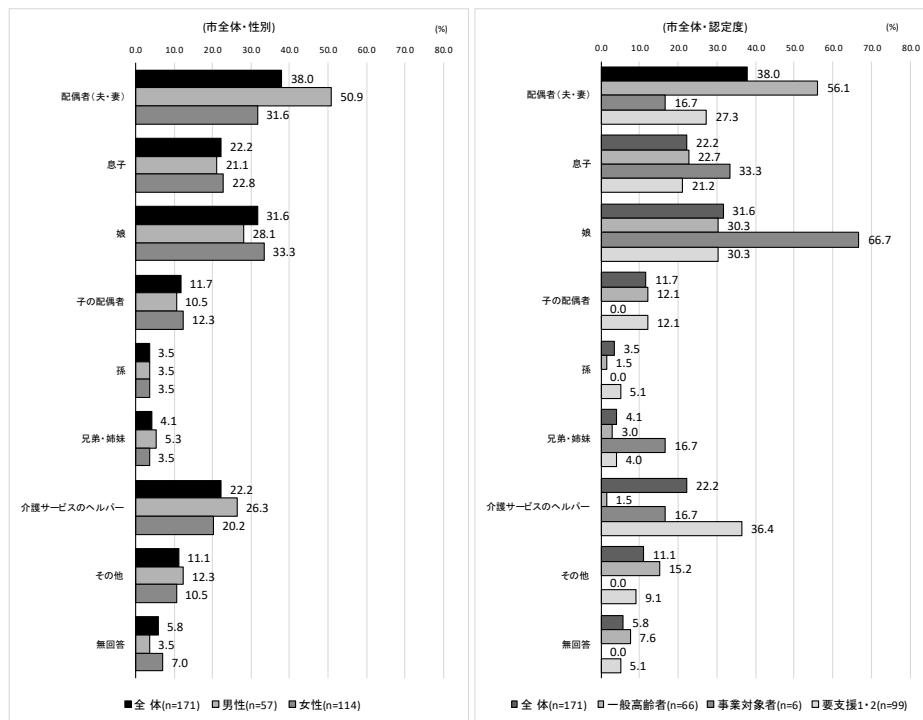
(2)において、「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

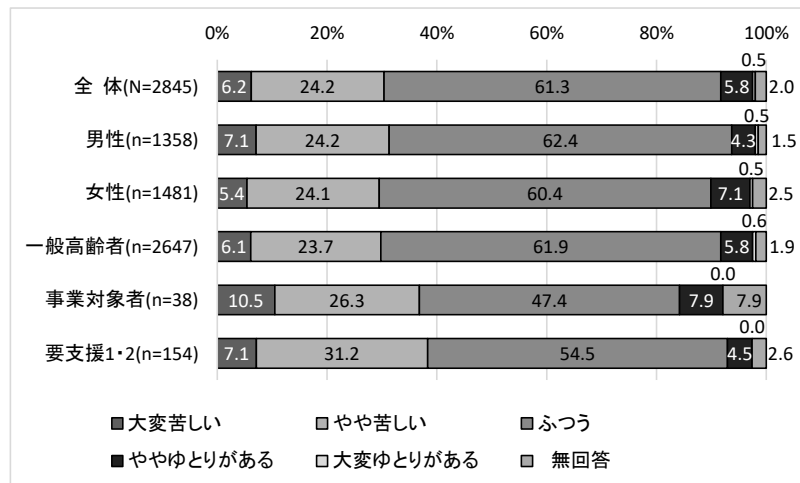


(2)において、「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ

②主にどなたの介護・介助を受けていますか(いくつでも)



(3)現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

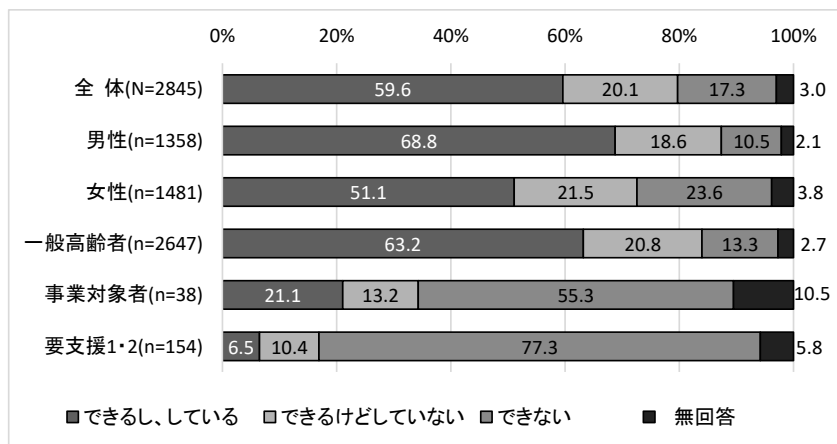


(4)お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

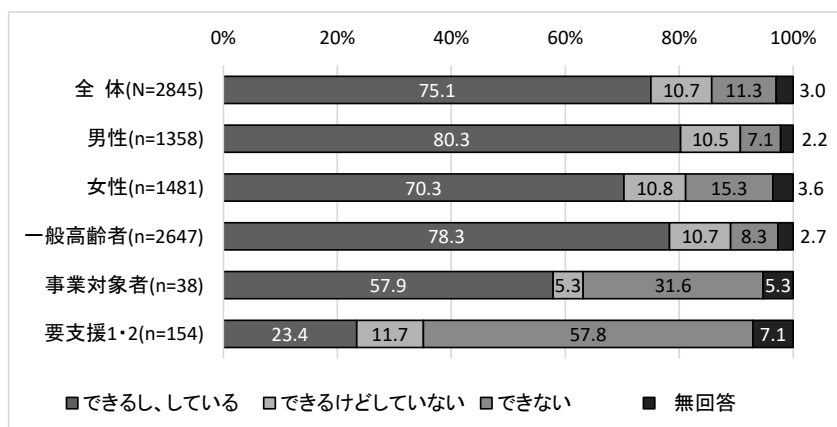
	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答
全体 (N=2845)	83.1	6.2	0.6	1.0	4.4	1.8	1.4	1.6
男性 (n=1358)	83.4	7.2	0.4	1.1	3.9	1.5	1.3	1.2
女性 (n=1481)	82.9	5.3	0.9	0.9	4.7	2.0	1.4	2.0
一般高齢者 (n=2647)	83.5	6.3	0.6	0.9	4.4	1.5	1.3	1.5
事業対象者 (n=38)	86.8	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	2.6	5.3
要支援1・2 (n=154)	76.0	5.8	1.3	1.3	4.5	6.5	1.9	2.6

問2 からだを動かすことについて

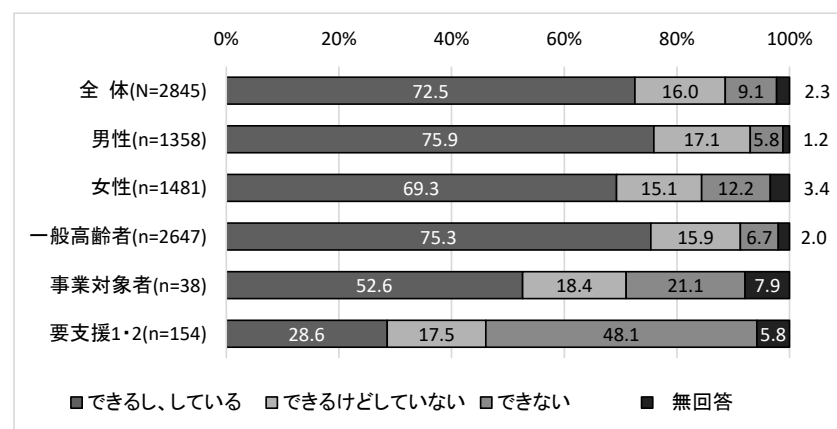
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか



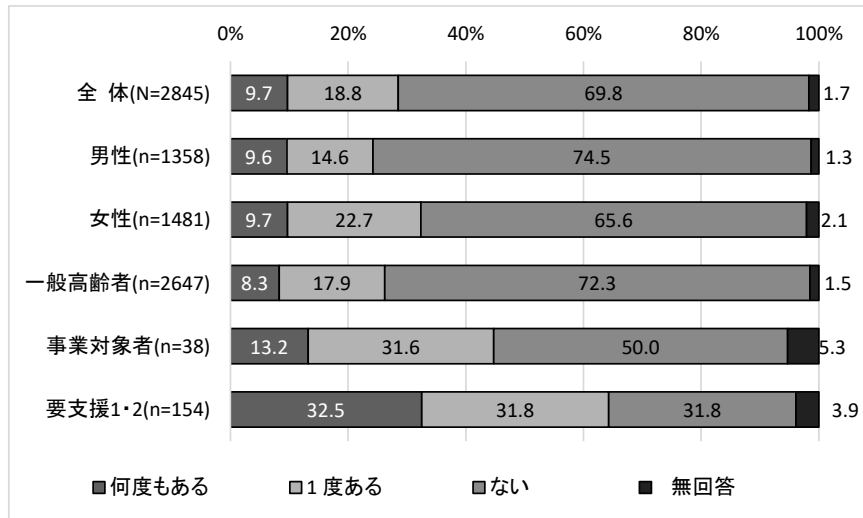
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか



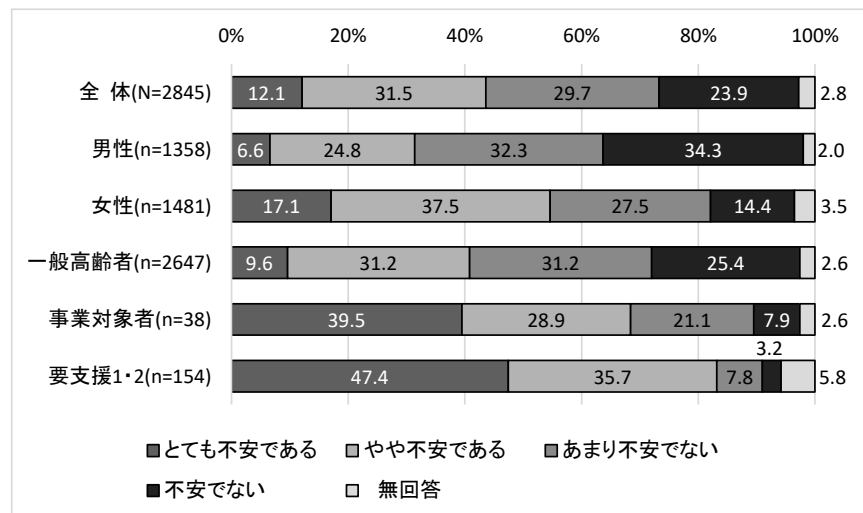
(3) 15分位続けて歩いていますか



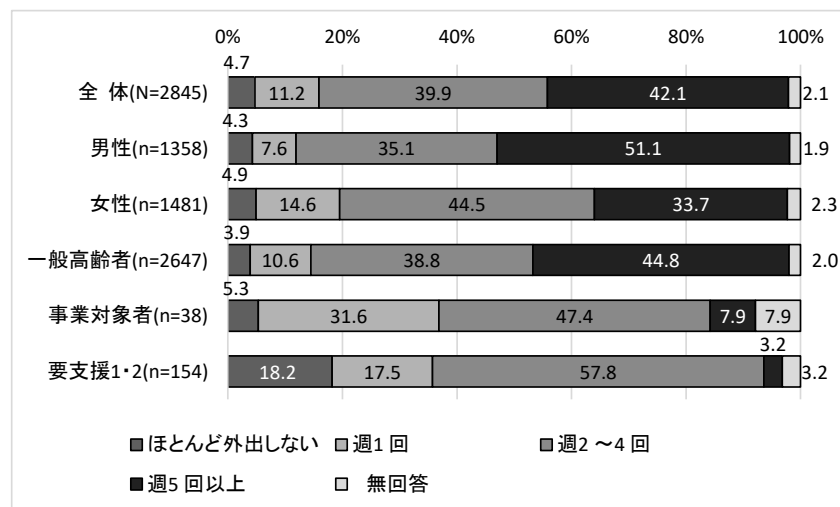
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか



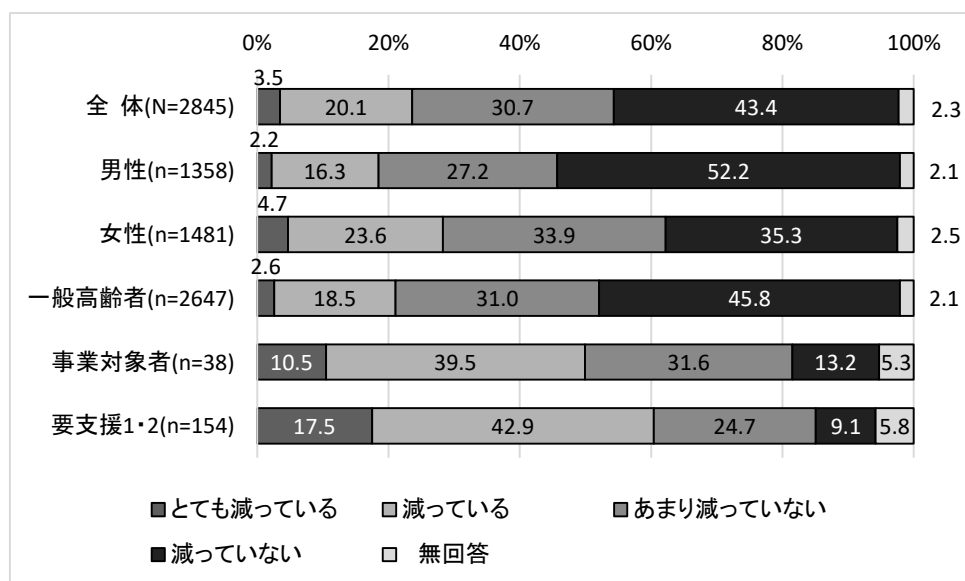
(5) 転倒に対する不安は大きいですか



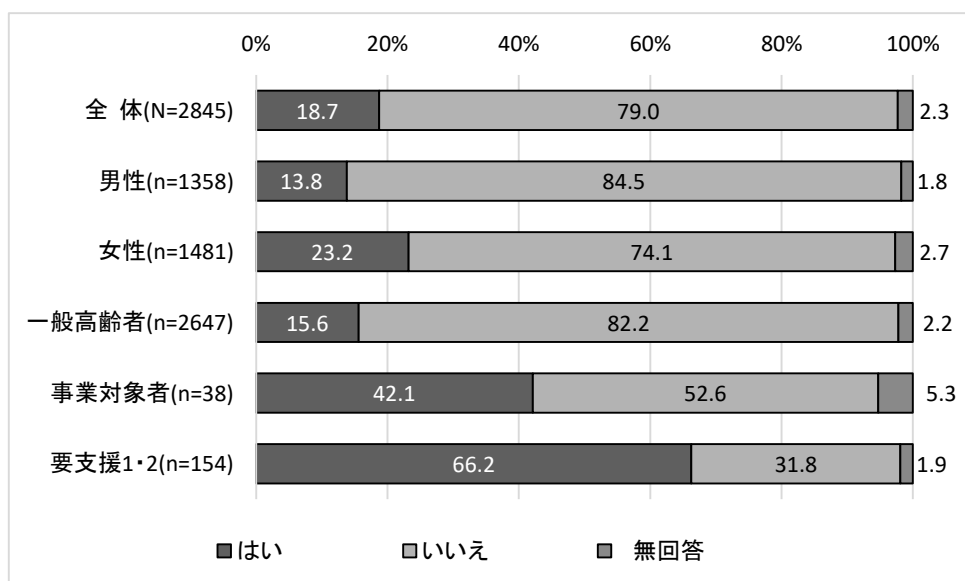
(6) 週に1回以上は外出していますか



(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

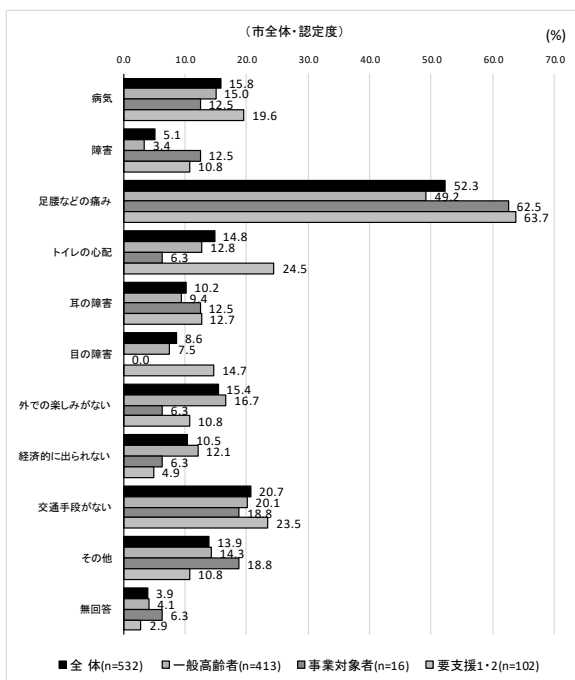
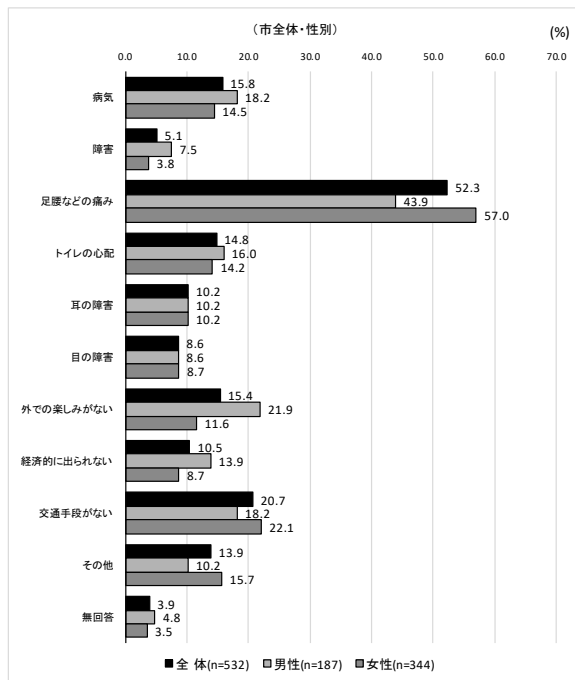


(8) 外出を控えていますか

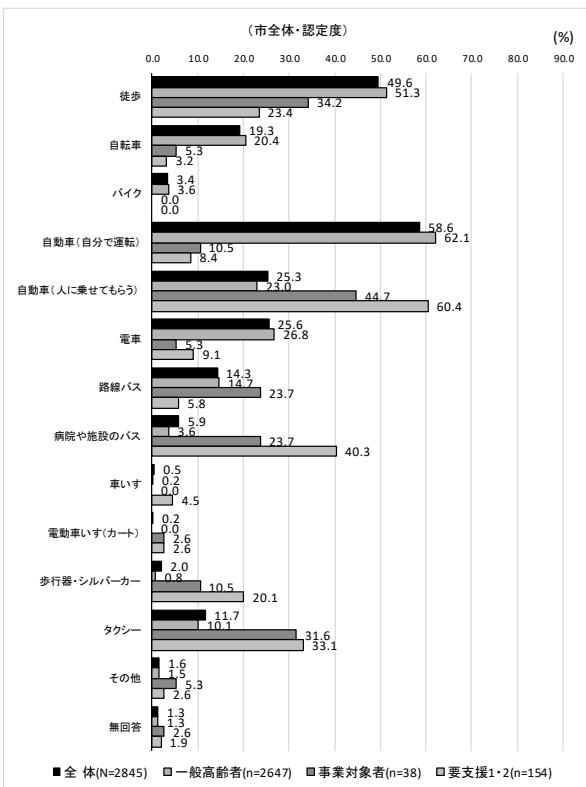
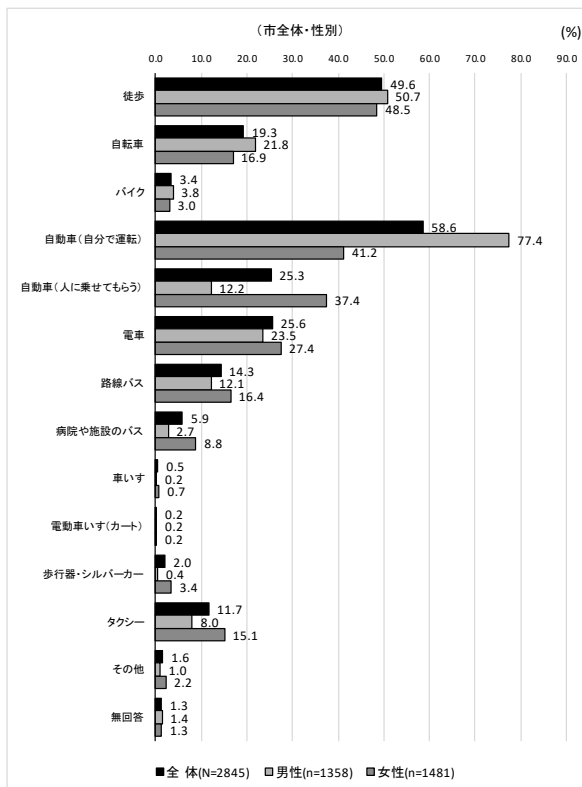


(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ

①外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

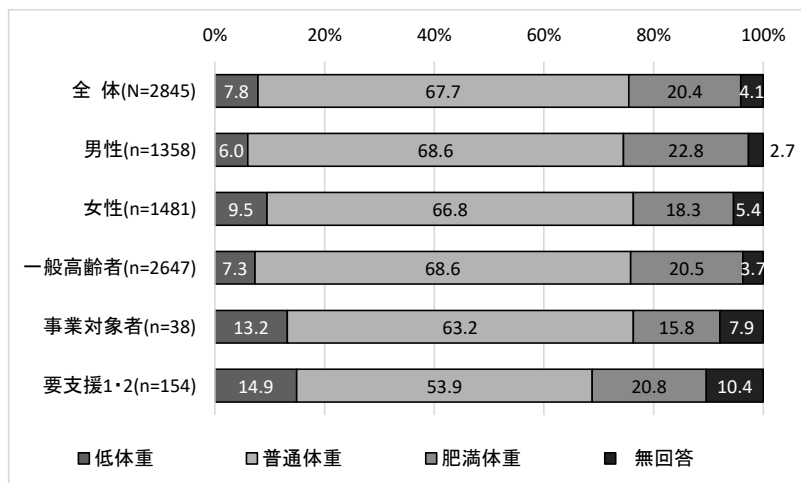


(9)外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

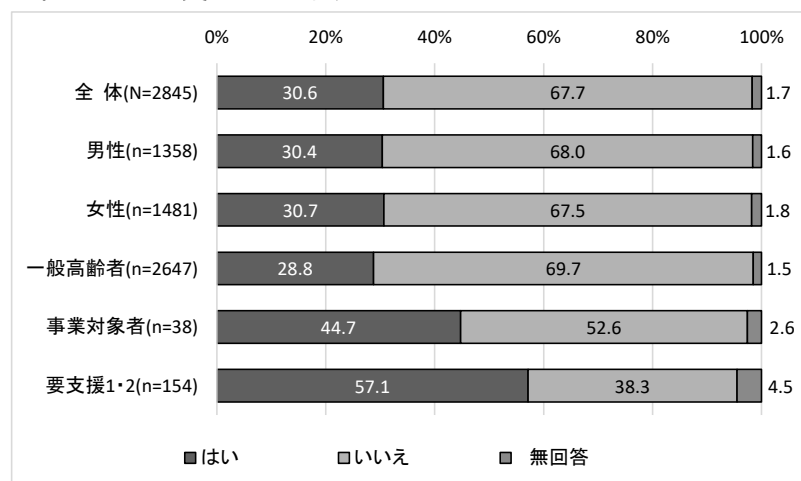


問3 食べるについて

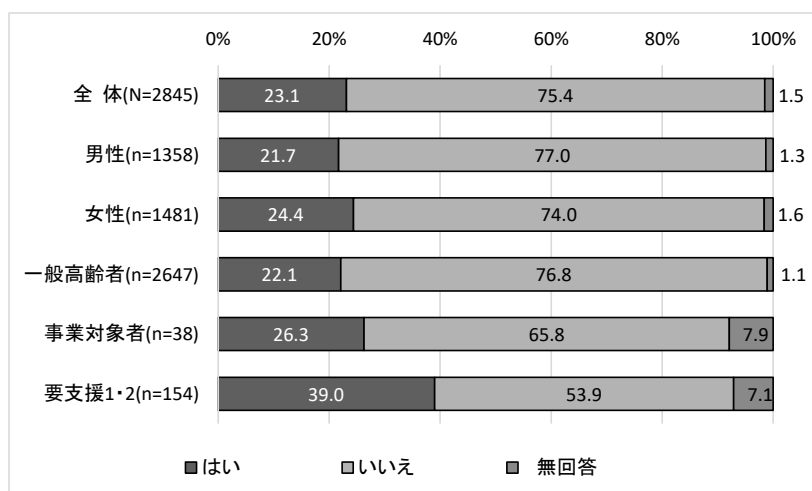
(1) 身長・体重(肥満度: BMI=体重 kg÷(身長 m×身長 m))



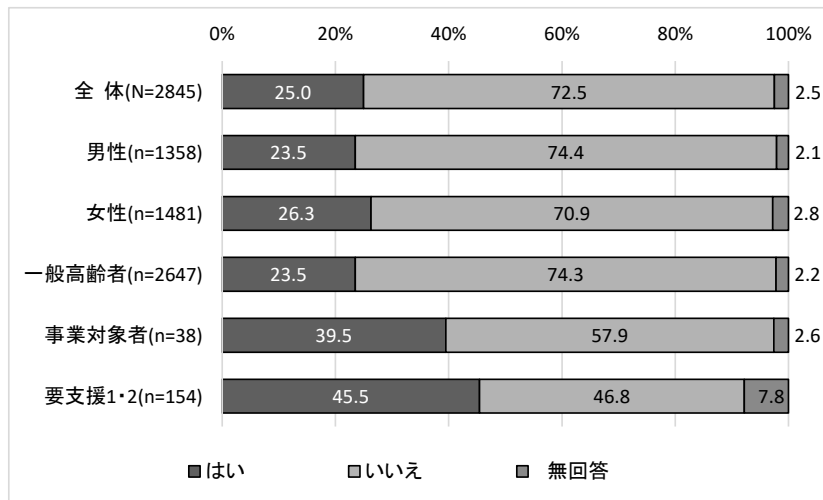
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか



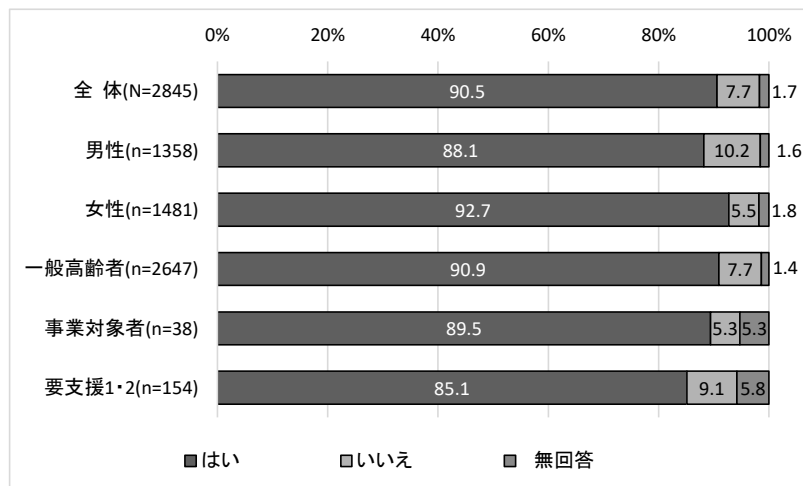
(3) お茶や汁物等でむせることがありますか



(4) 口の渇きが気になりますか

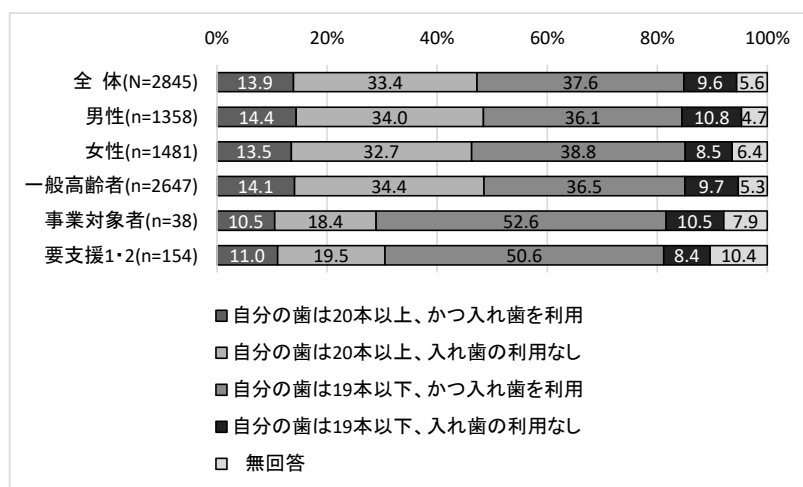


(5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか



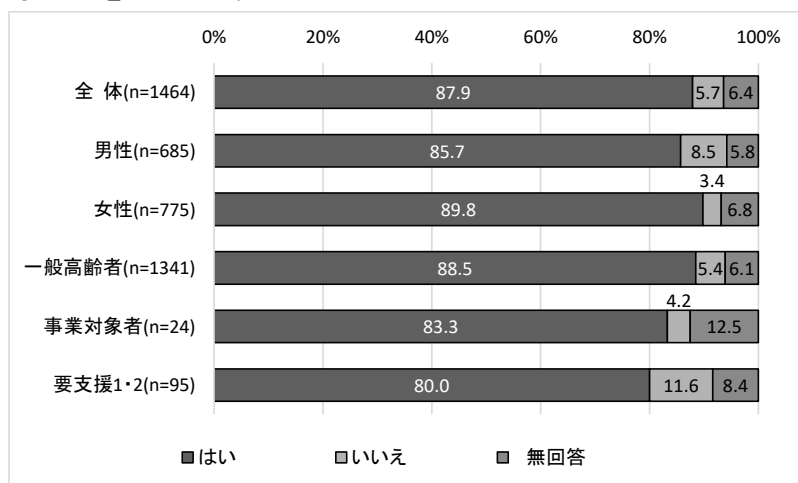
(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

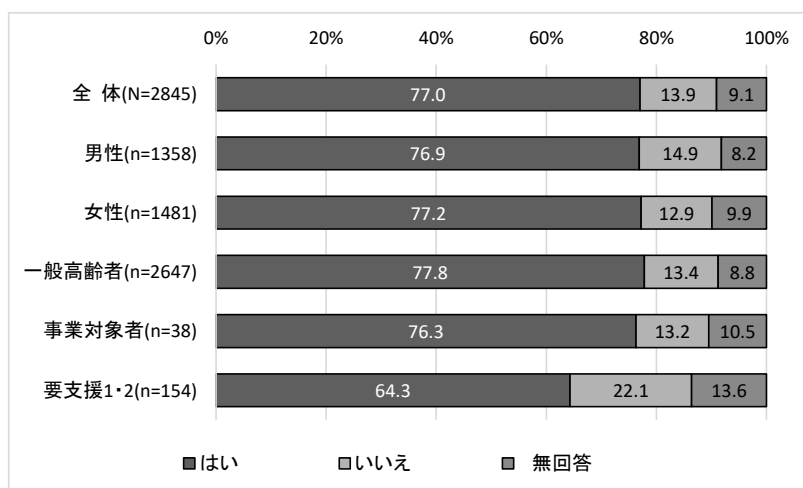


(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ

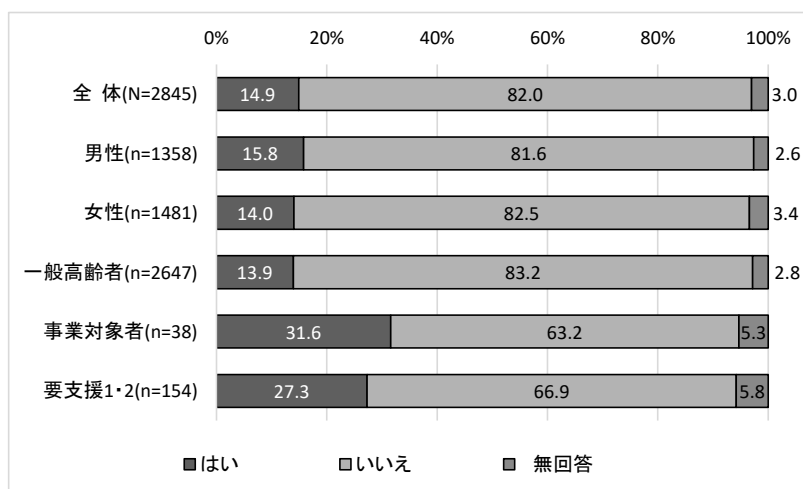
①毎日入れ歯の手入れをしていますか



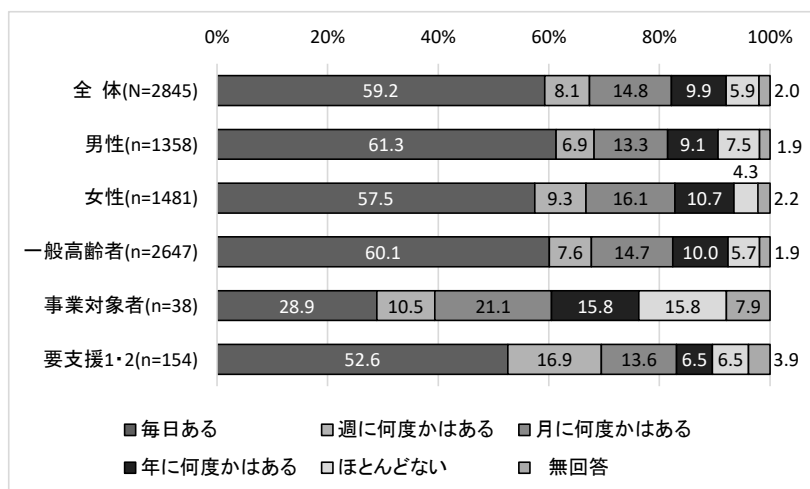
(7)噛み合わせは良いですか



(8)6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

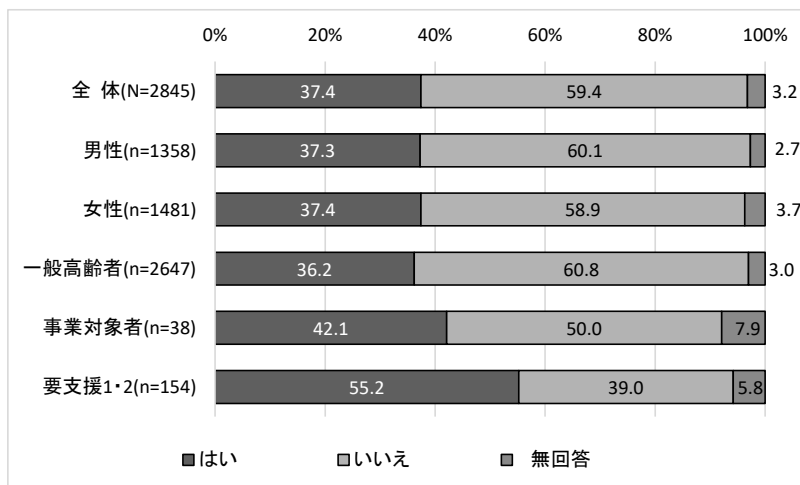


(9) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

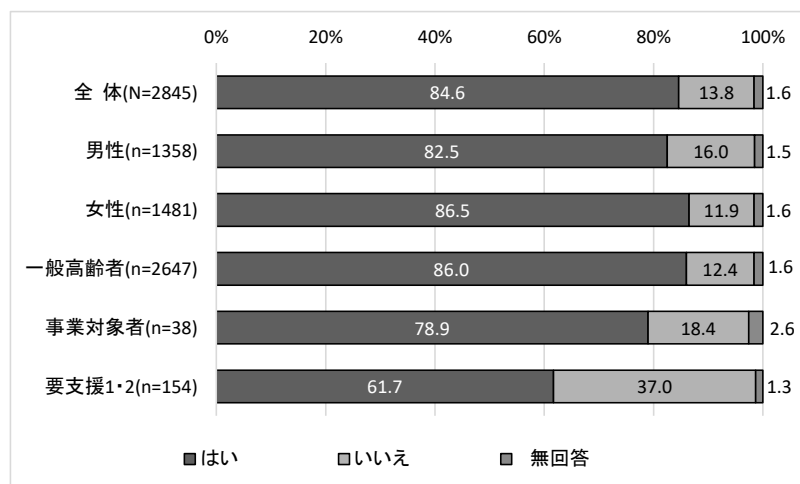


問4 毎日の生活について

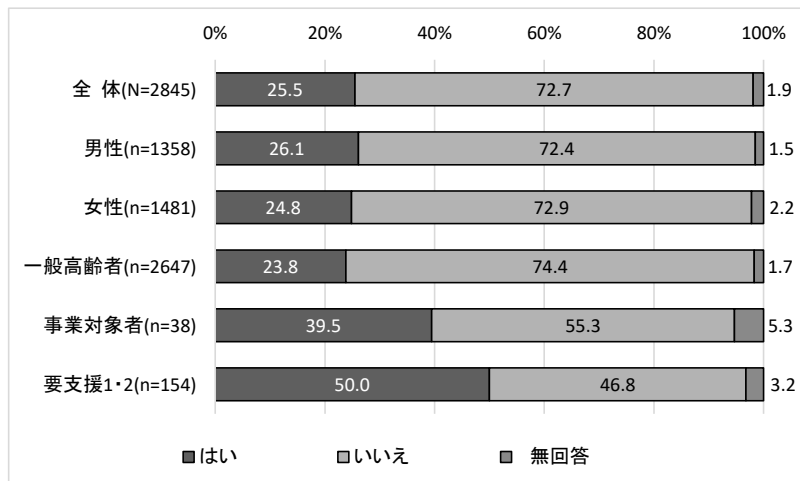
(1) 物忘れが多いと感じますか



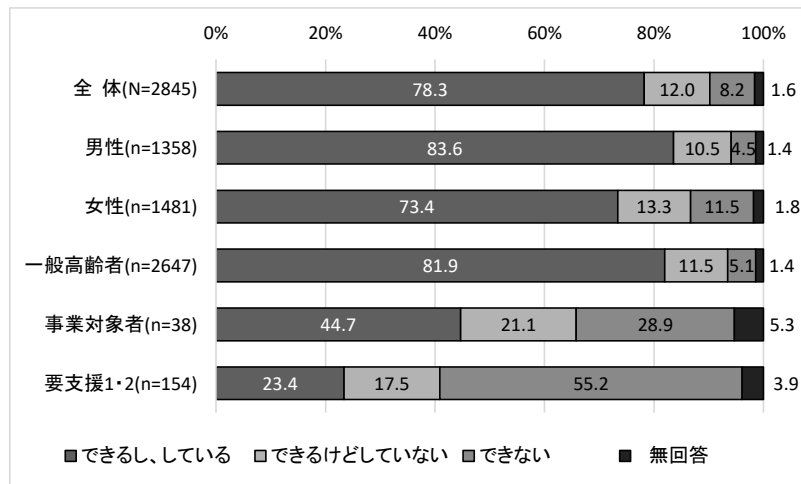
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか



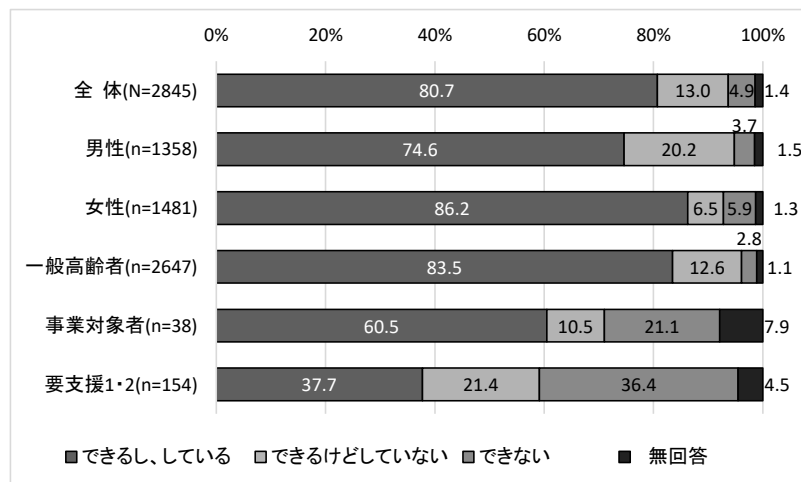
(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか



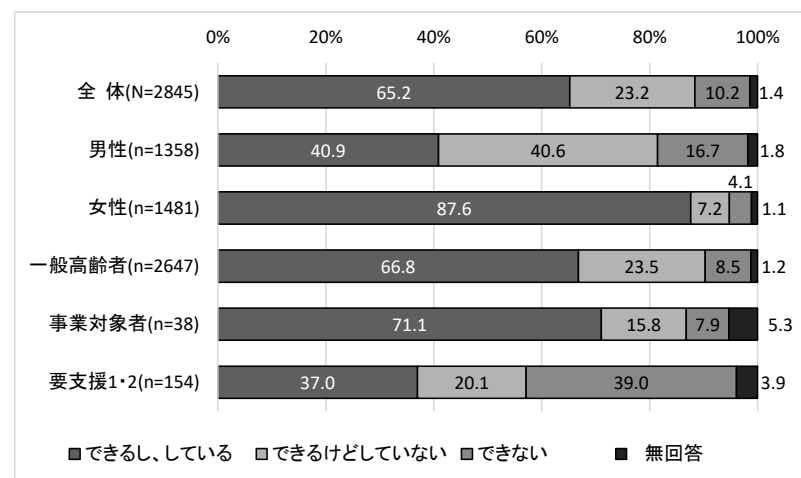
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)



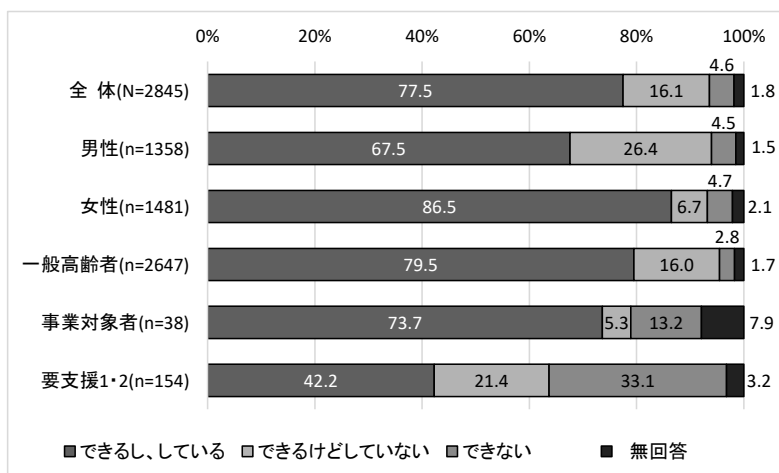
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか



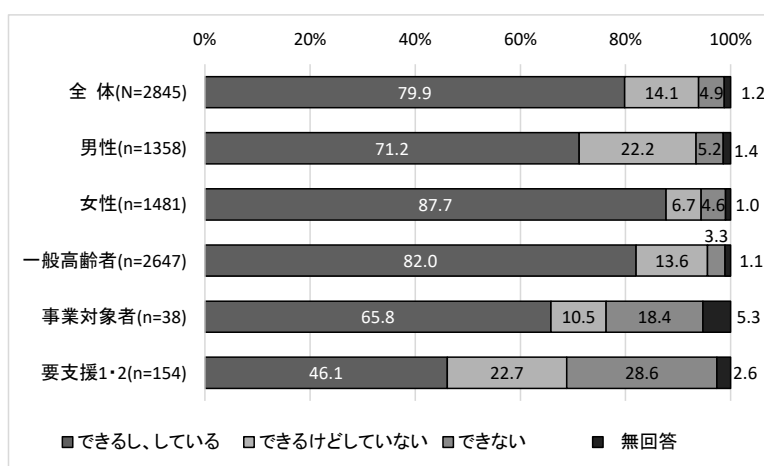
(6) 自分で食事の用意をしていますか



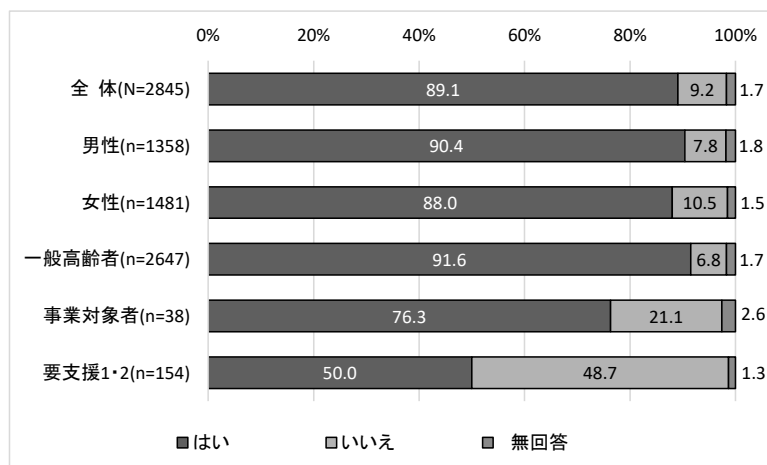
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか



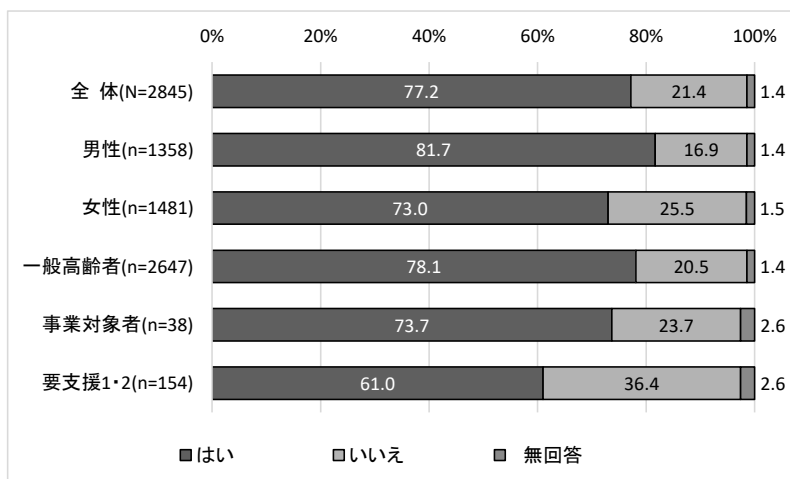
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか



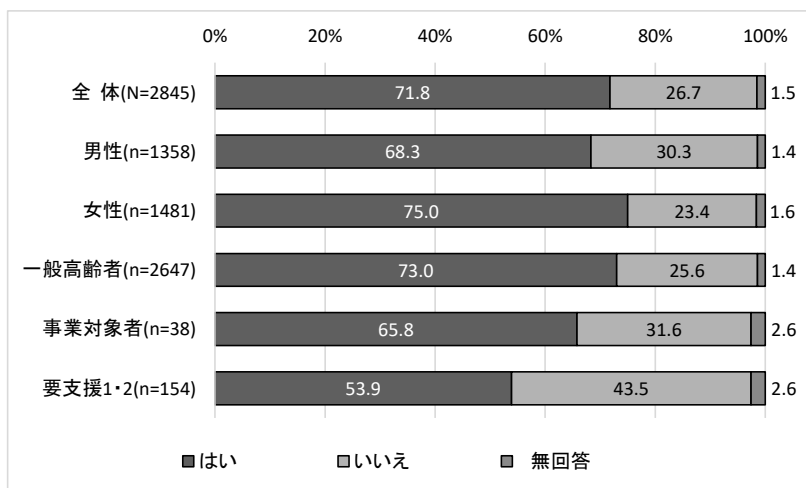
(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか



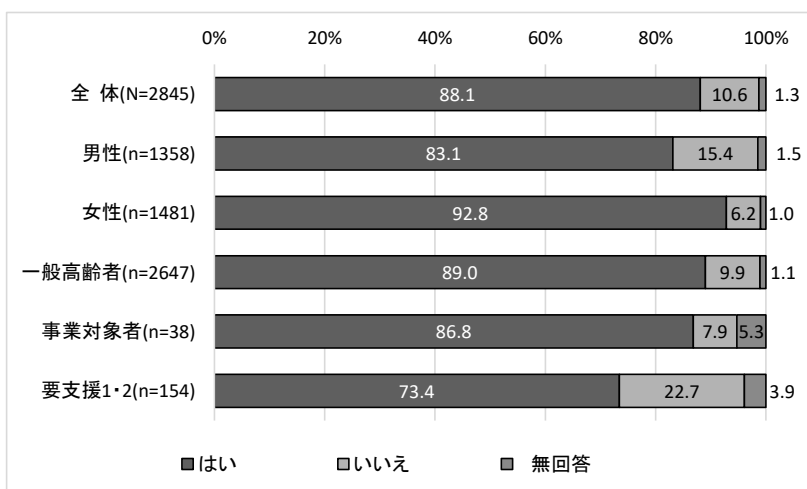
(10)新聞を読んでいますか



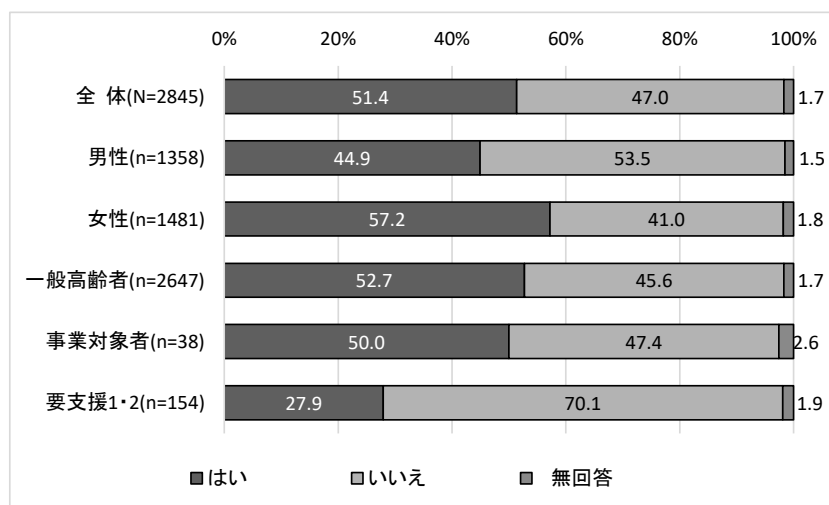
(11)本や雑誌を読んでいますか



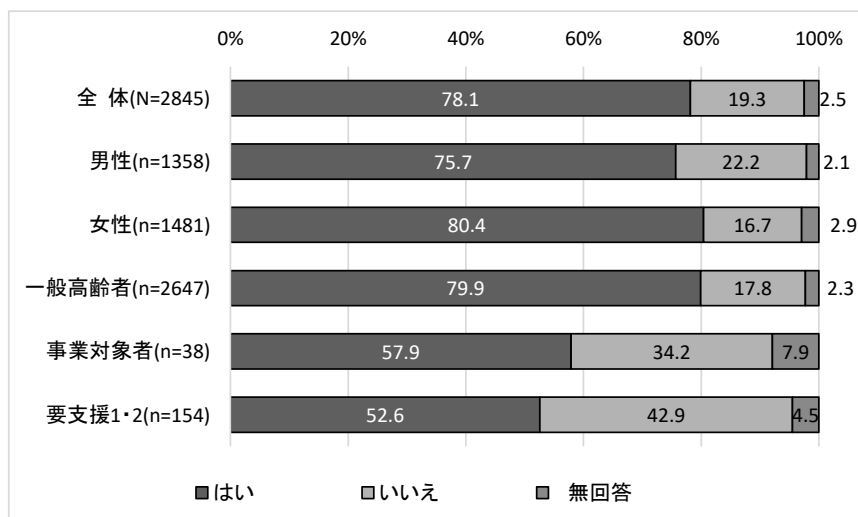
(12)健康についての記事や番組に関心がありますか



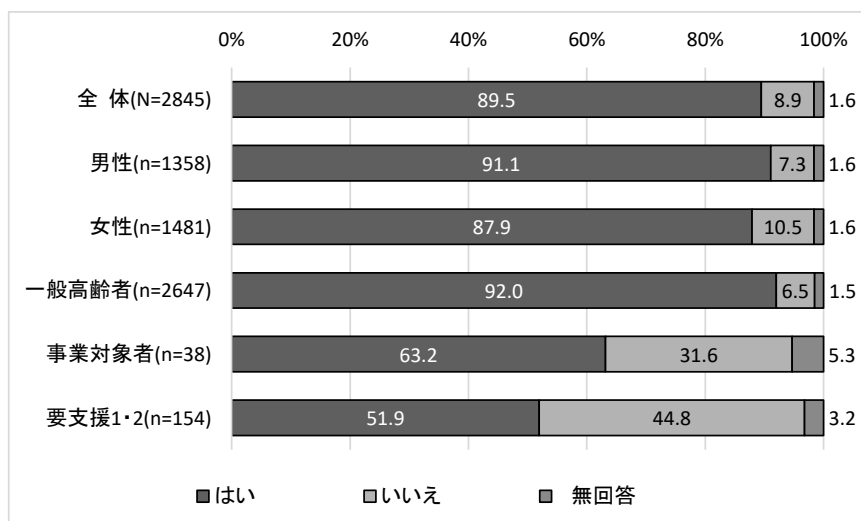
(13) 友人の家を訪ねていますか



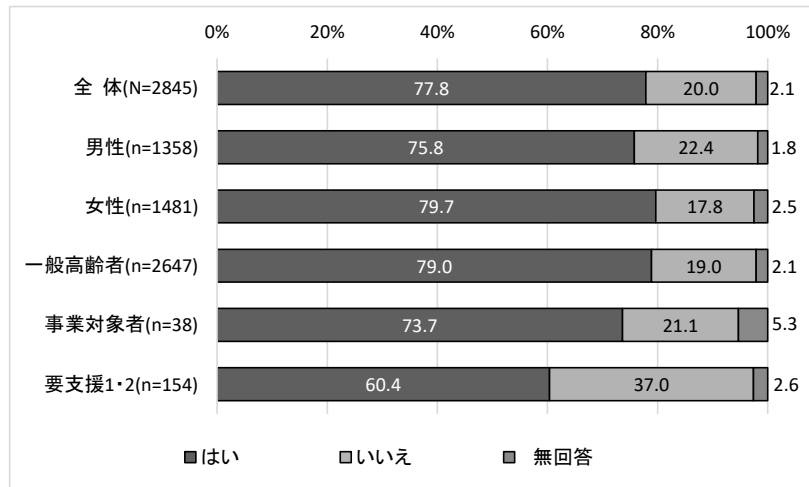
(14) 家族や友人の相談にのっていますか



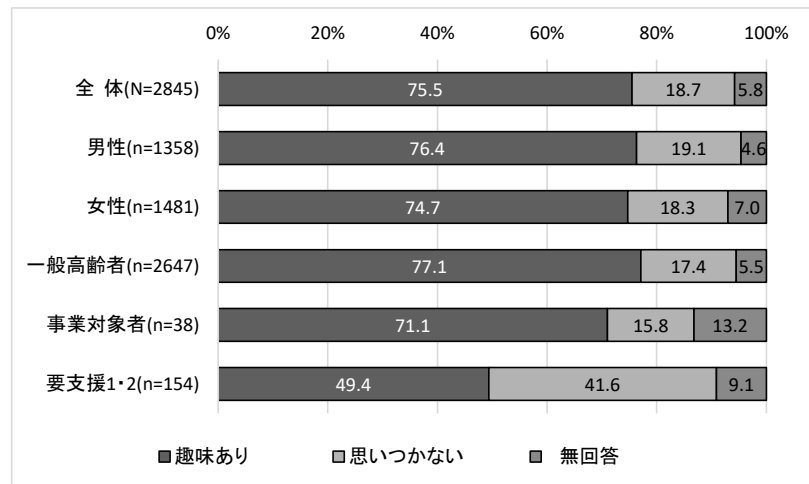
(15) 病人を見舞うことができますか



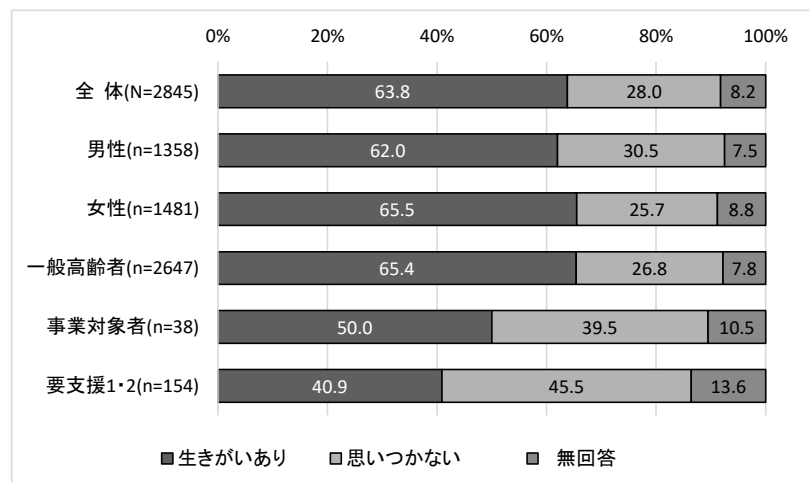
(16)若い人に自分から話しかけることがありますか



(17)趣味はありますか



(18)生きがいはありますか

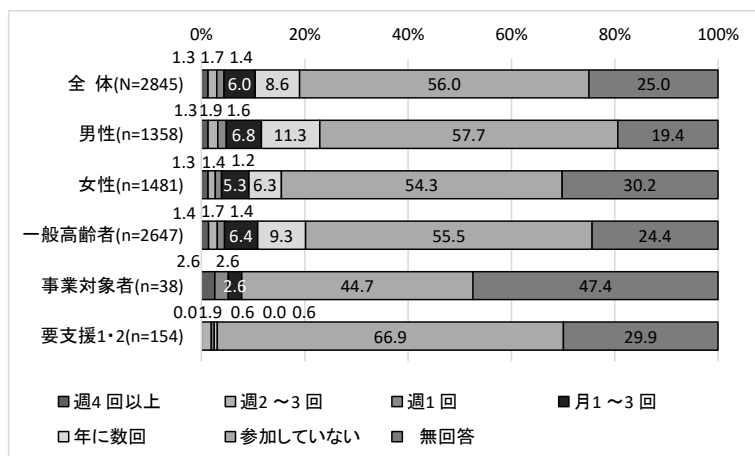


問5 地域での活動について

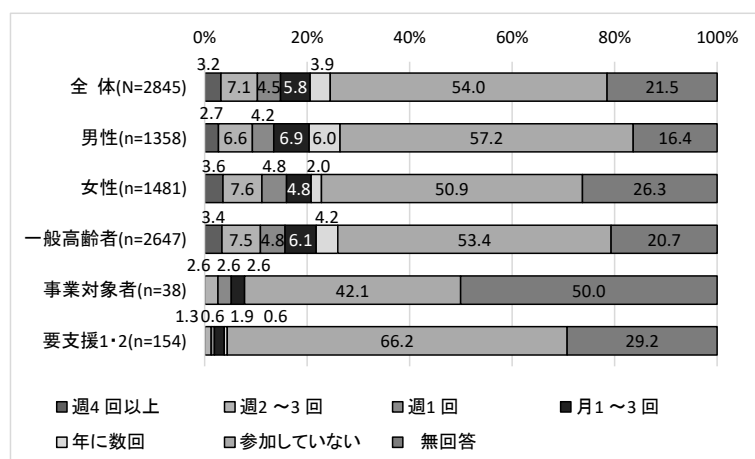
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

※①～⑧それぞれに回答してください

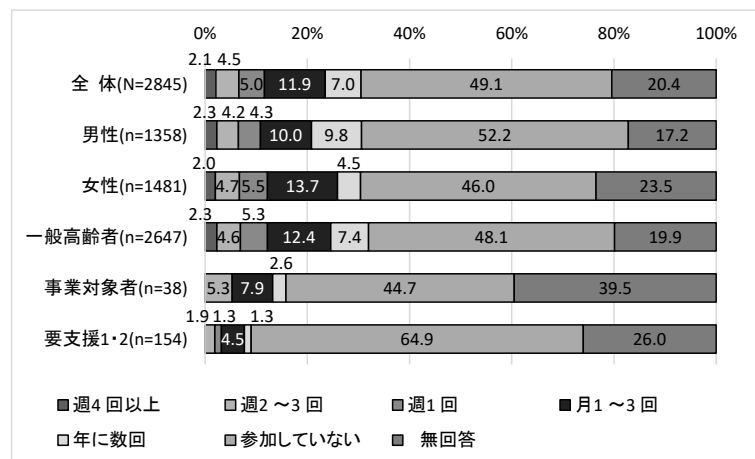
①ボランティアのグループ



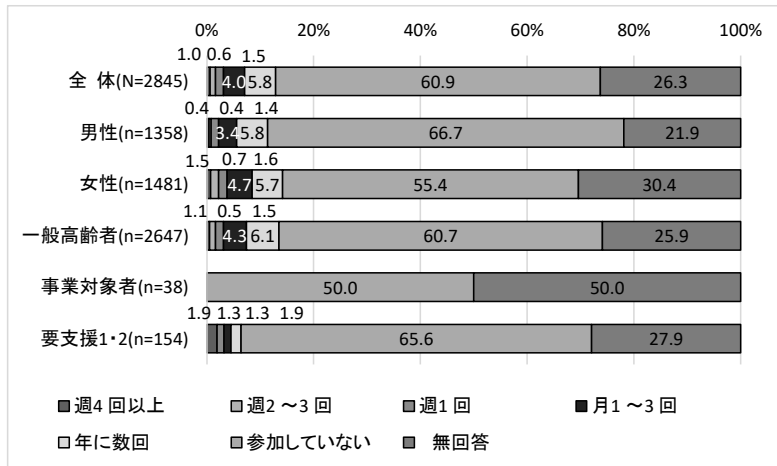
②スポーツ関係のグループやクラブ



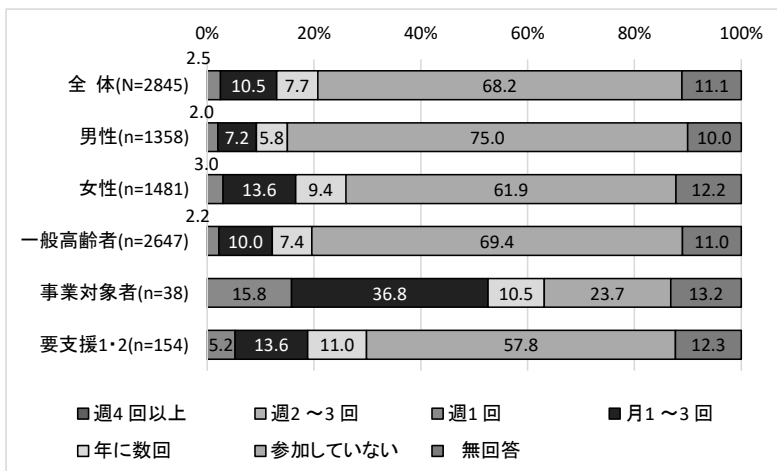
③趣味関係のグループ



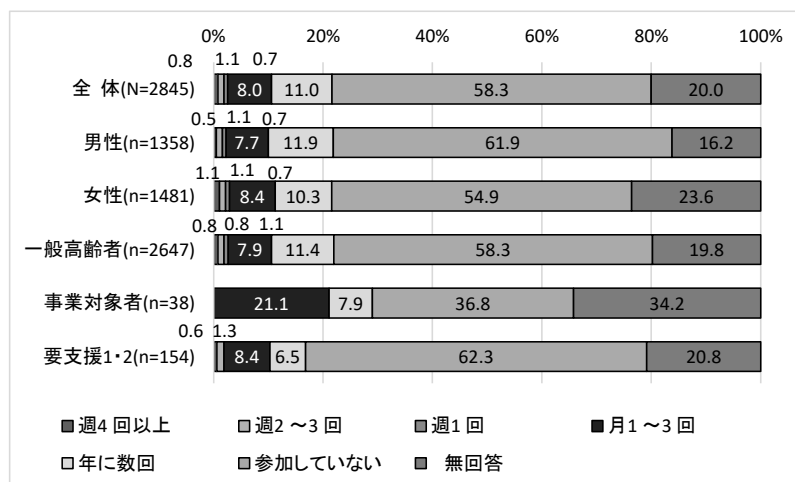
④学習・教養サークル



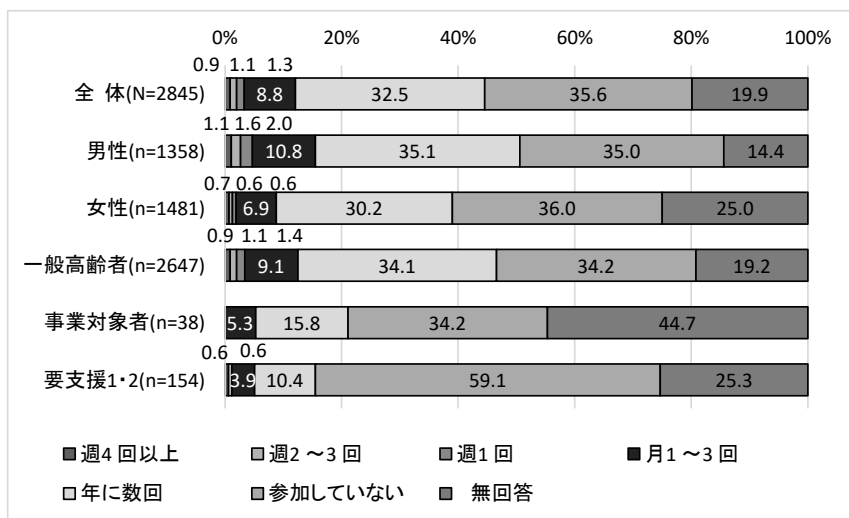
⑤介護予防のための通いの場



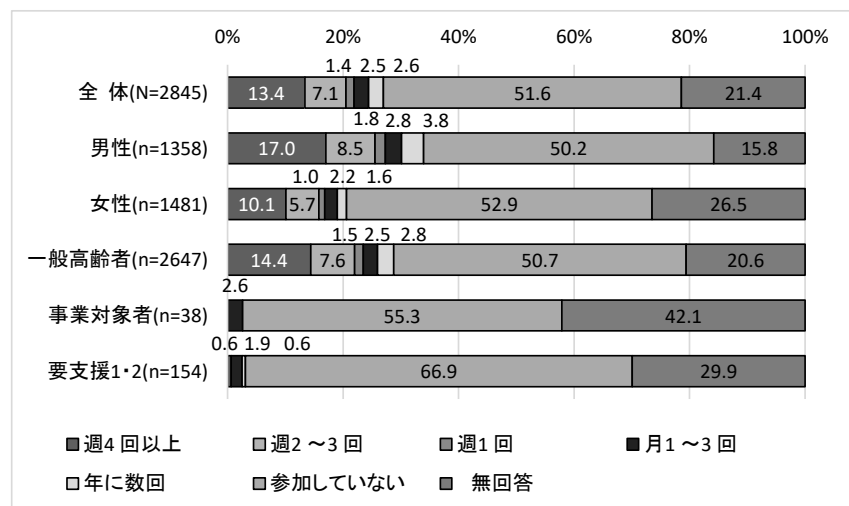
⑥老人クラブ



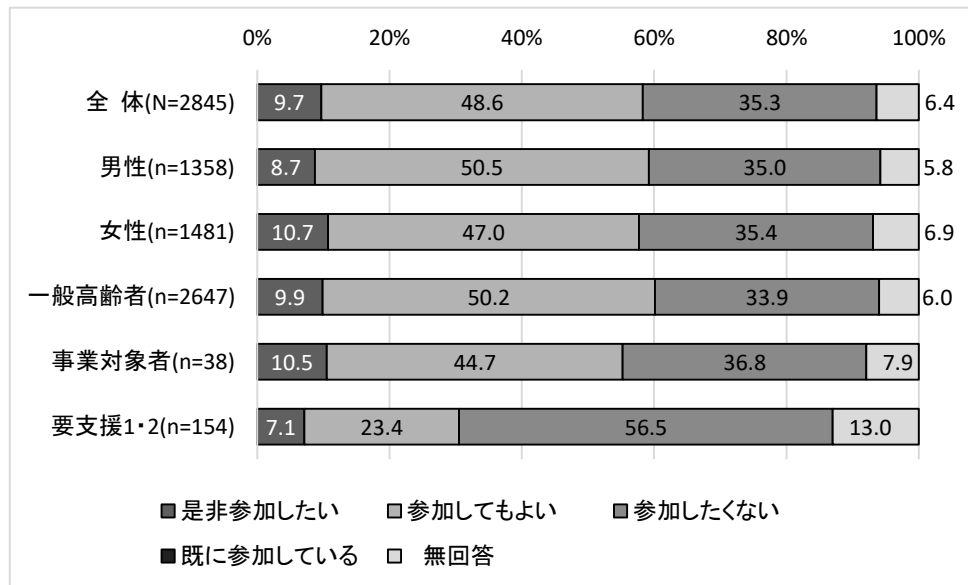
⑦町内会・自治会



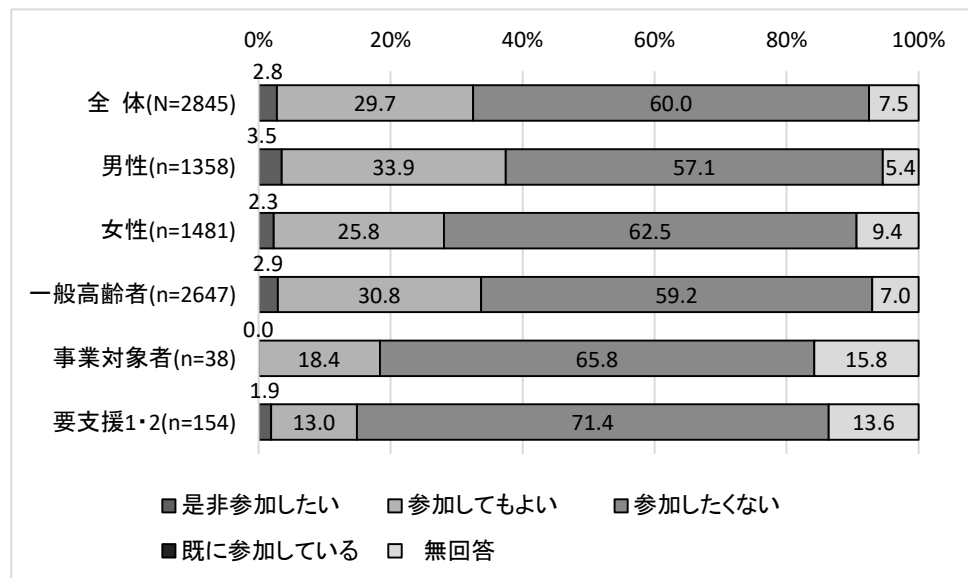
⑧収入のある仕事



(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



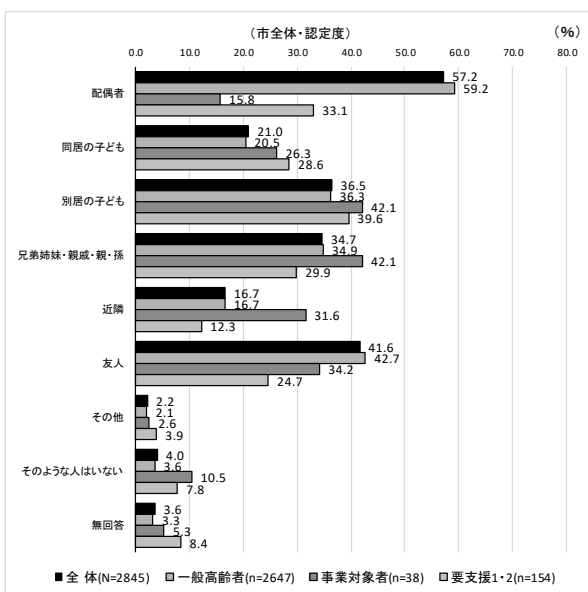
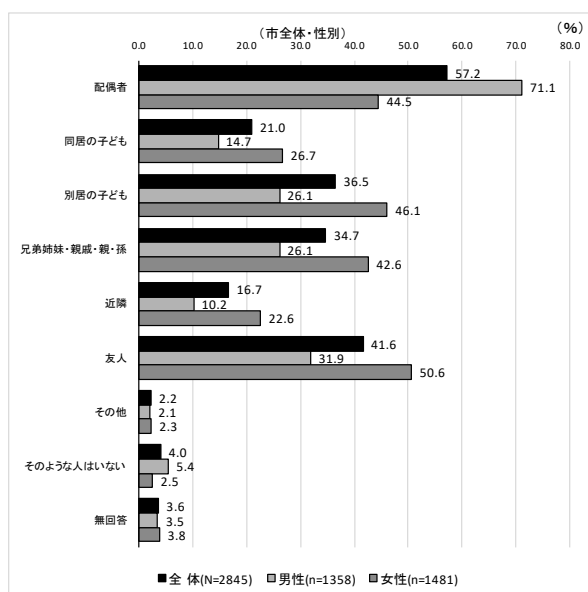
(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか



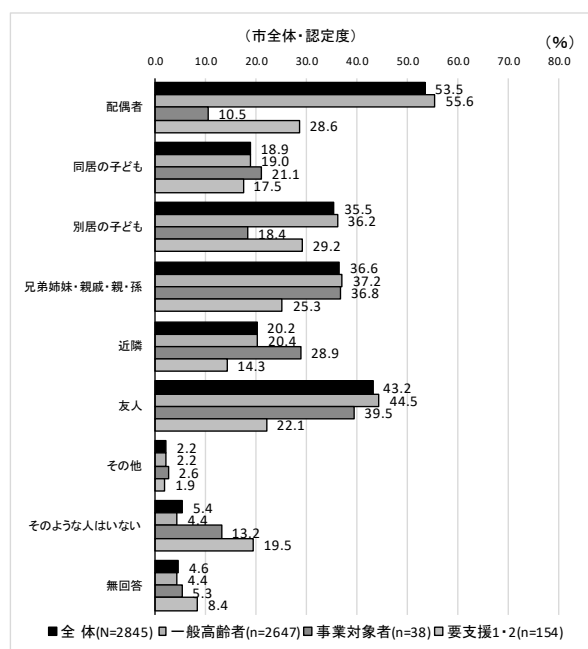
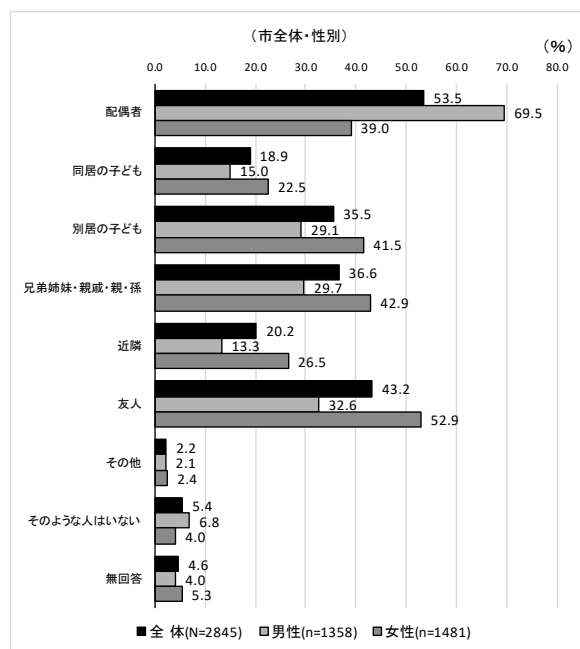
問6 たすけあいについて

あなたとまわりの「たすけあい」についておうかがいします

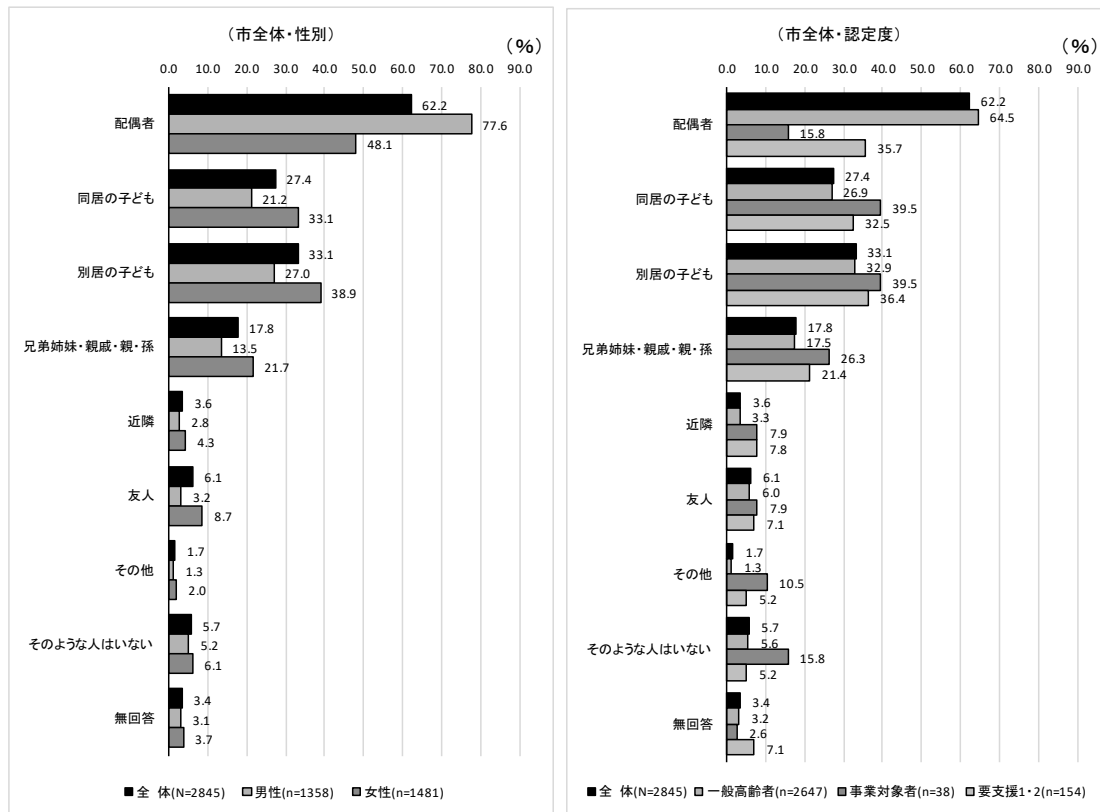
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)



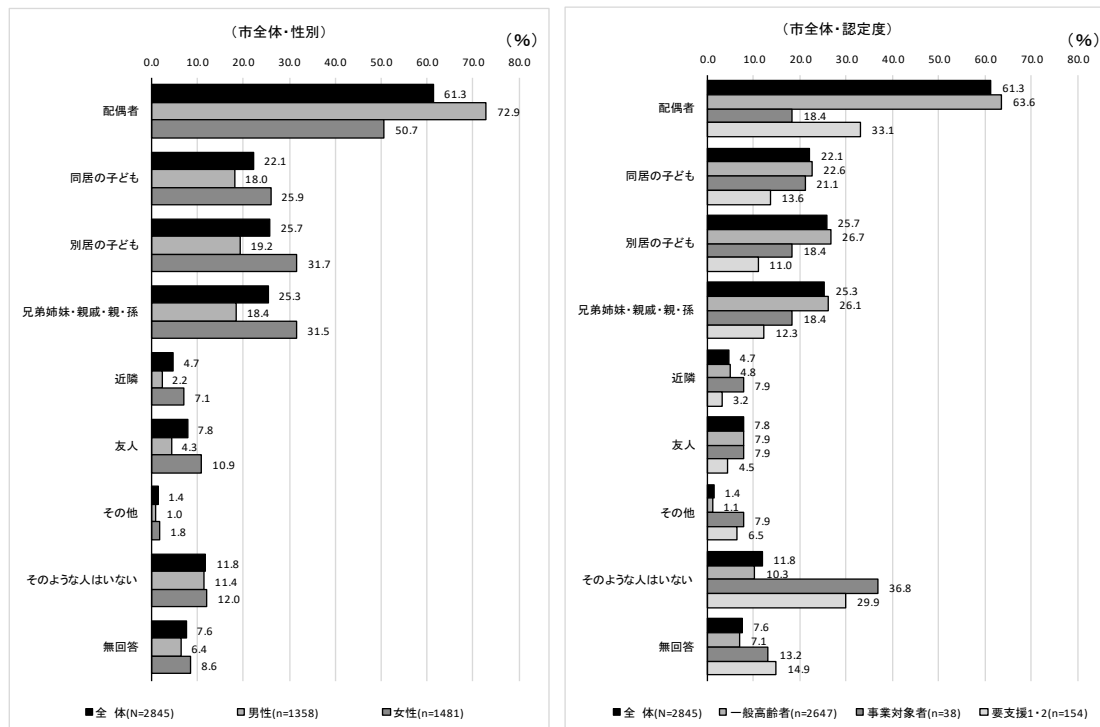
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)



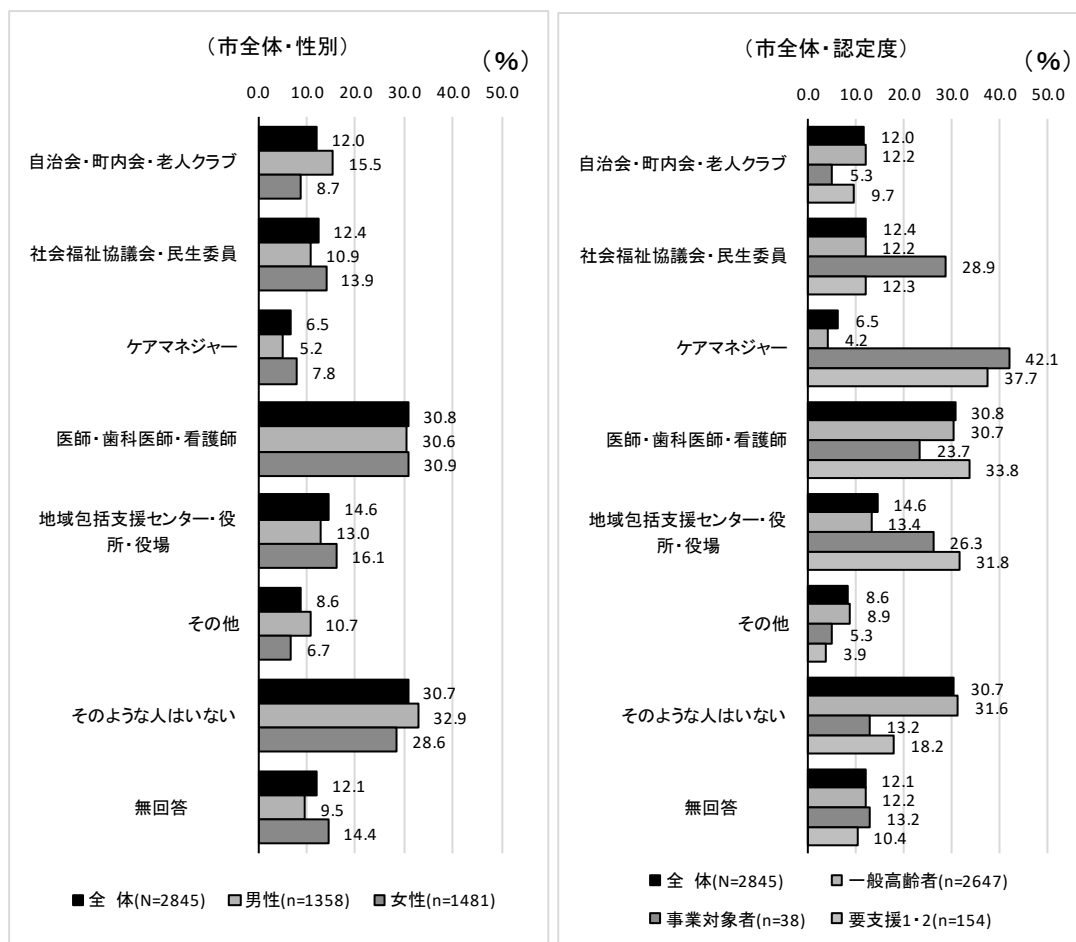
(3)あなたが病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)



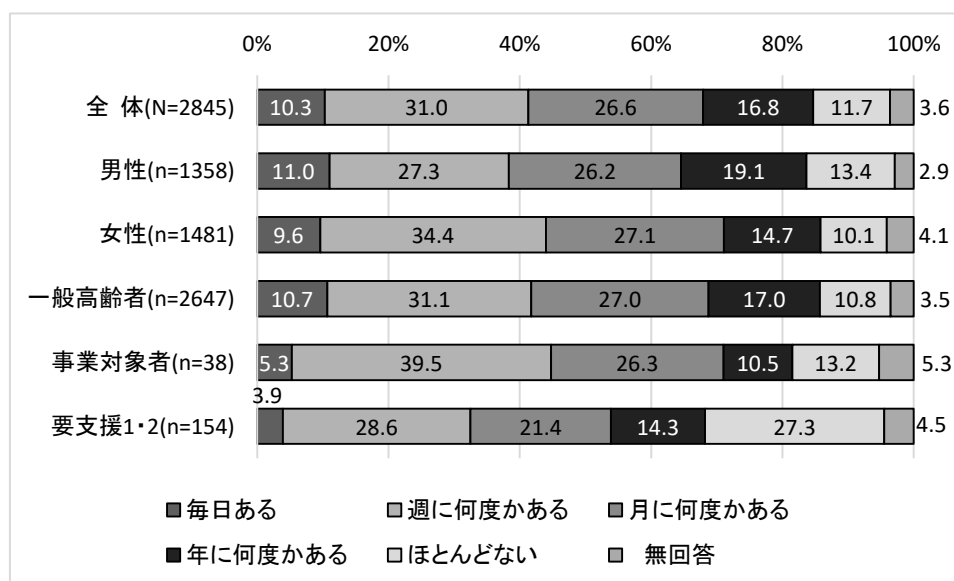
(4)反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)



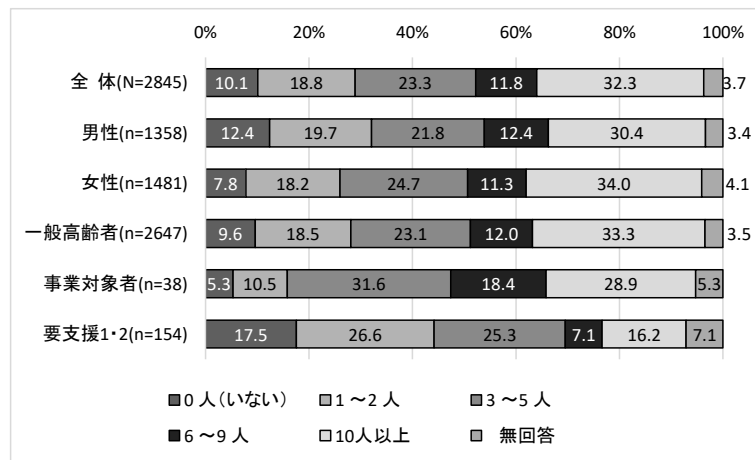
(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)



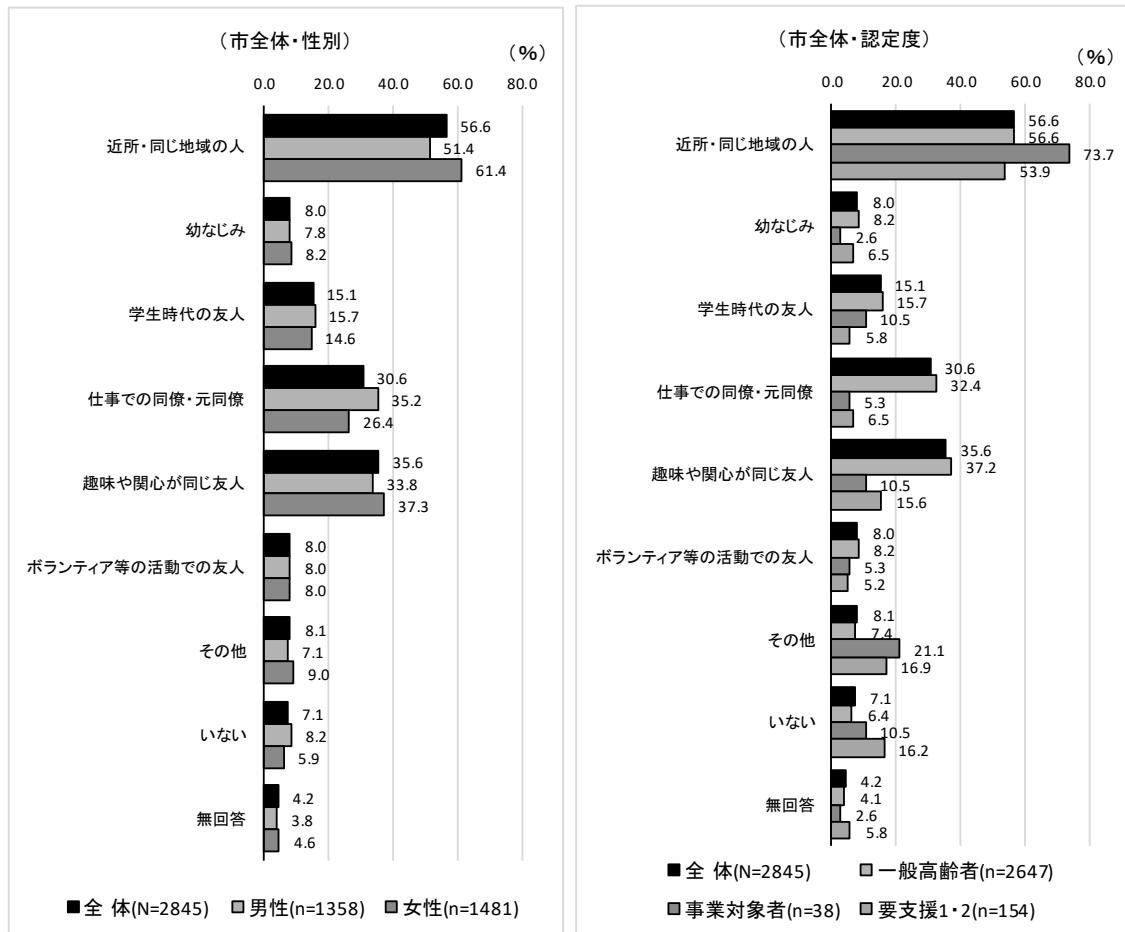
(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか



(7)この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか
同じ人に何度あっても1人と数えることとします

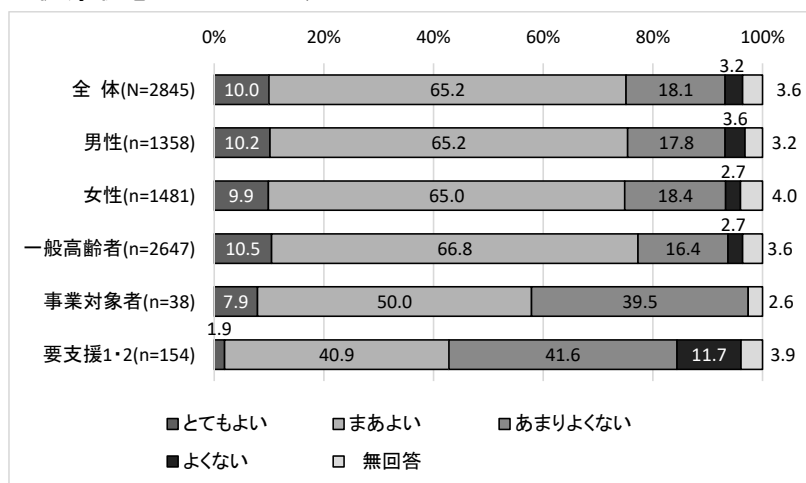


(8)よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)



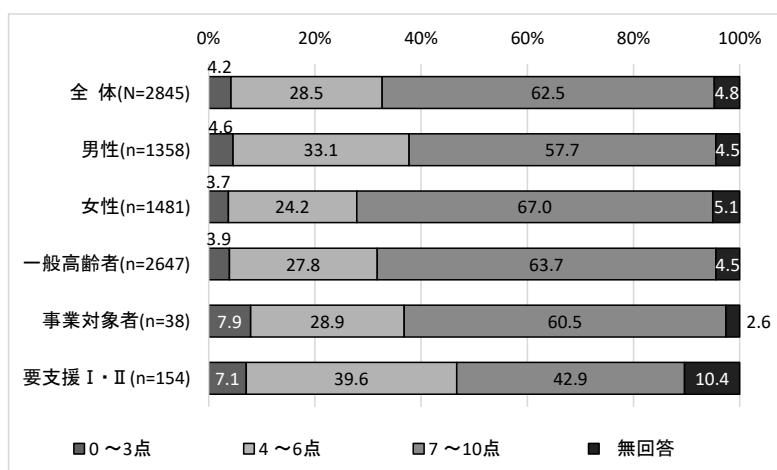
問7 健康について

(1)現在のあなたの健康状態はいかがですか

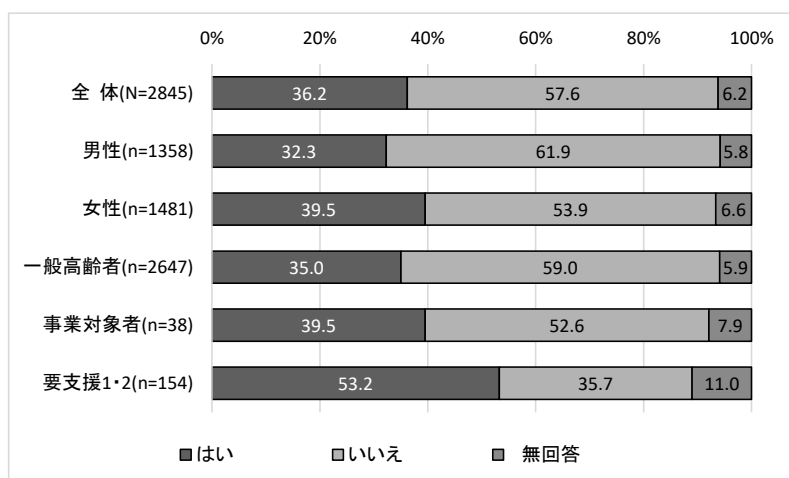


(2)あなたは、現在どの程度幸せですか

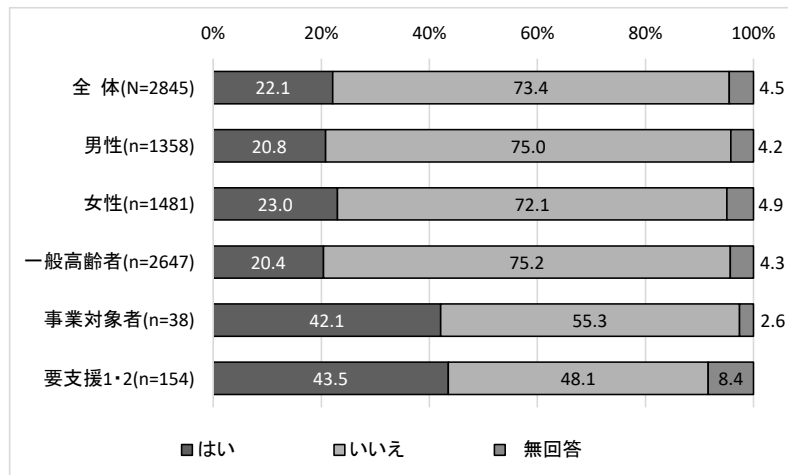
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)



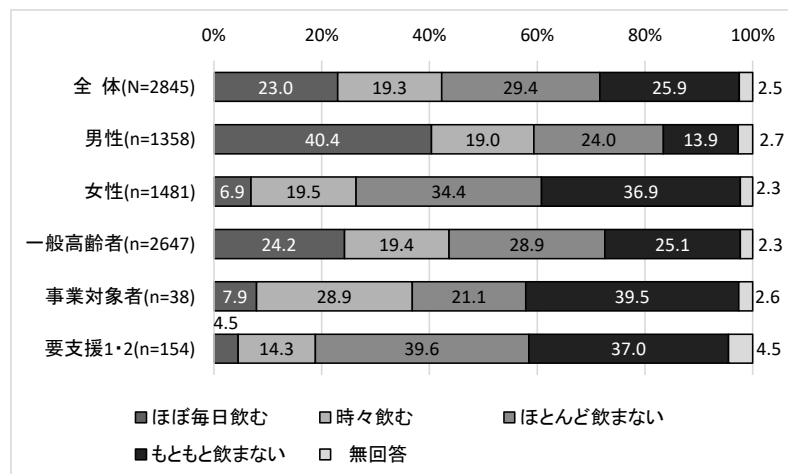
(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか



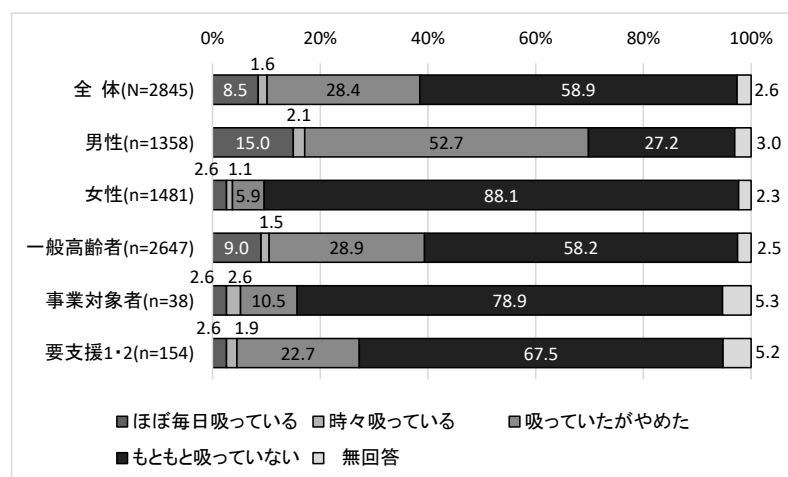
(4)この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか



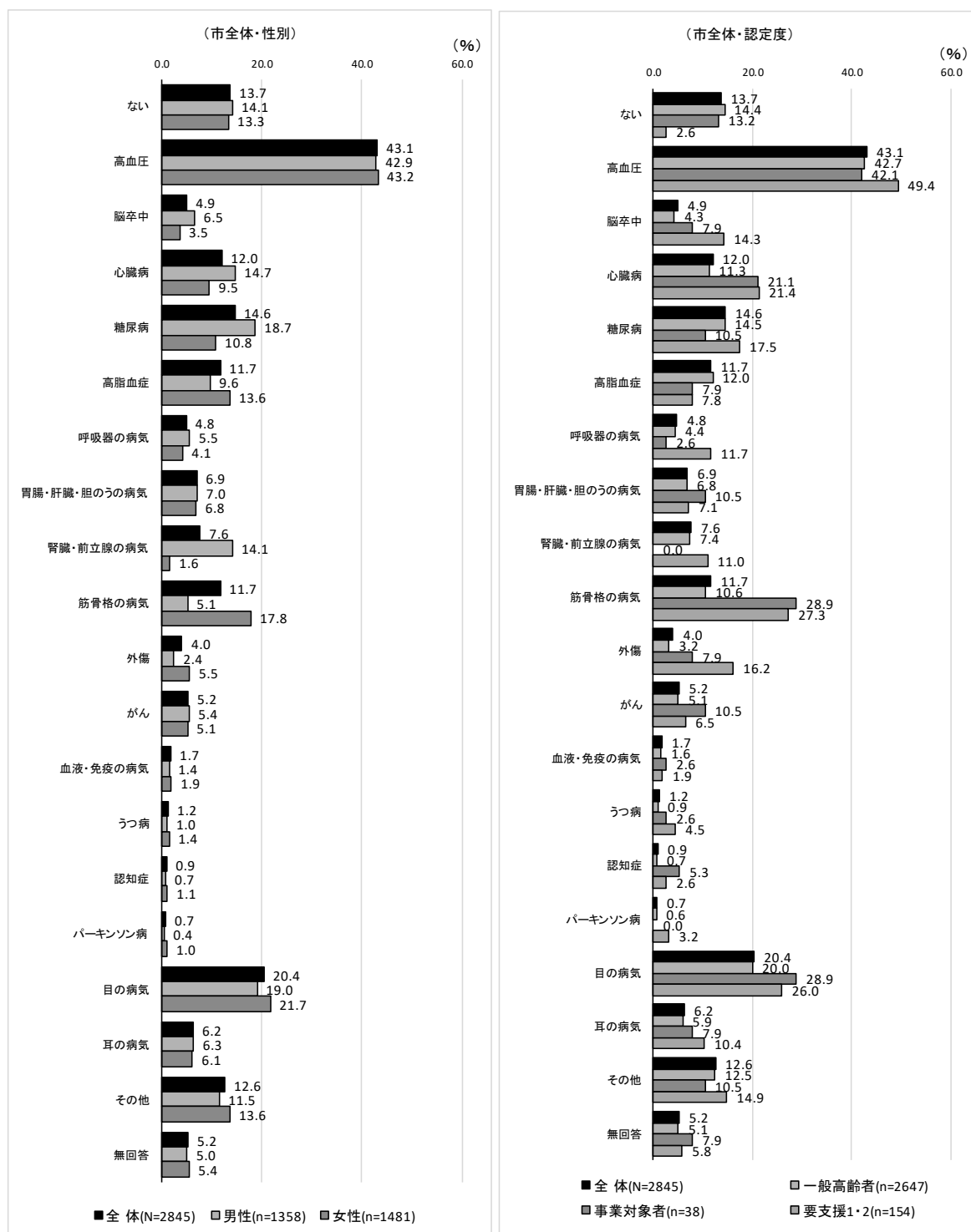
(5)お酒は飲みますか



(6)タバコは吸っていますか

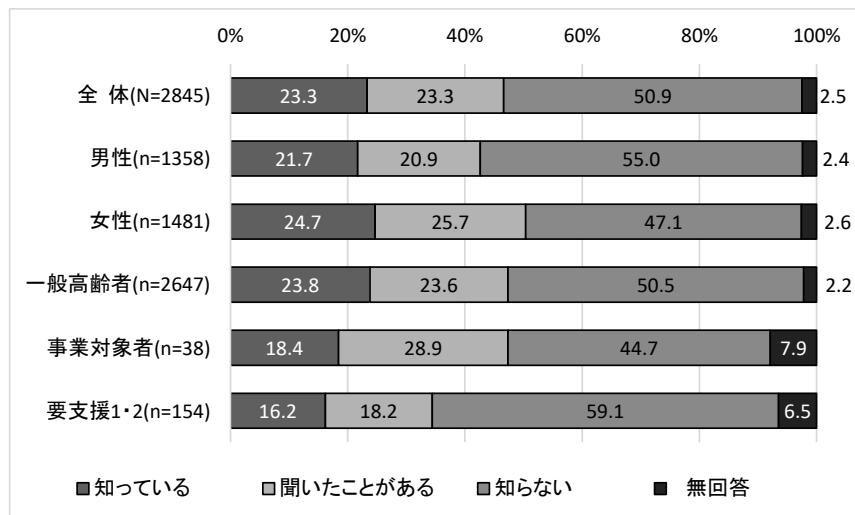


(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)

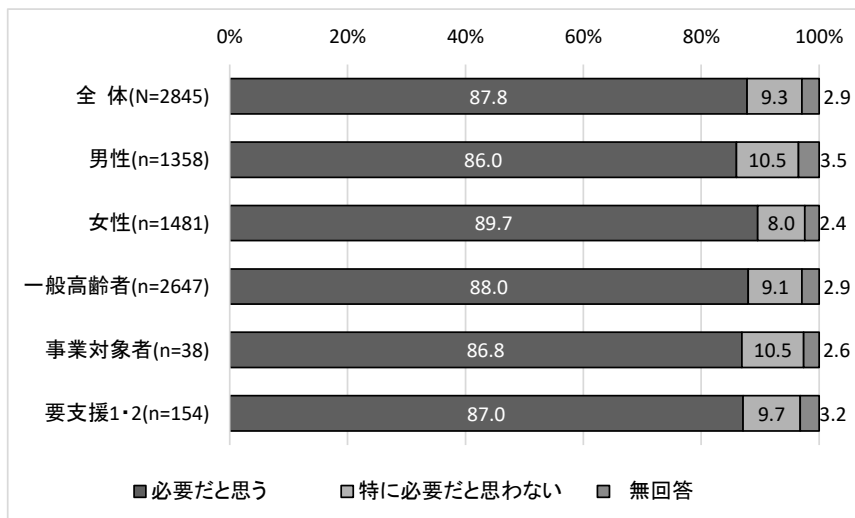


問8 介護予防について

(1)フレイル(加齢とともに身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態)という言葉を知っていますか

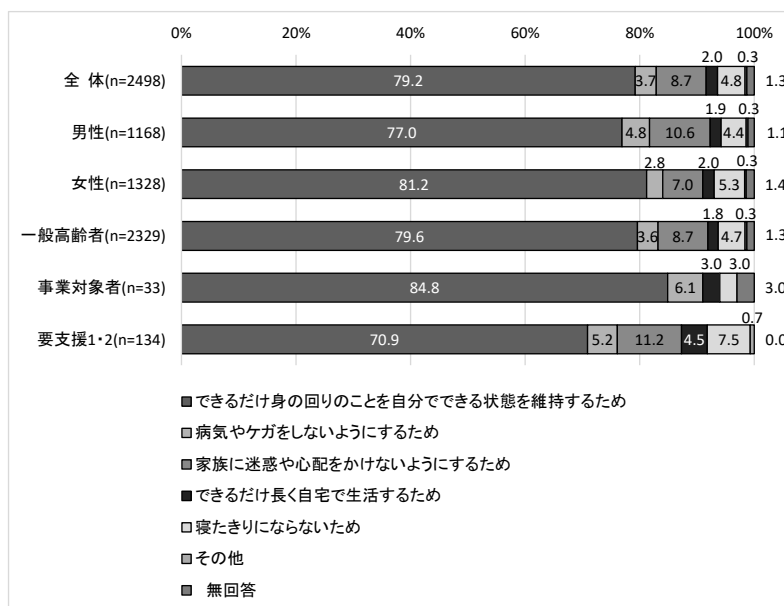


(2)介護予防(介護を必要とする状態を防ぐこと)は、必要だと思いますか

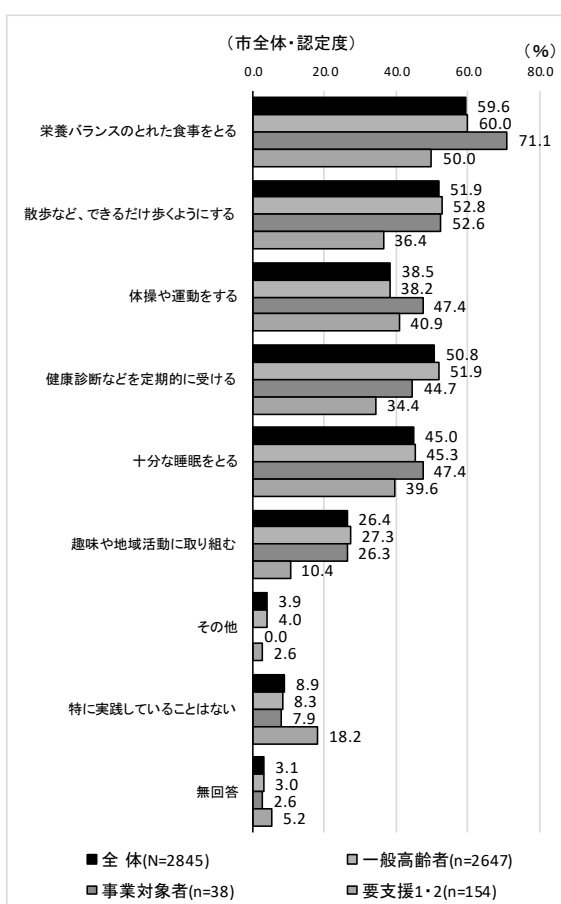
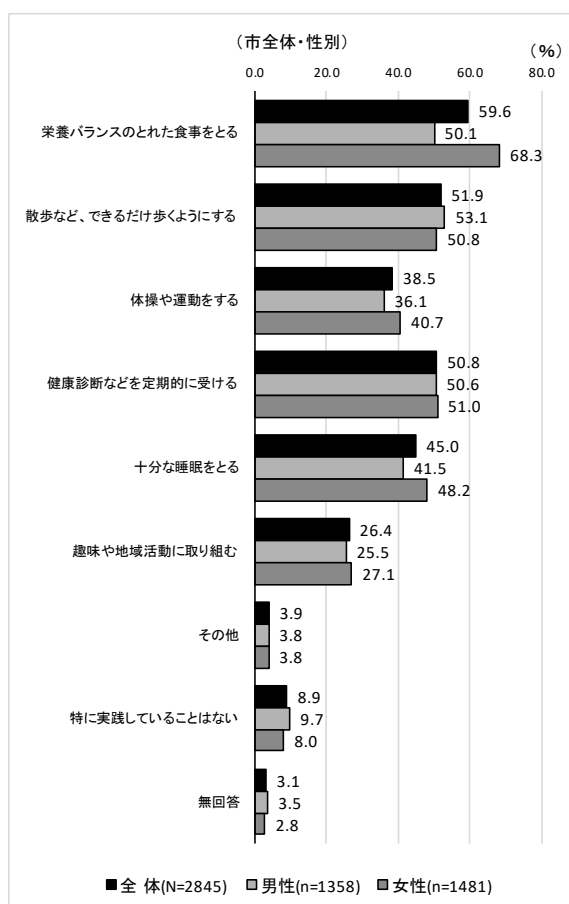


(2)において、「1. 必要だと思う」の方のみ

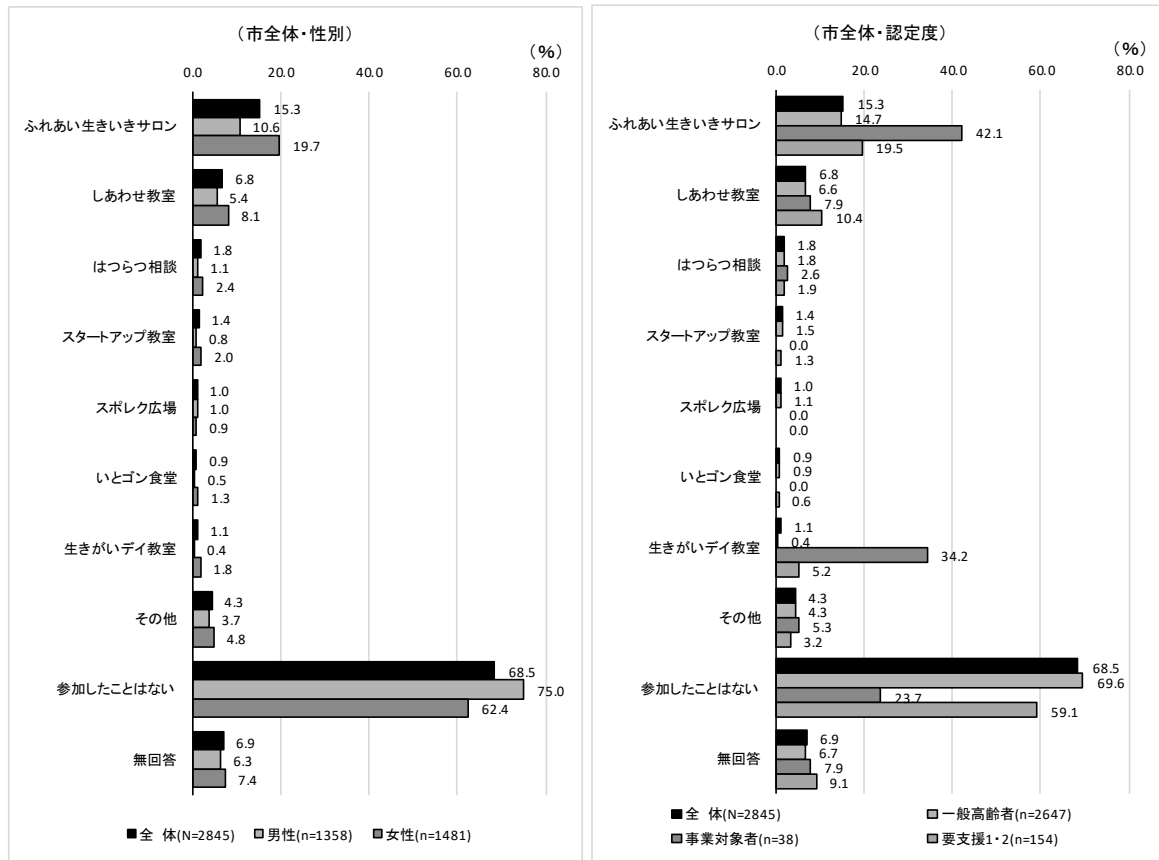
①介護予防は、どうして必要だと思いますか



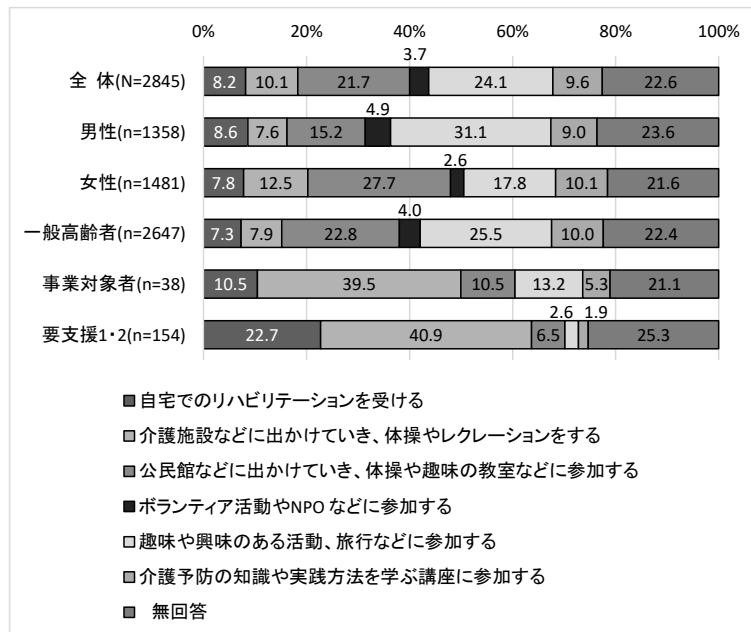
(3)あなたが介護予防のために実践しているものは何ですか(いくつでも)



(4) あなたはこれまで介護予防を目的とした事業に参加したことはありますか(いくつでも)

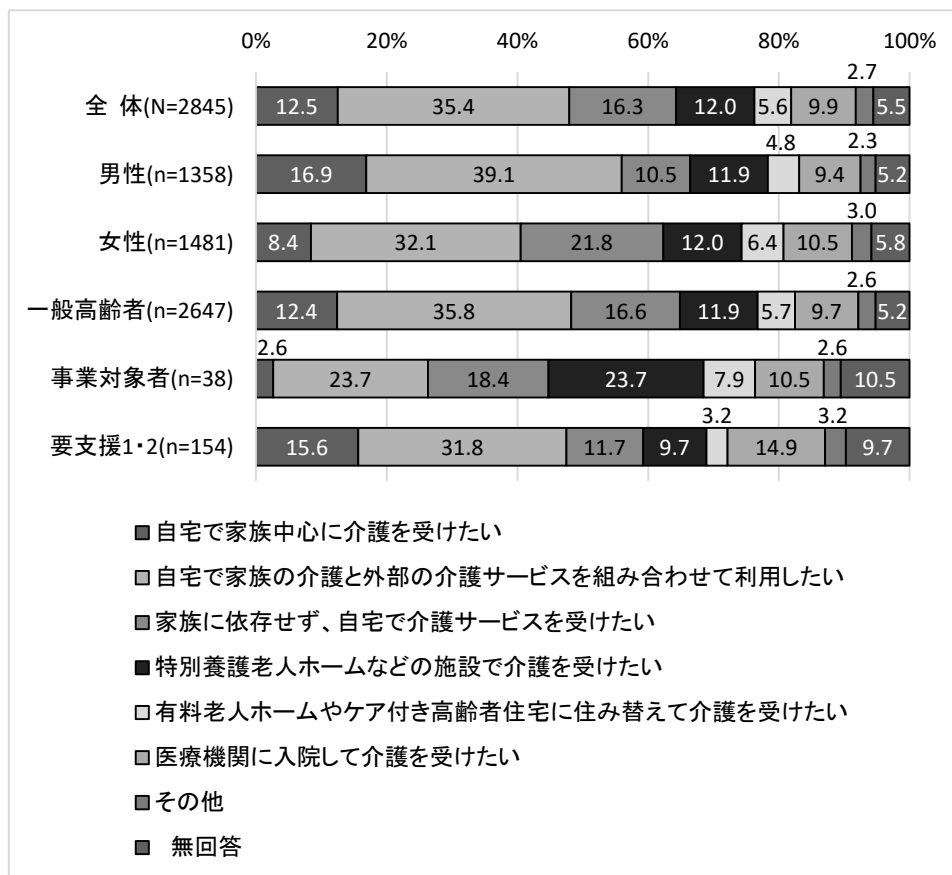


(5) あなたはどのような介護予防の取り組みに参加したいですか

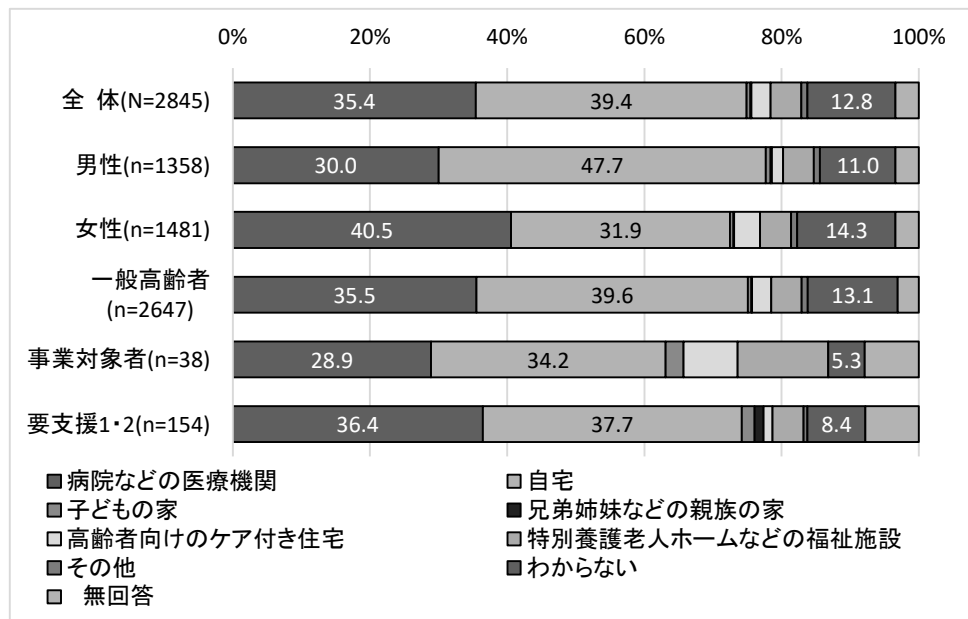


問9 地域での支援・高齢者福祉サービスについて

(1) 自分に介護が必要となったら、どうしますか

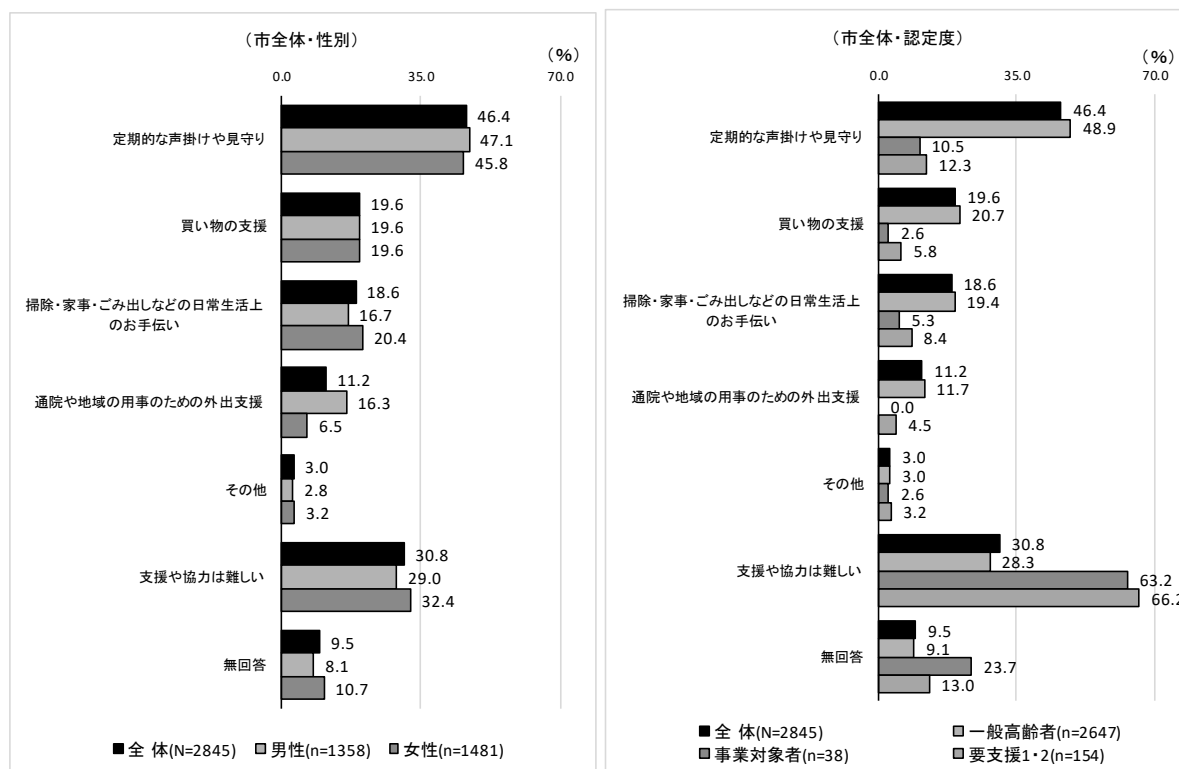


(2) 万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、最期はどこで迎えたいですか

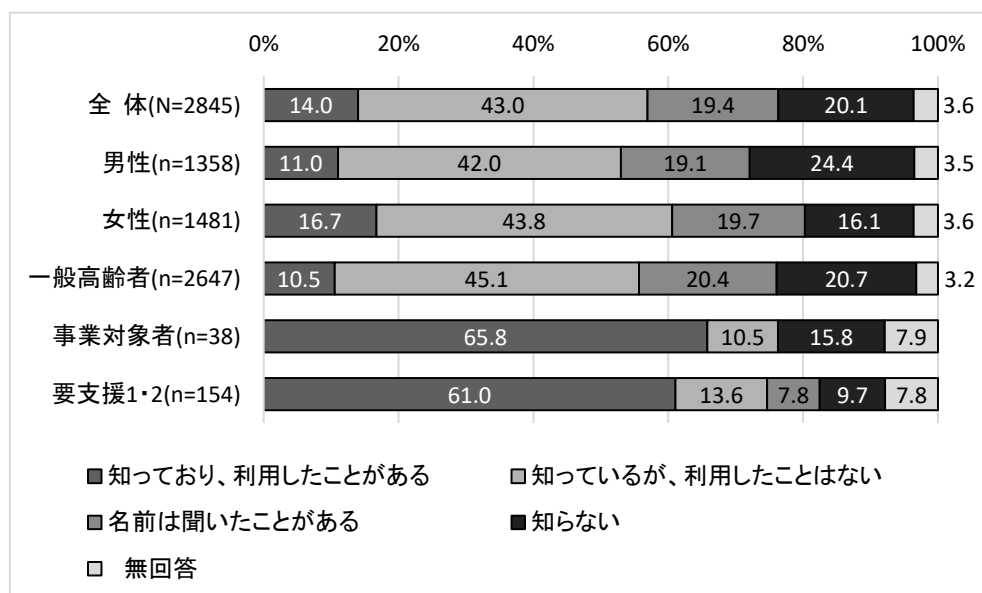


	病院などの医療機関	自宅	子どもの家	兄弟姉妹などの親族の家	高齢者向けのケア付き住宅	特別養護老人ホームなどの福祉施設	その他	わからない	無回答
全 体(N=2845)	35.4	39.4	0.6	0.1	2.8	4.5	0.9	12.8	3.4
男性(n=1358)	30.0	47.7	0.7	0.2	1.6	4.5	0.9	11.0	3.4
女性(n=1481)	40.5	31.9	0.5	0.1	3.8	4.5	0.9	14.3	3.4
一般高齢者(n=2647)	35.5	39.6	0.5	0.1	2.8	4.4	0.9	13.1	3.1
事業対象者(n=38)	28.9	34.2	2.6	0.0	7.9	13.2	0.0	5.3	7.9
要支援1・2(n=154)	36.4	37.7	1.9	1.3	1.3	4.5	0.6	8.4	7.8

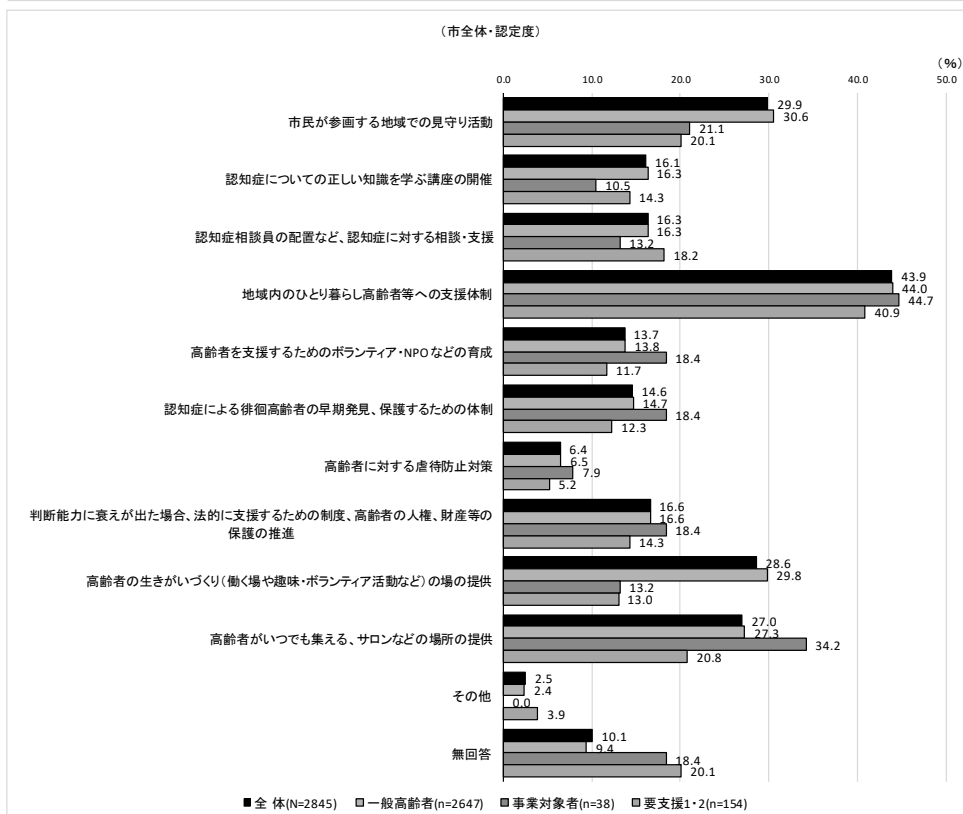
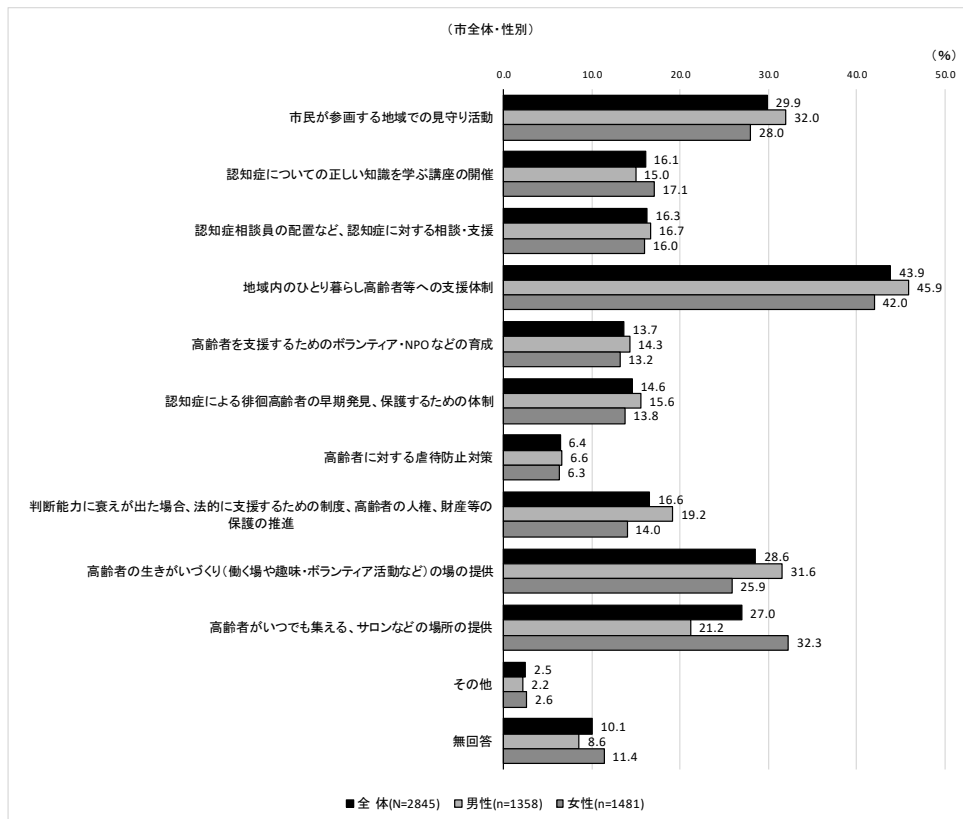
(3)あなたが地域で支援や協力をするとしたら、どのようなことができると思いますか(いくつでも)



(4)住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、介護、医療、福祉、健康などの様々な支援や相談業務を行う「地域包括支援センター」をご存知ですか

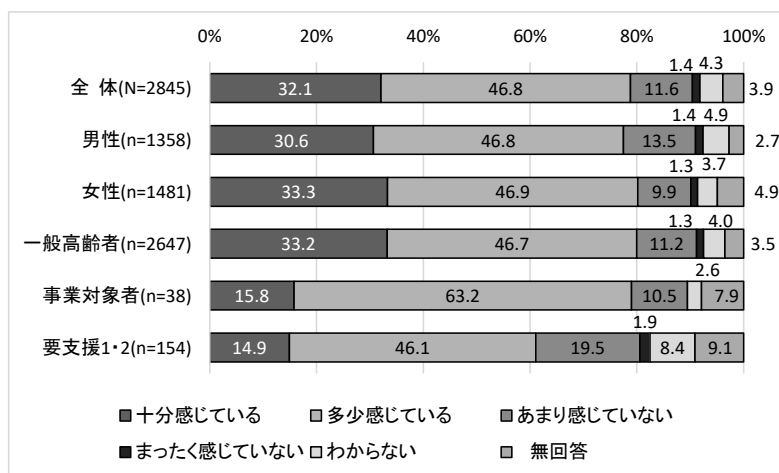


(5) 高齢化に対応するため、どのような活動・体制の充実が必要と考えますか(3つまで)



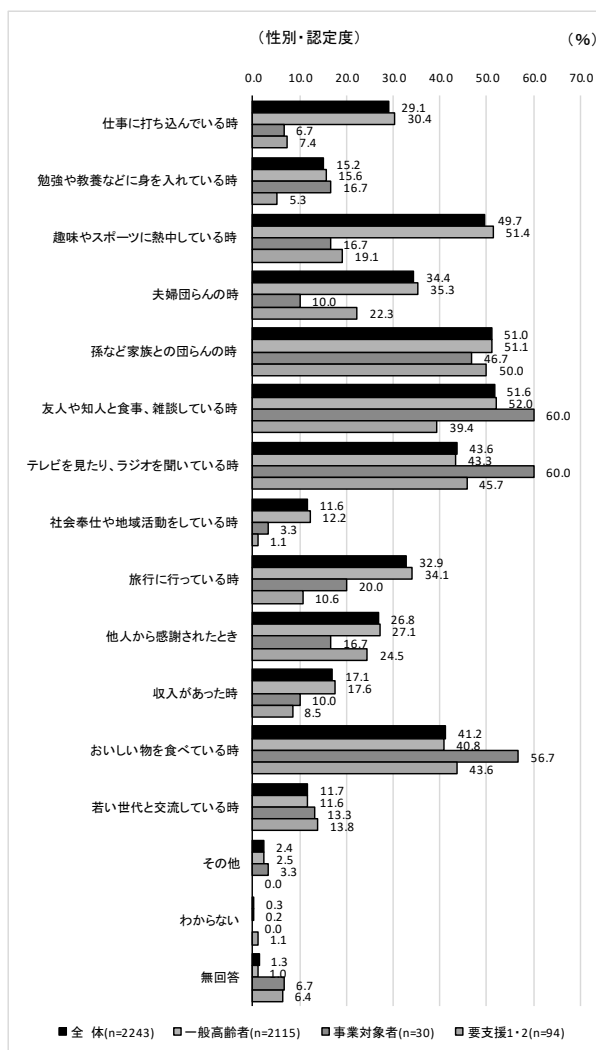
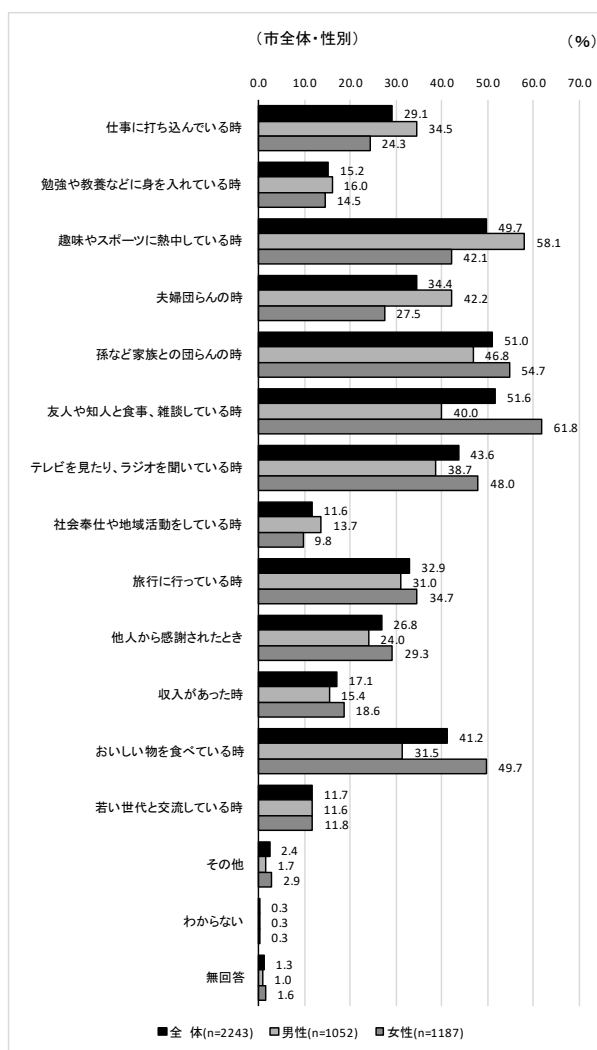
問10 地域社会への参加等に関する意識について

(1)あなたは、現在、どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか

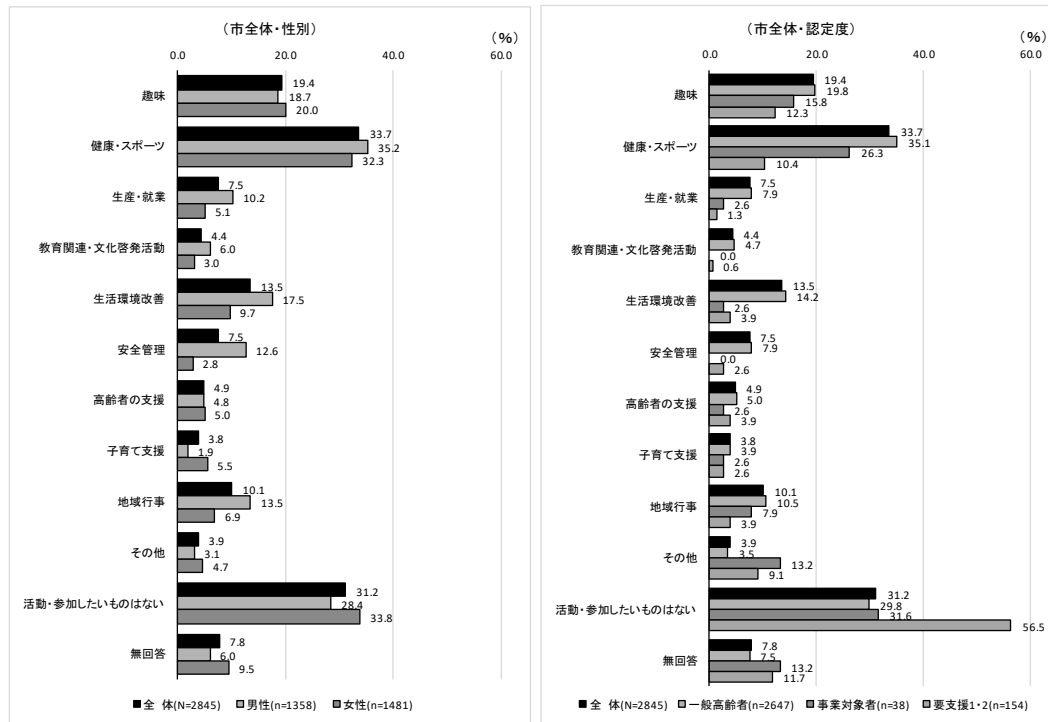


(1)において、「1. 十分感じている」または「多少感じている」の方のみ

①あなたが生きがい(喜びや楽しみ)を感じるのはどのようなときですか(いくつでも)

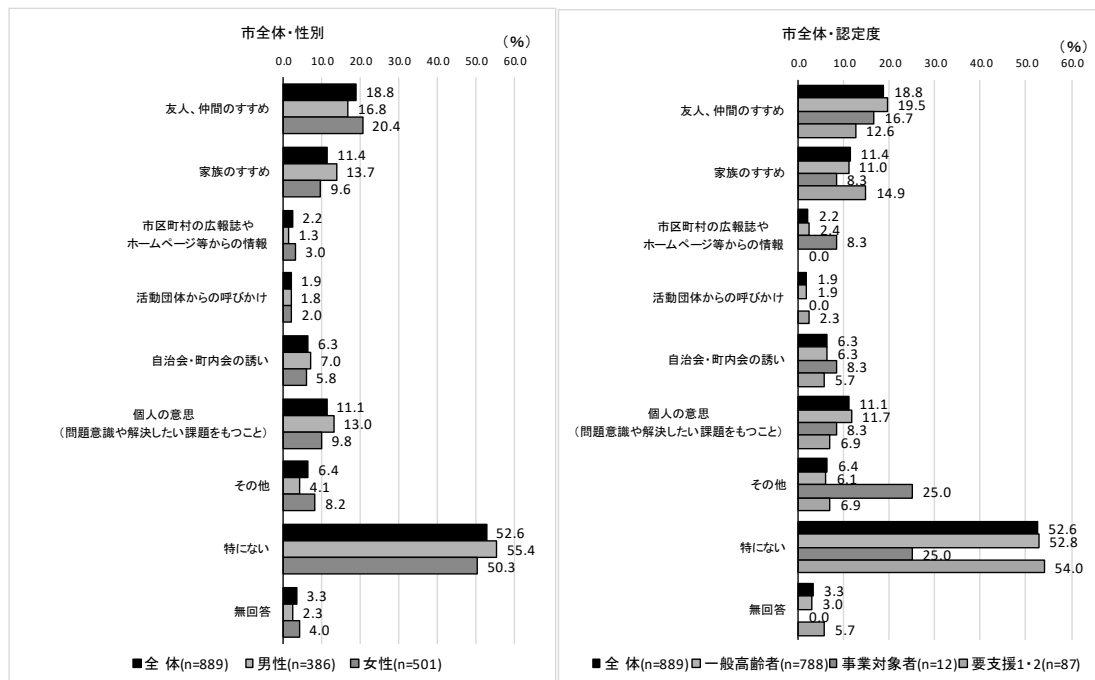


(2)あなたは、個人または友人と、あるいはグループや団体で、自主的に行われている次のような活動を行いたい、または参加したいと思いますか(いくつでも)



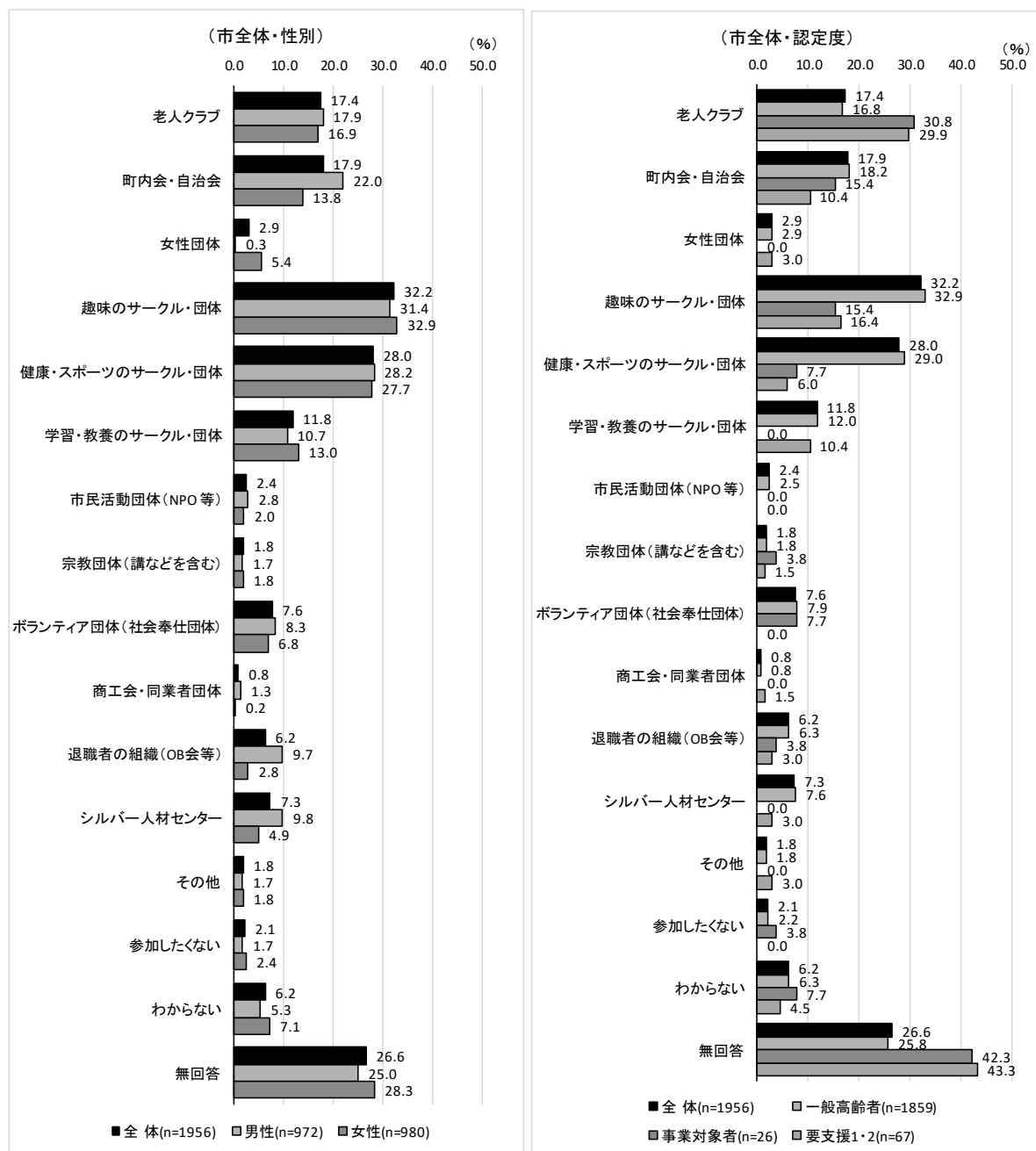
(2)において、「11. 活動・参加したいものはない」の方のみ

①あなたは、どのようなきっかけがあれば、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動に参加したいと思いますか(いくつでも)

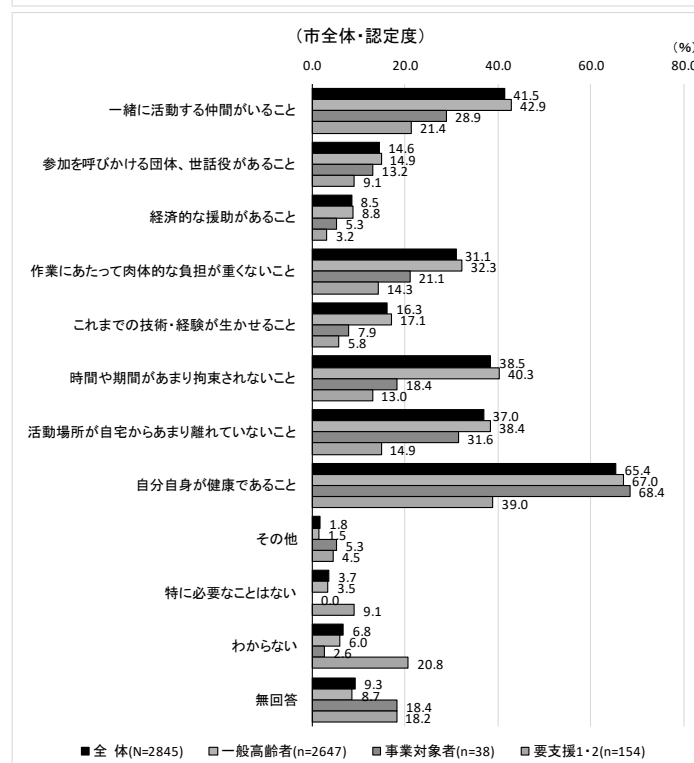
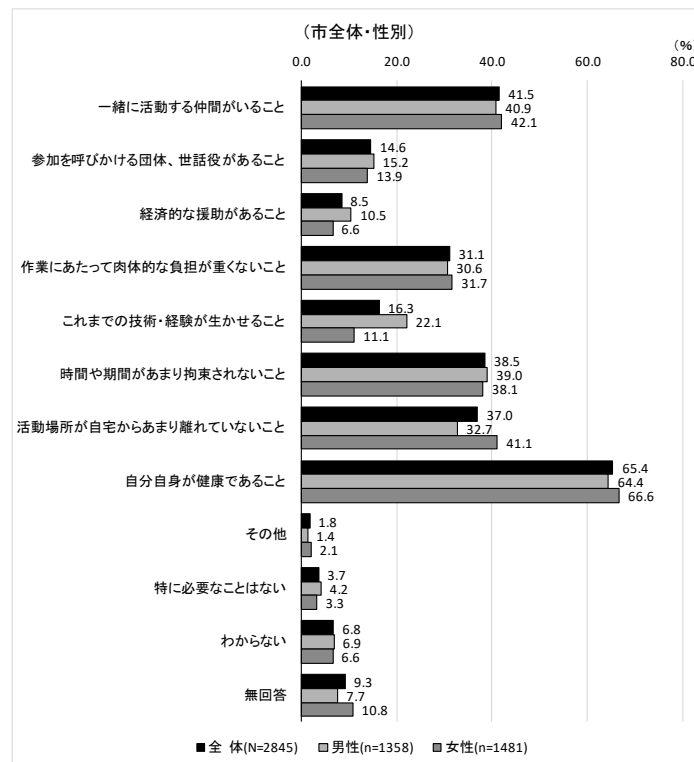


(2)において、「11. 活動・参加したいものはない」以外の方のみ

①あなたが、参加したい団体や組織がありますか(いくつでも)



(3)地域の奉仕活動にあなたが実際に参加するには、どのような条件が必要だと思いますか
(いくつでも)



**令和元年度
高齢者の生活状況・健康状態調査
(糸島市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査)
調査結果報告書
令和2年3月 発行**

発行: 糸島市 健康増進部 介護・高齢者支援課
〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号
電話: 092-332-2070(直通)
FAX: 092-321-1139